

令和6年度 豊田市環境審議会 第2回専門部会（脱炭素社会）
次第

日時：令和6年11月11日（月）午前10時から

開催場所：環境センター3階 環境部会議室

1 部会長御挨拶

2 議 題

・アンケート、ワークショップの結果報告について（報告）[資料1-1](#)、[資料1-2](#)

・次期豊田市環境基本計画（素案骨子）について（協議）[資料2](#)

・脱炭素シナリオ・再エネ導入目標・GHG削減目標について（協議）[資料3](#)

3 その他

・策定までのスケジュール[参考資料](#)

・意見交換

（資料1-1）豊田市の環境に関する市民・事業者向けアンケート報告書

（資料1-2）ワークショップ実施結果報告書（概要版）

（資料2）次期豊田市環境基本計画（素案骨子）について

（資料3）脱炭素シナリオ・再エネ導入目標・GHG削減目標について

（参考資料）スケジュール

<次回以降開催の御連絡>

○豊田市環境審議会 第3回専門部会（脱炭素社会）

1月下旬～2月上旬頃実施予定

○環境審議会本会議

開催日時：令和7年3月14日（金）午前10時00分から正午

会場：豊田市役所 南庁舎5階 51会議室

■ 脱炭素部会 委員名簿

(敬称略、部会長以下五十音順)

氏名		職名等
部会長	杉山 範子	東海学園大学 ともいき教養教育機構 副機構長 教育学部 教授 名古屋大学大学院 環境学研究科 特任教授
○	赤坂 洋子	NPO 法人とよたエコ人プロジェクト
○	宇井 妥江	市民公募
○	近藤 元博	愛知工業大学 総合技術研究所 教授
	森下 幸信	中部電力パワーグリッド株式会社 豊田支社 支社長

○ : 令和 6 年度から新任

豊田市の環境に関する市民・事業者向けアンケート 報告書

目次

1. アンケート調査概要	1
2. 市民向けアンケート集計結果	3
3. 事業所向けアンケート集計結果	44
4. 小中高生向けアンケート集計結果	77

(留意事項)

過年度に実施されたアンケート調査との経年比較については設問項目の変更等による影響が含まれる可能性がある。

1. アンケート調査概要

1.1 アンケート調査の目的

次期豊田市環境基本計画（以下、次期計画）の策定にあたり、さまざまな年代・立場の市民および事業者から現行計画に対する評価を把握し、市民・事業者目線で目指すべき将来像や重点課題の解決・施策展開の方向性を明らかにするとともに、市のイメージや特徴の強化に向けた施策展開の方向性を明らかにすることを目的にアンケート調査を実施する。

1.2 アンケート調査の概要

豊田市内に在住の市民、事業所を置く全事業者、市内小中高校の学生を対象にアンケートを実施し、豊田市の環境に関する事項を中心とした項目について紙面と WEB を併用した調査を行った。調査の実施概要を表 1、表 2、

表 3 に示す。

表 1 市民・事業所向けアンケート実施概要

項目	市民	事業者
対象	2,000 人（市内在住の満 18 歳以上）	500 社（市内所在）
抽出方法	住民基本台帳からの無作為抽出（地域および年代が同様となるような層化抽出）	業種別に層化し、無作為抽出（率先した環境行動が期待される大規模事業所（常用雇員 300 人以上）は優先して抽出）
配布方法	郵送配布	
回収方法	同封の返信封筒による返送、貼付の二次元コードから WEB 回答	
調査期間	令和 6 年 8 月 27 日（木）発送 令和 6 年 9 月 16 日（月・祝）〆切	令和 6 年 9 月 2 日（月）発送 令和 6 年 9 月 25 日（水）〆切
回収数 目標	384 通 ※豊田市人口（約 42 万人）に対して、許容誤差 5%、信頼度 95%における必要サンプル数	150 通 ※回収率 35%（過去の事業者アンケート調査の回収率と同程度）
有効回収 数・回答 率	903 通（有効回収率：45.2%）	212 通（有効回収率：42.4%）

表 2 小中高生向けアンケート実施概要

項目	小中高生
対象	市内の公立小学校、公立中学校、高等学校等の在校生
抽出方法	小中高校それぞれについて都市地域から 2 校、山村地域から 1 校を抽出
配布方法	二次元コード配布
回収方法	WEB 回答 (Microsoft 社の Microsoft Forms)
調査期間	令和 6 年 9～10 月、ホームルーム活動を使って回答／個別に高校等へ回答依頼
内容	市民向けアンケートの中から 4 問程度を抜粋。より答えやすい表現、選択肢として実施。
回収率	欠席生徒を除いて約 100% 目標
有効回収数・回答率	756 通 (有効回収率 66.7%)

表 3 対象校・実施日程

	地域	学校名	実施日程
小学校	都市地域	四郷小学校 (回答数: 76)	9 月 27 日～10 月 4 日
		土橋小学校 (回答数: 49)	10 月 3 日～10 月 8 日
	山村地域	稲武小学校 (回答数: 35)	
中学校	都市地域	竜神中学校 (回答数: 193)	10/1～10/11
		逢妻中学校 (回答数: 242)	10/1～10/11
	山村地域	小原中学校 (回答数: 60)	10/1～10/11
高校	都市地域	豊田東高校 (回答数: 69)	10/7～10/17
		猿投農林高校 (回答数: 11)	10/7～10/17
	山村地域	足助高校 (回答数: 42)	10/7～10/17

※回答数は令和 6 年 10 月 25 日現在

2. 市民向けアンケート集計結果

アンケート調査の結果

2.1 結果の概要

市民向けアンケート結果の概要を表 4 に示す。

表 4 市民向けアンケート結果概要

結果概要
<p>【周辺的环境全般について】</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 『10.全体として周辺的环境への満足度』は「1.非常に満足」と「2.やや満足」の合計値が 54.6% となった。【問 1】➤ 【ごみの分別や減量】、【その他】の項目は取組が進んでいるが、【エネルギー】、【環境学習】の項目は取組が進んでいないものが多い。その理由として「エ.取り組む機会がない」、「ケ.自分だけ取り組んでも意味がない」、「コ.取組の方法について相談できる窓口がない」の回答が多い。【問 2】
<p>【気候変動について】</p> <ul style="list-style-type: none">➤ LED など高効率照明や省エネ家電製品については既に導入が進んでおり、そのほかの機器については導入費用や賃貸住宅、マンション等が理由で導入が進んでいない。【問 3】➤ 気候変動に対する不安を感じる項目には農業への影響や熱中症、生活コストの上昇が多く回答された。【問 4】➤ 気候変動が及ぼす影響に対して、日頃から取り組んでいることとして、不安を感じる項目に対する取り組んでいる割合が高い結果となった。【問 5】
<p>【生物多様性について】</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 生物多様性について「1.言葉の意味も含めて知っている」と回答した割合は 33.2%となった。【問 6】➤ 希少野生動植物種について「知っている」と回答した割合は 35.0%となった。【問 7】➤ 特定外来生物について「知っている」と回答した割合は 67.2%となった。【問 8】➤ 「1.自然観察会（野鳥、昆虫、植物など）」のみが 10%を超える結果となった。関心はあると回答した割合が概ね 50%以上となっているが取組には至っていないと示唆される。【問 9】
<p>【資源循環について】</p> <ul style="list-style-type: none">➤ ごみ分別カレンダーや広報とよたでのごみに関する市からの情報入手を希望する回答者が多い。【問 10】➤ ごみの減量・資源化に関する取組は販売店でのリサイクルや集団回収の取組が比較的進んでいる。【問 11】
<p>【市の環境への取組について】</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 『2.新エネルギー、再生可能エネルギーの導入の推進』や『4.熱中症や豪雨の増加といった気候変動の影響への対策』、『6.廃棄物の適正処理や不法投棄の防止』は満足度が低く、重要度が高い結果となった。【問 12】➤ ごみ問題や環境教育、交通手段についての意見が比較的多くあがった。【問 13】

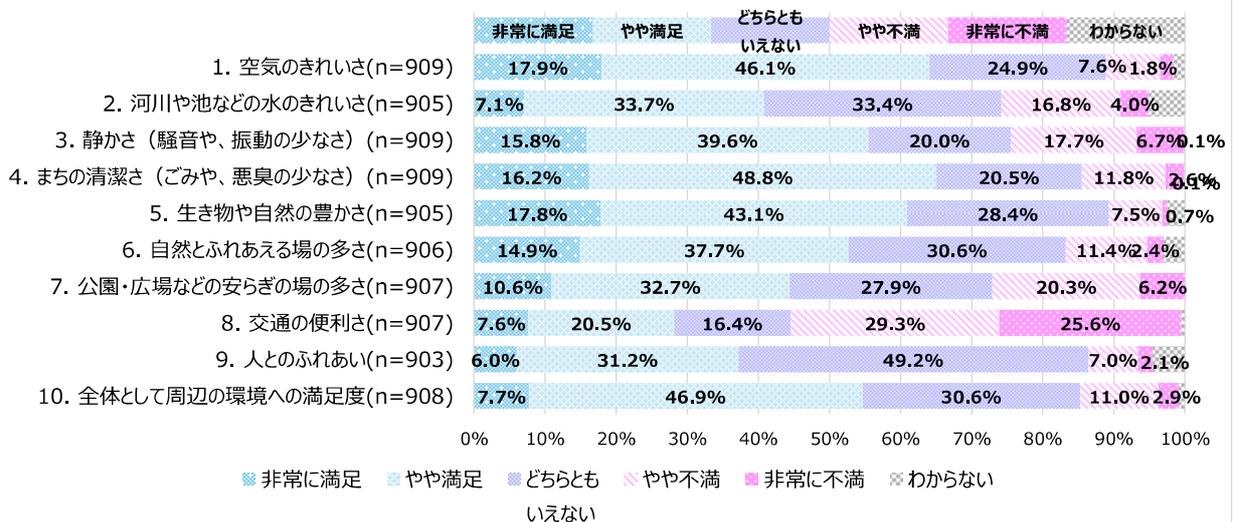
2.2 単純集計結果

以下に問1～問19の結果を示す。

周辺の環境全般について

【問1】 お住まい周辺の環境の満足度について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

上段:度数 下段: %	合計	非常に満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	非常に不満	わからない
1. 空気のきれいさ	909	163	419	226	69	16	16
	100.0%	17.9%	46.1%	24.9%	7.6%	1.8%	1.8%
2. 河川や池などの水のきれいさ	905	64	305	302	152	36	46
	100.0%	7.1%	33.7%	33.4%	16.8%	4.0%	5.1%
3. 静かさ（騒音や、振動の少なさ）	909	144	360	182	161	61	1
	100.0%	15.8%	39.6%	20.0%	17.7%	6.7%	0.1%
4. まちの清潔さ（ごみや、悪臭の少なさ）	909	147	444	186	107	24	1
	100.0%	16.2%	48.8%	20.5%	11.8%	2.6%	0.1%
5. 生き物や自然の豊かさ	905	161	390	257	68	6	23
	100.0%	17.8%	43.1%	28.4%	7.5%	0.7%	2.5%
6. 自然とふれあえる場の多さ	906	135	342	277	103	22	27
	100.0%	14.9%	37.7%	30.6%	11.4%	2.4%	3.0%
7. 公園・広場などの安らぎの場の多さ	907	96	297	253	184	56	21
	100.0%	10.6%	32.7%	27.9%	20.3%	6.2%	2.3%
8. 交通の便利さ	907	69	186	149	266	232	5
	100.0%	7.6%	20.5%	16.4%	29.3%	25.6%	0.6%
9. 人とのふれあい	903	54	282	444	63	19	41
	100.0%	6.0%	31.2%	49.2%	7.0%	2.1%	4.5%
10. 全体として周辺の環境への満足度	908	70	426	278	100	26	8
	100.0%	7.7%	46.9%	30.6%	11.0%	2.9%	0.9%



問1の結果概要

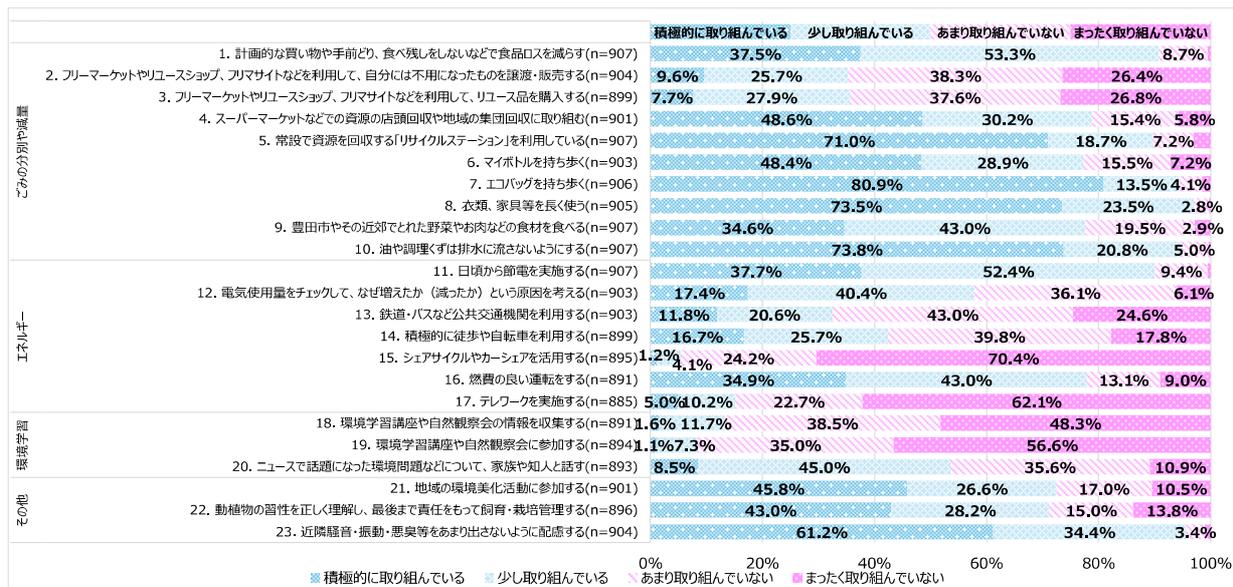
- 『1.空気のきれいさ』の満足度は「1.非常に満足」が17.9%と最も高い結果となった。一方、『8.交通の便利さ』は「5.非常に不満」が25.6%と最も不満度が高い結果となった。
- 「1.非常に満足」と「2.やや満足」の合計値を項目1～10.で比較すると、『4.まちの清潔さ（ごみや、悪臭の少なさ）』の満足度についての満足度が65.0%と最も高く、『8.交通の便利さ』の満足度が28.1%と最も低いことが示された。

- 『10.全体として周辺の環境への満足度』は「1.非常に満足」と「2.やや満足」の合計値が54.6%と過半数を超えた。

日々の生活における環境に配慮した行動について、それぞれ1つずつ選んで○をつけて

【問2】 ください。また、「4.まったく取り組んでいない」を回答された場合は、その理由を下表の【理由の選択肢】のア～サから1つ選んで、記入してください。

上段:度数 下段: %		合計	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない
ごみの分別や減量	1. 計画的な買い物や手前どり、食べ残しをしないなどで食品ロスを減らす	907	340	483	79	5
		100.0%	37.5%	53.3%	8.7%	0.6%
	2. フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、自分には不用になったものを譲渡・販売する	904	87	232	346	239
		100.0%	9.6%	25.7%	38.3%	26.4%
	3. フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、リユース品を購入する	899	69	251	338	241
		100.0%	7.7%	27.9%	37.6%	26.8%
	4. スーパーマーケットなどでの資源の店頭回収や地域の集団回収に取り組む	901	438	272	139	52
		100.0%	48.6%	30.2%	15.4%	5.8%
	5. 常設で資源を回収する「リサイクルステーション」を利用している	907	644	170	65	28
		100.0%	71.0%	18.7%	7.2%	3.1%
エネルギー	6. マイボトルを持ち歩く	903	437	261	140	65
		100.0%	48.4%	28.9%	15.5%	7.2%
	7. エコバッグを持ち歩く	906	733	122	37	14
		100.0%	80.9%	13.5%	4.1%	1.5%
	8. 衣類、家具等を長く使う	905	665	213	25	2
		100.0%	73.5%	23.5%	2.8%	0.2%
	9. 豊田市やその近郊でとれた野菜やお肉などの食材を食べる	907	314	390	177	26
		100.0%	34.6%	43.0%	19.5%	2.9%
	10. 油や調理くずは排水に流さないようにする	907	669	189	45	4
		100.0%	73.8%	20.8%	5.0%	0.4%
環境学習	11. 日頃から節電を実施する	907	342	475	85	5
		100.0%	37.7%	52.4%	9.4%	0.6%
	12. 電気使用量をチェックして、なぜ増えたか（減ったか）という原因を考える	903	157	365	326	55
		100.0%	17.4%	40.4%	36.1%	6.1%
	13. 鉄道・バスなど公共交通機関を利用する	903	107	186	388	222
		100.0%	11.8%	20.6%	43.0%	24.6%
	14. 積極的に徒歩や自転車を利用する	899	150	231	358	160
	100.0%	16.7%	25.7%	39.8%	17.8%	
その他	15. シェアサイクルやカーシェアを活用する	895	11	37	217	630
		100.0%	1.2%	4.1%	24.2%	70.4%
	16. 燃費の良い運転をする	891	311	383	117	80
		100.0%	34.9%	43.0%	13.1%	9.0%
	17. テレワークを実施する	885	44	90	201	550
		100.0%	5.0%	10.2%	22.7%	62.1%
	18. 環境学習講座や自然観察会の情報を収集する	891	14	104	343	430
	100.0%	1.6%	11.7%	38.5%	48.3%	
その他	19. 環境学習講座や自然観察会に参加する	894	10	65	313	506
		100.0%	1.1%	7.3%	35.0%	56.6%
	20. ニュースで話題になった環境問題などについて、家族や知人と話す	893	76	402	318	97
		100.0%	8.5%	45.0%	35.6%	10.9%
	21. 地域の環境美化活動に参加する	901	413	240	153	95
		100.0%	45.8%	26.6%	17.0%	10.5%
その他	22. 動植物の習性を正しく理解し、最後まで責任をもって飼育・栽培管理する	896	385	253	134	124
		100.0%	43.0%	28.2%	15.0%	13.8%
	23. 近隣騒音・振動・悪臭等をあまり出さないように配慮する	904	553	311	31	9
	100.0%	61.2%	34.4%	3.4%	1.0%	



問2の結果概要

【ごみの分別や減量】

- 「1.積極的に取り組んでいる」回答率は『7.エコバッグを持ち歩く』が80.9%と最も高く、『3.フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、リユース品を購入する』が7.7%と最も低い結果となった。

【エネルギー】

- 「1.積極的に取り組んでいる」回答率は『11.日頃から節電を実施する』が37.7%と最も高く、『15.シェアサイクルやカーシェアを活用する』が1.2%と最も低い結果となった。

【環境学習】

- 「1.積極的に取り組んでいる」回答率は『20.ニュースで話題になった環境問題などについて、家族や知人と話す』が8.5%と最も高く、『19.環境学習講座や自然観察会に参加する』が1.1%と最も低い結果となった。

【その他】

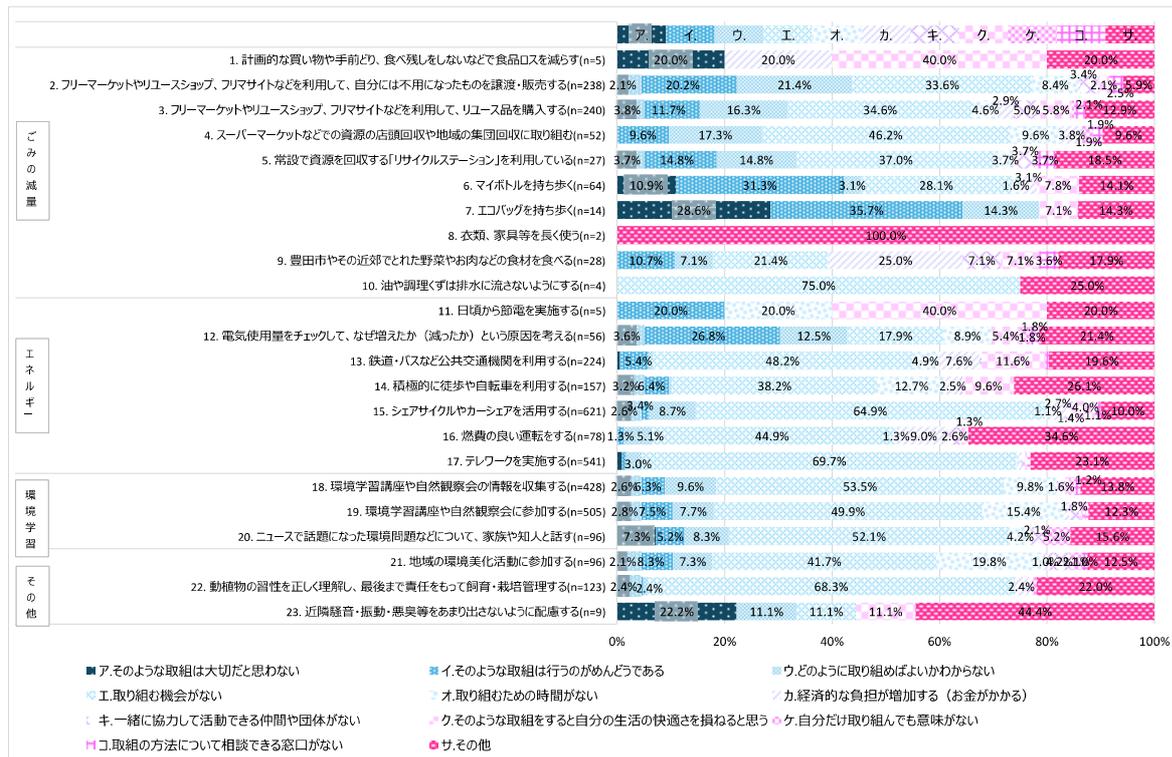
- 「1.積極的に取り組んでいる」回答率は『23.近隣騒音・振動・悪臭等をあまり出さないように配慮する』が61.2%と最も高く、『22.動植物の習性を正しく理解し、最後まで責任をもって飼育・栽培管理する』が43.0%と最も低い結果となった。

【全項目】

- 「1.積極的に取り組んでいる」回答率は『7.エコバッグを持ち歩く』(80.9%)、『5.常設で資源を回収する「リサイクルステーション」を利用している』(71.0%)が上位2項目となり、【ごみの分別や減量】は取組が浸透している結果となった。
- 「1.積極的に取り組んでいる」、「2.少し取り組んでいる」の合計値を項目ごとで比較すると、【ごみの分別や減量】、【その他】の項目はほとんど70%以上であるが、【エネルギー】、【環境学習】の項目は50%を下回る結果となった。

「4.まったく取り組んでいない」を回答した場合の理由（一部複数回答含む）

上段：度数 下段：%		合計	そのような取組は大切なと思わない	そのような取組は行うのが面倒である	どのように取組むかよくわからない	取組む機会がない	取組むための時間がない	経済的な負担が増加する（お金がかからない）	一緒に協力して活動できる仲間や団体がない	そのような取組をするとは自分の生活の快適さを損なうと恐ろしい	自分だけ取組んでも意味がない	取組む方法について相談できる窓口がない	その他	
ごみの分別や減量	1. 計画的な買い物手前どり、食べ残しをしないなどで食品ロスを減らす	5 100.0%	1 20.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	1 20.0%	- 0.0%	2 40.0%	- 0.0%	- 0.0%	1 20.0%	
	2. フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、自分には不用になったものを譲渡・販売する	238 100.0%	5 2.1%	48 20.2%	51 21.4%	80 33.6%	20 8.4%	1 0.4%	8 3.4%	5 2.1%	- 0.0%	- 2.5%	6 5.9%	
	3. フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、リユース品を購入する	240 100.0%	9 3.8%	28 11.7%	39 16.3%	83 34.6%	11 4.6%	7 2.9%	12 5.0%	14 5.8%	1 0.4%	5 2.1%	31 12.9%	
	4. スーパーマーケットなどの資源の店頭回収や地域の集団回収に取り組む	52 100.0%	- 0.0%	5 9.6%	9 17.3%	24 46.2%	5 9.6%	2 3.8%	- 0.0%	- 0.0%	1 1.9%	1 1.9%	5 9.6%	
	5. 常設で資源を回収する「リサイクルステーション」を利用している	27 100.0%	1 3.7%	4 14.8%	4 14.8%	10 37.0%	1 3.7%	- 0.0%	1 3.7%	- 0.0%	- 0.0%	1 3.7%	5 18.5%	
	6. マイボトルを持ち歩く	64 100.0%	7 10.9%	20 31.3%	2 3.1%	18 28.1%	1 1.6%	2 3.1%	- 0.0%	5 7.8%	- 0.0%	- 0.0%	9 14.1%	
	7. エコバッグを持ち歩く	14 100.0%	4 28.6%	5 35.7%	2 14.3%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	1 7.1%	- 0.0%	- 0.0%	2 14.3%	
	8. 衣類、家具等を長く使う	2 100.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	2 100.0%
	9. 豊田市やその近郊でとれた野菜やお肉などの食材を食べる	28 100.0%	- 0.0%	3 10.7%	2 7.1%	6 21.4%	- 0.0%	7 25.0%	2 7.1%	2 7.1%	- 0.0%	1 3.6%	5 17.9%	
	10. 油や調理くずは排水に流さないようにする	4 100.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	3 75.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	1 25.0%
エネルギー	11. 日頃から節電を実施する	5 100.0%	- 0.0%	1 20.0%	- 0.0%	- 0.0%	1 20.0%	- 0.0%	- 0.0%	2 40.0%	- 0.0%	- 0.0%	1 20.0%	
	12. 電気使用量をチェックして、なぜ増えたか（減ったか）という原因を考える	56 100.0%	2 3.6%	15 26.8%	7 12.5%	10 17.9%	5 8.9%	- 0.0%	- 0.0%	3 5.4%	1 1.8%	1 1.8%	12 21.4%	
	13. 鉄道・バスなど公共交通機関を利用する	224 100.0%	1 0.4%	12 5.4%	2 0.9%	108 48.2%	11 4.9%	17 7.6%	1 0.4%	26 11.6%	1 0.4%	1 0.4%	44 19.6%	
	14. 積極的に徒歩や自転車を利用する	157 100.0%	5 3.2%	10 6.4%	1 0.6%	60 38.2%	20 12.7%	4 2.5%	1 0.6%	15 9.6%	- 0.0%	- 0.0%	41 26.1%	
	15. シェアサイクルやカーシェアを活用する	621 100.0%	16 2.6%	21 3.4%	54 8.7%	403 64.9%	7 1.1%	17 2.7%	9 1.4%	25 4.0%	- 0.0%	7 1.1%	62 10.0%	
	16. 燃費の良い運転をする	78 100.0%	- 0.0%	1 1.3%	4 5.1%	35 44.9%	1 1.3%	7 9.0%	2 2.6%	1 1.3%	- 0.0%	- 0.0%	27 34.6%	
	17. テレワークを実施する	541 100.0%	5 0.9%	4 0.7%	16 3.0%	377 69.7%	3 0.6%	2 0.4%	4 0.7%	2 0.4%	- 0.0%	- 0.6%	125 23.1%	
環境学習	18. 環境学習講座や自然観察会の情報を収集する	428 100.0%	11 2.6%	27 6.3%	41 9.6%	229 53.5%	42 9.8%	- 0.0%	7 1.6%	3 0.7%	4 0.9%	5 1.2%	59 13.8%	
	19. 環境学習講座や自然観察会に参加する	505 100.0%	14 2.8%	38 7.5%	39 7.7%	252 49.9%	78 15.4%	4 0.8%	9 1.8%	2 0.4%	4 0.8%	3 0.6%	62 12.3%	
	20. ニュースで話題になった環境問題などについて、家族や知人と話す	96 100.0%	7 7.3%	5 5.2%	8 8.3%	50 52.1%	4 4.2%	- 0.0%	2 2.1%	- 0.0%	5 5.2%	- 0.0%	15 15.6%	
その他	21. 地域の環境美化活動に参加する	96 100.0%	2 2.1%	8 8.3%	7 7.3%	40 41.7%	19 19.8%	1 1.0%	4 4.2%	- 0.0%	2 2.1%	1 1.0%	12 12.5%	
	22. 動植物の習性を正しく理解し、最後まで責任をもって飼育・栽培管理する	123 100.0%	3 2.4%	3 2.4%	1 0.8%	84 68.3%	- 0.0%	3 2.4%	1 0.8%	- 0.0%	1 0.8%	- 0.0%	27 22.0%	
	23. 近隣騒音・振動・悪臭等をあまり出さないように配慮する	9 100.0%	2 22.2%	- 0.0%	1 11.1%	1 11.1%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	1 11.1%	- 0.0%	- 0.0%	4 44.4%	



※1.0%未満の凡例はデータラベルを付けていない。

「4.まったく取り組んでいない」を回答した場合の理由の概要

【ごみの分別や減量】

- 特に取組の進んでいない『2.フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、自分には不用になったものを譲渡・販売する』、『3.フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、リユース品を購入する』はいずれも「エ.取組む機会がない」が30%以上となった。
- 2のみ「イ.そのような取組は行うのがめんどろである」、「ウ.どのように取り組めばよいかわからない」が20%以上、「オ.取組むための時間がない」が8.4%となった。一方、3のみ「ク.そのような取組をすると自分の生活の快適さを損ねると思う」は5.8%となった。このことから、不用品の譲渡・販売は取組む機会の少なさのほかに時間や労力が取組障壁となっており、リユース品の購入は取組む機会の少なさのほかに生活の快適さを損ねるという認識が取組障壁となっていると示唆される。
- 『4.スーパーマーケットなどでの資源の店頭回収や地域の集団回収に取り組む』は「エ.取組む機会がない」が46.2%となった。
- 『6.マイボトルを持ち歩く』は「イ.そのような取組は行うのがめんどろである」が31.3%、「ク.そのような取組をすると自分の生活の快適さを損ねると思う」が7.8%となった。

【エネルギー】

- 『11.日頃から節電を実施する』以外のすべての項目において「エ.取組む機会がない」が15%以上となった。

- ・ 『13.鉄道・バスなど公共交通機関を利用する』、『14.積極的に徒歩や自転車を利用する』は「ク.そのような取組をすると自分の生活の快適さを損ねると思う」が10%程度となった。また、「カ.経済的な負担が増加する（お金がかかる）」が7.6%となった。
- ・ 特に取組の進んでいない『15.シェアサイクルやカーシェアを活用する』、『17.テレワークを実施する』は「エ.取り組む機会がない」が60%以上となっており、市民の生活に浸透していないことが示唆される。

【環境学習】

- ・ 特に取組が進んでいない『18.環境学習講座や自然観察会の情報を収集する』、『19.環境学習講座や自然観察会に参加する』は「エ.取り組む機会がない」が約半数、「イ.そのような取組は行おうのがめんどろである」、「ウ.どのように取り組めばよいかわからない」、「オ.取り組むための時間がない」が5%以上となった。

【その他】

- ・ 特に取組の進んでいない『22.動植物の習性を正しく理解し、最後まで責任をもって飼育・栽培管理する』、『23.近隣騒音・振動・悪臭等をあまり出さないように配慮する』はいずれも「エ.取り組む機会がない」が40%以上となった。

【全項目】

- ・ ほとんどの項目においても「エ.取り組む機会がない」の回答率が高かった。

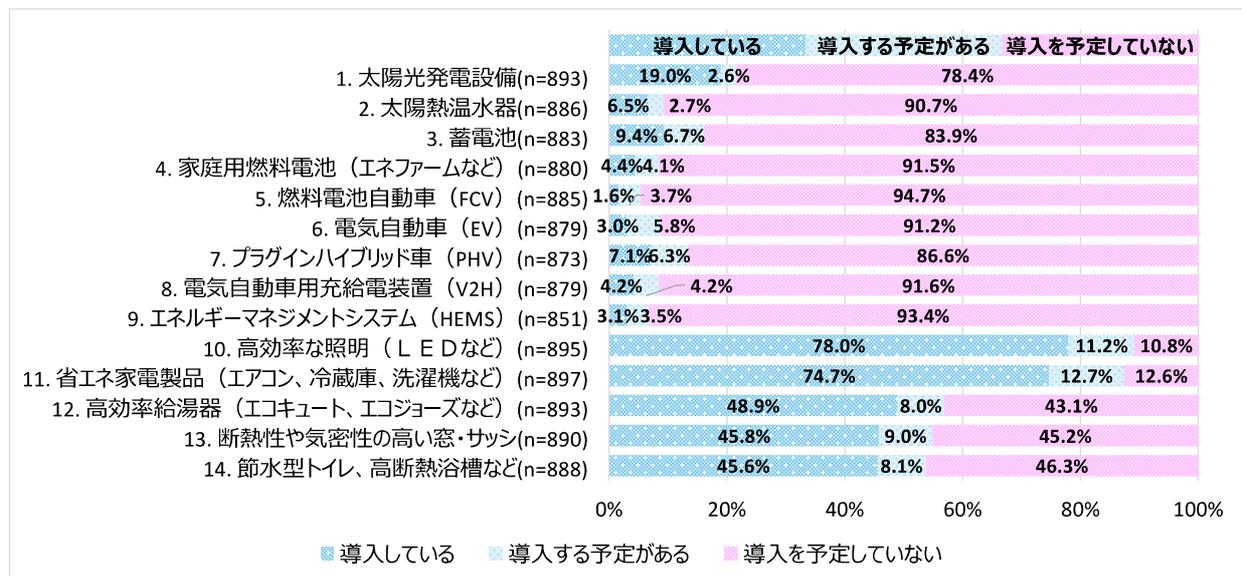
気候変動について

あなたのご家庭では、次のようなエネルギーに関連する機器類を導入していますか。
それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

【問3】

また、「3.導入を予定していない」を回答された場合は、その理由を下表の【理由の選択肢】のア～ケから1つ選んで、記入してください。

上段:度数 下段: %	合計	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない
1. 太陽光発電設備	893	170	23	700
	100.0%	19.0%	2.6%	78.4%
2. 太陽熱温水器	886	58	24	804
	100.0%	6.5%	2.7%	90.7%
3. 蓄電池	883	83	59	741
	100.0%	9.4%	6.7%	83.9%
4. 家庭用燃料電池（エネファームなど）	880	39	36	805
	100.0%	4.4%	4.1%	91.5%
5. 燃料電池自動車（FCV）	885	14	33	838
	100.0%	1.6%	3.7%	94.7%
6. 電気自動車（EV）	879	26	51	802
	100.0%	3.0%	5.8%	91.2%
7. プラグインハイブリッド車（PHV）	873	62	55	756
	100.0%	7.1%	6.3%	86.6%
8. 電気自動車用充電装置（V2H）	879	37	37	805
	100.0%	4.2%	4.2%	91.6%
9. エネルギーマネジメントシステム（HEMS）	851	26	30	795
	100.0%	3.1%	3.5%	93.4%
10. 高効率な照明（LEDなど）	895	698	100	97
	100.0%	78.0%	11.2%	10.8%
11. 省エネ家電製品（エアコン、冷蔵庫、洗濯機など）	897	670	114	113
	100.0%	74.7%	12.7%	12.6%
12. 高効率給湯器（エコキュート、エコジョーズなど）	893	437	71	385
	100.0%	48.9%	8.0%	43.1%
13. 断熱性や気密性の高い窓・サッシ	890	408	80	402
	100.0%	45.8%	9.0%	45.2%
14. 節水型トイレ、高断熱浴槽など	888	405	72	411
	100.0%	45.6%	8.1%	46.3%

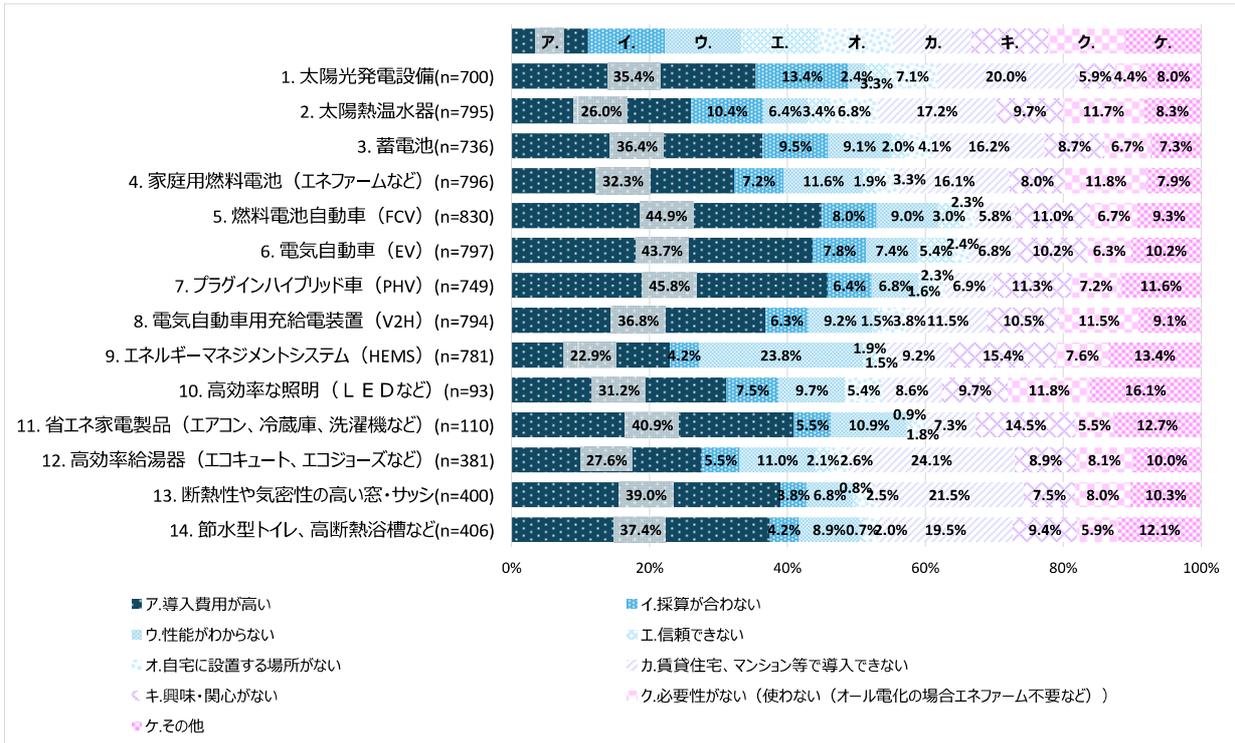


問3の結果概要

- 「10.高効率な照明（LED など）」と「11.省エネ家電製品（エアコン、冷蔵庫、洗濯機など）」の導入率が70%以上、「12.高効率給湯器（エコキュート、エコジョーズなど）」、「13.断熱性や気密性の高い窓・サッシ」、「14.節水型トイレ、高断熱浴槽など」は導入率が40%以上と高い結果となった。
- 一方、「1.太陽光発電設備」から「9.エネルギーマネジメントシステム（HEMS）」までの項目は『導入を予定していない』が70%以上となった。
- いずれの項目も『導入する予定がある』は15%未満となっている。

「3.導入を予定していない」を回答した場合の理由（一部複数回答含む）

上段:度数 下段: %	合計	導入費用が高い	採算が合わない	性能がわからない	信頼できない	自宅に設置する場所がない	賃貸住宅、マンション等で導入できない	興味・関心がない	必要性がない（使わない（オール電化の場合エネルギー不要など））	その他
1. 太陽光発電設備	700 100.0%	248 35.4%	94 13.4%	17 2.4%	23 3.3%	50 7.1%	140 20.0%	41 5.9%	31 4.4%	56 8.0%
2. 太陽熱温水器	795 100.0%	207 26.0%	83 10.4%	51 6.4%	27 3.4%	54 6.8%	137 17.2%	77 9.7%	93 11.7%	66 8.3%
3. 蓄電池	736 100.0%	268 36.4%	70 9.5%	67 9.1%	15 2.0%	30 4.1%	119 16.2%	64 8.7%	49 6.7%	54 7.3%
4. 家庭用燃料電池（エネファームなど）	796 100.0%	257 32.3%	57 7.2%	92 11.6%	15 1.9%	26 3.3%	128 16.1%	64 8.0%	94 11.8%	63 7.9%
5. 燃料電池自動車（FCV）	830 100.0%	373 44.9%	66 8.0%	75 9.0%	25 3.0%	19 2.3%	48 5.8%	91 11.0%	56 6.7%	77 9.3%
6. 電気自動車（EV）	797 100.0%	348 43.7%	62 7.8%	59 7.4%	43 5.4%	19 2.4%	54 6.8%	81 10.2%	50 6.3%	81 10.2%
7. プラグインハイブリッド車（PHV）	749 100.0%	343 45.8%	48 6.4%	51 6.8%	12 1.6%	17 2.3%	52 6.9%	85 11.3%	54 7.2%	87 11.6%
8. 電気自動車用充給電装置（V2H）	794 100.0%	292 36.8%	50 6.3%	73 9.2%	12 1.5%	30 3.8%	91 11.5%	83 10.5%	91 11.5%	72 9.1%
9. エネルギーマネジメントシステム（HEMS）	781 100.0%	179 22.9%	33 4.2%	186 23.8%	15 1.9%	12 1.5%	72 9.2%	120 15.4%	59 7.6%	105 13.4%
10. 高効率な照明（LED など）	93 100.0%	29 31.2%	7 7.5%	9 9.7%	0 0.0%	5 5.4%	8 8.6%	9 9.7%	11 11.8%	15 16.1%
11. 省エネ家電製品（エアコン、冷蔵庫、洗濯機など）	110 100.0%	45 40.9%	6 5.5%	12 10.9%	1 0.9%	2 1.8%	8 7.3%	16 14.5%	6 5.5%	14 12.7%
12. 高効率給湯器（エコキュート、エコジョーズなど）	381 100.0%	105 27.6%	21 5.5%	42 11.0%	8 2.1%	10 2.6%	92 24.1%	34 8.9%	31 8.1%	38 10.0%
13. 断熱性や気密性の高い窓・サッシ	400 100.0%	156 39.0%	15 3.8%	27 6.8%	3 0.8%	10 2.5%	86 21.5%	30 7.5%	32 8.0%	41 10.3%
14. 節水型トイレ、高断熱浴槽など	406 100.0%	152 37.4%	17 4.2%	36 8.9%	3 0.7%	8 2.0%	79 19.5%	38 9.4%	24 5.9%	49 12.1%



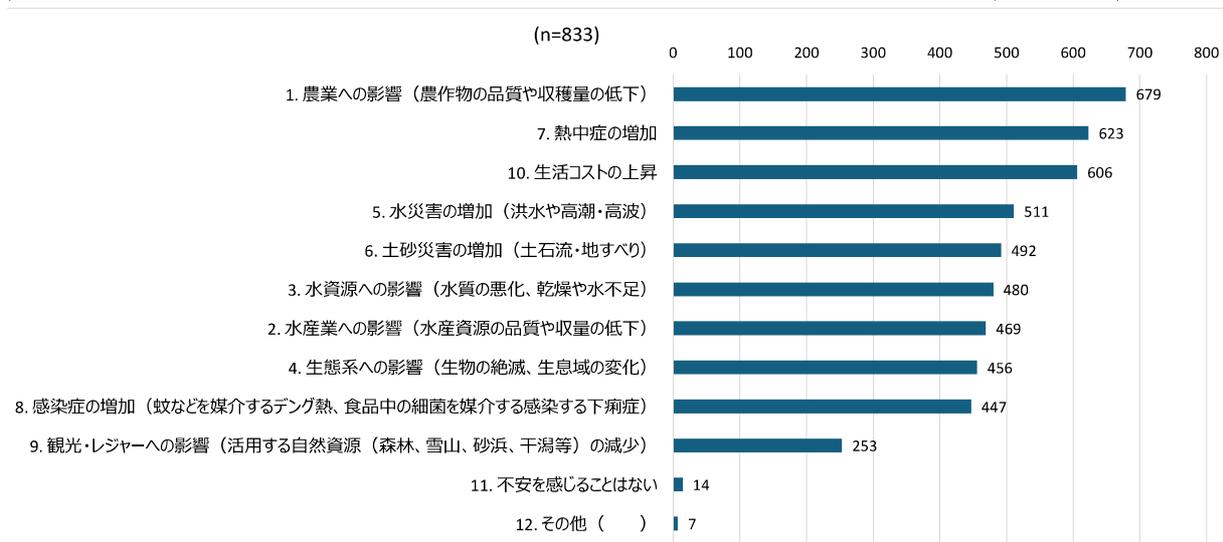
「3.導入を予定していない」を回答した場合の理由の概要

- いずれの項目も「ア.導入費用が高い」の回答が20%以上と高く、経済的な理由が導入の障壁となっていることが示唆される。また、「カ.賃貸住宅、マンション等で導入できない」の回答率も20%以上となる項目が複数あった。
- 『9.エネルギーマネジメントシステム（HEMS）』は「ウ.性能がわからない」が23.8%と最も高い結果となった。

【問 4】 気候変動の影響で不安に感じることは何ですか。
 当てはまるもの全てに○をつけてください。

回答数の多い順に上から並べた。

	回答数	割合
1. 農業への影響（農作物の品質や収穫量の低下）	679	81.5%
7. 熱中症の増加	623	74.8%
10. 生活コストの上昇	606	72.7%
5. 水災害の増加（洪水や高潮・高波）	511	61.3%
6. 土砂災害の増加（土石流・地すべり）	492	59.1%
3. 水資源への影響（水質の悪化、乾燥や水不足）	480	57.6%
2. 水産業への影響（水産資源の品質や収量の低下）	469	56.3%
4. 生態系への影響（生物の絶滅、生息域の変化）	456	54.7%
8. 感染症の増加（蚊などを媒介するデング熱、 食品中の細菌を媒介する感染する下痢症）	447	53.7%
9. 観光・レジャーへの影響（活用する自然資源 （森林、雪山、砂浜、干潟等）の減少）	253	30.4%
11. 不安を感じることはない	14	1.7%
12. その他（ ）	7	0.8%

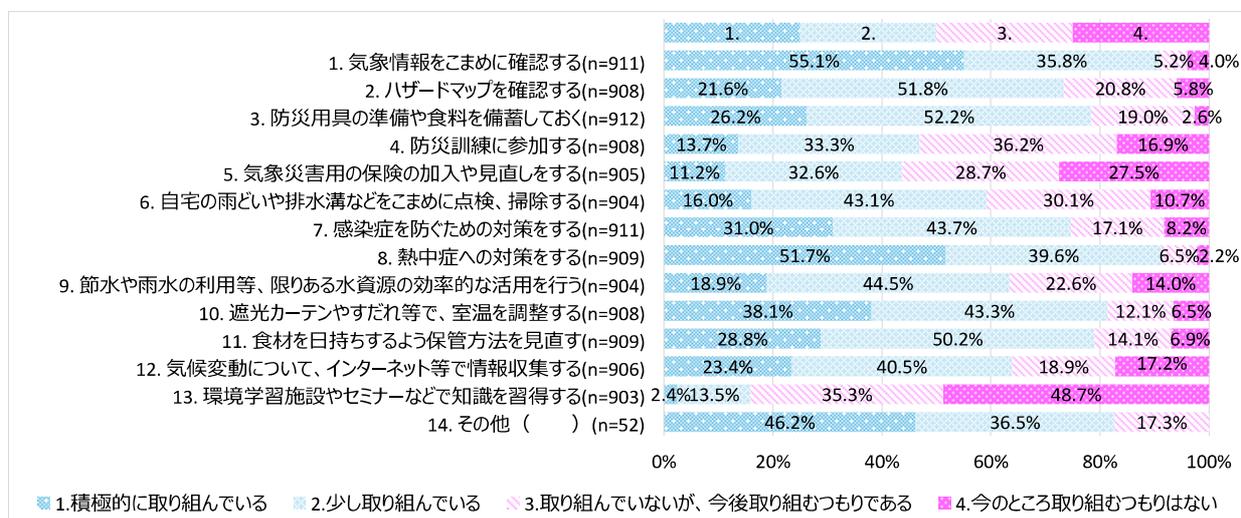


問 4 の結果概要

- 『1.農業への影響（農作物の品質や収穫量の低下）』が最も多く不安を感じられており、次いで『7.熱中症の増加』、『10.生活コストの上昇』の回答が多い。
- 一方、『9.観光・レジャーへの影響（活用する自然資源（森林、雪山、砂浜、干潟等）の減少）』や『8.感染症の増加（蚊などを媒介するデング熱、食品中の細菌を媒介する感染する下痢症）』の回答は少ない。

【問 5】 気候変動が及ぼす影響に対して、日頃から取り組んでいることは何ですか。それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

上段:度数 下段: %	合計	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない
1. 気象情報をこまめに確認する	911	502	326	47	36
	100.0%	55.1%	35.8%	5.2%	4.0%
2. ハザードマップを確認する	908	196	470	189	53
	100.0%	21.6%	51.8%	20.8%	5.8%
3. 防災用具の準備や食料を備蓄しておく	912	239	476	173	24
	100.0%	26.2%	52.2%	19.0%	2.6%
4. 防災訓練に参加する	908	124	302	329	153
	100.0%	13.7%	33.3%	36.2%	16.9%
5. 気象災害用の保険の加入や見直しをする	905	101	295	260	249
	100.0%	11.2%	32.6%	28.7%	27.5%
6. 自宅の雨どいや排水溝などをこまめに点検、掃除する	904	145	390	272	97
	100.0%	16.0%	43.1%	30.1%	10.7%
7. 感染症を防ぐための対策をする	911	282	398	156	75
	100.0%	31.0%	43.7%	17.1%	8.2%
8. 熱中症への対策をする	909	470	360	59	20
	100.0%	51.7%	39.6%	6.5%	2.2%
9. 節水や雨水の利用等、限りある水資源の効率的な活用を行う	904	171	402	204	127
	100.0%	18.9%	44.5%	22.6%	14.0%
10. 遮光カーテンやすだれ等で、室温を調整する	908	346	393	110	59
	100.0%	38.1%	43.3%	12.1%	6.5%
11. 食材を日持ちするよう保管方法を見直す	909	262	456	128	63
	100.0%	28.8%	50.2%	14.1%	6.9%
12. 気候変動について、インターネット等で情報収集する	906	212	367	171	156
	100.0%	23.4%	40.5%	18.9%	17.2%
13. 環境学習施設やセミナーなどで知識を習得する	903	22	122	319	440
	100.0%	2.4%	13.5%	35.3%	48.7%
14. その他 ()	52	24	19	9	-
	100.0%	46.2%	36.5%	17.3%	0.0%



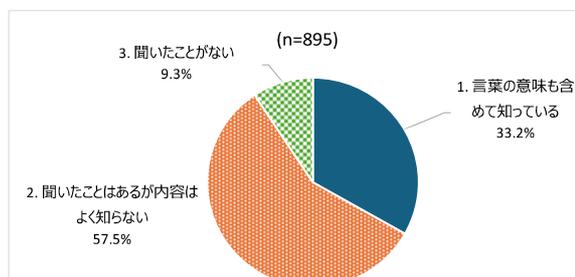
問 5 の結果概要

- 「1.積極的に取り組んでいる」割合は『1.気象情報をこまめに確認する』、『8.熱中症への対策をする』の2項目は50%以上となった。
- さらに、『1.気象情報をこまめに確認する』、『8.熱中症への対策をする』は「1.積極的に取り組んでいる」、「2.少し取り組んでいる」の合計値が90%以上となっており、取組が浸透していることが示唆される。
- 一方、『4.防災訓練に参加する』、『5.気象災害用の保険の加入や見直しをする』、『13.環境学習施設やセミナーなどで知識を習得する』が50%未満となり、時間や労力が障壁であることが示唆される。

生物多様性について

- 「生物多様性」※という言葉を知っていますか。
 当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。
【問 6】 ※生物多様性：いろいろな生き物がいること、生き物が複雑に関わりあって様々な環境に合わせて生活していること。

	合計	割合
1. 言葉の意味も含めて知っている	297	33.2%
2. 聞いたことはあるが内容はよく知らない	515	57.5%
3. 聞いたことがない	83	9.3%
有効回答数	895	

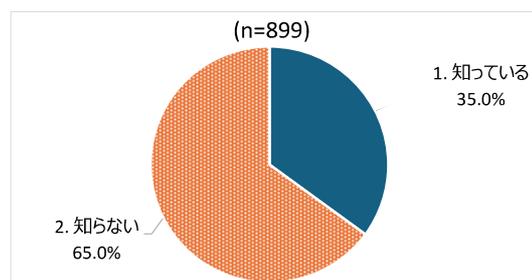


問 6 の結果概要

- 生物多様性について「1.言葉の意味も含めて知っている」と回答した割合は 33.2%となった。

- 希少野生動植物種※が豊田市にも生息・生育していることを知っていますか。
 当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。
【問 7】 ※希少野生動植物種：気候変動や人間による開発行為の影響で生息・生育環境が悪化し、絶滅の危機にさらされている生き物のこと。豊田市に生息・生育しているのは、ウシモツゴ、カワバタモロコ、シデコブシ、ギフチョウなど。

	合計	割合
1. 知っている	315	35.0%
2. 知らない	584	65.0%
有効回答数	899	

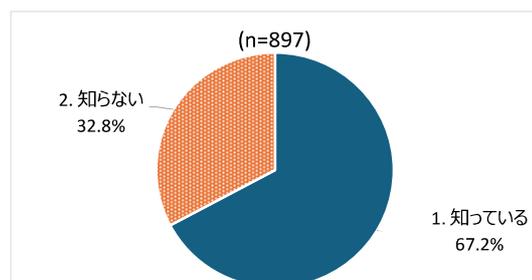


問 7 の結果概要

- 希少野生動植物種について「知っている」と回答した割合は 35.0%となった。

- 特定外来生物が豊田市にも生息・生育していることを知っていますか。
 当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。
【問 8】 ※特定外来生物：外国やその他の地域からやってきた生き物のうち、生態系等へ被害を及ぼす恐れがある生き物として、環境省が指定しているもの。豊田市に生息・生育しているのは、アライグマ、アカミミガメ、オオクチバス、セアカゴケグモ、オオキンケイギクなど。

	合計	割合
1. 知っている	603	67.2%
2. 知らない	294	32.8%
有効回答数	897	



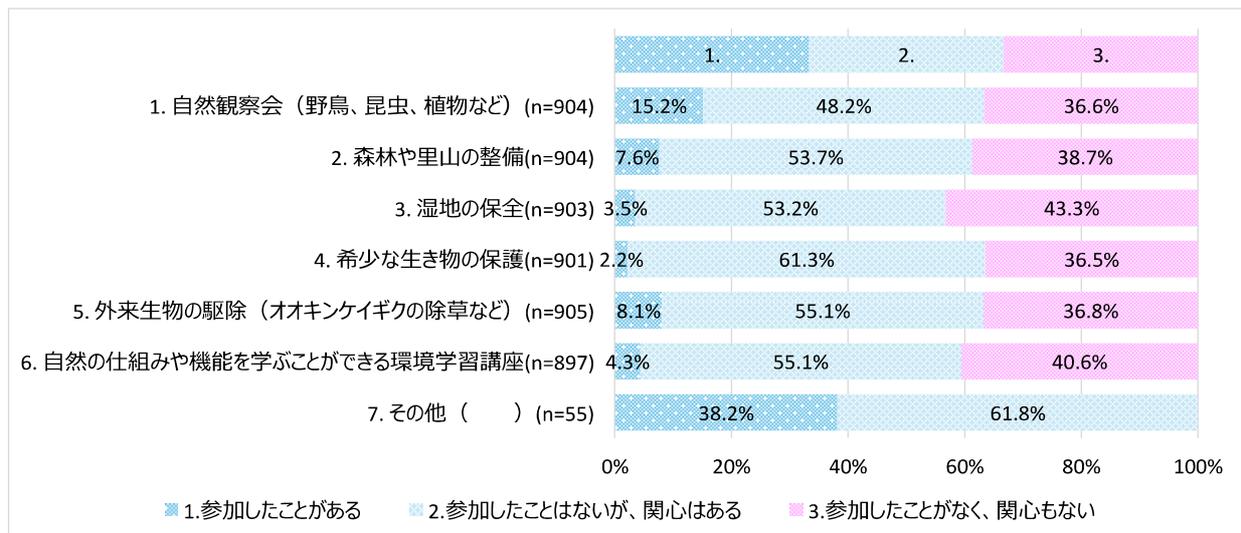
問 8 の結果概要

- 特定外来生物について「知っている」と回答した割合は 67.2%となった。

【問 9】

生き物や自然と触れ合う活動・イベントに参加したことがありますか。
 それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

上段:度数 下段: %	合計	参加したことがある	参加したことはないが、関心はある	参加したことがなく、関心もない
1. 自然観察会（野鳥、昆虫、植物など）	904 100.0%	137 15.2%	436 48.2%	331 36.6%
2. 森林や里山の整備	904 100.0%	69 7.6%	485 53.7%	350 38.7%
3. 湿地の保全	903 100.0%	32 3.5%	480 53.2%	391 43.3%
4. 希少な生き物の保護	901 100.0%	20 2.2%	552 61.3%	329 36.5%
5. 外来生物の駆除（オオキンケイギクの除草など）	905 100.0%	73 8.1%	499 55.1%	333 36.8%
6. 自然の仕組みや機能を学ぶことができる環境学習講座	897 100.0%	39 4.3%	494 55.1%	364 40.6%
7. その他（ ）	55 100.0%	21 38.2%	34 61.8%	- 0.0%



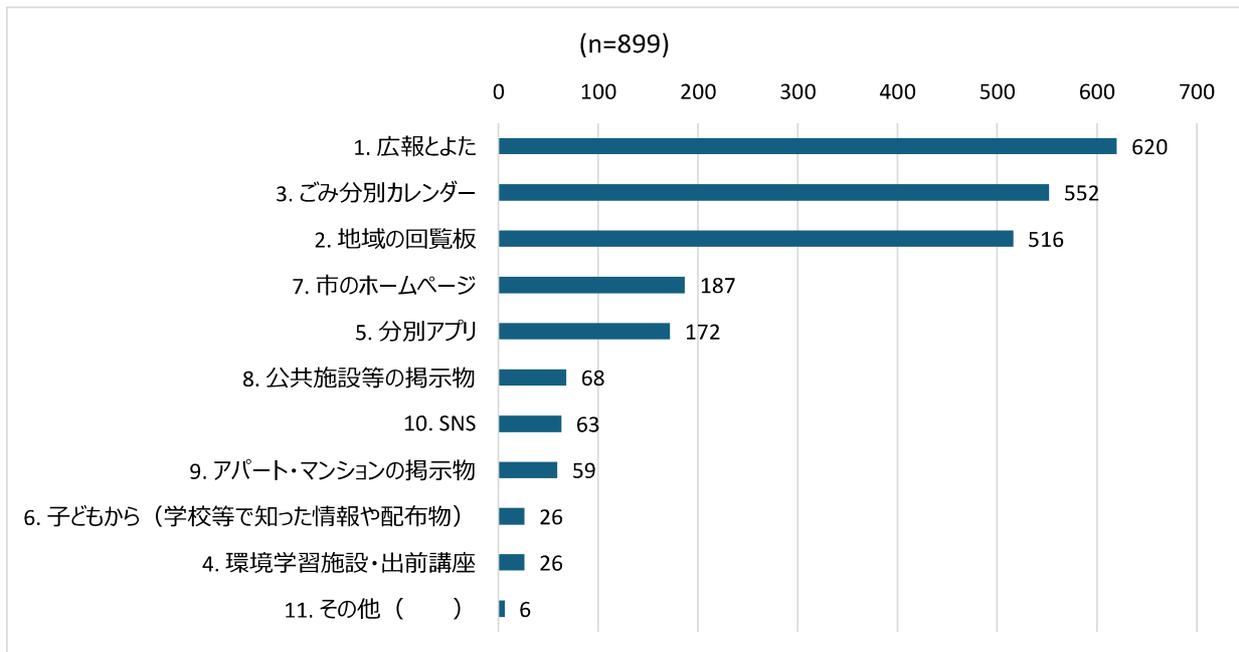
問 9 の結果概要

- ・ 「1.自然観察会（野鳥、昆虫、植物など）」のみが 10%以上となった。
- ・ 関心はあると回答した割合は概ね 50%以上となっている。

資源循環について

【問 10】 ごみに関する市からの情報について、どのような方法で入手したいと思いますか。
 当てはまるもの全てに○をつけてください。

	回答数	割合
1. 広報とよた	620	69.0%
3. ごみ分別カレンダー	552	61.4%
2. 地域の回覧板	516	57.4%
7. 市のホームページ	187	20.8%
5. 分別アプリ	172	19.1%
8. 公共施設等の掲示物	68	7.6%
10. SNS	63	7.0%
9. アパート・マンションの掲示物	59	6.6%
6. 子どもから（学校等で知った情報や配布物）	26	2.9%
4. 環境学習施設・出前講座	26	2.9%
11. その他（ ）	6	2.9%
合計	2,295	
有効回答数	899	

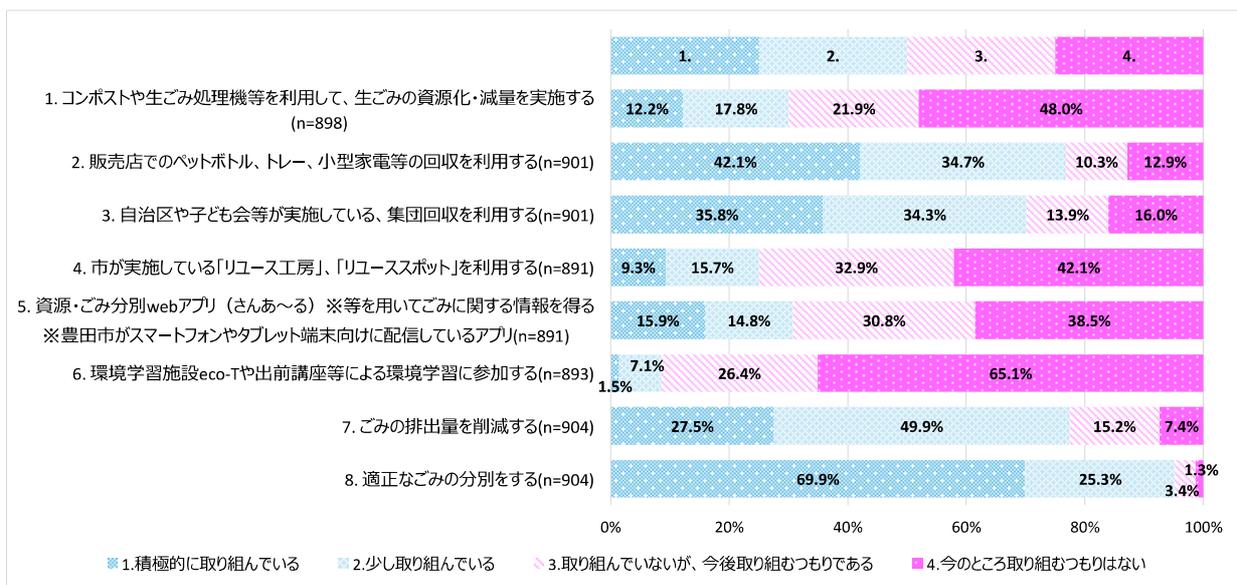


問 10 の結果概要

- ・ 『1.広報とよた』、『3.ごみ分別カレンダー』、『2.地域の回覧板』の回答数が多くっており、回答者数の半数以上がこれらの方法を希望する結果となった。
- ・ 一方、『8.公共施設等の掲示物』、『10.SNS』、『9.アパート・マンションの掲示物』、『6.子どもから（学校等で知った情報や配布物）』、『4.環境学習施設・出前講座』が10%未満となった。

【問 11】 ごみの減量・資源化に関する取組で日頃から取り組んでいることは何ですか。
それぞれの取組について、当てはまる取組状況を1つずつ選んで○をつけてください。

上段:度数 下段: %	合計	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない
1. コンポストや生ごみ処理機等を利用して、生ごみの資源化・減量を実施する	898 100.0%	110 12.2%	160 17.8%	197 21.9%	431 48.0%
2. 販売店でのペットボトル、トレー、小型家電等の回収を利用する	901 100.0%	379 42.1%	313 34.7%	93 10.3%	116 12.9%
3. 自治区や子ども会等が実施している、集団回収を利用する	901 100.0%	323 35.8%	309 34.3%	125 13.9%	144 16.0%
4. 市が実施している「リユース工房」、「リユーススポット」を利用する	891 100.0%	83 9.3%	140 15.7%	293 32.9%	375 42.1%
5. 資源・ごみ分別webアプリ（さんあ〜る）※等を用いてごみに関する情報を得る	891 100.0%	142 15.9%	132 14.8%	274 30.8%	343 38.5%
6. 環境学習施設eco-Tや出前講座等による環境学習に参加する	893 100.0%	13 1.5%	63 7.1%	236 26.4%	581 65.1%
7. ごみの排出量を削減する	904 100.0%	249 27.5%	451 49.9%	137 15.2%	67 7.4%
8. 適正なごみの分別をする	904 100.0%	632 69.9%	229 25.3%	31 3.4%	12 1.3%



問 11 の結果概要

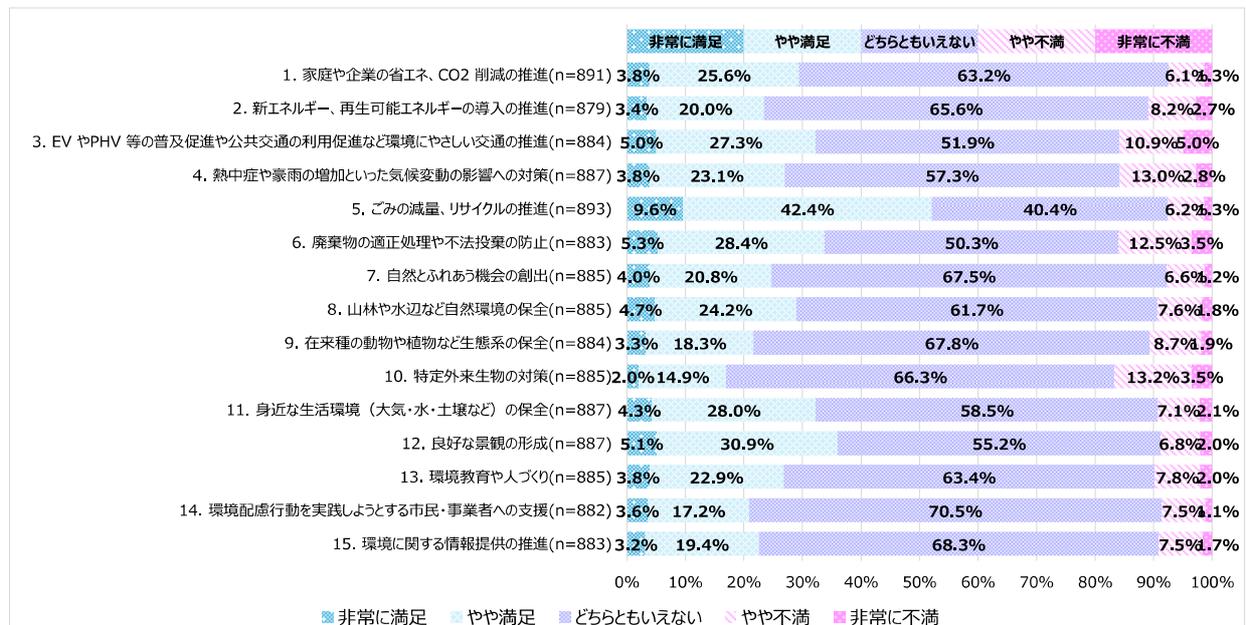
- 「1.積極的に取り組んでいる」と回答が多い項目は『8.適正なごみの分別をする』が 69.9%と最も高く、次いで『2.販売店でのペットボトル、トレー、小型家電等の回収を利用する』が 42.1%となった。「2.少し取り組んでいる」と合わせた回答率については『7.ごみの排出量を削減する』が 8.に次いで高く 77.4%となった。
- 一方、「4.今のところ取り組むつもりはない」と回答が多い項目は『6.環境学習施設 eco-T や出前講座等による環境学習に参加する』が 65.1%、『1.コンポストや生ごみ処理機等を利用して、生ごみの資源化・減量を実施する』が 48.0%となった。

市の環境への取組について

【問 12】

市の環境への取組について、どの程度満足していますか。また、今後の取組としてはどの程度重要だと思えますか。満足度、重要度について、当てはまるものをそれぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

【満足度】上段:度数 下段: %	合計	非常に満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	非常に不満
1. 家庭や企業の省エネ、CO2 削減の推進	891	34	228	563	54	12
	100.0%	3.8%	25.6%	63.2%	6.1%	1.3%
2. 新エネルギー、再生可能エネルギーの導入の推進	879	30	176	577	72	24
	100.0%	3.4%	20.0%	65.6%	8.2%	2.7%
3. EV やPHV 等の普及促進や公共交通の利用促進	884	44	241	459	96	44
	100.0%	5.0%	27.3%	51.9%	10.9%	5.0%
4. 熱中症や豪雨の増加といった気候変動の影響への	887	34	205	508	115	25
	100.0%	3.8%	23.1%	57.3%	13.0%	2.8%
5. ごみの減量、リサイクルの推進	893	86	379	361	55	12
	100.0%	9.6%	42.4%	40.4%	6.2%	1.3%
6. 廃棄物の適正処理や不法投棄の防止	883	47	251	444	110	31
	100.0%	5.3%	28.4%	50.3%	12.5%	3.5%
7. 自然とふれあう機会の創出	885	35	184	597	58	11
	100.0%	4.0%	20.8%	67.5%	6.6%	1.2%
8. 山林や水辺など自然環境の保全	885	42	214	546	67	16
	100.0%	4.7%	24.2%	61.7%	7.6%	1.8%
9. 在来種の動物や植物など生態系の保全	884	29	162	599	77	17
	100.0%	3.3%	18.3%	67.8%	8.7%	1.9%
10. 特定外来生物の対策	885	18	132	587	117	31
	100.0%	2.0%	14.9%	66.3%	13.2%	3.5%
11. 身近な生活環境（大気・水・土壌など）の保全	887	38	248	519	63	19
	100.0%	4.3%	28.0%	58.5%	7.1%	2.1%
12. 良好な景観の形成	887	45	274	490	60	18
	100.0%	5.1%	30.9%	55.2%	6.8%	2.0%
13. 環境教育や人づくり	885	34	203	561	69	18
	100.0%	3.8%	22.9%	63.4%	7.8%	2.0%
14. 環境配慮行動を実践しようとする市民・事業者への支援	882	32	152	622	66	10
	100.0%	3.6%	17.2%	70.5%	7.5%	1.1%
15. 環境に関する情報提供の推進	883	28	171	603	66	15
	100.0%	3.2%	19.4%	68.3%	7.5%	1.7%



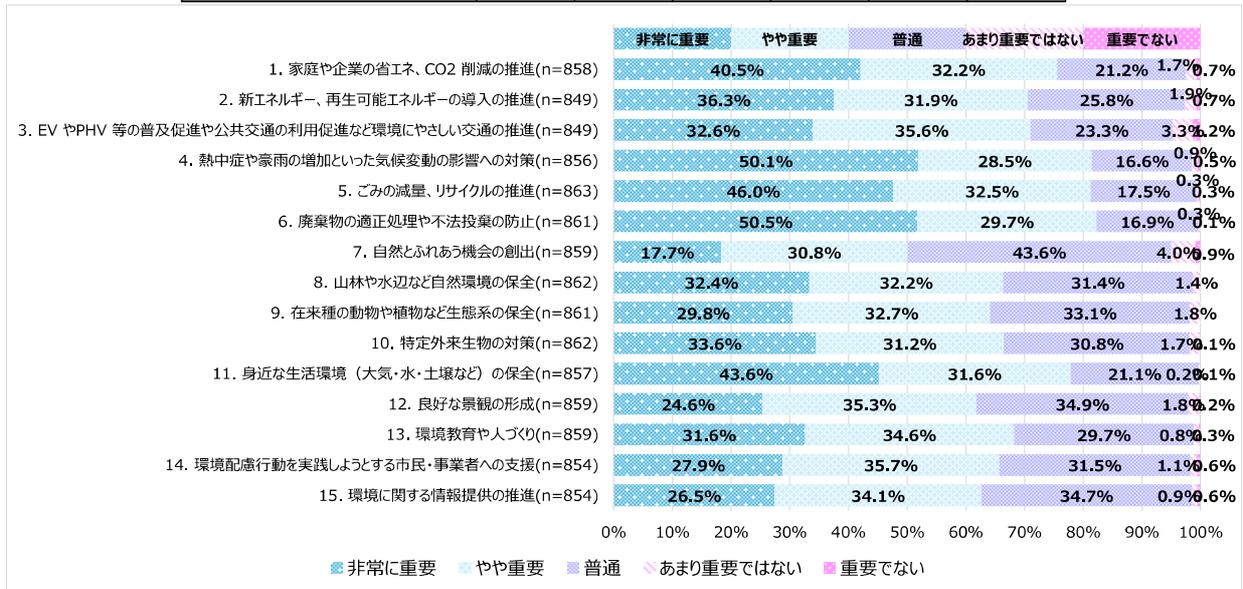
問 12 【満足度】の結果概要

- 「1.非常に満足」の回答率が高い項目は『5.ごみの減量、リサイクルの推進』が9.6%となった。「1.非常に満足」または「2.やや満足」の回答率が高い項目は『5.ごみの減量、リサイクルの推進』が52.0%、『12.良好な景観の形成』が36.0%となった。

- 一方、「5.非常に不満」の回答率が高い項目は『3.EV や PHV 等の普及促進や公共交通の利用促進など環境にやさしい交通の推進』で5.0%となった。「5.非常に不満」または「4.やや不満」の回答率が高い項目は『10.特定外来生物の対策』が16.7%、『6.廃棄物の適正処理や不法投棄の防止』が16.0%となった。

【重要度】

【重要度】上段:度数 下段: %	合計	非常に重要	やや重要	普通	あまり重要ではない	重要でない
1. 家庭や企業の省エネ、CO2 削減の推進	858	361	287	189	15	6
	100.0%	40.5%	32.2%	21.2%	1.7%	0.7%
2. 新エネルギー、再生可能エネルギーの導入の推進	849	319	280	227	17	6
	100.0%	36.3%	31.9%	25.8%	1.9%	0.7%
3. EV やPHV 等の普及促進や公共交通の利用促進	849	288	315	206	29	11
	100.0%	32.6%	35.6%	23.3%	3.3%	1.2%
4. 熱中症や豪雨の増加といった気候変動の影響への	856	444	253	147	8	4
	100.0%	50.1%	28.5%	16.6%	0.9%	0.5%
5. ごみの減量、リサイクルの推進	863	411	290	156	3	3
	100.0%	46.0%	32.5%	17.5%	0.3%	0.3%
6. 廃棄物の適正処理や不法投棄の防止	861	446	262	149	3	1
	100.0%	50.5%	29.7%	16.9%	0.3%	0.1%
7. 自然とふれあう機会の創出	859	157	273	386	35	8
	100.0%	17.7%	30.8%	43.6%	4.0%	0.9%
8. 山林や水辺など自然環境の保全	862	287	285	278	12	-
	100.0%	32.4%	32.2%	31.4%	1.4%	0.0%
9. 在来種の動物や植物など生態系の保全	861	263	289	293	16	-
	100.0%	29.8%	32.7%	33.1%	1.8%	0.0%
10. 特定外来生物の対策	862	297	276	273	15	1
	100.0%	33.6%	31.2%	30.8%	1.7%	0.1%
11. 身近な生活環境（大気・水・土壌など）の保全	857	387	280	187	2	1
	100.0%	43.6%	31.6%	21.1%	0.2%	0.1%
12. 良好な景観の形成	859	218	313	310	16	2
	100.0%	24.6%	35.3%	34.9%	1.8%	0.2%
13. 環境教育や人づくり	859	280	306	263	7	3
	100.0%	31.6%	34.6%	29.7%	0.8%	0.3%
14. 環境配慮行動を実践しようとする市民・事業者への支援	854	246	315	278	10	5
	100.0%	27.9%	35.7%	31.5%	1.1%	0.6%
15. 環境に関する情報提供の推進	854	234	301	306	8	5
	100.0%	26.5%	34.1%	34.7%	0.9%	0.6%



問 12【重要度】の結果概要

- 「1.非常に重要」の回答率は『6.廃棄物の適正処理や不法投棄の防止』が 50.5%、『4.熱中症や豪雨の増加といった気候変動の影響への対策』が 50.5%となった。「1.非常に重要」または「2.やや重要」の回答率についても『6.廃棄物の適正処理や不法投棄の防止』が 80.2%、『4.熱中症や豪雨の増加といった気候変動の影響への対策』が 78.6%が上位となった。
- 一方、「5.重要でない」の回答率は『3.EV や PHV 等の普及促進や公共交通の利用促進など環境にやさしい交通の推進』が 1.2%と最も高い結果となった。「5.重要でない」または「4.あまり重要ではない」の回答率が上位となった項目は『7.自然とふれあう機会の創出』で 4.9%、『3.EV や PHV 等の普及促進や公共交通の利用促進など環境にやさしい交通の推進』で 4.5%となった。

【満足度と重要度の関係】

各項目の満足度、重要度について、以下の計算式、配点により点数化した。

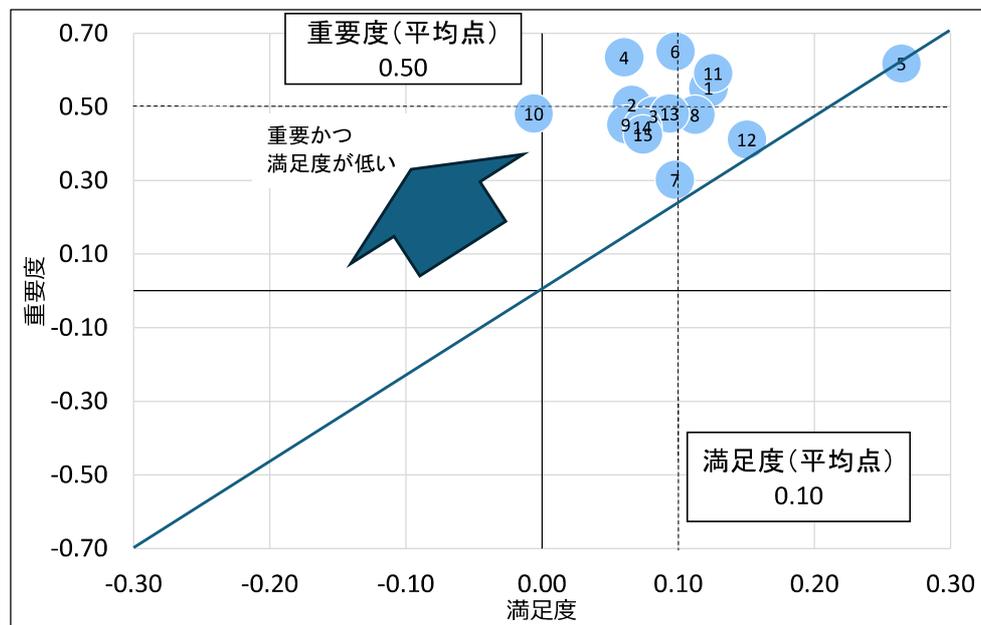
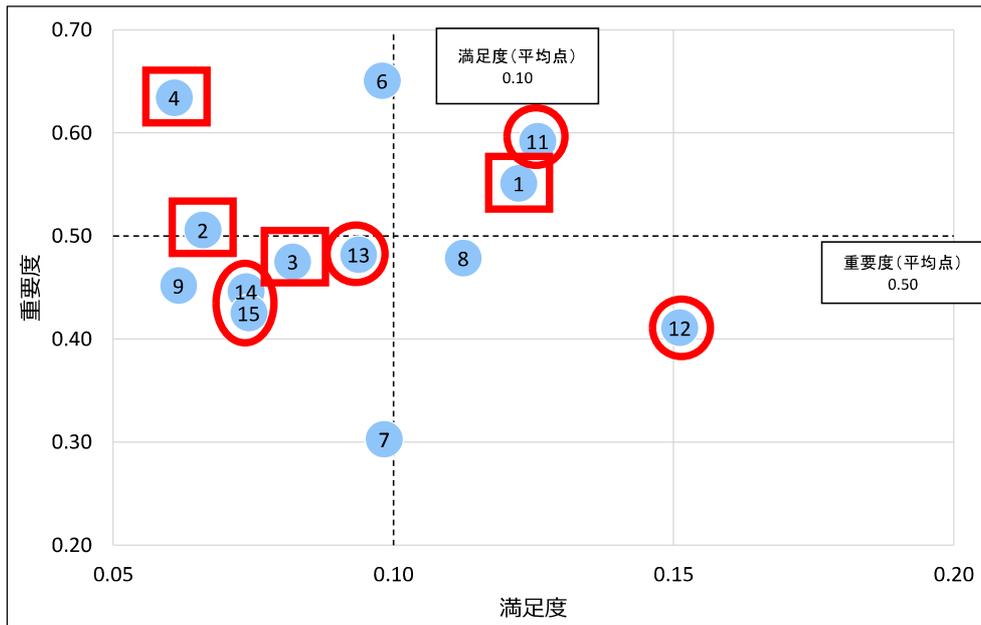
(計算式) 点数 = Σ (満足度・重要度の選択肢別回答率) × (満足度・重要度の選択肢別配点)

表 ポートフォリオ分析における選択肢別配点

満足度	満足	やや満足	どちらともいえない	満足	やや満足
重要度	非常に重要	やや重要	普通	あまり重要ではない	重要でない
配点	1	0.5	0	-0.5	-1

青：満足度 < 0.10(満足度の平均値)、赤：重要度 > 0.50(重要度の平均値)

	満足度	重要度
1. 家庭や企業の省エネ、CO2 削減の推進	0.12	0.55
2. 新エネルギー、再生可能エネルギーの導入の推進	0.07	0.51
3. EV やPHV 等の普及促進や公共交通の利用促進など環境にやさしい交通の推進	0.08	0.48
4. 熱中症や豪雨の増加といった気候変動の影響への対策	0.06	0.63
5. ごみの減量、リサイクルの推進	0.26	0.62
6. 廃棄物の適正処理や不法投棄の防止	0.10	0.65
7. 自然とふれあう機会の創出	0.10	0.30
8. 山林や水辺など自然環境の保全	0.11	0.48
9. 在来種の動物や植物など生態系の保全	0.06	0.45
10. 特定外来生物の対策	-0.01	0.48
11. 身近な生活環境（大気・水・土壌など）の保全	0.13	0.59
12. 良好な景観の形成	0.15	0.41
13. 環境教育や人づくり	0.09	0.48
14. 環境配慮行動を实践しようとする市民・事業者への支援	0.07	0.45
15. 環境に関する情報提供の推進	0.07	0.43
	0.10	0.50



問 12 の結果概要

- 満足度が平均点以下、重要度が平均点以上となっている項目は『2.新エネルギー、再生可能エネルギーの導入の推進』（満足度：0.07、重要度：0.51）、『4.熱中症や豪雨の増加といった気候変動の影響への対策』（満足度：0.06、重要度：0.63）、『6.廃棄物の適正処理や不法投棄の防止』（満足度：0.10、重要度：0.65）の3つとなった。
- 『10.特定外来生物の対策』は重要度が0.48と平均点を下回っているが、満足度が-0.01と唯一0.0を下回っている。

- 【問 13】 その他、身の回りの環境について困っていることや良いと思っていることをご自由にお書きください。

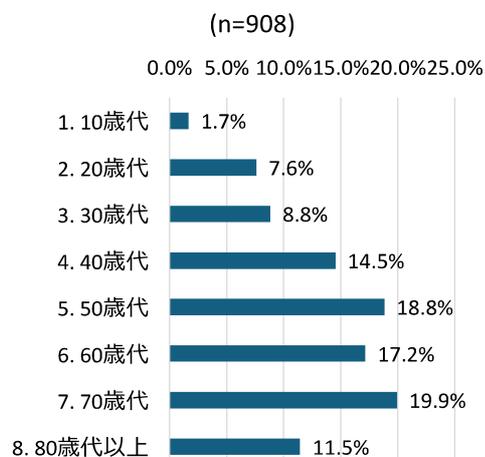
結果の抜粋（原文まま）

- ・ 陸の孤島状態の地域に在住、買い物にタクシー利用。公共交通手段の便を計らりたい。
- ・ 近年、20～30年前と比較して、カラスが住宅周辺へ大量発生しています。人間と住み別けられない環境へ進んでいるのではないのでしょうか。
- ・ 美しい豊田を守る前に道路ゆきですてられているゴミ（食べた後の弁当のからや飲みものの紙コップ、缶、ビンなどの不法投棄の対策）強化。私は毎日散歩していますがすてられた生活ゴミを見ると心が痛みます！心ない人に対して残念な気持ちになります。
- ・ リユーススポットとても良いです！安価にいつでも行けてすぐ購入できるのでリユース工房より使い勝手が良い。毎日開いているとありがたいです！
- ・ 山間地においては、住民の高齢化もあり、側溝のつまりや道路添いの草等の住民による整備が困難な状況にあります。
- ・ 各小中学校において環境についての授業を積極的に取り組んでいる。これが家庭へうまく伝わっていくこと、大人がもっと意識する手立てを！

ご自身について

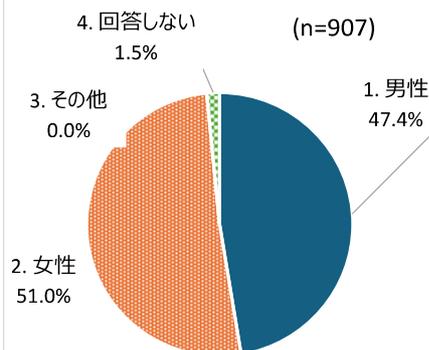
【問 14】 年齢について当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

	合計	割合
1. 10歳代	15	1.7%
2. 20歳代	69	7.6%
3. 30歳代	80	8.8%
4. 40歳代	132	14.5%
5. 50歳代	171	18.8%
6. 60歳代	156	17.2%
7. 70歳代	181	19.9%
8. 80歳代以上	104	11.5%
有効回答数	908	



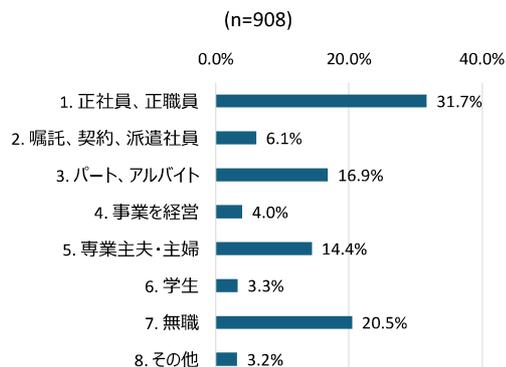
【問 15】 性別について当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

	合計	割合
1. 男性	430	47.4%
2. 女性	463	51.0%
3. その他	0	0.0%
4. 回答しない	14	1.5%
有効回答数	907	



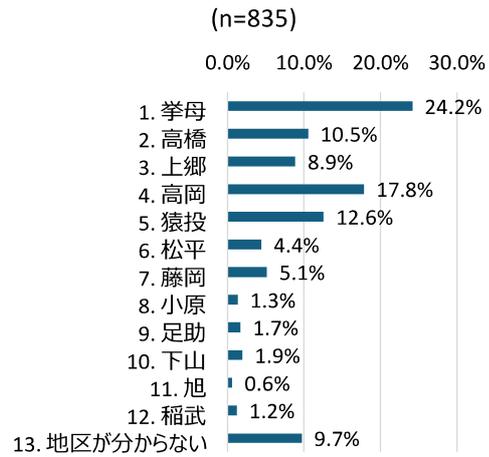
【問 16】 職業について当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

	合計	割合
1. 正社員、正職員	288	31.7%
2. 嘱託、契約、派遣社員	55	6.1%
3. パート、アルバイト	153	16.9%
4. 事業を経営	36	4.0%
5. 専業主夫・主婦	131	14.4%
6. 学生	30	3.3%
7. 無職	186	20.5%
8. その他	29	3.2%
有効回答数	908	



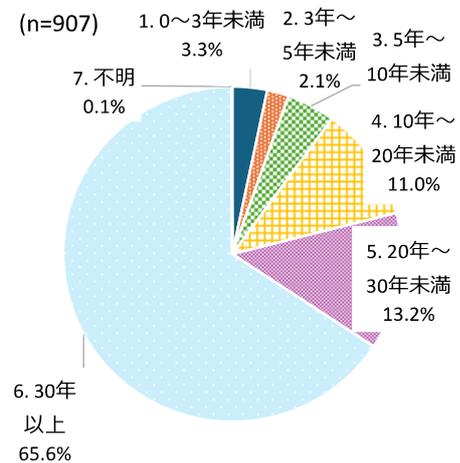
【問 17】 居住地区について当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

	合計	割合
1. 拳母	202	24.2%
2. 高橋	88	10.5%
3. 上郷	74	8.9%
4. 高岡	149	17.8%
5. 猿投	105	12.6%
6. 松平	37	4.4%
7. 藤岡	43	5.1%
8. 小原	11	1.3%
9. 足助	14	1.7%
10. 下山	16	1.9%
11. 旭	5	0.6%
12. 稲武	10	1.2%
13. 地区が分からない場合 ()	81	9.7%
有効回答数	835	



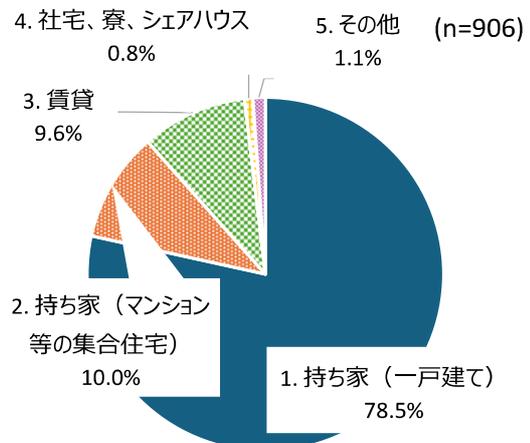
【問 18】 豊田市内での居住年数について当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

	合計	割合
1. 0～3年未満	30	3.3%
2. 3年～5年未満	19	2.1%
3. 5年～10年未満	42	4.6%
4. 10年～20年未満	100	11.0%
5. 20年～30年未満	120	13.2%
6. 30年以上	595	65.6%
7. 不明	1	0.1%
有効回答数	907	



【問 19】 居住形態について当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

	合計	割合
1. 持ち家（一戸建て）	711	78.5%
2. 持ち家（マンション等の集合住宅）	91	10.0%
3. 賃貸	87	9.6%
4. 社宅、寮、シェアハウス	7	0.8%
5. その他	10	1.1%
有効回答数	906	



2.3 詳細集計結果

2.3.1 クロス集計

以下にクロス集計結果を示す。

表 5 クロス集計一覧

No.	表頭	表側
1	問 1 (周辺環境の満足度)	問 17 (居住地区)
2	問 2 (環境に配慮した行動の取組状況)	問 14 (年齢)
3	問 3 (エネルギー関連機器の導入状況)	問 19 (居住形態)
4	問 4 (気候変動の影響で不安に感じる事)	問 5 (気候変動影響に対する取組状況)
5	問 6 (生物多様性の認知度)	問 9 (自然とふれ合う活動・イベントの参加状況)
6	問 10 (ごみに関する情報入手方法)	問 14 (年齢)
7	問 11 (ごみに関する取組状況)	問 17 (居住地区)
8	問 7 (希少野生動物種の認知度)	問 9 (自然とふれ合う活動・イベントの参加状況)
9	問 8 (特定外来生物の認知度)	問 9 (自然とふれ合う活動・イベントの参加状況)

(1) 居住地区と周辺環境の満足度の関係 (問1×問17のクロス集計)

結果概要

- 都市地域と山村地域における周辺環境の満足度の平均値を比較すると、『1.空気のきれいさ』、『2.河川や池などの水のきれいさ』、『3.静かさ(騒音や、振動の少なさ)』、『4.まちの清潔さ(ごみや、悪臭の少なさ)』、『5.生き物や自然の豊かさ』、『6.自然とふれあえる場の多さ』、『9.人とのふれあい』、『10.全体として周辺の環境への満足度』と10項目中8項目において都市地域よりも山村地域において満足度が高い結果となった。

		問1 周辺環境の満足度										
		全体	1. 空気のきれいさ		2. 河川や池などの水のきれいさ		3. 静かさ(騒音や、振動の少なさ)		4. まちの清潔さ(ごみや、悪臭の少なさ)		5. 生き物や自然の豊かさ	
			満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である
問17 居住地区	都市	1. 拳母 (n=202)	53.0%	47.0%	38.7%	38.7%	41.8%	58.2%	63.0%	37.0%	53.6%	46.4%
		2. 高橋 (n=88)	74.7%	25.3%	52.9%	52.9%	70.5%	29.5%	76.1%	23.9%	79.5%	20.5%
		3. 上郷 (n=74)	56.2%	43.8%	35.8%	35.8%	57.5%	42.5%	54.8%	45.2%	49.3%	50.7%
		4. 高岡 (n=149)	60.0%	40.0%	35.2%	35.2%	49.3%	50.7%	59.5%	40.5%	53.8%	46.2%
		5. 猿投 (n=105)	75.2%	24.8%	39.2%	39.2%	63.5%	36.5%	70.2%	29.8%	74.7%	25.3%
		6. 松平 (n=37)	83.8%	16.2%	55.6%	55.6%	75.7%	24.3%	81.1%	18.9%	77.8%	22.2%
		7. 藤岡 (n=43)	78.6%	21.4%	54.8%	54.8%	58.1%	41.9%	67.4%	32.6%	76.7%	23.3%
	山村	8. 小原 (n=11)	100.0%	0.0%	81.8%	81.8%	90.9%	9.1%	90.9%	9.1%	72.7%	27.3%
		9. 足助 (n=14)	85.7%	14.3%	78.6%	78.6%	78.6%	21.4%	78.6%	21.4%	78.6%	21.4%
		10. 下山 (n=16)	93.8%	6.3%	53.3%	53.3%	93.8%	6.3%	87.5%	12.5%	100.0%	0.0%
		11. 旭 (n=5)	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	60.0%	40.0%	80.0%	20.0%
		12. 稲武 (n=10)	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	80.0%	20.0%	90.0%	10.0%	70.0%	30.0%
		13. 地区が分からない (n=81)	53.8%	46.3%	38.5%	38.5%	46.9%	53.1%	54.3%	45.7%	55.3%	44.7%

		問1 周辺環境の満足度										
		全体	6. 自然とふれあえる場の多さ		7. 公園・広場などの安らぎの場の多さ		8. 交通の便利さ		9. 人とのふれあい		10. 全体として周辺の環境への満足度	
			満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である
問17 居住地区	都市	1. 拳母 (n=202)	44.3%	55.7%	45.4%	54.6%	34.7%	65.3%	35.8%	64.2%	54.8%	45.2%
		2. 高橋 (n=88)	69.0%	31.0%	56.3%	43.7%	19.3%	80.7%	43.5%	56.5%	65.5%	34.5%
		3. 上郷 (n=74)	39.4%	60.6%	40.8%	59.2%	26.0%	74.0%	39.1%	60.9%	47.9%	52.1%
		4. 高岡 (n=149)	44.8%	55.2%	41.5%	58.5%	28.4%	71.6%	33.1%	66.9%	48.6%	51.4%
		5. 猿投 (n=105)	63.0%	37.0%	42.7%	57.3%	42.3%	57.7%	43.4%	56.6%	65.4%	34.6%
		6. 松平 (n=37)	70.3%	29.7%	35.1%	64.9%	5.4%	94.6%	20.0%	80.0%	62.2%	37.8%
		7. 藤岡 (n=43)	74.4%	25.6%	50.0%	50.0%	12.2%	87.8%	37.2%	62.8%	48.8%	51.2%
	山村	8. 小原 (n=11)	81.8%	18.2%	45.5%	54.5%	0.0%	100.0%	63.6%	36.4%	81.8%	18.2%
		9. 足助 (n=14)	71.4%	28.6%	27.3%	72.7%	14.3%	85.7%	35.7%	64.3%	57.1%	42.9%
		10. 下山 (n=16)	81.3%	18.8%	12.5%	87.5%	18.8%	81.3%	50.0%	50.0%	62.5%	37.5%
		11. 旭 (n=5)	100.0%	0.0%	60.0%	40.0%	20.0%	80.0%	100.0%	0.0%	80.0%	20.0%
		12. 稲武 (n=10)	70.0%	30.0%	33.3%	66.7%	40.0%	60.0%	60.0%	40.0%	70.0%	30.0%
		13. 地区が分からない (n=81)	52.0%	48.0%	48.1%	51.9%	29.6%	70.4%	40.0%	60.0%	55.7%	44.3%

凡例 満足している：「1.非常に満足」または「2.やや満足」

不満足である：「3.どちらともいえない」、「4.やや不満」または「5.非常に不満」 * 「6.わからない」「無回答」を除く

(2) 年齢と環境に配慮した行動の取組状況の関係 (問2×問14のクロス集計)

結果概要

- 『2.フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、自分には不用になったものを譲渡・販売する』、『3.フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、リユース品を購入する』、『9.豊田市やその近郊でとれた野菜やお肉などの食材を食べる』、『13.鉄道・バスなど公共交通機関を利用する』、『16.燃費の良い運転をする』、『21.地域の環境美化活動に参加する』、『22.動植物の習性を正しく理解し、最後まで責任をもって飼育・栽培管理する』において、取り組んでいる割合について最も取り組んでいる年代と最も取り組んでいない年代の差が30%以上という結果となった。
- このうち、30歳代以下の年代において最も取り組まれている項目は『2.フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、自分には不用になったものを譲渡・販売する』、『3.フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、リユース品を購入する』、『13.鉄道・バスなど公共交通機関を利用する』であり、40歳代から60歳代で最も取り組まれる項目は『16.燃費の良い運転をする』、70歳代以上の年代において最も取り組まれる項目は『9.豊田市やその近郊でとれた野菜やお肉などの食材を食べる』、『21.地域の環境美化活動に参加する』、『22.動植物の習性を正しく理解し、最後まで責任をもって飼育・栽培管理する』という結果となった。

		問2 環境に配慮した行動の取組状況									
		ごみの分別や減量									
		1. 計画的な買い物や手前どり、食べ残しをしないなどで食品ロスを減らす		2. フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、自分には不用になったものを譲渡・販売する		3. フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、リユース品を購入する		4. スーパーマーケットなどでの資源の店頭回収や地域の集団回収に取り組む		5. 常設で資源を回収する「リサイクルステーション」を利用している	
		取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない
問14 年齢	1. 10歳代 (n=15)	86.7%	13.3%	33.3%	66.7%	40.0%	60.0%	60.0%	40.0%	80.0%	20.0%
	2. 20歳代 (n=69)	91.3%	8.7%	47.8%	52.2%	52.2%	47.8%	71.0%	29.0%	87.0%	13.0%
	3. 30歳代 (n=80)	88.6%	11.4%	50.6%	49.4%	48.1%	51.9%	78.5%	21.5%	91.0%	9.0%
	4. 40歳代 (n=132)	91.7%	8.3%	50.0%	50.0%	50.8%	49.2%	83.3%	16.7%	92.4%	7.6%
	5. 50歳代 (n=171)	90.6%	9.4%	39.2%	60.8%	36.3%	63.7%	85.2%	14.8%	91.8%	8.2%
	6. 60歳代 (n=156)	88.9%	11.1%	34.8%	65.2%	34.4%	65.6%	78.6%	21.4%	95.5%	4.5%
	7. 70歳代 (n=181)	91.6%	8.4%	21.5%	78.5%	21.7%	78.3%	76.8%	23.2%	86.0%	14.0%
	8. 80歳代以 (n=104)	92.2%	7.8%	16.0%	84.0%	19.4%	80.6%	74.0%	26.0%	82.5%	17.5%

		問2 環境に配慮した行動の取組状況									
		ごみの分別や減量									
		6. マイボトルを持ち歩く		7. エコバッグを持ち歩く		8. 衣類、家具等を長く使う		9. 豊田市やその近郊でとれた野菜やお肉などの食材を食べる		10. 油や調理くずは排水に流さないようにする	
		取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない
問14 年齢	1. 10歳代 (n=15)	66.7%	33.3%	93.3%	6.7%	100.0%	0.0%	60.0%	40.0%	93.3%	6.7%
	2. 20歳代 (n=69)	73.9%	26.1%	88.4%	11.6%	95.7%	4.3%	58.0%	42.0%	94.1%	5.9%
	3. 30歳代 (n=80)	74.7%	25.3%	94.9%	5.1%	96.2%	3.8%	73.4%	26.6%	92.4%	7.6%
	4. 40歳代 (n=132)	81.8%	18.2%	93.2%	6.8%	96.2%	3.8%	72.0%	28.0%	91.7%	8.3%
	5. 50歳代 (n=171)	73.7%	26.3%	97.1%	2.9%	97.7%	2.3%	78.9%	21.1%	95.3%	4.7%
	6. 60歳代 (n=156)	78.7%	21.3%	94.2%	5.8%	98.7%	1.3%	78.7%	21.3%	95.5%	4.5%
	7. 70歳代 (n=181)	76.0%	24.0%	95.5%	4.5%	96.0%	4.0%	85.3%	14.7%	96.1%	3.9%
	8. 80歳代以 (n=104)	83.2%	16.8%	93.1%	6.9%	97.1%	2.9%	88.3%	11.7%	95.1%	4.9%

凡例 取り組んでいる：「1.積極的に取り組んでいる」または「2.少し取り組んでいる」
 取り組んでいない：「3.あまり取り組んでいない」、「4.まったく取り組んでいない」 * 「無回答」を除く

		問2 環境に配慮した行動の取組状況																			
		エネルギー																			
		11. 日頃から節電を実施する				12. 電気使用量をチェックして、なぜ増えたか(減ったか)という原因を考える				13. 鉄道・バスなど公共交通機関を利用する		14. 積極的に徒歩や自転車を利用する		15. シェアサイクルやカーシェアを活用する		16. 燃費の良い運転をする		17. テレワークを実施する			
		取り組んでいる		取り組んでいない		取り組んでいる		取り組んでいない		取り組んでいる		取り組んでいない		取り組んでいる		取り組んでいない		取り組んでいる		取り組んでいない	
問1 4 年齢	1. 10歳代 (n=15)	86.7%	13.3%	46.7%	53.3%	80.0%	20.0%	60.0%	40.0%	6.7%	93.3%	46.7%	53.3%	26.7%	73.3%						
	2. 20歳代 (n=69)	81.2%	18.8%	42.0%	58.0%	53.6%	46.4%	42.0%	58.0%	10.1%	89.9%	73.5%	26.5%	15.9%	84.1%						
	3. 30歳代 (n=80)	83.8%	16.3%	55.0%	45.0%	26.3%	73.8%	38.8%	61.3%	5.0%	95.0%	73.4%	26.6%	21.3%	78.8%						
	4. 40歳代 (n=132)	86.4%	13.6%	56.1%	43.9%	27.5%	72.5%	38.6%	61.4%	1.5%	98.5%	83.2%	16.8%	20.6%	79.4%						
	5. 50歳代 (n=171)	91.8%	8.2%	55.0%	45.0%	34.5%	65.5%	40.4%	59.6%	2.9%	97.1%	84.8%	15.2%	12.9%	87.1%						
	6. 60歳代 (n=156)	91.6%	8.4%	61.9%	38.1%	22.7%	77.3%	44.4%	55.6%	5.2%	94.8%	81.2%	18.8%	17.6%	82.4%						
	7. 70歳代 (n=181)	93.2%	6.8%	61.6%	38.4%	31.1%	68.9%	41.6%	58.4%	4.6%	95.4%	74.4%	25.6%	6.0%	94.0%						
	8. 80歳代以上 (n=104)	96.0%	4.0%	68.0%	32.0%	36.0%	64.0%	48.5%	51.5%	13.7%	86.3%	72.3%	27.7%	16.0%	84.0%						

		問2 環境に配慮した行動の取組状況															
		環境学習															
		18. 環境学習講座や自然観察会の情報を収集する				19. 環境学習講座や自然観察会に参加する				20. ニュースで話題になった環境問題などについて、家族や知人と話す		21. 地域の環境美化活動に参加する		22. 動植物の習性を正しく理解し、最後まで責任をもって飼育・栽培管理する		23. 近隣騒音・振動・悪臭等をあまり出さないように配慮する	
		取り組んでいる		取り組んでいない		取り組んでいる		取り組んでいない		取り組んでいる		取り組んでいない		取り組んでいる		取り組んでいない	
問1 4 年齢	1. 10歳代 (n=15)	13.3%	86.7%	6.7%	93.3%	53.3%	46.7%	80.0%	20.0%	46.7%	53.3%	93.3%	6.7%				
	2. 20歳代 (n=69)	10.1%	89.9%	5.8%	94.2%	42.6%	57.4%	44.9%	55.1%	60.9%	39.1%	97.1%	2.9%				
	3. 30歳代 (n=80)	7.5%	92.5%	3.8%	96.3%	50.0%	50.0%	52.5%	47.5%	60.0%	40.0%	93.8%	6.3%				
	4. 40歳代 (n=132)	15.3%	84.7%	9.2%	90.8%	59.8%	40.2%	67.4%	32.6%	71.8%	28.2%	94.7%	5.3%				
	5. 50歳代 (n=171)	9.9%	90.1%	6.4%	93.6%	62.6%	37.4%	69.6%	30.4%	70.8%	29.2%	97.1%	2.9%				
	6. 60歳代 (n=156)	15.7%	84.3%	9.7%	90.3%	48.7%	51.3%	81.9%	18.1%	75.3%	24.7%	96.8%	3.2%				
	7. 70歳代 (n=181)	9.9%	90.1%	8.0%	92.0%	52.0%	48.0%	81.6%	18.4%	76.9%	23.1%	94.3%	5.7%				
	8. 80歳代以上 (n=104)	24.0%	76.0%	14.7%	85.3%	52.6%	47.4%	87.0%	13.0%	76.5%	23.5%	95.0%	5.0%				

凡例 取り組んでいる：「1.積極的に取り組んでいる」または「2.少し取り組んでいる」
 取り組んでいない：「3.あまり取り組んでいない」、「4.まったく取り組んでいない」 * 「無回答」を除く

(3) 居住形態とエネルギー関連機器の導入状況の関係 (問3×問19のクロス集計)

結果概要

- エネルギー関連機器の導入している割合について、『12.高効率給湯器（エコキュート、エコジョーズなど）』、『13.断熱性や気密性の高い窓・サッシ』、『14.節水型トイレ、高断熱浴槽など』における導入比率は最も高い居住形態と最も低い居住形態での差が40%以上となり、いずれも『持ち家（一戸建て）』の居住形態において導入比率が最も高い結果となった。
- エネルギー関連機器の導入する予定がある割合については、ほとんどの項目において導入している割合が低い居住形態において高い傾向が示された。

		問3 エネルギー関連機器の導入状況															
		1. 太陽光発電設備			2. 太陽熱温水器			3. 蓄電池			4. 家庭用燃料電池（エネファーム）			5. 燃料電池自動車（FCV）			
		導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	
問19 居住形態	持ち家（一戸建て）	(n=711)	23.2%	2.7%	74.1%	8.0%	2.8%	89.2%	11.1%	7.0%	81.9%	5.6%	4.1%	90.3%	1.9%	3.8%	94.3%
	持ち家（マンション等の集合住宅）	(n=91)	4.5%	1.1%	94.3%	1.1%	3.4%	95.5%	2.3%	6.8%	90.9%	0.0%	4.5%	95.5%	1.1%	5.7%	93.2%
	賃貸	(n=87)	2.4%	3.5%	94.1%	0.0%	2.4%	97.6%	4.7%	3.5%	91.8%	1.2%	3.6%	95.2%	0.0%	2.4%	97.6%
	社宅、寮、シェアハウス	(n=7)	14.3%	0.0%	85.7%	14.3%	0.0%	85.7%	14.3%	0.0%	85.7%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	その他（ ）	(n=10)	10.0%	0.0%	90.0%	10.0%	0.0%	90.0%	0.0%	10.0%	90.0%	0.0%	10.0%	90.0%	0.0%	0.0%	100.0%

		問3 エネルギー関連機器の導入状況															
		6. 電気自動車（EV）			7. プラグインハイブリッド車（PHV）			8. 電気自動車用充電装置（V2H）			9. エネルギーマネジメントシステム（HEMS）			10. 高効率な照明（LEDなど）			
		導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	
問19 居住形態	持ち家（一戸建て）	(n=711)	2.9%	6.0%	91.1%	7.8%	7.2%	85.0%	5.1%	4.5%	90.3%	3.5%	3.2%	93.3%	79.3%	11.4%	9.3%
	持ち家（マンション等の集合住宅）	(n=91)	4.5%	8.0%	87.5%	7.0%	4.7%	88.4%	1.1%	3.4%	95.5%	2.3%	3.5%	94.2%	75.3%	11.2%	13.5%
	賃貸	(n=87)	0.0%	3.6%	96.4%	2.4%	2.4%	95.2%	1.2%	2.4%	96.4%	1.2%	6.0%	92.8%	70.6%	11.8%	17.6%
	社宅、寮、シェアハウス	(n=7)	14.3%	0.0%	85.7%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	14.3%	85.7%	0.0%	0.0%	100.0%	85.7%	0.0%	14.3%
	その他（ ）	(n=10)	10.0%	0.0%	90.0%	10.0%	0.0%	90.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	11.1%	88.9%	80.0%	0.0%	20.0%

		問3 エネルギー関連機器の導入状況												
		11. 省エネ家電製品（エアコン、冷蔵庫、洗濯機など）			12. 高効率給湯器（エコキュート、エコジョーズなど）			13. 断熱性や気密性の高い窓・サッシ			14. 節水型トイレ、高断熱浴槽など			
		導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	
問19 居住形態	持ち家（一戸建て）	(n=711)	76.5%	12.8%	10.8%	58.5%	7.2%	34.3%	52.4%	9.1%	38.5%	51.1%	8.6%	40.3%
	持ち家（マンション等の集合住宅）	(n=91)	77.8%	15.6%	6.7%	26.7%	8.9%	64.4%	33.3%	9.2%	57.5%	44.9%	7.9%	47.2%
	賃貸	(n=87)	60.0%	10.6%	29.4%	4.7%	8.2%	87.1%	8.2%	7.1%	84.7%	7.1%	4.7%	88.2%
	社宅、寮、シェアハウス	(n=7)	57.1%	14.3%	28.6%	14.3%	14.3%	71.4%	28.6%	28.6%	42.9%	14.3%	0.0%	85.7%
	その他（ ）	(n=10)	80.0%	0.0%	20.0%	10.0%	30.0%	60.0%	40.0%	0.0%	60.0%	40.0%	10.0%	50.0%

* 「無回答」を除く

(4) 生物多様性等の認知度と自然とふれ合う活動・イベントの参加状況の関係（問6×問9、問7×問9、問8×問9のクロス集計）

結果概要

- 自然とふれ合う活動・イベントに参加したことがあるかどうかで比較すると、自然とふれ合う活動・イベントに参加したことがある回答の方が参加したことがない回答者に比べて生物多様性、希少野生動植物種、特定外来生物のいずれも「1.言葉の意味も含めて知っている」と回答する割合が高い傾向が示された。

			問6 生物多様性の認知度			
			合計	1. 言葉の意味も含めて知っている	2. 聞いたことはあるが内容がよく知らない	3. 聞いたことがない
問9 自然とふれ合う活動・イベントの参加状況	1. 自然観察会（野鳥、昆虫、植物など）	参加したことがある	(n=137)	48.1%	48.1%	3.8%
		参加したことはないが、関心はある	(n=436)	37.8%	56.9%	5.3%
		参加したことがなく、関心もない	(n=331)	21.1%	61.9%	17.0%
	2. 森林や里山の整備	参加したことがある	(n=69)	59.7%	38.8%	1.5%
		参加したことはないが、関心はある	(n=485)	38.5%	55.7%	5.8%
		参加したことがなく、関心もない	(n=350)	20.8%	63.5%	15.8%
	3. 湿地の保全	参加したことがある	(n=32)	51.7%	44.8%	3.4%
		参加したことはないが、関心はある	(n=480)	40.8%	54.6%	4.6%
		参加したことがなく、関心もない	(n=391)	22.7%	61.7%	15.6%
	4. 希少な生き物の保護	参加したことがある	(n=20)	57.9%	36.8%	5.3%
		参加したことはないが、関心はある	(n=552)	38.0%	56.7%	5.3%
		参加したことがなく、関心もない	(n=329)	23.7%	60.1%	16.2%
	5. 外来生物の駆除（オオキンケイギクの除草など）	参加したことがある	(n=73)	52.8%	44.4%	2.8%
		参加したことはないが、関心はある	(n=499)	38.2%	56.1%	5.7%
		参加したことがなく、関心もない	(n=333)	21.6%	62.3%	16.1%
	6. 自然の仕組みや機能を学ぶことができる環境学習講座	参加したことがある	(n=39)	64.9%	29.7%	5.4%
		参加したことはないが、関心はある	(n=494)	39.5%	54.9%	5.5%
		参加したことがなく、関心もない	(n=364)	20.9%	64.0%	15.1%
	7. その他（ ）	参加したことがある	(n=21)	84.2%	10.5%	5.3%
		参加したことはないが、関心はある	(n=34)	53.1%	46.9%	0.0%
		参加したことがなく、関心もない	(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%

			問7 希少野生動物種の認知		
			合計	1. 知っている	2. 知らない
問9 自然とふれ合う活動・イベントの参加状況	1. 自然観察会（野鳥、昆虫、植物など）	参加したことがある	(n=137)	52.6%	47.4%
		参加したことはないが、関心はある	(n=436)	41.2%	58.8%
		参加したことがなく、関心もない	(n=331)	19.4%	80.6%
	2. 森林や里山の整備	参加したことがある	(n=69)	71.0%	29.0%
		参加したことはないが、関心はある	(n=485)	41.2%	58.8%
		参加したことがなく、関心もない	(n=350)	19.2%	80.8%
	3. 湿地の保全	参加したことがある	(n=32)	61.3%	38.7%
		参加したことはないが、関心はある	(n=480)	44.5%	55.5%
		参加したことがなく、関心もない	(n=391)	21.0%	79.0%
	4. 希少な生き物の保護	参加したことがある	(n=20)	73.7%	26.3%
		参加したことはないが、関心はある	(n=552)	42.5%	57.5%
		参加したことがなく、関心もない	(n=329)	20.4%	79.6%
	5. 外来生物の駆除（オオキンケイギクの除草など）	参加したことがある	(n=73)	61.6%	38.4%
		参加したことはないが、関心はある	(n=499)	41.9%	58.1%
		参加したことがなく、関心もない	(n=333)	18.8%	81.2%
	6. 自然の仕組みや機能を学ぶことができる環境学習講座	参加したことがある	(n=39)	57.9%	42.1%
		参加したことはないが、関心はある	(n=494)	43.4%	56.6%
		参加したことがなく、関心もない	(n=364)	20.9%	79.1%
	7. その他（ ）	参加したことがある	(n=21)	70.0%	30.0%
		参加したことはないが、関心はある	(n=34)	65.6%	34.4%
		参加したことがなく、関心もない	(n=0)	0.0%	0.0%

			問8 特定外来生物の認知度		
			合計	1. 知っている	2. 知らない
問9 自然とふれ合う活動・イベントの参加状況	1. 自然観察会（野鳥、昆虫、植物など）	参加したことがある	(n=137)	79.3%	20.7%
		参加したことはないが、関心はある	(n=436)	73.8%	26.2%
		参加したことがなく、関心もない	(n=331)	53.8%	46.2%
	2. 森林や里山の整備	参加したことがある	(n=69)	89.9%	10.1%
		参加したことはないが、関心はある	(n=485)	72.2%	27.8%
		参加したことがなく、関心もない	(n=350)	56.0%	44.0%
	3. 湿地の保全	参加したことがある	(n=32)	87.1%	12.9%
		参加したことはないが、関心はある	(n=480)	75.5%	24.5%
		参加したことがなく、関心もない	(n=391)	55.8%	44.2%
	4. 希少な生き物の保護	参加したことがある	(n=20)	89.5%	10.5%
		参加したことはないが、関心はある	(n=552)	75.4%	24.6%
		参加したことがなく、関心もない	(n=329)	52.5%	47.5%
	5. 外来生物の駆除（オオキンケイギクの除草など）	参加したことがある	(n=73)	94.4%	5.6%
		参加したことはないが、関心はある	(n=499)	75.6%	24.4%
		参加したことがなく、関心もない	(n=333)	48.9%	51.1%
	6. 自然の仕組みや機能を学ぶことができる環境学習講座	参加したことがある	(n=39)	94.7%	5.3%
		参加したことはないが、関心はある	(n=494)	74.3%	25.7%
		参加したことがなく、関心もない	(n=364)	54.9%	45.1%
	7. その他（ ）	参加したことがある	(n=21)	95.0%	5.0%
		参加したことはないが、関心はある	(n=34)	80.6%	19.4%
		参加したことがなく、関心もない	(n=0)	0.0%	0.0%

* 「無回答」を除く

(5) 年齢とごみに関する情報入手方法の関係（問10×問14のクロス集計）

結果概要

- ・ ごみに関する情報入手方法について、20歳代以下は『3.ごみ分別カレンダー』の割合が最も高く、30歳代以上は『1.広報とよた』の割合が最も高い結果となった。

		問10 ごみに関する情報入手方法										
		1. 広報とよた	2. 地域の回覧板	3. ごみ分別カレンダー	4. 環境学習施設・出前講座	5. 分別アプリ	6. 子どもから（学校等で知った情報や配布物）	7. 市のホームページ	8. 公共施設等の掲示物	9. アパート・マンションの掲示物	10. SNS	11. その他（ ）
問14 年齢	1. 10歳代	21.9%	25.0%	34.4%	0.0%	3.1%	0.0%	9.4%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%
	2. 20歳代	23.8%	23.0%	25.4%	0.8%	8.7%	1.6%	7.9%	2.4%	1.6%	4.0%	0.8%
	3. 30歳代	22.8%	21.2%	22.8%	0.0%	11.4%	3.3%	9.2%	1.6%	1.1%	5.4%	1.1%
	4. 40歳代	28.9%	24.7%	23.7%	0.3%	8.2%	1.0%	6.2%	2.1%	2.1%	2.1%	0.7%
	5. 50歳代	30.3%	21.0%	20.3%	1.2%	7.8%	0.9%	7.1%	3.1%	4.7%	3.3%	0.2%
	6. 60歳代	26.9%	21.3%	25.3%	1.4%	6.5%	0.9%	10.9%	1.9%	3.9%	0.9%	0.0%
	7. 70歳代	26.6%	23.0%	24.8%	1.4%	7.0%	0.8%	8.4%	3.4%	1.8%	2.8%	0.0%
	8. 80歳代以上	26.0%	23.3%	25.0%	2.1%	6.3%	1.0%	6.6%	6.3%	1.0%	2.4%	0.0%

* 「無回答」を除く

(6) 居住地区とごみに関する取組状況の関係 (問 11×問 17 のクロス集計)

結果概要

- 都市地域と山村地域における積極的に取り組んでいる割合の地域別の平均値を比較すると、『2. 販売店でのペットボトル、トレー、小型家電等の回収を利用する』以外の8項目中7項目において都市地域よりも山村地域において積極的に取り組んでいる割合が高い結果となった。

		問11 ごみに関する取組状況																
		1. コンポストや生ごみ処理機等を利用して、生ごみの資源化・減量を実施する				2. 販売店でのペットボトル、トレー、小型家電等の回収を利用する				3. 自治区や子ども会等が実施している、集団回収を利用する				4. 市が実施している「リユース工房」、「リユーススポット」を利用する				
全体		積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	
問17 居住地区	都市	1. 拳母 (n=202)	12.5%	17.5%	22.0%	48.0%	41.2%	39.2%	9.0%	10.6%	30.5%	36.5%	15.0%	18.0%	9.1%	17.2%	34.3%	39.4%
		2. 高橋 (n=88)	12.8%	16.3%	29.1%	41.9%	47.1%	26.4%	10.3%	16.1%	47.1%	25.9%	12.9%	14.1%	13.3%	13.3%	37.3%	36.1%
		3. 上郷 (n=74)	12.3%	13.7%	17.8%	56.2%	42.5%	37.0%	6.8%	13.7%	33.8%	33.8%	16.2%	16.2%	15.1%	13.7%	37.0%	34.2%
		4. 高岡 (n=149)	9.5%	17.7%	21.1%	51.7%	45.9%	29.7%	13.5%	10.8%	39.2%	35.8%	11.5%	13.5%	5.4%	15.6%	29.9%	49.0%
		5. 猿投 (n=105)	5.9%	17.6%	24.5%	52.0%	45.2%	34.6%	7.7%	12.5%	37.9%	42.7%	9.7%	9.7%	5.9%	19.6%	29.4%	45.1%
		6. 松平 (n=37)	19.4%	16.7%	22.2%	41.7%	42.9%	37.1%	8.6%	11.4%	36.1%	38.9%	11.1%	13.9%	5.7%	22.9%	28.6%	42.9%
		7. 藤岡 (n=43)	11.9%	16.7%	14.3%	57.1%	34.9%	41.9%	4.7%	18.6%	27.9%	41.9%	9.3%	20.9%	14.0%	7.0%	34.9%	44.2%
		8. 小原 (n=11)	36.4%	9.1%	9.1%	45.5%	36.4%	9.1%	36.4%	18.2%	54.5%	27.3%	18.2%	0.0%	9.1%	18.2%	9.1%	63.6%
		9. 足助 (n=14)	35.7%	35.7%	14.3%	14.3%	35.7%	42.9%	7.1%	14.3%	57.1%	21.4%	7.1%	14.3%	14.3%	14.3%	35.7%	35.7%
		10. 下山 (n=16)	12.5%	12.5%	12.5%	62.5%	25.0%	25.0%	12.5%	37.5%	37.5%	12.5%	31.3%	18.8%	6.3%	0.0%	18.8%	75.0%
		11. 旭 (n=5)	20.0%	20.0%	20.0%	40.0%	60.0%	20.0%	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	60.0%	0.0%	0.0%
		12. 稲武 (n=10)	30.0%	30.0%	30.0%	10.0%	50.0%	40.0%	0.0%	10.0%	50.0%	10.0%	10.0%	0.0%	22.2%	33.3%	11.1%	33.3%
		13. 地区が分からない (n=81)	11.1%	14.8%	22.2%	51.9%	33.3%	38.3%	12.3%	16.0%	19.8%	29.6%	17.3%	33.3%	6.2%	16.0%	30.9%	46.9%

		問11 ごみに関する取組状況																
		5. 資源・ごみ分別webアプリ(さんあ〜る) ※等を用いてごみに関する情報を得る※豊田市がスマートフォンやタブレット端末向けに配信しているアプリ				6. 環境学習施設eco-Tや出前講座等による環境学習に参加する				7. ごみの排出量を削減する				8. 適正なごみの分別をする				
全体		積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	
問17 居住地区	都市	1. 拳母 (n=202)	16.6%	14.1%	31.2%	38.2%	1.0%	7.5%	23.5%	68.0%	27.2%	54.5%	13.4%	5.0%	71.8%	25.7%	1.5%	1.0%
		2. 高橋 (n=88)	16.5%	11.8%	29.4%	42.4%	1.2%	4.8%	32.1%	61.9%	31.4%	40.7%	17.4%	10.5%	69.0%	23.0%	5.7%	2.3%
		3. 上郷 (n=74)	13.7%	12.3%	43.8%	30.1%	1.4%	6.8%	34.2%	57.5%	21.6%	58.1%	12.2%	8.1%	67.6%	28.4%	4.1%	0.0%
		4. 高岡 (n=149)	17.2%	15.2%	24.8%	42.8%	2.0%	6.8%	22.4%	68.7%	21.6%	52.0%	17.6%	8.8%	77.4%	18.5%	2.7%	1.4%
		5. 猿投 (n=105)	17.5%	15.5%	32.0%	35.0%	1.0%	5.8%	28.2%	65.0%	29.1%	51.5%	14.6%	4.9%	66.3%	29.8%	3.8%	0.0%
		6. 松平 (n=37)	8.3%	19.4%	33.3%	38.9%	0.0%	8.3%	30.6%	61.1%	32.4%	45.9%	16.2%	5.4%	56.8%	37.8%	2.7%	2.7%
		7. 藤岡 (n=43)	18.6%	16.3%	34.9%	30.2%	2.4%	4.8%	31.0%	61.9%	28.6%	57.1%	7.1%	7.1%	76.2%	19.0%	0.0%	4.8%
		8. 小原 (n=11)	9.1%	27.3%	9.1%	54.5%	0.0%	9.1%	27.3%	63.6%	27.3%	45.5%	18.2%	9.1%	81.8%	18.2%	0.0%	0.0%
		9. 足助 (n=14)	7.1%	7.1%	35.7%	50.0%	0.0%	21.4%	21.4%	57.1%	42.9%	28.6%	14.3%	14.3%	64.3%	28.6%	7.1%	0.0%
		10. 下山 (n=16)	18.8%	6.3%	31.3%	43.8%	6.3%	6.3%	12.5%	75.0%	12.5%	43.8%	37.5%	6.3%	56.3%	37.5%	0.0%	6.3%
		11. 旭 (n=5)	40.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%	20.0%	60.0%	20.0%	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		12. 稲武 (n=10)	22.2%	44.4%	11.1%	22.2%	10.0%	10.0%	20.0%	60.0%	40.0%	50.0%	0.0%	10.0%	70.0%	20.0%	10.0%	0.0%
		13. 地区が分からない (n=81)	19.8%	14.8%	25.9%	39.5%	2.5%	8.6%	21.0%	67.9%	28.4%	44.4%	14.8%	12.3%	60.5%	34.6%	2.5%	2.5%

* 「無回答」を除く

2.3.2 指標・経年比較

以下に経年比較・指標の算定結果を示す。

平成 28 年度から令和 2 年度にかけて指標値が向上した指標について、令和 6 年度において減少する結果となった。

(市民の指標一覧)

項目	内容	H28 年度	R2 年度	R6 年度	比較
「気候変動への適応」の認知度	「気候変動への適応」という言葉の意味も含めて「知っていた」と回答した市民の割合	23.1%	32.5%		
	気候変動への取組項目のうち、過半数で「1.積極的に取り組んでいる」又は「2.少し取り組んでいる」と回答した市民の割合			60.7%	
「自然とふれあえる場の多さ」として満足している市民の割合	「1.非常に満足」「2.やや満足」と回答した市民の割合	44.4%	53.6%	52.6%	↘
生物多様性を理解している市民の割合	生物多様性という言葉の意味も含めて「知っていた」と回答した市民の割合	30.1%	35.0%	33.2%	↘
希少野生動植物種が豊田市にも生息・生育していることを知っている市民の割合	「知っていた」と回答した市民の割合	35.5%	38.6%	35.0%	↘
特定外来生物が豊田市にも生息・生育していることを知っている市民の割合	「知っていた」と回答した市民の割合	68.4%	74.0%	67.2%	↘
生物多様性を保全する活動・イベントに参加したことがある市民の割合※1	「参加している」と回答している市民の割合	13.2%	10.2%	24.3%	↗
周辺環境への満足度（全体）	「全体として周辺の環境への満足	44.9%	66.6%	54.6%	↘

	度」について、 「1. 非常に満足」 又は「2. やや満足」と回答した市民の割合				
環境配慮行動を実践している市民の割合	環境取組項目のうち、過半数で「1. 積極的に取り組んでいる」又は「2. 少し取り組んでいる」と回答した市民の割合	65.6%	76.3%	77.1%	↗

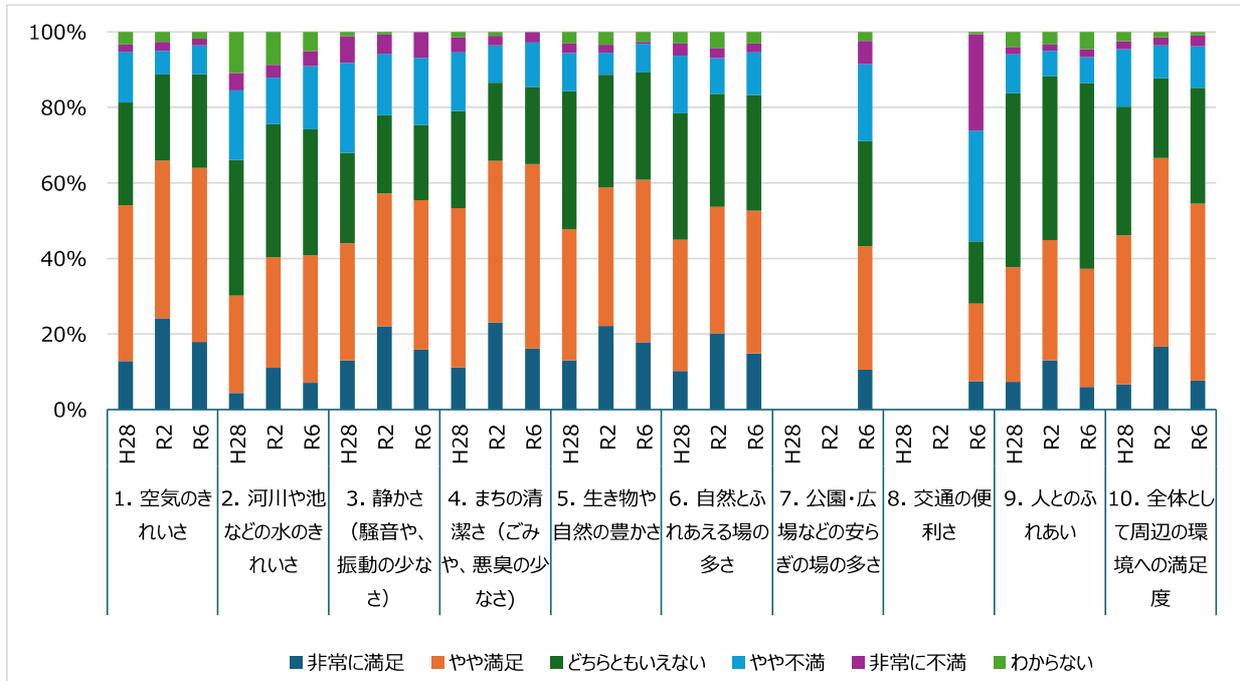
※1 令和6年度においては問9における7つの項目のいずれかに「1.参加したことがある」と回答した場合は生き物や自然と触れ合う活動・イベントに「1.参加したことがある」として計上した。

(経年比較)

過年度に実施されたアンケート調査との経年比較については設問項目の変更等による影響が含まれる可能性があることに留意が必要である。

周辺環境全般について

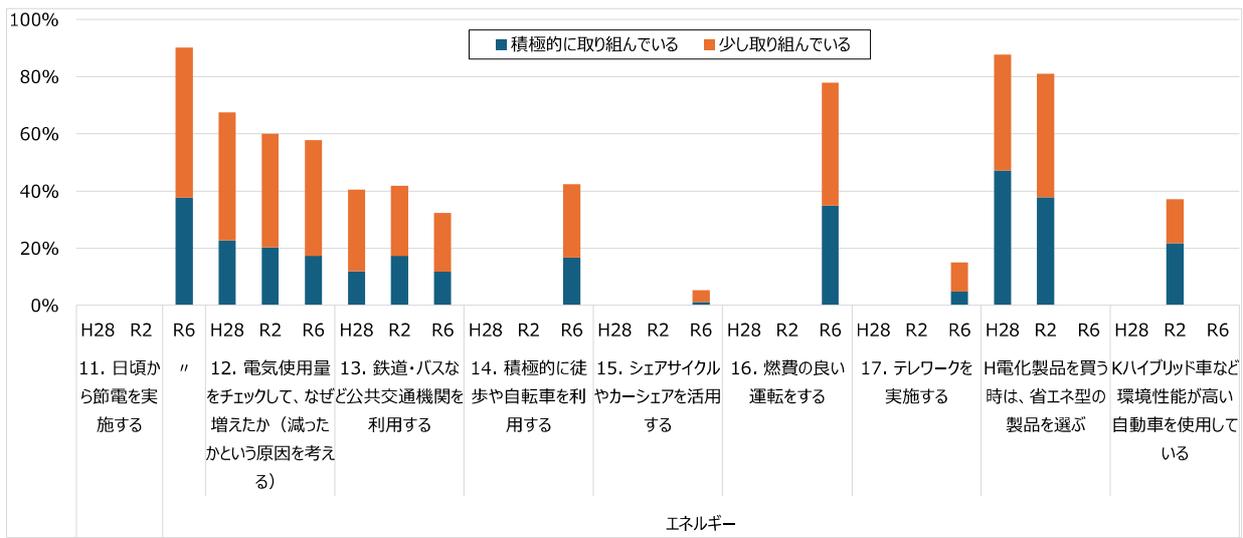
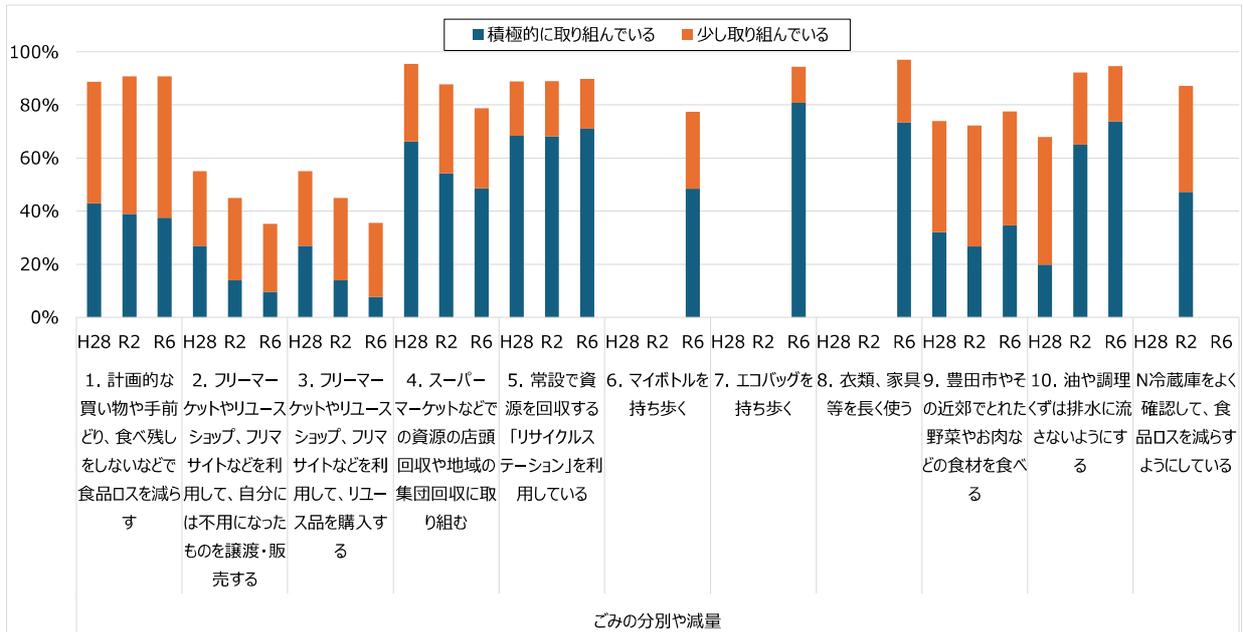
【問 1】 お住まい周辺の環境の満足度について、それぞれ 1 つずつ選んで○をつけてください。



結果概要

- ・ 周辺の環境の満足度について「1.非常に満足」の割合はいずれも令和2年が最も高い結果となった。
- ・ 各項目における「1.非常に満足」と「2.やや満足」の合計値については『1.空気のきれいさ』、『4.まちの清潔さ (ごみや、悪臭の少なさ)』、『6.自然とふれあえる場の多さ』、『9.人とのふれあい』、『10.全体として周辺の環境への満足度』は令和6年が最も高い結果となった。

日々の生活における環境に配慮した行動について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。また、「4.まったく取り組んでいない」を回答された場合は、その理由を下表の【理由の選択肢】のア～サから1つ選んで、記入してください。



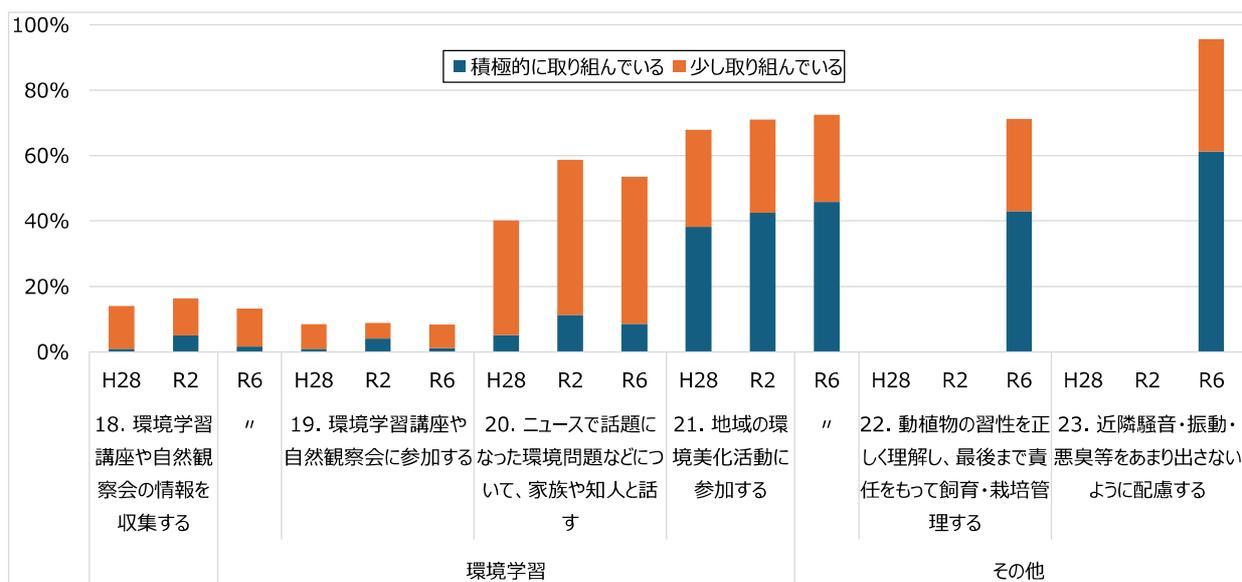
結果概要

【ごみの分別や減量】

- 『2.フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、自分には不用になったものを譲渡・販売する』、『3.フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、リユース品を購入する』、『4.スーパーマーケットなどでの資源の店頭回収や地域の集団回収に取り組む』は取り組んでいる割合が減少している傾向が示された。『5.常設で資源を回収する「リサイクルステーション」を利用している』、『10.油や調理くずは排水に流さないようにする』は取り組んでいる割合が増加している傾向が示された。

【エネルギー】

- 『12.電気使用量をチェックして、なぜ増えたか（減ったかという原因を考える）』の取組状況が減少している結果となった。



結果概要

【環境学習】

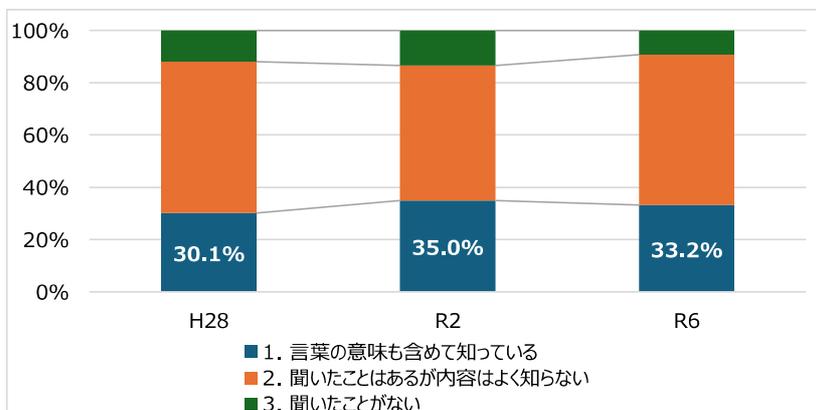
- 『21.地域の環境美化活動に参加する』は取り組んでいる割合が増加している傾向が示された。

【その他】

- 過年度において該当する設問項目なし

生物多様性について

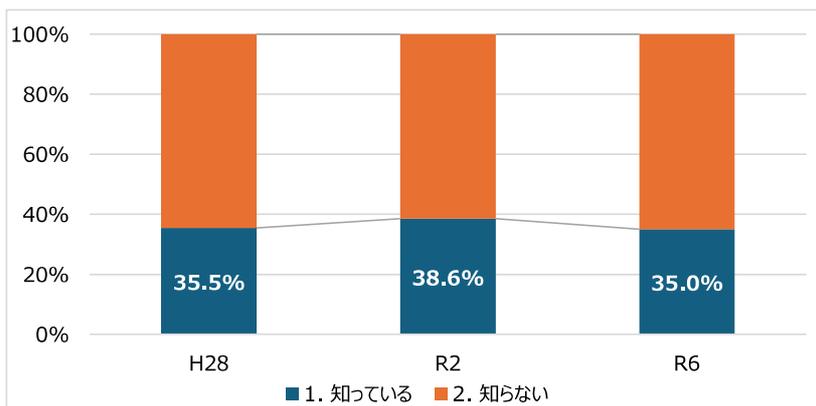
- 「生物多様性」※という言葉を知っていますか。
 当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。
 【問 6】 ※生物多様性：いろいろな生き物がいること、生き物が複雑に関わりあって様々な環境に合わせて生活していること。



結果概要

- 生物多様性について「1.言葉の意味も含めて知っている」と回答した割合は令和6年度において令和2年度から1.8%減少した。

- 希少野生動植物種※が豊田市にも生息・生育していることを知っていますか。
 当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。
 【問 7】 ※希少野生動植物種：気候変動や人間による開発行為の影響で生息・生育環境が悪化し、絶滅の危機にさらされている生き物のこと。豊田市に生息・生育しているのは、ウシモツゴ、カワバタモロコ、シデコブシ、ギフチョウなど。



結果概要

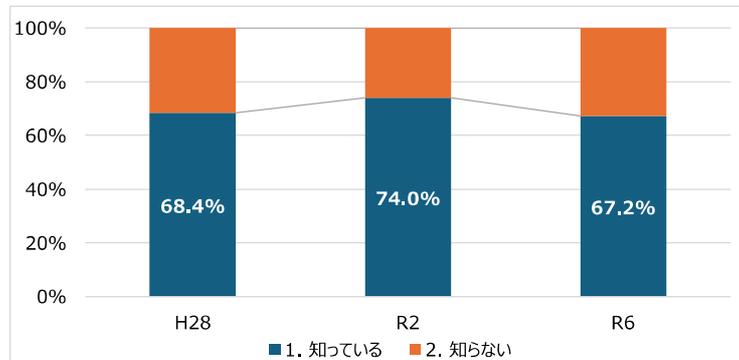
- 希少野生動植物種について「知っている」と回答した割合は令和6年度において令和2年度から3.6%減少した。

特定外来生物が豊田市にも生息・生育していることを知っていますか。

当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

【問 8】

※特定外来生物：外国やその他の地域からやってきた生き物のうち、生態系等へ被害を及ぼす恐れがある生き物として、環境省が指定しているもの。豊田市に生息・生育しているのは、アライグマ、アカミミガメ、オオクチバス、セアカゴケグモ、オオキンケイギクなど。



結果概要

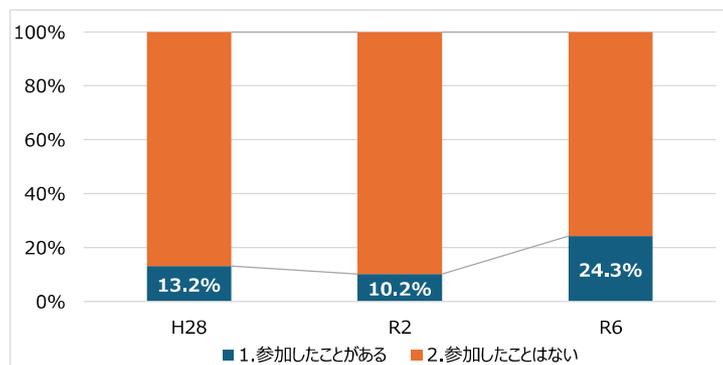
- ・ 特定外来生物について「知っている」と回答した割合は令和6年度において令和2年度から6.8%減少した。

【問 9】

生き物や自然と触れ合う活動・イベントに参加したことがありますか。

それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

令和6年においては問9における7つの項目のいずれかに「1.参加したことがある」と回答した場合は生き物や自然と触れ合う活動・イベントに「1.参加したことがある」として計上した。

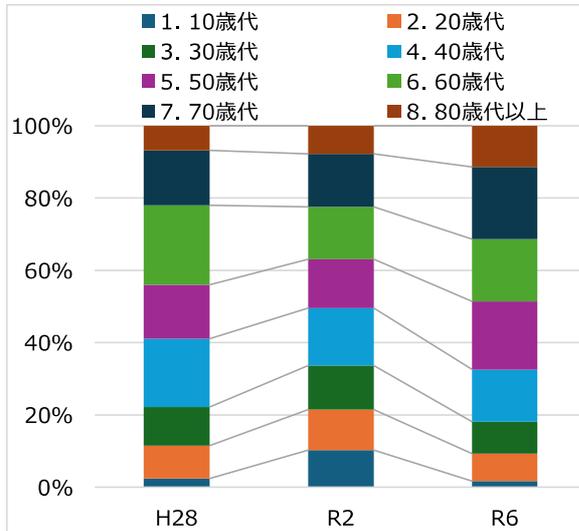


結果概要

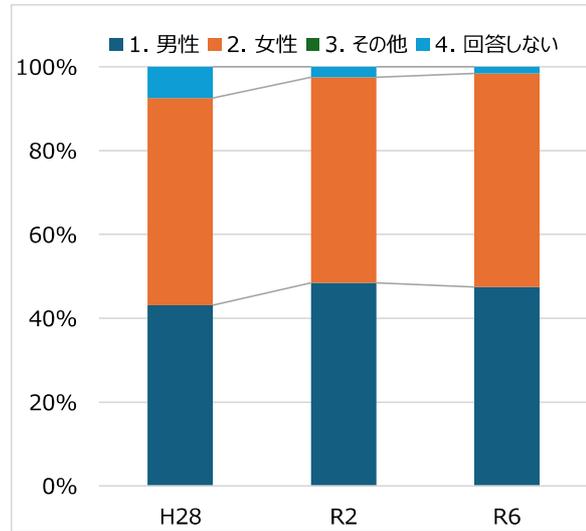
- ・ 生き物や自然と触れ合う活動・イベントに参加したことある市民の割合は令和6年度において令和2年度から14.1%増加した。

ご自身について

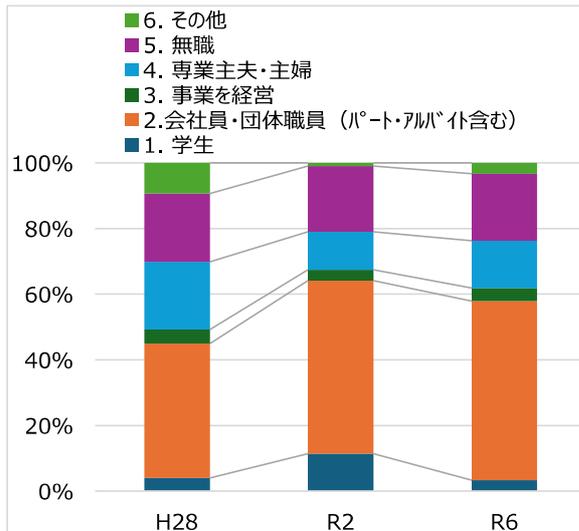
【問 14】 年齢について当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。*1



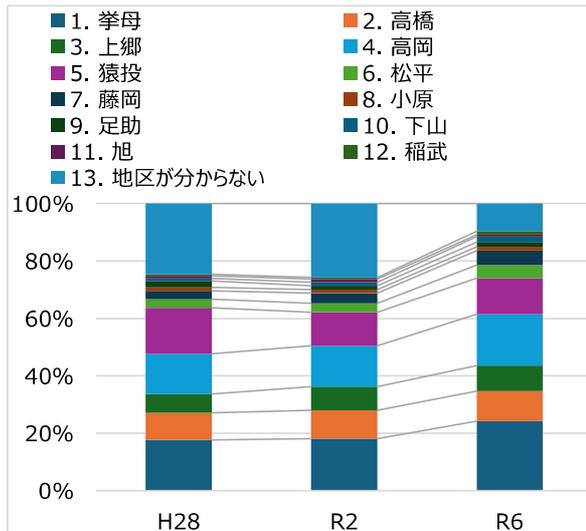
【問 15】 性別について当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。



【問 16】 職業について当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。



【問 17】 居住地区について当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。



結果概要

【年齢】

- 令和2年度においては10歳代の割合が10.2%であり、30歳代以下の割合が3回の調査のなかで最も高い。令和6年度においては60歳代以上の割合が48.6%となっており、3回の調査のなかで最も高い結果となった。

【性別】

- いずれの年度も男性よりも女性の割合の方が高い。

【職業】

- いずれの年度も「2.会社員・団体職員 (パート・アルバイト含む)」の割合が最も高く、増加傾向を示した。
- 「1.学生」の割合について令和2年度において11.5%となり、平成28年度、令和6年度よりも高い結果となった。

【居住地区】

- いずれの年度においても「1.拳母」の割合が高く、令和6年度において24.2%と平成28年度、令和2年度よりも増加した。

*1 アンケート調査対象者の年齢について、令和2年度までは16歳以上、令和6年度は18歳以上である。

3. 事業者向けアンケート集計結果

アンケート調査の結果

3.1 結果の概要

事業者向けアンケート結果の概要を表 0-1 に示す。

表 0-1 事業者向けアンケート結果概要

結果概要
<p>【環境全般について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 環境に関連する取組状況について、【エネルギー】や【ごみの減量】、【その他】の項目は「1.積極的に取り組んでいる」、「2.少し取り組んでいる」の合計値がほとんどの項目において50%以上であるが、【環境学習】、【緑・生き物】の項目は50%を下回る項目が過半数を占めていた。【問1】 ➤ ほとんどの項目において「ウ.必要性は感じるが、資金や人材等を投入してまで取り組むことができない」の回答率が高かった。【問1 取り組んでいない理由】 ➤ 環境に関する経営方針や管理手法のうち「1.既に実施している」と回答した割合は『1.ISO14001の認証取得』が37.8%と最も高く、次いで『8.環境保全に関する短期的または中長期的な目標の設定』が28.4%と最も高い結果となった。実施率が低い項目は「5.どのようなものか知らない」の回答率が30%以上となっており、認識が広まっていないことが示唆される。【問2】 ➤ 環境に関する経営方針や管理手法実施による効果は「イ.環境に関する目標管理を徹底するようになり、環境負荷削減につながった」の回答率が比較的高い結果となった。【問2 実施による効果】
<p>【気候変動について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 『2.高効率照明（LED等）の導入』が74.6%と最も高い結果となった。「3.関心はあるが、導入予定なし」は『3.蓄電池の導入』、『8.燃料電池自動車（FCEV）の導入』、『9.窓、屋根、外壁の断熱化』において50%以上と高い結果となった。【問3】 ➤ いずれの項目においても「ウ.費用負担が大きい」の回答率が高い結果となった。そのほかに項目により「ケ.業務上使用しない」や「キ.情報がない（よく知らない）」、「ア.テナント等で設置する権限がない」、「カ.管理に手間がかかる」の回答率が高くなった【問3 導入予定なしの理由】 ➤ 「1.既に再エネ電力を調達している」割合は25.0%となった。関心を示している事業者は36.5%となった。【問4】 ➤ 「3.電力会社から再エネ電力を購入する」の回答率が最も高い結果となった。調達予定、関心のある事業者は「2.PPAモデルで発電設備を導入して発電電力を自家消費する」が3番目に多い結果となった。の回答率が比較的高い結果となった。【問5】 ➤ 『2.高温による従業員の熱中症の増加、作業効率の低下』、『5.自然災害による事業活動への影響（豪雨や台風による営業停止、物流機能の停止等）』『1.影響を受けていると強く感じている』の回答率が高い結果となった。【問6】
<p>【生物多様性について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 『5.事業活動における生物多様性に配慮した自然資源の利用（過剰な資源調達の予防等）』、『6.従業員や市民、他事業者への情報・学習機会の提供』について重要と考える事業者が比較的高い結果となった。【問7】
<p>【資源循環について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 『2.ごみの分別の徹底』、『3.リサイクル（再生利用・再資源化）』において「1.積極的に取り組んでいる」と回答した割合が高い結果となった。【問8】 ➤ 『1.社内でごみの減量・分別ルール（事業系一般廃棄物と産業廃棄物の区分）の設定』が「1.積極的に取り組んでいる」と回答した割合が最も高い結果となった。【問9】
<p>【市の環境への取組について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 『4.環境保全のための公的融資や補助金制度等の充実』、『5.環境保全のための助成制度の充実』について重要と考える事業者が比較的高い結果となった。【問10】 ➤ 市からの情報提供や補助金項目の追加・増加を希望する意見が多くなった。【問11】

【貴事業所について】

- 従業員数 100 人未満の事業者が過半数であり、賃貸、テナントで事業を行う事業者が 20%以上となった。【問 12～問 17】

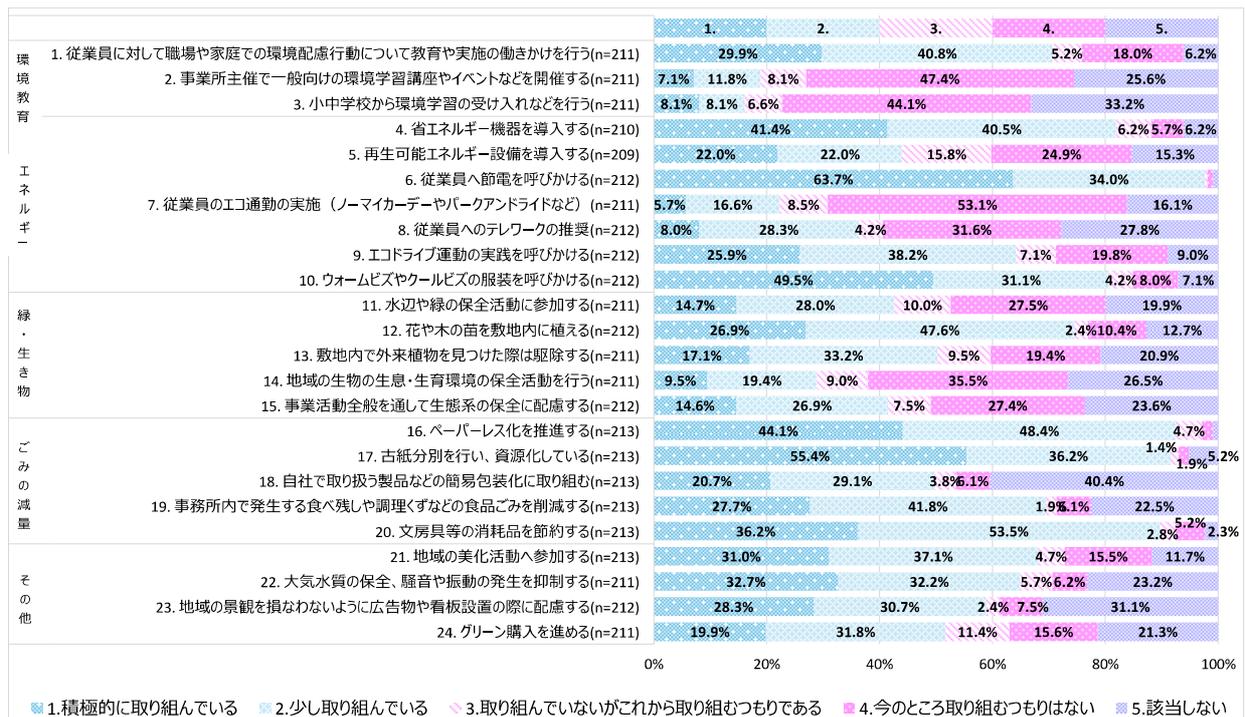
3.2 単純集計結果

以下に問1～問17の結果を示す。

環境全般について

【問1】 貴事業所における環境に関連する取組状況について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。また、「3取り組んでいないがこれから取り組むつもりである」または「4今のところ取り組むつもりはない」を回答された場合は、その理由を下表の【理由の選択肢】のア～エのうち最も当てはまるものを1つ選んで、記入してください。

上段:度数 下段: %		合計	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないがこれから取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	該当しない
環境教育	1. 従業員に対して職場や家庭での環境配慮行動について教育や実施の働きかけを行う	211	63	86	11	38	13
		100.0%	29.9%	40.8%	5.2%	18.0%	6.2%
	2. 事業所主催で一般向けの環境学習講座やイベントなどを開催する	211	15	25	17	100	54
	100.0%	7.1%	11.8%	8.1%	47.4%	25.6%	
	3. 小中学校から環境学習の受け入れなどを行う	211	17	17	14	93	70
	100.0%	8.1%	8.1%	6.6%	44.1%	33.2%	
エネルギー	4. 省エネルギー機器を導入する	210	87	85	13	12	13
		100.0%	41.4%	40.5%	6.2%	5.7%	6.2%
	5. 再生可能エネルギー設備を導入する	209	46	46	33	52	32
		100.0%	22.0%	22.0%	15.8%	24.9%	15.3%
	6. 従業員へ節電を呼びかける	212	135	72	1	2	2
		100.0%	63.7%	34.0%	0.5%	0.9%	0.9%
	7. 従業員のエコ通勤の実施（ノーマイカーデーやパークアンドライドなど）	211	12	35	18	112	34
	100.0%	5.7%	16.6%	8.5%	53.1%	16.1%	
	8. 従業員へのテレワークの推奨	212	17	60	9	67	59
	100.0%	8.0%	28.3%	4.2%	31.6%	27.8%	
	9. エコドライブ運動の実践を呼びかける	212	55	81	15	42	19
	100.0%	25.9%	38.2%	7.1%	19.8%	9.0%	
	10. ウォームビズやクールビズの服装を呼びかける	212	105	66	9	17	15
	100.0%	49.5%	31.1%	4.2%	8.0%	7.1%	
緑・生き物	11. 水辺や緑の保全活動に参加する	211	31	59	21	58	42
		100.0%	14.7%	28.0%	10.0%	27.5%	19.9%
	12. 花や木の苗を敷地内に植える	212	57	101	5	22	27
		100.0%	26.9%	47.6%	2.4%	10.4%	12.7%
	13. 敷地内で外来植物を見つけた際は駆除する	211	36	70	20	41	44
	100.0%	17.1%	33.2%	9.5%	19.4%	20.9%	
	14. 地域の生物の生息・生育環境の保全活動を行う	211	20	41	19	75	56
	100.0%	9.5%	19.4%	9.0%	35.5%	26.5%	
	15. 事業活動全般を通して生態系の保全に配慮する	212	31	57	16	58	50
	100.0%	14.6%	26.9%	7.5%	27.4%	23.6%	
ごみの減量	16. ペーパーレス化を推進する	213	94	103	10	4	2
		100.0%	44.1%	48.4%	4.7%	1.9%	0.9%
	17. 古紙分別を行い、資源化している	213	118	77	3	4	11
		100.0%	55.4%	36.2%	1.4%	1.9%	5.2%
	18. 自社で取り扱う製品などの簡易包装化に取り組む	213	44	62	8	13	86
	100.0%	20.7%	29.1%	3.8%	6.1%	40.4%	
	19. 事務所内で発生する食べ残しや調理くずなどの食品ごみを削減する	213	59	89	4	13	48
	100.0%	27.7%	41.8%	1.9%	6.1%	22.5%	
	20. 文房具等の消耗品を節約する	213	77	114	6	11	5
	100.0%	36.2%	53.5%	2.8%	5.2%	2.3%	
その他	21. 地域の美化活動へ参加する	213	66	79	10	33	25
		100.0%	31.0%	37.1%	4.7%	15.5%	11.7%
	22. 大気水質の保全、騒音や振動の発生を抑制する	211	69	68	12	13	49
		100.0%	32.7%	32.2%	5.7%	6.2%	23.2%
	23. 地域の景観を損なわないように広告物や看板設置の際に配慮する	212	60	65	5	16	66
	100.0%	28.3%	30.7%	2.4%	7.5%	31.1%	
	24. グリーン購入を進める	211	42	67	24	33	45
	100.0%	19.9%	31.8%	11.4%	15.6%	21.3%	



問1の結果概要

【環境教育】

- 「1.積極的に取り組んでいる」回答率は『1.従業員に対して職場や家庭での環境配慮行動について教育や実施の働きかけを行う』が29.9%と最も高い結果となった。

【エネルギー】

- 「1.積極的に取り組んでいる」回答率は『6.従業員へ節電を呼びかける』が63.7%と最も高く、『7.従業員のエコ通勤の実施（ノーマイカーデーやパークアンドライドなど）』が5.7%と最も低い結果となった。

【緑・生き物】

- 「1.積極的に取り組んでいる」回答率は『12.花や木の苗を敷地内に植える』が26.9%と最も高く、『14.地域の生物の生息・生育環境の保全活動を行う』が9.5%と最も低い結果となった。

【ごみの減量】

- 「1.積極的に取り組んでいる」回答率は『12.花や木の苗を敷地内に植える』が26.9%と最も高く、『14.地域の生物の生息・生育環境の保全活動を行う』が9.5%と最も低い結果となった。

【その他】

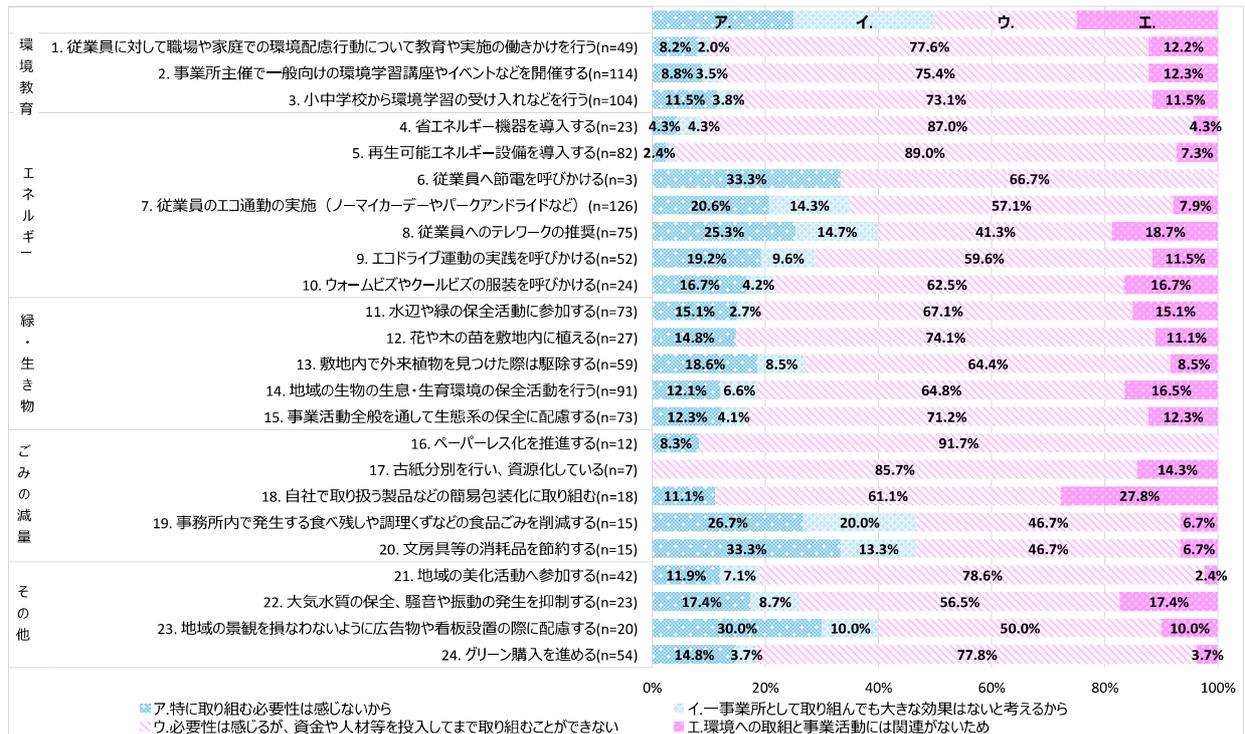
- 「1.積極的に取り組んでいる」回答率は『17.古紙分別を行い、資源化している』が55.4%と最も高く、『18.自社で取り扱う製品などの簡易包装化に取り組む』が20.7%と最も低い結果となった。

【全項目】

- 「1.積極的に取り組んでいる」回答率は『6.従業員へ節電を呼びかける』（63.7%）、『17.古紙分別を行い、資源化している』（55.4%）が上位2項目となった。
- 「1.積極的に取り組んでいる」、「2.少し取り組んでいる」の合計値を項目で比較すると、【エネルギー】や【ごみの減量】、【その他】の項目はほとんど50%以上であるが、【環境学習】、【緑・生き物】の項目は50%を下回る項目が過半数を占めていた。

「3 取り組んでいないがこれから取り組むつもりである」または「4 今のところ取り組むつもりはない」を回答した場合の理由

上段:度数 下段: %		合計	特に取り組む必要性は感じないから	一事業所として取り組んでも大きな効果はないと考えるから	必要性は感じるが、資金や人材等を投入してまで取り組むことができない	環境への取組と事業活動には関連がないため
環境教育	1. 従業員に対して職場や家庭での環境配慮行動について教育や実施の働きかけを行う	49	4	1	38	6
		100.0%	8.2%	2.0%	77.6%	12.2%
	2. 事業所主催で一般向けの環境学習講座やイベントなどを開催する	114	10	4	86	14
		100.0%	8.8%	3.5%	75.4%	12.3%
環境教育	3. 小中学校から環境学習の受け入れなどを行う	104	12	4	76	12
		100.0%	11.5%	3.8%	73.1%	11.5%
	4. 省エネルギー機器を導入する	23	1	1	20	1
		100.0%	4.3%	4.3%	87.0%	4.3%
エネルギー	5. 再生可能エネルギー設備を導入する	82	2	1	73	6
		100.0%	2.4%	1.2%	89.0%	7.3%
	6. 従業員へ節電を呼びかける	3	1	-	2	-
		100.0%	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%
	7. 従業員のエコ通勤の実施（ノーマイカーデーやパークアンドライドなど）	126	26	18	72	10
		100.0%	20.6%	14.3%	57.1%	7.9%
	8. 従業員へのテレワークの推奨	75	19	11	31	14
		100.0%	25.3%	14.7%	41.3%	18.7%
エネルギー	9. エコドライブ運動の実践を呼びかける	52	10	5	31	6
		100.0%	19.2%	9.6%	59.6%	11.5%
	10. ウォームビズやクールビズの服装を呼びかける	24	4	1	15	4
		100.0%	16.7%	4.2%	62.5%	16.7%
緑・生き物	11. 水辺や緑の保全活動に参加する	73	11	2	49	11
		100.0%	15.1%	2.7%	67.1%	15.1%
	12. 花や木の苗を敷地内に植える	27	4	-	20	3
		100.0%	14.8%	0.0%	74.1%	11.1%
	13. 敷地内で外来植物を見つけた際は駆除する	59	11	5	38	5
	100.0%	18.6%	8.5%	64.4%	8.5%	
緑・生き物	14. 地域の生物の生息・生育環境の保全活動を行う	91	11	6	59	15
		100.0%	12.1%	6.6%	64.8%	16.5%
	15. 事業活動全般を通して生態系の保全に配慮する	73	9	3	52	9
		100.0%	12.3%	4.1%	71.2%	12.3%
ごみの減量	16. ペーパーレス化を推進する	12	1	-	11	-
		100.0%	8.3%	0.0%	91.7%	0.0%
	17. 古紙分別を行い、資源化している	7	-	-	6	1
		100.0%	0.0%	0.0%	85.7%	14.3%
	18. 自社で取り扱う製品などの簡易包装化に取り組む	18	2	-	11	5
	100.0%	11.1%	0.0%	61.1%	27.8%	
ごみの減量	19. 事務所内で発生する食べ残しや調理くずなどの食品ごみを削減する	15	4	3	7	1
		100.0%	26.7%	20.0%	46.7%	6.7%
	20. 文房具等の消耗品を節約する	15	5	2	7	1
		100.0%	33.3%	13.3%	46.7%	6.7%
その他	21. 地域の美化活動へ参加する	42	5	3	33	1
		100.0%	11.9%	7.1%	78.6%	2.4%
	22. 大気水質の保全、騒音や振動の発生を抑制する	23	4	2	13	4
		100.0%	17.4%	8.7%	56.5%	17.4%
その他	23. 地域の景観を損なわないように広告物や看板設置の際に配慮する	20	6	2	10	2
		100.0%	30.0%	10.0%	50.0%	10.0%
その他	24. グリーン購入を進める	54	8	2	42	2
		100.0%	14.8%	3.7%	77.8%	3.7%



「3 取り組んでいないがこれから取り組むつもりである」または「4 今のところ取り組むつもりはない」を回答した場合の理由の概要

【環境教育】

- 特に取組の進んでいない『2.事業所主催で一般向けの環境学習講座やイベントなどを開催する』、『3.小中学校から環境学習の受け入れなどを行う』はいずれも「ウ.必要性を感じるが、資金や人材等を投入してまで取り組むことができない」が70%以上となった。また、「エ.環境への取組と事業活動には関連がないため」がいずれも10.0%以上となった。

【エネルギー】

- 『5.再生可能エネルギー設備を導入する』は「ウ.必要性を感じるが、資金や人材等を投入してまで取り組むことができない」が89.0%となった。
- 特に取組の進んでいない『7.従業員のエコ通勤の実施（ノーマイカーデーやパークアンドライドなど）』、『8.従業員へのテレワークの推奨』はいずれも「ウ.必要性を感じるが、資金や人材等を投入してまで取り組むことができない」が40%以上となった。また、いずれも「ア.特に取り組む必要性は感じないから」が20%以上、8.は「エ.環境への取組と事業活動には関連がないため」が18.7%となっており、従業員の実態と取組の不整合があり取組を進められる状況が整っていないことが示唆される。また、いずれも「イ.一事業所として取り組んでも大きな効果はないと考えるから」が14%以上となった。

【緑・生き物】

- 特に取組の進んでいない『14.地域の生物の生息・生育環境の保全活動を行う』、『15.事業活動全般を通して生態系の保全に配慮する』は「ウ.必要性を感じるが、資金や人材等を投入してまで取り組むことができない」が60%以上、「エ.環境への取組と事業活動には関連がないため」がいずれも10.0%以上となった。

【ごみの減量】

- 「ウ.必要性を感じるが、資金や人材等を投入してまで取り組むことができない」の回答率が高くなった。

【その他】

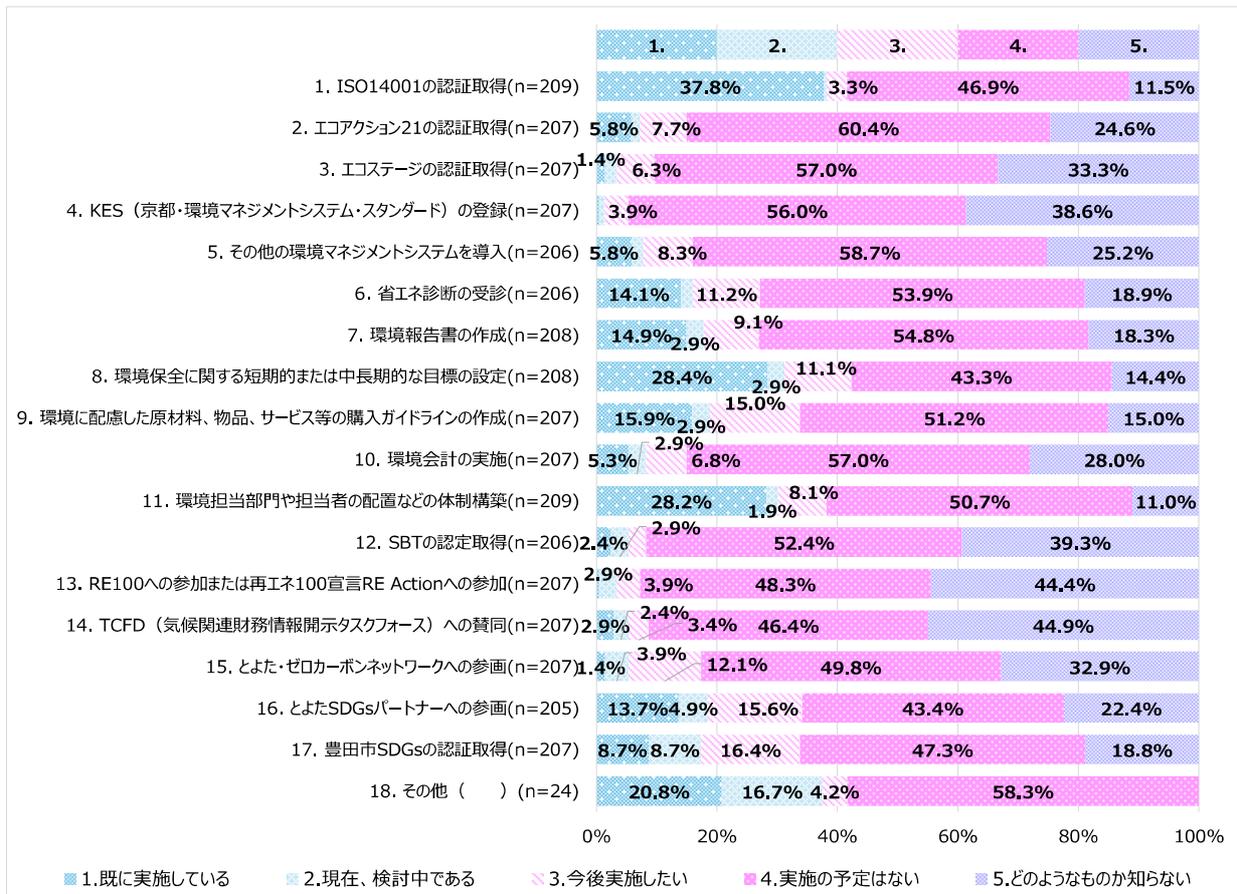
- 「イ.一事業所として取り組んでも大きな効果はないと考えるから」の回答率が比較的高い結果となった。

【全項目】

- ほとんどの項目において「ウ.必要性を感じるが、資金や人材等を投入してまで取り組むことができない」の回答率が高い傾向が示された。

貴事業所では、環境に関する経営方針や管理手法を導入していますか。それぞれの項目について、当てはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。また、「1既に実施している」を回答された場合は、実施によって得られた効果を下表の【効果の選択肢】のA～ケのうち最も当てはまるものを1つ選んで、記入してください。

上段:度数 下段: %	合計	既に実施している	現在、検討中である	今後実施したい	実施の予定はない	どのようなものか知らない
1. ISO14001の認証取得	209	79	1	7	98	24
	100.0%	37.8%	0.5%	3.3%	46.9%	11.5%
2. エコアクション21の認証取得	207	12	3	16	125	51
	100.0%	5.8%	1.4%	7.7%	60.4%	24.6%
3. エコステージの認証取得	207	3	4	13	118	69
	100.0%	1.4%	1.9%	6.3%	57.0%	33.3%
4. KES（京都・環境マネジメントシステム・スタンダード）の登録	207	1	2	8	116	80
	100.0%	0.5%	1.0%	3.9%	56.0%	38.6%
5. その他の環境マネジメントシステムを導入	206	12	4	17	121	52
	100.0%	5.8%	1.9%	8.3%	58.7%	25.2%
6. 省エネ診断の受診	206	29	4	23	111	39
	100.0%	14.1%	1.9%	11.2%	53.9%	18.9%
7. 環境報告書の作成	208	31	6	19	114	38
	100.0%	14.9%	2.9%	9.1%	54.8%	18.3%
8. 環境保全に関する短期的または中長期的な目標の設定	208	59	6	23	90	30
	100.0%	28.4%	2.9%	11.1%	43.3%	14.4%
9. 環境に配慮した原材料、物品、サービス等の購入ガイドラインの作成	207	33	6	31	106	31
	100.0%	15.9%	2.9%	15.0%	51.2%	15.0%
10. 環境会計の実施	207	11	6	14	118	58
	100.0%	5.3%	2.9%	6.8%	57.0%	28.0%
11. 環境担当部門や担当者の配置などの体制構築	209	59	4	17	106	23
	100.0%	28.2%	1.9%	8.1%	50.7%	11.0%
12. SBTの認定取得	206	5	6	6	108	81
	100.0%	2.4%	2.9%	2.9%	52.4%	39.3%
13. RE100への参加または再エネ100宣言RE Actionへの参加	207	1	6	8	100	92
	100.0%	0.5%	2.9%	3.9%	48.3%	44.4%
14. TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）への賛同	207	6	5	7	96	93
	100.0%	2.9%	2.4%	3.4%	46.4%	44.9%
15. とよた・ゼロカーボンネットワークへの参画	207	3	8	25	103	68
	100.0%	1.4%	3.9%	12.1%	49.8%	32.9%
16. とよたSDGsパートナーへの参画	205	28	10	32	89	46
	100.0%	13.7%	4.9%	15.6%	43.4%	22.4%
17. 豊田市SDGsの認証取得	207	18	18	34	98	39
	100.0%	8.7%	8.7%	16.4%	47.3%	18.8%
18. その他（ ）	24	5	4	1	14	-
	100.0%	20.8%	16.7%	4.2%	58.3%	0.0%

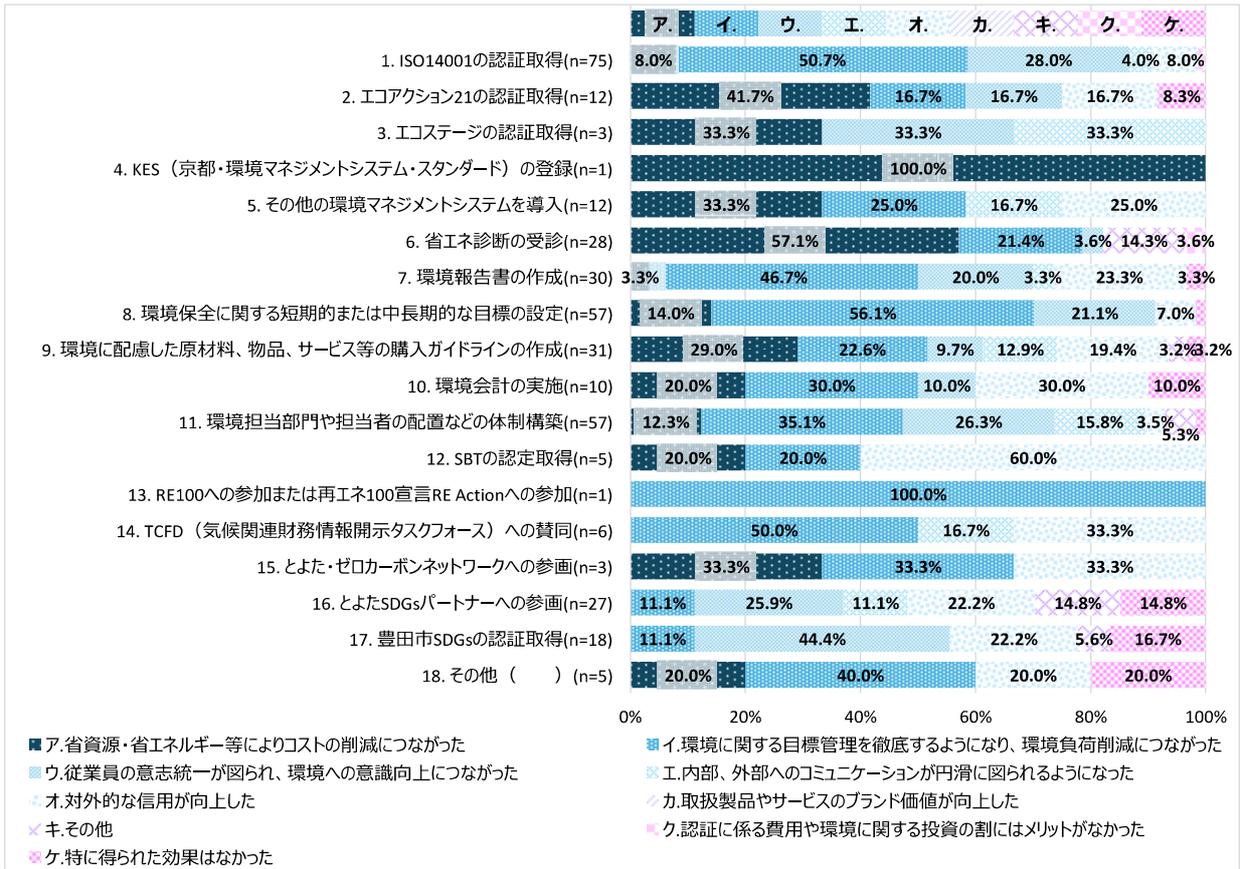


問 2 の結果概要

- 「1.既に実施している」と回答した割合は『1.ISO14001 の認証取得』が 37.8%と最も高く、次いで『8.環境保全に関する短期的または中長期的な目標の設定』が 28.4%と最も高い結果となった。
- 一方、『3.エコステージの認証取得』、『4.KES（京都・環境マネジメントシステム・スタンダード）の登録』、『12.SBT の認定取得』、『13.RE100 への参加または再エネ 100 宣言 RE Action への参加』、『14.TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）への賛同』、『15.とよた・ゼロカーボンネットワークへの参画』は「1.既に実施している」の回答率が 5%未満と低い結果となった。これらの項目は「5.どのようなものか知らない」の回答率が 30%以上となっており、認識が広まっていないことが示唆される。
- 「2.現在、検討中である」または「3.今後実施したい」と回答した割合が 15%以上になっているのは『9.環境に配慮した原材料、物品、サービス等の購入ガイドラインの作成』、『15.とよた・ゼロカーボンネットワークへの参画』、『16.とよた SDGs パートナーへの参画』、『17.豊田市 SDGs の認証取得』であった。

「1 既に実施している」を回答した場合の効果

上段:度数 下段: %	合計	省資源・省エネルギー等によりコストの削減につながった	環境に関する目標管理を徹底するようになり、環境負荷削減につながった	従業員の意志統一が図られ、環境への意識向上につながった	内部、外部へのコミュニケーションが円滑に図られるようになった	対外的な信用が向上した	取扱製品やサービスのブランド価値が向上した	その他	認証に係る費用や環境に関する投資の割にはメリットがなかった	特に得られた効果はなかった
1. ISO14001の認証取得	75 100.0%	6 8.0%	38 50.7%	21 28.0%	3 4.0%	6 8.0%	- 0.0%	- 0.0%	1 1.3%	- 0.0%
2. エコアクション21の認証取得	12 100.0%	5 41.7%	2 16.7%	2 16.7%	- 0.0%	2 16.7%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	1 8.3%
3. エコステージの認証取得	3 100.0%	1 33.3%	- 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%
4. KES（京都・環境マネジメントシステム・スタンダード）の登録	1 100.0%	1 100.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%
5. その他の環境マネジメントシステムを導入	12 100.0%	4 33.3%	3 25.0%	- 0.0%	2 16.7%	3 25.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%
6. 省エネ診断の受診	28 100.0%	16 57.1%	6 21.4%	1 3.6%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	4 14.3%	1 3.6%	- 0.0%
7. 環境報告書の作成	30 100.0%	1 3.3%	14 46.7%	6 20.0%	1 3.3%	7 23.3%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	1 3.3%
8. 環境保全に関する短期的または中長期的な目標の設定	57 100.0%	8 14.0%	32 56.1%	12 21.1%	- 0.0%	4 7.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	1 1.8%
9. 環境に配慮した原材料、物品、サービス等の購入ガイドラインの作成	31 100.0%	9 29.0%	7 22.6%	3 9.7%	4 12.9%	6 19.4%	- 0.0%	1 3.2%	- 0.0%	1 3.2%
10. 環境会計の実施	10 100.0%	2 20.0%	3 30.0%	1 10.0%	- 0.0%	3 30.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	1 10.0%
11. 環境担当部門や担当者の配置などの体制構築	57 100.0%	7 12.3%	20 35.1%	15 26.3%	9 15.8%	2 3.5%	- 0.0%	3 5.3%	- 0.0%	1 1.8%
12. SBTの認定取得	5 100.0%	1 20.0%	1 20.0%	- 0.0%	- 0.0%	3 60.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%
13. RE100への参加または再エネ100宣言RE Actionへの参加	1 100.0%	- 0.0%	1 100.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%
14. TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）への賛同	6 100.0%	- 0.0%	3 50.0%	- 0.0%	1 16.7%	2 33.3%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%
15. とよた・ゼロカーボンネットワークへの参画	3 100.0%	1 33.3%	1 33.3%	- 0.0%	- 0.0%	1 33.3%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%
16. とよたSDGs/パートナーへの参画	27 100.0%	- 0.0%	3 11.1%	7 25.9%	3 11.1%	6 22.2%	- 0.0%	4 14.8%	- 0.0%	4 14.8%
17. 豊田市SDGsの認証取得	18 100.0%	- 0.0%	2 11.1%	8 44.4%	- 0.0%	4 22.2%	- 0.0%	1 5.6%	- 0.0%	3 16.7%
18. その他（ ）	5 100.0%	1 20.0%	2 40.0%	- 0.0%	- 0.0%	1 20.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	1 20.0%



「1 既に実施している」を回答した場合の効果の概要

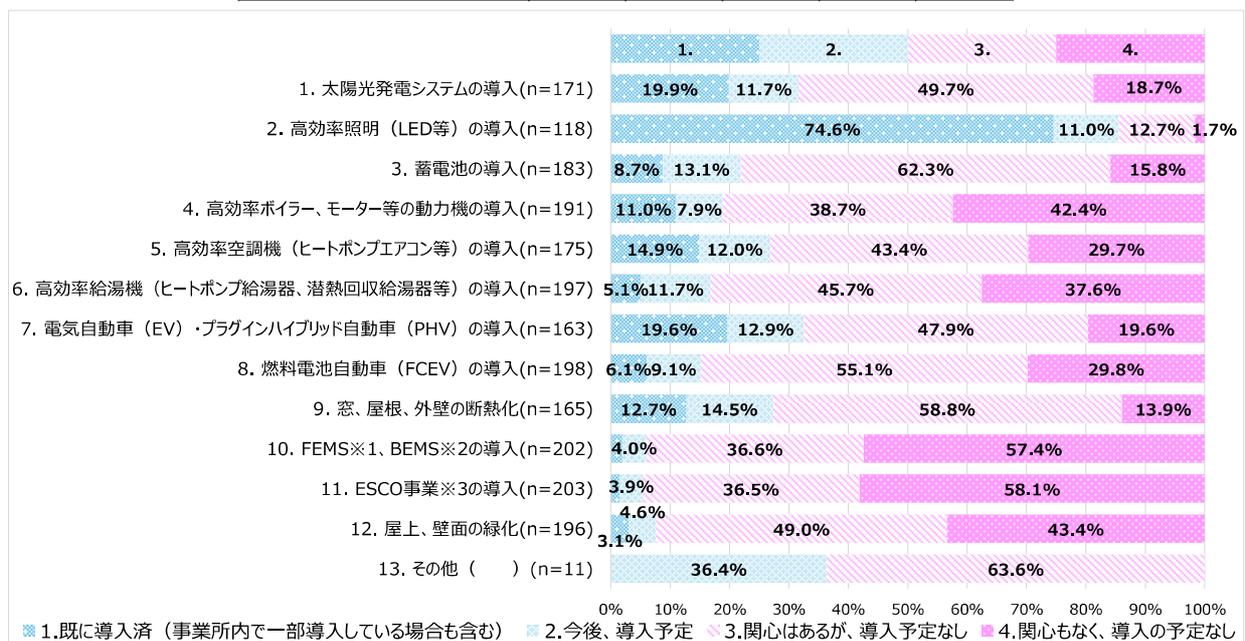
- 「イ.環境に関する目標管理を徹底するようになり、環境負荷削減につながった」の回答率が比較的高い結果となった。
- 「ア.省資源・省エネルギー等によりコストの削減につながった」の回答率が25%以上となったのは『2.エコアクション21の認証取得』、『3.エコステージの認証取得』、『4.KES（京都・環境マネジメントシステム・スタンダード）の登録』、『5.その他の環境マネジメントシステムを導入』、『6.省エネ診断の受診』、『9.環境に配慮した原材料、物品、サービス等の購入ガイドラインの作成』、『15.とよた・ゼロカーボンネットワークへの参画』であった。
- 「ウ.従業員の意志統一が図られ、環境への意識向上につながった」の回答率が20%以上となったのは『1.ISO14001の認証取得』、『3.エコステージの認証取得』、『7.環境報告書の作成』、『8.環境保全に関する短期的または中長期的な目標の設定』、『11.環境担当部門や担当者の配置などの体制構築』、『16.とよたSDGsパートナーへの参画』、『17.豊田市SDGsの認証取得』であった。

気候変動について

貴事業所では、温室効果ガスの排出削減に効果のある再生可能エネルギー、省エネルギーに関する設備等を導入していますか。それぞれの項目について、当てはまるものを1

【問3】 つずつ選んで○をつけてください。また、「3 関心はあるが、導入予定なし」「4 関心もなく、導入の予定なし」を回答された場合は、その理由を下表の【理由の選択肢】のA～ケのうち最も当てはまるものを1つ選んで、記入してください。

上段:度数 下段: %	合計	既に導入済 (事業所内で 一部導入して いる場合も含 む)	今後、導入予 定	関心はある が、導入予定 なし	関心もなく、導 入の予定なし
1. 太陽光発電システムの導入	171	34	20	85	32
	100.0%	19.9%	11.7%	49.7%	18.7%
2. 高効率照明 (LED等) の導入	118	88	13	15	2
	100.0%	74.6%	11.0%	12.7%	1.7%
3. 蓄電池の導入	183	16	24	114	29
	100.0%	8.7%	13.1%	62.3%	15.8%
4. 高効率ボイラー、モーター等の動力機の導入	191	21	15	74	81
	100.0%	11.0%	7.9%	38.7%	42.4%
5. 高効率空調機 (ヒートポンプエアコン等) の導入	175	26	21	76	52
	100.0%	14.9%	12.0%	43.4%	29.7%
6. 高効率給湯機 (ヒートポンプ給湯器、潜熱回収給湯器等) の導入	197	10	23	90	74
	100.0%	5.1%	11.7%	45.7%	37.6%
7. 電気自動車 (EV) ・プラグインハイブリッド自動車 (PHV) の導入	163	32	21	78	32
	100.0%	19.6%	12.9%	47.9%	19.6%
8. 燃料電池自動車 (FCEV) の導入	198	12	18	109	59
	100.0%	6.1%	9.1%	55.1%	29.8%
9. 窓、屋根、外壁の断熱化	165	21	24	97	23
	100.0%	12.7%	14.5%	58.8%	13.9%
10. FEMS※1、BEMS※2の導入	202	4	8	74	116
	100.0%	2.0%	4.0%	36.6%	57.4%
11. ESCO事業※3の導入	203	3	8	74	118
	100.0%	1.5%	3.9%	36.5%	58.1%
12. 屋上、壁面の緑化	196	6	9	96	85
	100.0%	3.1%	4.6%	49.0%	43.4%
13. その他 ()	11	-	4	7	-
	100.0%	0.0%	36.4%	63.6%	0.0%

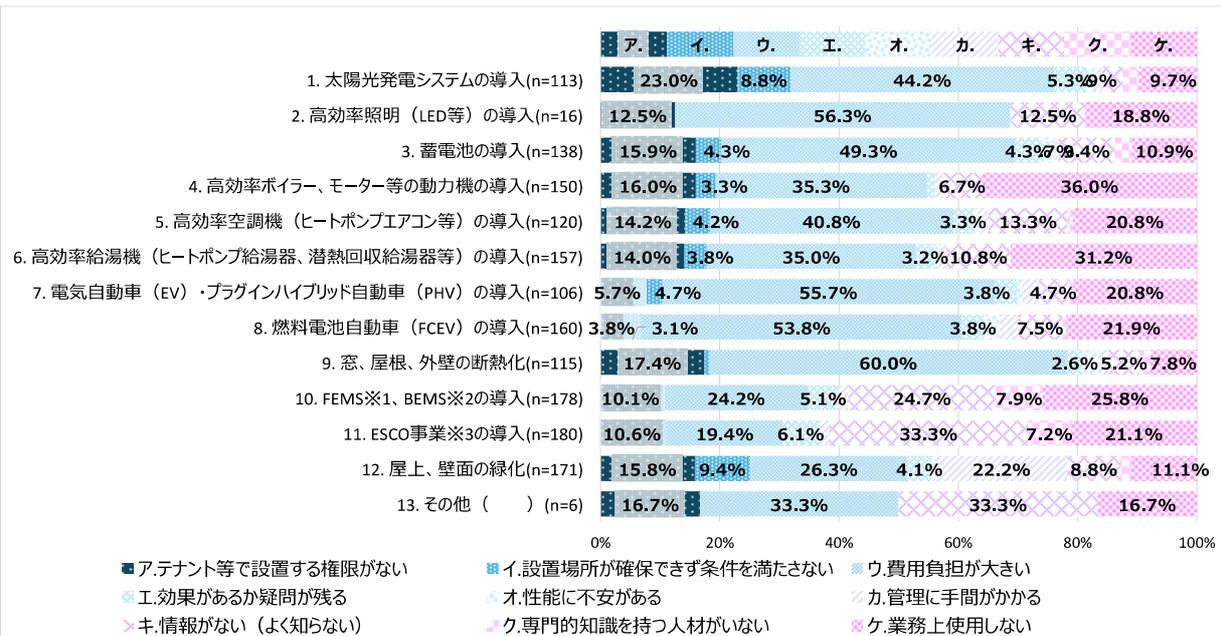


問3の結果概要

- 「1.既に導入済（事業所内で一部導入している場合も含む）」の回答率は『2.高効率照明（LED等）の導入』が74.6%と最も高い結果となった。
- 「2.今後、導入予定」は『9.窓、屋根、外壁の断熱化』、『3.蓄電池の導入』、『7.電気自動車（EV）・プラグインハイブリッド自動車（PHV）の導入』において比較的高い結果となった。
- 「3.関心はあるが、導入予定なし」は『3.蓄電池の導入』、『8.燃料電池自動車（FCEV）の導入』、『9.窓、屋根、外壁の断熱化』において50%以上と高い結果となった。
- 「4.関心もなく、導入の予定なし」は『4.高効率ボイラー、モーター等の動力機の導入』、『10.FEMS、BEMSの導入』、『11.ESCO事業の導入』、『12.屋上、壁面の緑化』において40%以上と高い結果となった。

「3 関心はあるが、導入予定なし」「4 関心もなく、導入の予定なし」を回答した場合の理由

上段:度数 下段: %	合計	テナント等で設置する権限がない	設置場所が確保できず条件を満たさない	費用負担が大きい	効果があるか疑問が残る	性能に不安がある	管理に手間がかかる	情報がない(よく知らない)	専門的知識を持つ人材がない	業務上使用しない
1. 太陽光発電システムの導入	113	26	10	50	6	2	1	4	3	11
	100.0%	23.0%	8.8%	44.2%	5.3%	1.8%	0.9%	3.5%	2.7%	9.7%
2. 高効率照明（LED等）の導入	16	2	-	9	-	-	-	2	-	3
	100.0%	12.5%	0.0%	56.3%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	18.8%
3. 蓄電池の導入	138	22	6	68	6	3	1	13	4	15
	100.0%	15.9%	4.3%	49.3%	4.3%	2.2%	0.7%	9.4%	2.9%	10.9%
4. 高効率ボイラー、モーター等の動力機の導入	150	24	5	53	2	-	2	10	-	54
	100.0%	16.0%	3.3%	35.3%	1.3%	0.0%	1.3%	6.7%	0.0%	36.0%
5. 高効率空調機（ヒートポンプエアコン等）の導入	120	17	5	49	4	1	2	16	1	25
	100.0%	14.2%	4.2%	40.8%	3.3%	0.8%	1.7%	13.3%	0.8%	20.8%
6. 高効率給湯機（ヒートポンプ給湯器、潜熱回収給湯器等）の導入	157	22	6	55	5	1	2	17	-	49
	100.0%	14.0%	3.8%	35.0%	3.2%	0.6%	1.3%	10.8%	0.0%	31.2%
7. 電気自動車（EV）・プラグインハイブリッド自動車（PHV）の導入	106	6	5	59	4	1	3	5	1	22
	100.0%	5.7%	4.7%	55.7%	3.8%	0.9%	2.8%	4.7%	0.9%	20.8%
8. 燃料電池自動車（FCEV）の導入	160	6	5	86	6	4	5	12	1	35
	100.0%	3.8%	3.1%	53.8%	3.8%	2.5%	3.1%	7.5%	0.6%	21.9%
9. 窓、屋根、外壁の断熱化	115	20	1	69	3	3	2	6	2	9
	100.0%	17.4%	0.9%	60.0%	2.6%	2.6%	1.7%	5.2%	1.7%	7.8%
10. FEMS※1、BEMS※2の導入	178	18	1	43	9	-	3	44	14	46
	100.0%	10.1%	0.6%	24.2%	5.1%	0.0%	1.7%	24.7%	7.9%	25.8%
11. ESCO事業※3の導入	180	19	1	35	11	-	3	60	13	38
	100.0%	10.6%	0.6%	19.4%	6.1%	0.0%	1.7%	33.3%	7.2%	21.1%
12. 屋上、壁面の緑化	171	27	16	45	7	1	38	15	3	19
	100.0%	15.8%	9.4%	26.3%	4.1%	0.6%	22.2%	8.8%	1.8%	11.1%
13. その他（ ）	6	1	-	2	-	-	-	2	-	1
	100.0%	16.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	16.7%

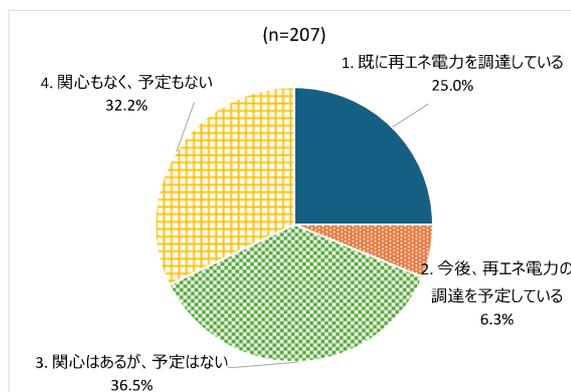


「3 関心はあるが、導入予定なし」「4 関心もなく、導入の予定なし」を回答した場合の理由の概要

- いずれの項目においても「ウ.費用負担が大きい」の回答率が高い結果となった。
- 『4.高効率ボイラー、モーター等の動力機の導入』、『5.高効率空調機（ヒートポンプエアコン等）の導入』、『6.高効率給湯機（ヒートポンプ給湯器、潜熱回収給湯器等）の導入』、『7.電気自動車（EV）・プラグインハイブリッド自動車（PHV）の導入』、『8.燃料電池自動車（FCEV）の導入』、『10.FEMS、BEMSの導入』、『11.ESCO事業の導入』は「ケ.業務上使用しない」が20%以上となった。
- 『10.FEMS、BEMSの導入』、『11.ESCO事業の導入』は「キ.情報がない（よく知らない）」が20%以上となった。
- 『1.太陽光発電システムの導入』、『4.高効率ボイラー、モーター等の動力機の導入』、『9.窓、屋根、外壁の断熱化』は「ア.テナント等で設置する権限がない」が比較的高い結果となった。
- 『12.屋上、壁面の緑化』は「カ.管理に手間がかかる」が22.2%と高い結果となった。

【問 4】 貴事業所では、再エネ電力を購入や発電することなどにより調達していますか。当てはまるものを 1つ 選んで○をつけてください。

	回答数	割合
1. 既に再エネ電力を調達している	52	25.0%
2. 今後、再エネ電力の調達を予定している	13	6.3%
3. 関心はあるが、予定はない	76	36.5%
4. 関心もなく、予定もない	67	32.2%
有効回答数	208	



問 4 の結果概要

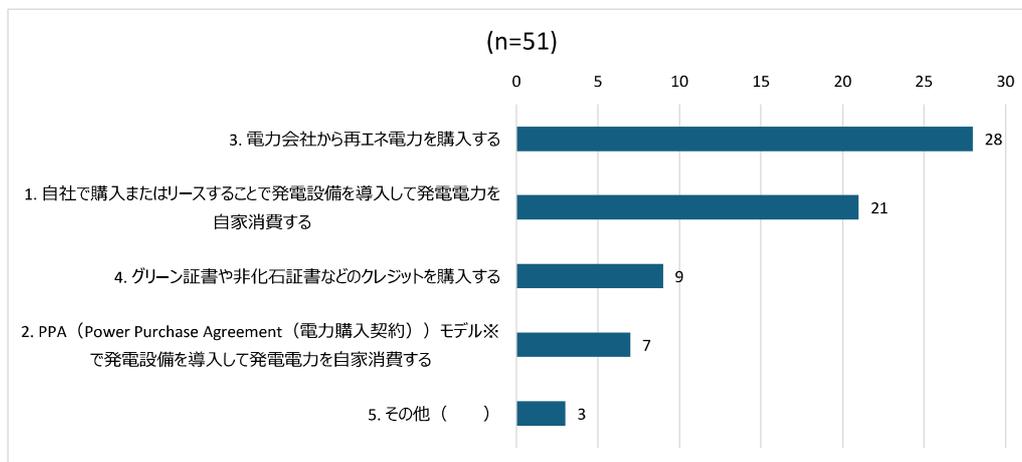
- ・ 「1.既に再エネ電力を調達している」の回答率は 25.0%となった。
- ・ 「2.今後、再エネ電力の調達を予定している」の回答率は 6.3%と最も低い結果となった。
- ・ 「3.関心はあるが、予定はない」の回答率は 36.5%と最も高い結果となった。
- ・ 「4.関心もなく、予定もない」の回答率は 32.2%と全体の約 3分の 1 となった。

問 4 で「1.既に再エネ電力を調達している」を回答された方は、どのように再エネ電力を調達していますか。問 4 で「2.今後、再エネ電力の調達を予定している」、「3.関心はあるが、予定はない」を回答された方は、どのように再エネ電力を調達する予定または関心を持っていますか。当てはまるものを全て選んで○をつけてください。

【問 5】

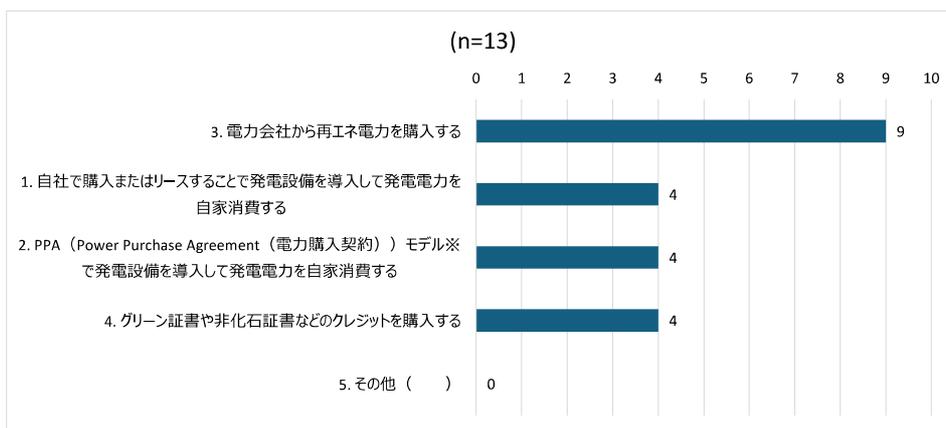
問 4 で「1.既に再エネ電力を調達している」を回答した場合の再エネ電力を調達方法

	回答数	割合
3. 電力会社から再エネ電力を購入する	28	41.2%
1. 自社で購入またはリースすることで発電設備を導入して発電電力を自家消費する	21	30.9%
4. グリーン証書や非化石証書などのクレジットを購入する	9	13.2%
2. PPA (Power Purchase Agreement (電力購入契約)) モデル※で発電設備を導入して発電電力を自家消費する	7	10.3%
5. その他 ()	3	4.4%
合計	68	
有効回答数	51	



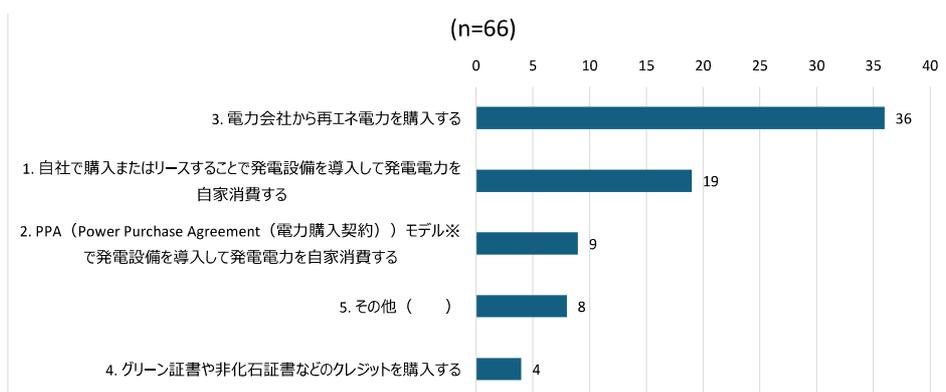
問 4 で「2.今後、再エネ電力の調達を予定している」を回答した場合の再エネ電力の調達方法予定

	回答数	割合
3. 電力会社から再エネ電力を購入する	9	42.9%
1. 自社で購入またはリースすることで発電設備を導入して発電電力を自家消費する	4	19.0%
2. PPA（Power Purchase Agreement（電力購入契約））モデル※で発電設備を導入して発電電力を自家消費す	4	19.0%
4. グリーン証書や非化石証書などのクレジットを購入する	4	19.0%
5. その他（ ）	0	0.0%
合計	21	
有効回答数	13	



問 4 で「3.関心はあるが、予定はない」を回答した場合の関心のある再エネ電力の調達方法

	回答数	割合
3. 電力会社から再エネ電力を購入する	36	47.4%
1. 自社で購入またはリースすることで発電設備を導入して発電電力を自家消費する	19	25.0%
2. PPA（Power Purchase Agreement（電力購入契約））モデル※で発電設備を導入して発電電力を自家消費す	9	11.8%
5. その他（ ）	8	10.5%
4. グリーン証書や非化石証書などのクレジットを購入する	4	5.3%
合計	76	
有効回答数	66	

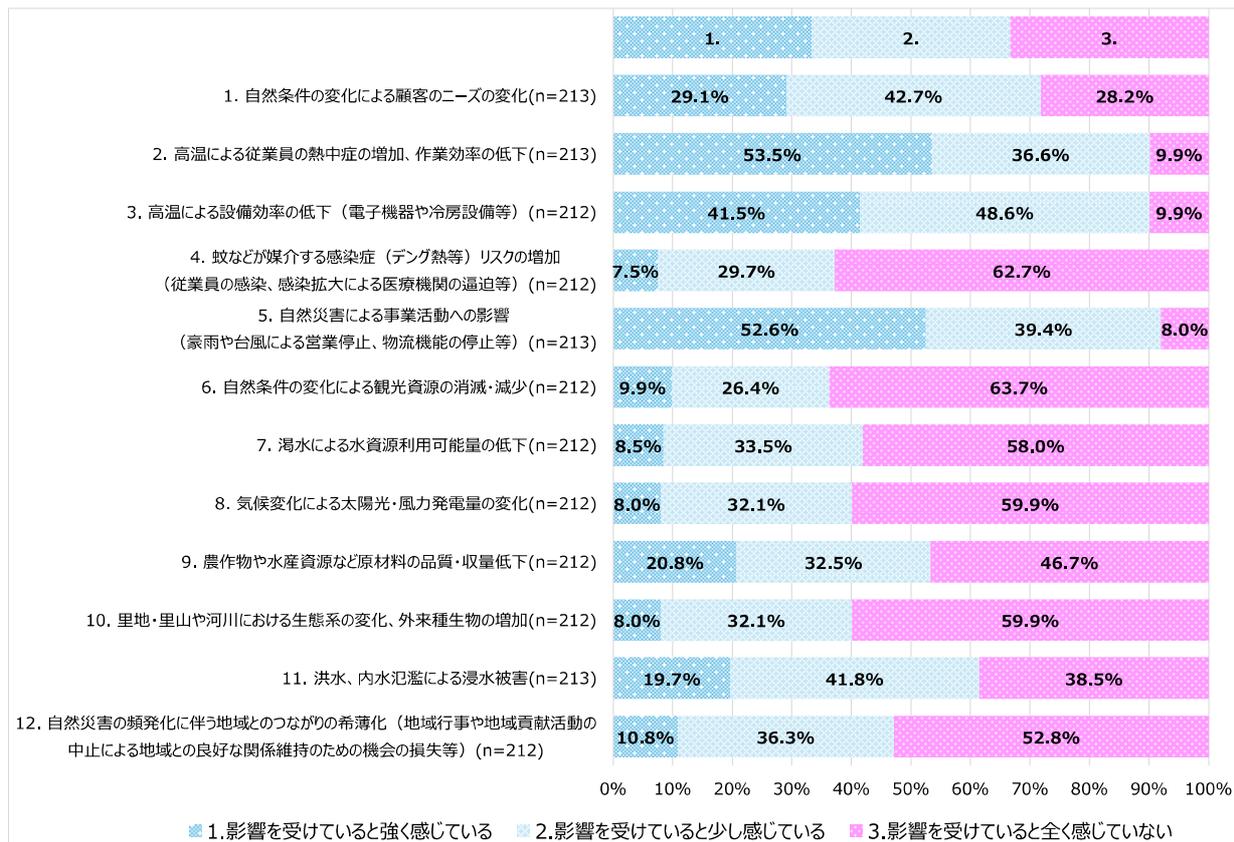


問 5 の結果概要

- 再エネ電力の調達状況、予定、関心いずれの調達方法についても『3.電力会社から再エネ電力を購入する』の回答率が最も高く 40%以上、次いで『1.自社で購入またはリースすることで発電設備を導入して発電電力を自家消費する』の回答率が高く 15%以上となった。
- 3 番目に多い調達方法は「1.既に再エネ電力を調達している」を回答した事業者は『4.グリーン証書や非化石証書などのクレジットを購入する』での調達が 13.2%となったが、「2.今後、再エネ電力の調達を予定している」、「3.関心はあるが、予定はない」を回答した事業者は『2.PPA（Power Purchase Agreement（電力購入契約））モデルで発電設備を導入して発電電力を自家消費する』が 3 番目に多い結果となった。

貴事業所が事業活動の中で受ける気候変動の影響について、貴事業所はどの程度影響を受けていると感じていますか。それぞれの項目について、当てはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。

上段:度数 下段: %	合計	影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていると全く感じていない
1. 自然条件の変化による顧客のニーズの変化	213	62	91	60
	100.0%	29.1%	42.7%	28.2%
2. 高温による従業員の熱中症の増加、作業効率の低下	213	114	78	21
	100.0%	53.5%	36.6%	9.9%
3. 高温による設備効率の低下（電子機器や冷房設備等）	212	88	103	21
	100.0%	41.5%	48.6%	9.9%
4. 蚊などが媒介する感染症（デング熱等）リスクの増加（従業員の感染、感染拡大による医療機関の逼迫等）	212	16	63	133
	100.0%	7.5%	29.7%	62.7%
5. 自然災害による事業活動への影響（豪雨や台風による営業停止、物流機能の停止等）	213	112	84	17
	100.0%	52.6%	39.4%	8.0%
6. 自然条件の変化による観光資源の消滅・減少	212	21	56	135
	100.0%	9.9%	26.4%	63.7%
7. 渇水による水資源利用可能量の低下	212	18	71	123
	100.0%	8.5%	33.5%	58.0%
8. 気候変化による太陽光・風力発電量の変化	212	17	68	127
	100.0%	8.0%	32.1%	59.9%
9. 農作物や水産資源など原材料の品質・収量低下	212	44	69	99
	100.0%	20.8%	32.5%	46.7%
10. 里地・里山や河川における生態系の変化、外来種生物の増加	212	17	68	127
	100.0%	8.0%	32.1%	59.9%
11. 洪水、内水氾濫による浸水被害	213	42	89	82
	100.0%	19.7%	41.8%	38.5%
12. 自然災害の頻発化に伴う地域とのつながりの希薄化（地域行事や地域貢献活動の中止による地域との良好な関係維持のための機会の損失等）	212	23	77	112
	100.0%	10.8%	36.3%	52.8%



問 6 の結果概要

- 「1.影響を受けていると強く感じている」の回答率が高い項目は『2.高温による従業員の熱中症の増加、作業効率の低下』が 53.5%、『5.自然災害による事業活動への影響（豪雨や台風による営業停止、物流機能の停止等）』が 52.6%となった。
- 「3.影響を受けていると全く感じていない」の回答率が高い項目は『4.蚊などが媒介する感染症（ Dengue熱等）リスクの増加（従業員の感染、感染拡大による医療機関の逼迫等）』が 62.7%、『6.自然条件の変化による観光資源の消滅・減少』が 63.7%となった。

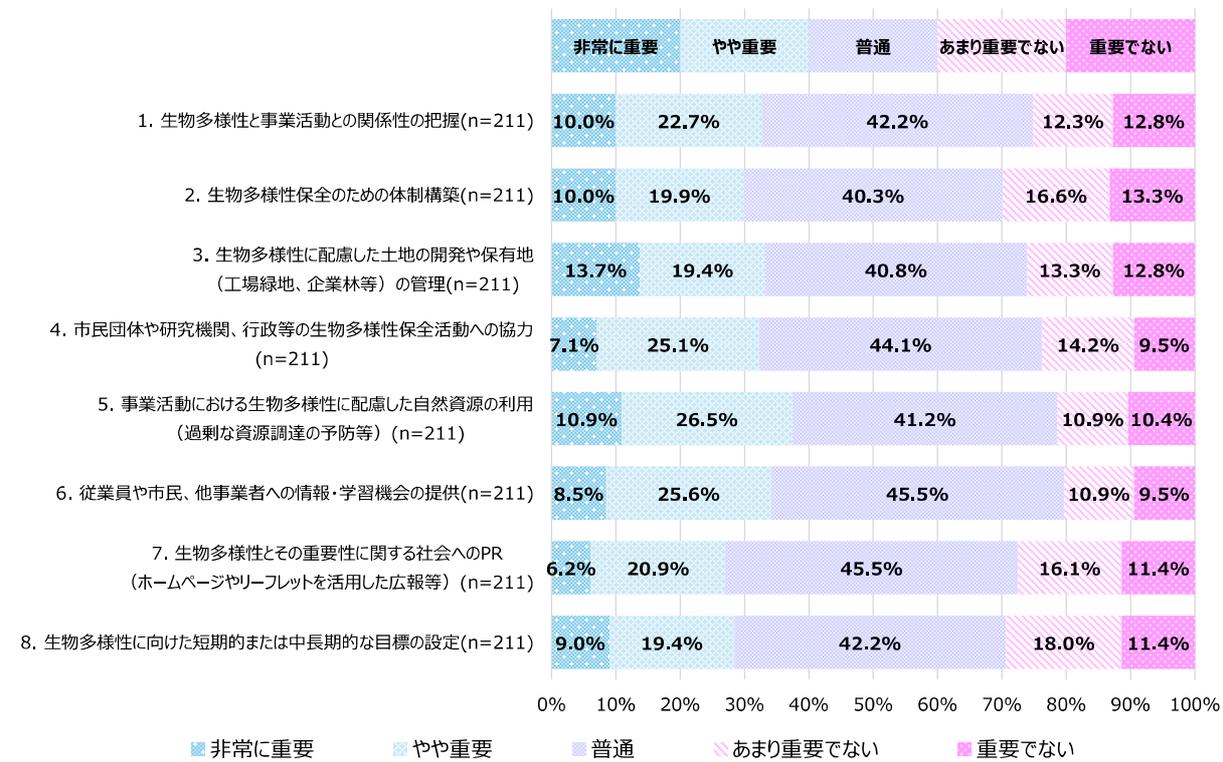
生物多様性について

生物多様性*保全に関する取組について、貴事業所はどの程度重要だと考えますか。それぞれの項目について、当てはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。

【問 7】

*生物多様性：多様な生物が複雑にかかわりあって様々な環境に合わせて生息・生育していること。

上段:度数 下段: %	合計	非常に重要	やや重要	普通	あまり重要でない	重要でない
1. 生物多様性と事業活動との関係性の把握	211	21	48	89	26	27
	100.0%	10.0%	22.7%	42.2%	12.3%	12.8%
2. 生物多様性保全のための体制構築	211	21	42	85	35	28
	100.0%	10.0%	19.9%	40.3%	16.6%	13.3%
3. 生物多様性に配慮した土地の開発や保有地（工場緑地、企業林等）の管理	211	29	41	86	28	27
	100.0%	13.7%	19.4%	40.8%	13.3%	12.8%
4. 市民団体や研究機関、行政等の生物多様性保全活動への協力	211	15	53	93	30	20
	100.0%	7.1%	25.1%	44.1%	14.2%	9.5%
5. 事業活動における生物多様性に配慮した自然資源の利用（過剰な資源調達予防等）	211	23	56	87	23	22
	100.0%	10.9%	26.5%	41.2%	10.9%	10.4%
6. 従業員や市民、他事業者への情報・学習機会の提供	211	18	54	96	23	20
	100.0%	8.5%	25.6%	45.5%	10.9%	9.5%
7. 生物多様性とその重要性に関する社会へのPR（ホームページやリーフレットを活用した広報等）	211	13	44	96	34	24
	100.0%	6.2%	20.9%	45.5%	16.1%	11.4%
8. 生物多様性に向けた短期的または中長期的な目標の設定	211	19	41	89	38	24
	100.0%	9.0%	19.4%	42.2%	18.0%	11.4%



問 7 の結果概要

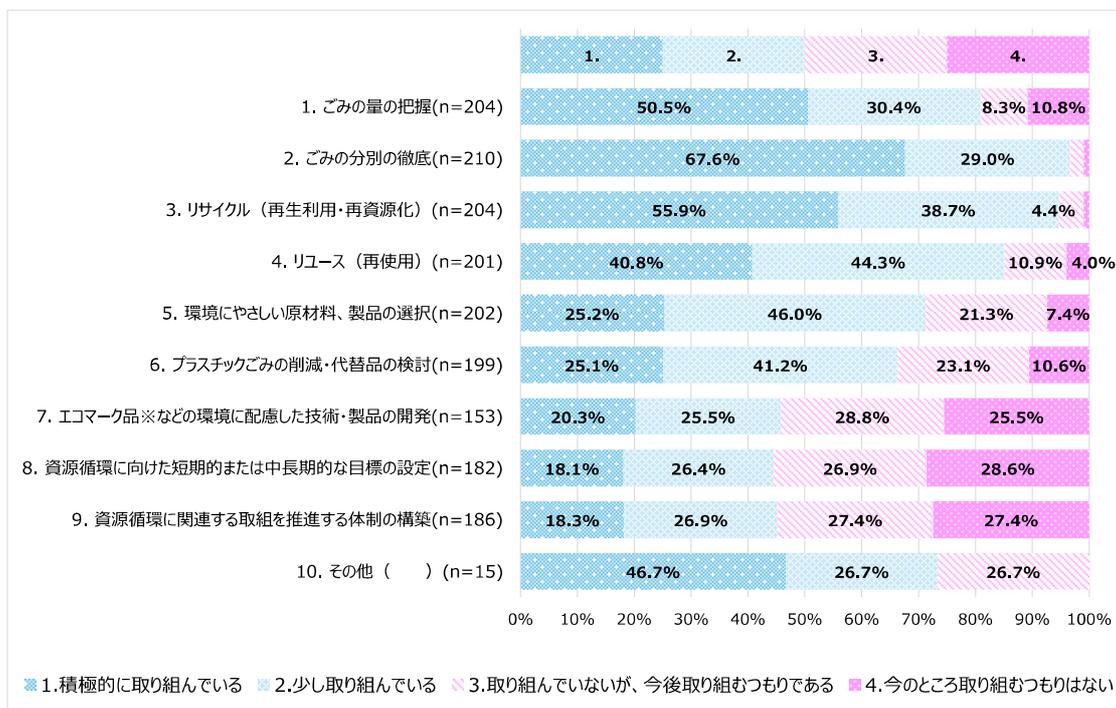
- 「1.非常に重要」の回答率は『3.生物多様性に配慮した土地の開発や保有地（工場緑地、企業林等）の管理』が13.7%と最も高い結果となった。
- 「1.非常に重要」または「2.やや重要」と回答した割合が高い項目は『5.事業活動における生物多様性に配慮した自然資源の利用（過剰な資源調達の予防等）』、『6.従業員や市民、他事業者への情報・学習機会の提供』となった。

- 一方、「5.重要でない」の回答率は『2.生物多様性保全のための体制構築』が13.3%と最も高い結果となった。
- 「5.重要でない」または「4.あまり重要ではない」と回答した割合が高い項目は『2.生物多様性保全のための体制構築』(29.9%)、『8.生物多様性に向けた短期的または中長期的な目標の設定』(29.4%)となった。

資源循環について

【問 8】 貴事業所では、資源循環に関連してどのような取組を行っていますか。
それぞれの取組について、当てはまる取組状況を1つずつ選んで○をつけてください。

上段:度数 下段: %	合計	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない
1. ごみの量の把握	204	103	62	17	22
	100.0%	50.5%	30.4%	8.3%	10.8%
2. ごみの分別の徹底	210	142	61	5	2
	100.0%	67.6%	29.0%	2.4%	1.0%
3. リサイクル（再生利用・再資源化）	204	114	79	9	2
	100.0%	55.9%	38.7%	4.4%	1.0%
4. リユース（再使用）	201	82	89	22	8
	100.0%	40.8%	44.3%	10.9%	4.0%
5. 環境にやさしい原材料、製品の選択	202	51	93	43	15
	100.0%	25.2%	46.0%	21.3%	7.4%
6. プラスチックごみの削減・代替品の検討	199	50	82	46	21
	100.0%	25.1%	41.2%	23.1%	10.6%
7. エコマーク品※などの環境に配慮した技術・製品の開発	153	31	39	44	39
	100.0%	20.3%	25.5%	28.8%	25.5%
8. 資源循環に向けた短期的または中長期的な目標の設定	182	33	48	49	52
	100.0%	18.1%	26.4%	26.9%	28.6%
9. 資源循環に関連する取組を推進する体制の構築	186	34	50	51	51
	100.0%	18.3%	26.9%	27.4%	27.4%
10. その他（ ）	15	7	4	4	-
	100.0%	46.7%	26.7%	26.7%	0.0%



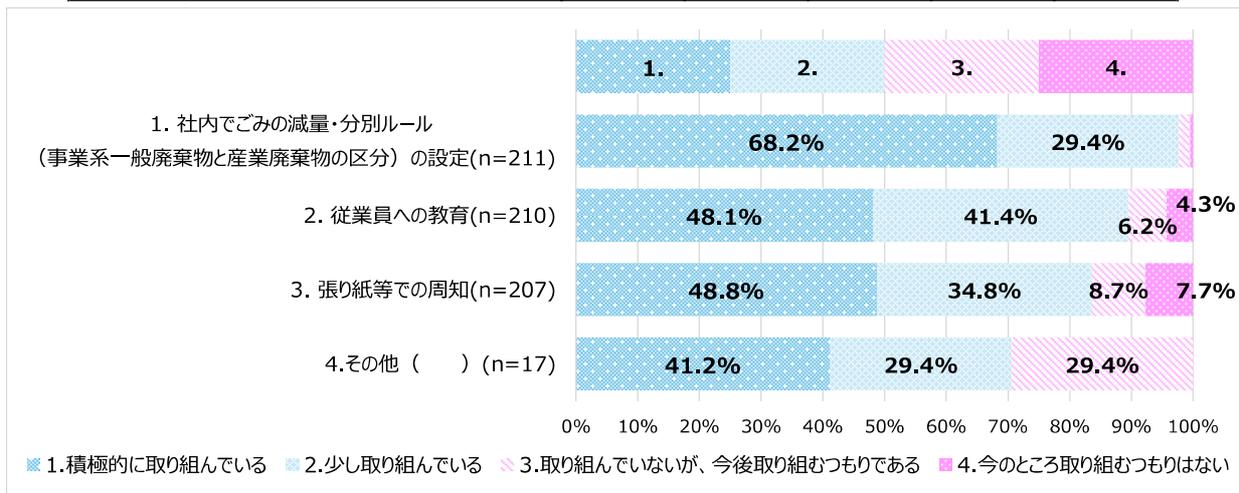
問 8 の結果概要

- ・ 「1.積極的に取り組んでいる」と回答した割合が高い項目は『2.ごみの分別の徹底』が 67.6% と、『3.リサイクル（再生利用・再資源化）』で 55.9% になった。
- ・ 「3.取り組んでいないが、今後取り組むつもりである」と回答した割合が高い項目は『7.エコマーク品※などの環境に配慮した技術・製品の開発』が 28.8%、『9.資源循環に関連する取組を推進する体制の構築』が 27.4% となった。

【問 9】

貴事業所では、廃棄物の適正処理に関連してどのような取組を行っていますか。
それぞれの取組について、当てはまる取組状況を 1 つずつ選んで○をつけてください。

上段:度数 下段: %	合計	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない
1. 社内でごみの減量・分別ルール（事業系一般廃棄物と産業廃棄物の区分）の設定	211 100.0%	144 68.2%	62 29.4%	4 1.9%	1 0.5%
2. 従業員への教育	210 100.0%	101 48.1%	87 41.4%	13 6.2%	9 4.3%
3. 張り紙等での周知	207 100.0%	101 48.8%	72 34.8%	18 8.7%	16 7.7%
4. その他（ ）	17 100.0%	7 41.2%	5 29.4%	5 29.4%	- 0.0%



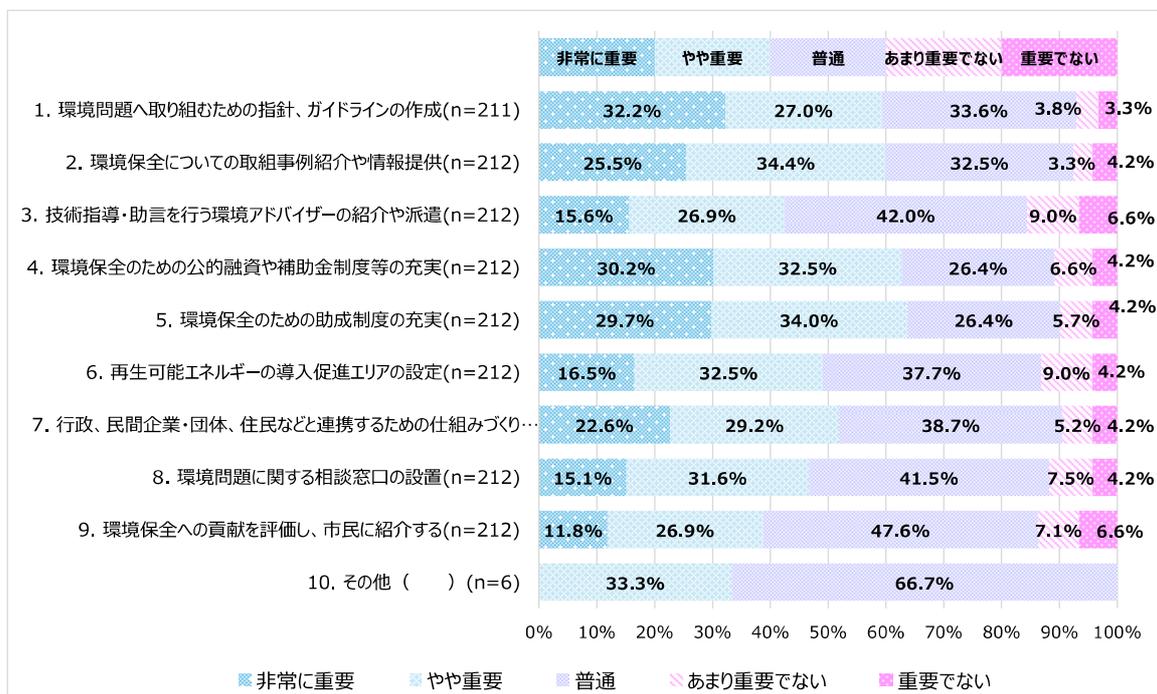
問 9 の結果概要

- ・ 「1.積極的に取り組んでいる」の回答率は『1.社内でごみの減量・分別ルール（事業系一般廃棄物と産業廃棄物の区分）の設定』が 68.2% と最も高い結果となった。
- ・ 「1.積極的に取り組んでいる」と「2.少し取り組んでいる」をあわせた回答率は『1.社内でごみの減量・分別ルール（事業系一般廃棄物と産業廃棄物の区分）の設定』において最も高く 97.6%、次いで『2.従業員への教育』で 89.5%、さらに『3.張り紙等での周知』で 83.6% と比較的取組が進んでいることが示された。

市の環境への取組について

環境保全に関して市が更に進める必要がある対策について、貴事業所はどの程度重要だと考えますか。それぞれの項目について、当てはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。

上段:度数 下段: %	合計	非常に重要	やや重要	普通	あまり重要でない	重要でない
1. 環境問題へ取り組むための指針、ガイドラインの作成	211 100.0%	68 32.2%	57 27.0%	71 33.6%	8 3.8%	7 3.3%
2. 環境保全についての取組事例紹介や情報提供	212 100.0%	54 25.5%	73 34.4%	69 32.5%	7 3.3%	9 4.2%
3. 技術指導・助言を行う環境アドバイザーの紹介や派遣	212 100.0%	33 15.6%	57 26.9%	89 42.0%	19 9.0%	14 6.6%
4. 環境保全のための公的融資や補助金制度等の充実	212 100.0%	64 30.2%	69 32.5%	56 26.4%	14 6.6%	9 4.2%
5. 環境保全のための助成制度の充実	212 100.0%	63 29.7%	72 34.0%	56 26.4%	12 5.7%	9 4.2%
6. 再生可能エネルギーの導入促進エリアの設定	212 100.0%	35 16.5%	69 32.5%	80 37.7%	19 9.0%	9 4.2%
7. 行政、民間企業・団体、住民などと連携するための仕組みづくり	212 100.0%	48 22.6%	62 29.2%	82 38.7%	11 5.2%	9 4.2%
8. 環境問題に関する相談窓口の設置	212 100.0%	32 15.1%	67 31.6%	88 41.5%	16 7.5%	9 4.2%
9. 環境保全への貢献を評価し、市民に紹介する	212 100.0%	25 11.8%	57 26.9%	101 47.6%	15 7.1%	14 6.6%
10. その他 ()	6 100.0%	- 0.0%	2 33.3%	4 66.7%	- 0.0%	- 0.0%



問10の結果概要

- 「1.非常に重要」の回答率上位2項目は『1.環境問題へ取り組むための指針、ガイドラインの作成』(32.2%)、『4.環境保全のための公的融資や補助金制度等の充実』(30.2%)となった。
- 「1.非常に重要」または「2.やや重要」と回答した割合が高い項目は融資や補助金、助成制度の充実に関する項目(4.、5.)となった。

- ・ 一方、「5.重要でない」の回答率上位2項目は『3.技術指導・助言を行う環境アドバイザーの紹介や派遣』（6.6%）、『9.環境保全への貢献を評価し、市民に紹介する』（6.6%）となった。
- ・ 「5.重要でない」または「4.あまり重要ではない」と回答した割合が高い項目は『3.技術指導・助言を行う環境アドバイザーの紹介や派遣』、『9.環境保全への貢献を評価し、市民に紹介する』となった。

【問 11】 今後の豊田市の環境行政に対するご意見など（自由記入）

- ・ 結果（原文まま）
- ・ 市が主催する年間計画（参加型イベント等）を年度初めに展開いただけると、参加計画が立てやすい。
- ・ 業種ごとの経済効果が得られた取組事例（市外、国外含む）の紹介・情報提供を増やしてほしい。
- ・ 環境問題は、市民一人ひとりの意識と行動が大切なので教育や啓発活動が重要と思います。
- ・ 仕入先を意識した補助金とサポートをお願いしたい。
- ・ 環境保全に関する取組に対する補助金を増やしてほしい。
- ・ 補助金を増やしてほしい。
- ・ EV自動車への補助金制度がありますが、同様に、EVバイク導入にも補助金を付けて頂きたい。
- ・ 環境特区を制定して、モデル都市を通じた取り組みから成果のある取り組みを他のエリアへ広げてほしい（一企業の努力だけでは環境にかかるコストがなかなか捻出できないので）
- ・ 補助金及び助成金額を増やしてほしい
- ・ カーボンニュートラル等の補助金が製造業に限られており、弊社は建設業で補助金を活用できず自社で賄った。
- ・ エコ減税等メリットを打ち出してのアピール
- ・ 他部署では環境保全に対する重要性が低い気がする ・ 不要なポスターやチラシなどが一方的に届きゴミになる
- ・ どういったことを行えばどういった補助金が出るのかのリストが欲しい。
- ・ 環境保全、廃棄物対策、省エネ活動に関するセミナーや勉強会を開催して欲しい
- ・ 経営分岐点を割りそうな現在、最低賃金に対応するのが精一杯で環境問題にも貢献したい気持ちはあるが、倒産しては本末転倒だと苦慮しております。
- ・ 自然共生の分野で取り組める内容があれば検討を進めたく、情報があればご教示よろしく申し上げます。

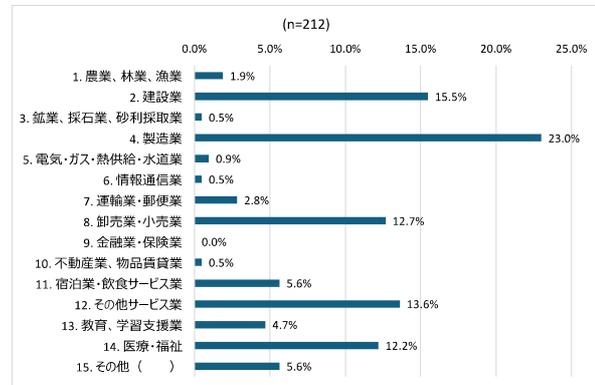
問 11 の結果概要

- ・ 市からの情報提供や補助金項目の追加・増加を希望する意見が多くなった。

貴事業所について

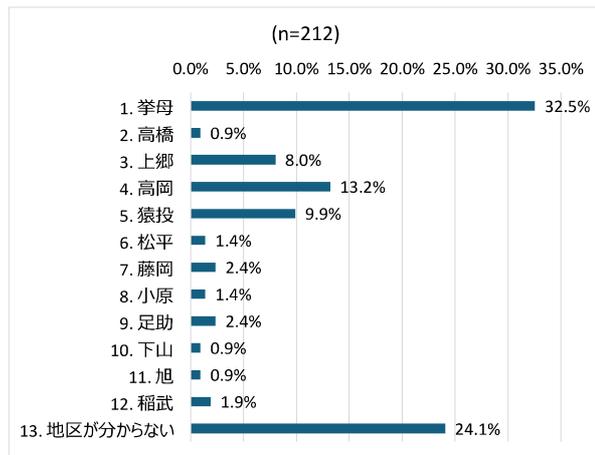
【問 12】 主な業種について、当てはまるものを 1つ 選んで○をつけてください。

	回答数	割合
1. 農業、林業、漁業	4	1.9%
2. 建設業	33	15.5%
3. 鉱業、採石業、砂利採取業	1	0.5%
4. 製造業	49	23.0%
5. 電気・ガス・熱供給・水道業	2	0.9%
6. 情報通信業	1	0.5%
7. 運輸業・郵便業	6	2.8%
8. 卸売業・小売業	27	12.7%
9. 金融業・保険業	0	0.0%
10. 不動産業、物品賃貸業	1	0.5%
11. 宿泊業・飲食サービス業	12	5.6%
12. その他サービス業	29	13.6%
13. 教育、学習支援業	10	4.7%
14. 医療・福祉	26	12.2%
15. その他 ()	12	5.6%
合計	213	
有効回答数	212	



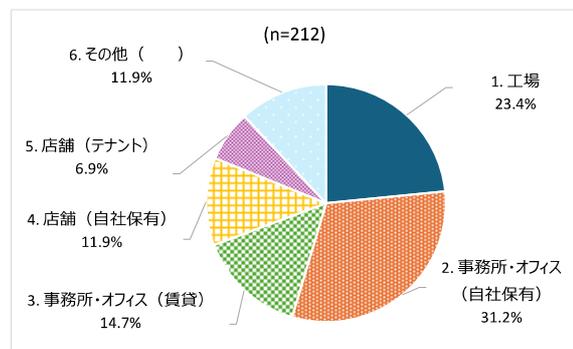
【問 13】 事業所の所在地区について、当てはまるものを 1つ 選んで○をつけてください。

	回答数	割合
1. 挙母	69	32.5%
2. 高橋	2	0.9%
3. 上郷	17	8.0%
4. 高岡	28	13.2%
5. 猿投	21	9.9%
6. 松平	3	1.4%
7. 藤岡	5	2.4%
8. 小原	3	1.4%
9. 足助	5	2.4%
10. 下山	2	0.9%
11. 旭	2	0.9%
12. 稲武	4	1.9%
13. 地区が分からない	51	24.1%
有効回答数	212	



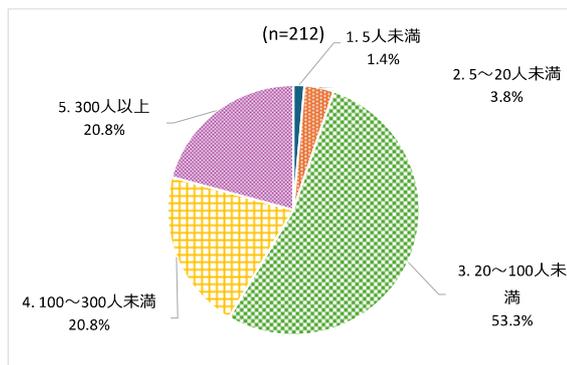
【問 14】 事業所の主な事業形態について、当てはまるものを 1つ 選んで○をつけてください。

	回答数	割合
1. 工場	51	23.4%
2. 事務所・オフィス (自社保有)	68	31.2%
3. 事務所・オフィス (賃貸)	32	14.7%
4. 店舗 (自社保有)	26	11.9%
5. 店舗 (テナント)	15	6.9%
6. その他 ()	26	11.9%
合計	218	
有効回答数	212	



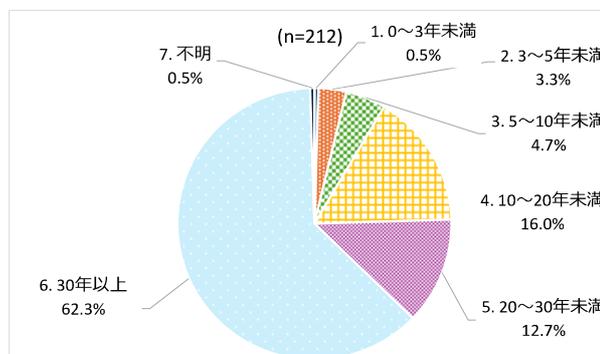
【問 15】 従業員数（役員、パート、アルバイト等含む事業所内で実際に働いている人数）について、当てはまるものを 1 つ選んで○をつけてください。

	回答数	割合
1. 5人未満	3	1.4%
2. 5～20人未満	8	3.8%
3. 20～100人未満	113	53.3%
4. 100～300人未満	44	20.8%
5. 300人以上	44	20.8%
有効回答数	212	



【問 16】 事業年数（支店や工場などは豊田市で事業を始めた年数）について、当てはまるものを 1 つ選んで○をつけてください。

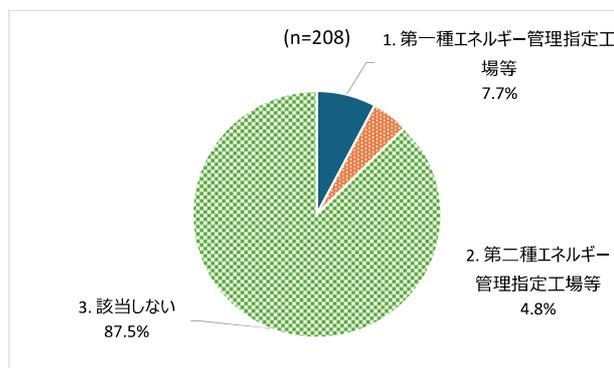
	回答数	割合
1. 0～3年未満	1	0.5%
2. 3～5年未満	7	3.3%
3. 5～10年未満	10	4.7%
4. 10～20年未満	34	16.0%
5. 20～30年未満	27	12.7%
6. 30年以上	132	62.3%
7. 不明	1	0.5%
有効回答数	212	



【問 17】 エネルギー指定管理※の有無について、当てはまるものを 1 つ選んで○をつけてください。

※省エネ法に基づく年度間エネルギー使用量（原油換算値kℓ）による区分

	回答数	割合
1. 第一種エネルギー管理指定工場等	16	7.7%
2. 第二種エネルギー管理指定工場等	10	4.8%
3. 該当しない	182	87.5%
有効回答数	208	



3.3 詳細集計結果

以下にクロス集計結果を示す。

表 2 クロス集計一覧

No.	表頭	表側
1	問 1（環境に関連する取組状況）	問 12（業種）
2	問 4（再エネ電力調達状況）	問 10（市の施策重要度）の 6.再エネ導入促進エリアの設定
3	問 6（気候変動影響）	問 12（業種）

(1) 業種と環境に関連する取組状況の関係 (問1×問12のクロス集計)

結果概要

【環境教育】

- ・ いずれの環境に関連する取組項目についても「14.医療・福祉」の取り組んでいる割合が他の業種と比較して低い傾向が示された。

【エネルギー】

- ・ 『4.省エネルギー機器を導入する』、『5.再生可能エネルギー設備を導入する』について「11.宿泊業・飲食サービス業」、「12.その他サービス業」、「14.医療・福祉」、「15.その他」で取り組んでいる割合が低い傾向が示された。
- ・ 『6.従業員へ節電を呼びかける』、『7.従業員のエコ通勤の実施（ノーマイカーデーやパークアンドライドなど）』について業種による取組状況の傾向は見られない。
- ・ 『8.従業員へのテレワークの推奨』については他の取組よりも取組状況が業種により大きく差が出ている。

		問1 環境に関連する取組状況						
		環境教育						
		合計		1. 従業員に対して職場や家庭での環境配慮行動について教育や実施の働きかけを行う		2. 事業所主催で一般向けの環境学習講座やイベントなどを開催する		3. 小中学校から環境学習の受け入れなどを行う
		取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	
問12業種	1. 農業、林業、漁業	(n=4)	100.0%	0.0%	66.7%	33.3%	100.0%	0.0%
	2. 建設業	(n=33)	74.2%	25.8%	21.7%	78.3%	5.3%	94.7%
	3. 鉱業、採石業、砂利採取業	(n=1)	100.0%	0.0%	-	-	-	-
	4. 製造業	(n=49)	93.6%	6.4%	31.7%	68.3%	20.0%	80.0%
	5. 電気・ガス・熱供給・水道業	(n=2)	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
	6. 情報通信業	(n=1)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	7. 運輸業・郵便業	(n=6)	66.7%	33.3%	40.0%	60.0%	20.0%	80.0%
	8. 卸売業・小売業	(n=27)	76.0%	24.0%	15.0%	85.0%	26.3%	73.7%
	9. 金融業・保険業	(n=0)	-	-	-	-	-	-
	10. 不動産業、物品賃貸業	(n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	11. 宿泊業・飲食サービス業	(n=12)	80.0%	20.0%	20.0%	80.0%	50.0%	50.0%
	12. その他サービス業	(n=29)	65.4%	34.6%	22.2%	77.8%	43.8%	56.3%
	13. 教育、学習支援業	(n=10)	90.0%	10.0%	33.3%	66.7%	22.2%	77.8%
	14. 医療・福祉	(n=26)	45.8%	54.2%	5.9%	94.1%	6.3%	93.8%
	15. その他 ()	(n=12)	50.0%	50.0%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%

		問1 環境に関連する取組状況														
		エネルギー														
		合計		4. 省エネルギー機器を導入する		5. 再生可能エネルギー設備を導入する		6. 従業員へ節電を呼びかける		7. 従業員のエコ通勤の実施（ノーマイカーデーやパークアンドライドなど）		8. 従業員へのテレワークの推奨		9. エコドライブ運動の実践を呼びかける		10. ウォームビスやクールビスの服装を呼びかける
		取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	
問12業種	1. 農業、林業、漁業	(n=4)	66.7%	33.3%	66.7%	33.3%	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%	33.3%	66.7%	33.3%	66.7%	33.3%	
	2. 建設業	(n=33)	93.1%	6.9%	50.0%	50.0%	100.0%	0.0%	19.2%	80.8%	55.6%	44.4%	80.6%	19.4%	96.6%	3.4%
	3. 鉱業、採石業、砂利採取業	(n=1)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	-	-	-	-	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	4. 製造業	(n=49)	98.0%	2.0%	76.6%	23.4%	100.0%	0.0%	35.7%	64.3%	82.6%	17.4%	83.0%	17.0%	91.5%	8.5%
	5. 電気・ガス・熱供給・水道業	(n=2)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	100.0%	0.0%
	6. 情報通信業	(n=1)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	7. 運輸業・郵便業	(n=6)	80.0%	20.0%	50.0%	50.0%	83.3%	16.7%	0.0%	100.0%	25.0%	75.0%	83.3%	16.7%	100.0%	0.0%
	8. 卸売業・小売業	(n=27)	88.9%	11.1%	59.1%	40.9%	96.3%	3.7%	34.8%	65.2%	50.0%	50.0%	68.0%	32.0%	88.5%	11.5%
	9. 金融業・保険業	(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	10. 不動産業、物品賃貸業	(n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%
	11. 宿泊業・飲食サービス業	(n=12)	70.0%	30.0%	33.3%	66.7%	100.0%	0.0%	37.5%	62.5%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%	75.0%	25.0%
	12. その他サービス業	(n=29)	79.2%	20.8%	28.6%	71.4%	96.6%	3.4%	26.1%	73.9%	33.3%	66.7%	70.4%	29.6%	93.1%	6.9%
	13. 教育、学習支援業	(n=10)	90.0%	10.0%	50.0%	50.0%	100.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%	44.4%	55.6%	80.0%	20.0%
	14. 医療・福祉	(n=26)	76.0%	24.0%	27.3%	72.7%	100.0%	0.0%	18.2%	81.8%	13.3%	86.7%	52.4%	47.6%	60.0%	40.0%
	15. その他 ()	(n=12)	100.0%	0.0%	25.0%	75.0%	100.0%	0.0%	14.3%	85.7%	20.0%	80.0%	66.7%	33.3%	83.3%	16.7%

凡例 取り組んでいる：「1.積極的に取り組んでいる」または「2.少し取り組んでいる」

取り組んでいない：「3.あまり取り組んでいない」または「4.まったく取り組んでいない」 * 「無回答」を除く

結果概要

【緑・生き物】

- 業種によって取組割合の差が大きい取組は『11.水辺や緑の保全活動に参加する』、『14.地域の生物の生息・生育環境の保全活動を行う』、『15.事業活動全般を通して生態系の保全に配慮する』である。(回答者数が10件未満の業種は差の分析対象含まない)

【ごみの減量】

- 『16.ペーパーレス化を推進する』、『20.文房具等の消耗品を節約する』について「11.宿泊業・飲食サービス業」で取り組んでいる割合が低い傾向が示された。『18.自社で取り扱う製品などの簡易包装化に取り組む』については「2.建設業」、「12.その他サービス業」、「13.教育、学習支援業」、「14.医療・福祉」で取り組んでいる割合が低い傾向が示された。
- 『17.古紙分別を行い、資源化している』、『19.事務所内で発生する食べ残しや調理くずなどの食品ごみを削減する』について業種による取組状況の傾向は見られない。

		問1 環境に関連する取組状況											
		緑・生き物											
		合計		11. 水辺や緑の保全活動に参加する		12. 花や木の苗を敷地内に植える		13. 敷地内で外来植物を見つけた際は駆除する		14. 地域の生物の生息・生育環境の保全活動を行う		15. 事業活動全般を通して生態系の保全に配慮する	
		取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない
問12業種	1. 農業、林業、漁業	(n=4)	66.7%	33.3%	66.7%	33.3%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	2. 建設業	(n=33)	56.0%	44.0%	86.2%	13.8%	67.9%	32.1%	52.0%	48.0%	68.0%	32.0%	
	3. 鉱業、採石業、砂利採取業	(n=1)	-	-	100.0%	0.0%	-	-	-	-	-	-	-
	4. 製造業	(n=49)	63.0%	37.0%	83.3%	16.7%	59.0%	41.0%	43.9%	56.1%	65.2%	34.8%	
	5. 電気・ガス・熱供給・水道業	(n=2)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%	100.0%	0.0%	
	6. 情報通信業	(n=1)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	7. 運輸業・郵便業	(n=6)	50.0%	50.0%	75.0%	25.0%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%	33.3%	66.7%	
	8. 卸売業・小売業	(n=27)	47.6%	52.4%	75.0%	25.0%	65.0%	35.0%	11.8%	88.2%	40.0%	60.0%	
	9. 金融業・保険業	(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	10. 不動産業、物品賃貸業	(n=1)	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	
	11. 宿泊業・飲食サービス業	(n=12)	57.1%	42.9%	90.9%	9.1%	66.7%	33.3%	37.5%	62.5%	42.9%	57.1%	
	12. その他サービス業	(n=29)	52.4%	47.6%	85.7%	14.3%	70.0%	30.0%	47.4%	52.6%	50.0%	50.0%	
	13. 教育、学習支援業	(n=10)	55.6%	44.4%	90.0%	10.0%	40.0%	60.0%	60.0%	40.0%	55.6%	44.4%	
	14. 医療・福祉	(n=26)	26.3%	73.7%	100.0%	0.0%	60.0%	40.0%	13.3%	86.7%	23.5%	76.5%	
	15. その他 ()	(n=12)	50.0%	50.0%	66.7%	33.3%	80.0%	20.0%	50.0%	50.0%	60.0%	40.0%	

		問1 環境に関連する取組状況											
		ごみの減量											
		合計		16. ペーパーレス化を推進する		17. 古紙分別を行い、資源化している		18. 自社で取り扱う製品などの簡易包装化に取り組む		19. 事務所内で発生する食べ残しや調理くずなどの食品ごみを削減する		20. 文房具等の消耗品を節約する	
		取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない
問12業種	1. 農業、林業、漁業	(n=4)	66.7%	33.3%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%	100.0%	0.0%	
	2. 建設業	(n=33)	93.8%	6.3%	100.0%	0.0%	70.6%	29.4%	100.0%	0.0%	93.5%	6.5%	
	3. 鉱業、採石業、砂利採取業	(n=1)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	4. 製造業	(n=49)	100.0%	0.0%	95.7%	4.3%	89.5%	10.5%	85.7%	14.3%	93.9%	6.1%	
	5. 電気・ガス・熱供給・水道業	(n=2)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%	100.0%	0.0%	
	6. 情報通信業	(n=1)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	-	-	-	-	100.0%	0.0%	
	7. 運輸業・郵便業	(n=6)	83.3%	16.7%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	83.3%	16.7%	
	8. 卸売業・小売業	(n=27)	100.0%	0.0%	96.2%	3.8%	84.0%	16.0%	90.9%	9.1%	88.9%	11.1%	
	9. 金融業・保険業	(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	10. 不動産業、物品賃貸業	(n=1)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	11. 宿泊業・飲食サービス業	(n=12)	72.7%	27.3%	88.9%	11.1%	87.5%	12.5%	100.0%	0.0%	80.0%	20.0%	
	12. その他サービス業	(n=29)	92.9%	7.1%	92.6%	7.4%	76.5%	23.5%	85.0%	15.0%	92.9%	7.1%	
	13. 教育、学習支援業	(n=10)	90.0%	10.0%	100.0%	0.0%	66.7%	33.3%	66.7%	33.3%	80.0%	20.0%	
	14. 医療・福祉	(n=26)	88.5%	11.5%	95.8%	4.2%	75.0%	25.0%	95.0%	5.0%	96.2%	3.8%	
	15. その他 ()	(n=12)	87.5%	12.5%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	87.5%	12.5%	

凡例 取り組んでいる：「1.積極的に取り組んでいる」または「2.少し取り組んでいる」

取り組んでいない：「3.あまり取り組んでいない」または「4.まったく取り組んでいない」 * 「無回答」を除く

結果概要

【その他】

- 『21.地域の美化活動へ参加する』、『24.グリーン購入を進める』について「11.宿泊業・飲食サービス業」で取り組んでいる割合が高く、「14.医療・福祉」で取り組んでいる割合が低い傾向が示された。
- 『22.大気水質の保全、騒音や振動の発生を抑制する』については「11.宿泊業・飲食サービス業」で取り組んでいる割合が低い。
- 『23.地域の景観を損なわないように広告物や看板設置の際に配慮する』について「14.医療・福祉」で取り組んでいる割合が高く、「11.宿泊業・飲食サービス業」で取り組んでいる割合が低い傾向が示された。
- 『24.グリーン購入を進める』について「4.製造業」で取り組んでいる割合が高く、「14.医療・福祉」で取り組んでいる割合が低い傾向が示された。

		問1 環境に関連する取組状況								
		その他								
		21. 地域の美化活動へ参加する		22. 大気水質の保全、騒音や振動の発生を抑制する		23. 地域の景観を損なわないように広告物や看板設置の際に配慮する		24. グリーン購入を進める		
		取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	
問 1 2 業 種	1. 農業、林業、漁業	(n=4)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	66.7%	33.3%	66.7%	33.3%
	2. 建設業	(n=33)	86.2%	13.8%	89.3%	10.7%	81.0%	19.0%	79.3%	20.7%
	3. 鉱業、採石業、砂利採取業	(n=1)	-	-	100.0%	0.0%	-	-	-	-
	4. 製造業	(n=49)	83.3%	16.7%	97.9%	2.1%	88.2%	11.8%	83.0%	17.0%
	5. 電気・ガス・熱供給・水道業	(n=2)	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%
	6. 情報通信業	(n=1)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	7. 運輸業・郵便業	(n=6)	83.3%	16.7%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%
	8. 卸売業・小売業	(n=27)	72.0%	28.0%	84.2%	15.8%	83.3%	16.7%	52.4%	47.6%
	9. 金融業・保険業	(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-
	10. 不動産業、物品賃貸業	(n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	11. 宿泊業・飲食サービス業	(n=12)	87.5%	12.5%	42.9%	57.1%	75.0%	25.0%	57.1%	42.9%
	12. その他サービス業	(n=29)	72.7%	27.3%	88.9%	11.1%	84.2%	15.8%	58.8%	41.2%
	13. 教育、学習支援業	(n=10)	70.0%	30.0%	75.0%	25.0%	75.0%	25.0%	80.0%	20.0%
	14. 医療・福祉	(n=26)	59.1%	40.9%	60.0%	40.0%	90.5%	9.5%	25.0%	75.0%
	15. その他 ()	(n=12)	66.7%	33.3%	60.0%	40.0%	100.0%	0.0%	60.0%	40.0%

凡例 取り組んでいる：「1.積極的に取り組んでいる」または「2.少し取り組んでいる」

取り組んでいない：「3.あまり取り組んでいない」または「4.まったく取り組んでいない」 * 「無回答」を除く

(2) 再エネ導入促進エリアの設定重要度と再エネ電力調達状況の関係 (問4×問10 6.のクロス集計)

結果概要

- 市の施策において『6.再生可能エネルギーの導入促進エリアの設定』を重要視する事業者は再エネ電力の調達状況について『2.今後、再エネ電力の調達を予定している』割合が10.0%と重要視しない事業者よりも高い結果となった。

			合計	問4 再エネ電力調達状況			
				1. 既に再エネ電力を調達している	2. 今後、再エネ電力の調達を予定している	3. 関心はあるが、予定はない	4. 関心もなく、予定もない
問10 市の施策重要度	6. 再生可能エネルギーの導入促進エリアの設定	重要	(n=104)	33.0%	10.0%	37.0%	20.0%
		重要ではない	(n=108)	17.8%	2.8%	35.5%	43.9%

凡例 重要である：「1.非常に重要」または「2.やや重要」

重要ではない：「3.普通」、「4.あまり重要ではない」または「5.重要でない」 * 「無回答」を除く

(3) 業種と気候変動影響の状況の関係 (問6×問12のクロス集計)

結果概要

- 『1.自然条件の変化による顧客のニーズの変化』、『8.気候変化による太陽光・風力発電量の変化』、『12.自然災害の頻発化に伴う地域とのつながりの希薄化(地域行事や地域貢献活動の中止による地域との良好な関係維持のための機会の損失等)』については「4.製造業」において他業種と比較して「影響を受けていると強く感じている」割合が高い。
- 『2.高温による従業員の熱中症の増加、作業効率の低下』、『11.洪水、内水氾濫による浸水被害』については「2.建設業」において他業種と比較して「影響を受けていると強く感じている」割合が高い。
- 「11.宿泊業・飲食サービス業」と「12.その他サービス業」は気候変動の「影響を受けていると強く感じている」項目が類似しており、『3.高温による設備効率の低下(電子機器や冷房設備等)』、『4.蚊などが媒介する感染症(デング熱等)リスクの増加(従業員の感染、感染拡大による医療機関の逼迫等)』、『6.自然条件の変化による観光資源の消滅・減少』、『7.渇水による水資源利用可能量の低下』、『9.農作物や水産資源など原材料の品質・収量低下』、『11.洪水、内水氾濫による浸水被害』の割合が他業種よりも高い傾向が示された。

		問6 気候変動影響																	
業種	合計	1. 自然条件の変化による顧客のニーズの変化			2. 高温による従業員の熱中症の増加、作業効率の低下			3. 高温による設備効率の低下(電子機器や冷房設備等)			4. 蚊などが媒介する感染症(デング熱等)リスクの増加(従業員の感染、感染拡大による医療機関の逼迫等)			5. 自然災害による事業活動への影響(豪雨や台風による営業停止、物流機能の停止等)			6. 自然条件の変化による観光資源の消滅・減少		
		影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない	影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない	影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない	影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない	影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない	影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない
問12	1. 農業、林業、漁業 (n=4)	0.0%	100.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	66.7%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%
	2. 建設業 (n=33)	25.0%	59.4%	15.6%	68.8%	31.3%	0.0%	21.9%	68.8%	9.4%	9.4%	31.3%	59.4%	50.0%	40.6%	9.4%	15.6%	31.3%	53.1%
	3. 鉱業、採石業、砂利採取業 (n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	4. 製造業 (n=49)	42.9%	40.8%	16.3%	61.2%	32.7%	6.1%	47.9%	47.9%	4.2%	2.0%	32.7%	65.3%	57.1%	38.8%	4.1%	6.1%	24.5%	69.4%
	5. 電気・ガス・熱供給・水道業 (n=2)	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	6. 情報通信業 (n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	7. 運輸業・郵便業 (n=6)	33.3%	50.0%	16.7%	66.7%	33.3%	0.0%	50.0%	33.3%	16.7%	0.0%	33.3%	66.7%	83.3%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	83.3%
	8. 卸売業・小売業 (n=27)	29.6%	48.1%	22.2%	37.0%	55.6%	7.4%	40.7%	37.0%	22.2%	3.7%	25.9%	70.4%	48.1%	48.1%	3.7%	3.7%	33.3%	63.0%
	9. 金融業・保険業 (n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	10. 不動産業、物品賃貸業 (n=1)	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	11. 宿泊業・飲食サービス業 (n=12)	33.3%	25.0%	41.7%	58.3%	16.7%	25.0%	58.3%	33.3%	8.3%	16.7%	16.7%	66.7%	75.0%	25.0%	0.0%	41.7%	16.7%	41.7%
	12. その他サービス業 (n=29)	34.5%	41.4%	24.1%	51.7%	41.4%	6.9%	55.2%	34.5%	10.3%	21.4%	32.1%	46.4%	55.2%	41.4%	3.4%	21.4%	39.3%	39.3%
	13. 教育、学習支援業 (n=10)	20.0%	30.0%	50.0%	40.0%	50.0%	10.0%	50.0%	40.0%	10.0%	10.0%	20.0%	70.0%	20.0%	70.0%	10.0%	0.0%	30.0%	70.0%
	14. 医療・福祉 (n=26)	11.5%	34.6%	53.8%	38.5%	30.8%	30.8%	30.8%	30.8%	61.5%	7.7%	38.5%	53.8%	38.5%	42.3%	19.2%	3.8%	11.5%	84.6%
	15. その他 () (n=12)	12.5%	25.0%	62.5%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	37.5%	12.5%	0.0%	37.5%	62.5%	75.0%	12.5%	12.5%	0.0%	25.0%	75.0%

		問6 気候変動影響																	
業種	合計	7. 渇水による水資源利用可能量の低下			8. 気候変化による太陽光・風力発電量の変化			9. 農作物や水産資源など原材料の品質・収量低下			10. 里地・里山や河川における生態系の変化、外来種生物の増加			11. 洪水、内水氾濫による浸水被害			12. 自然災害の頻発化に伴う地域とのつながりの希薄化(地域行事や地域貢献活動の中止による地域との良好な関係維持のための機会の損失等)		
		影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない	影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない	影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない	影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない	影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない	影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない
問12	1. 農業、林業、漁業 (n=4)	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	66.7%	33.3%	33.3%	66.7%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%
	2. 建設業 (n=33)	6.3%	43.8%	50.0%	6.3%	43.8%	50.0%	21.9%	28.1%	50.0%	9.4%	37.5%	53.1%	21.9%	50.0%	28.1%	9.4%	46.9%	43.8%
	3. 鉱業、採石業、砂利採取業 (n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	4. 製造業 (n=49)	10.2%	28.6%	61.2%	18.4%	40.8%	40.8%	16.3%	30.6%	53.1%	8.2%	26.5%	65.3%	18.4%	46.9%	34.7%	14.3%	30.6%	55.1%
	5. 電気・ガス・熱供給・水道業 (n=2)	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	6. 情報通信業 (n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	7. 運輸業・郵便業 (n=6)	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	33.3%	66.7%	16.7%	16.7%	66.7%	0.0%	33.3%	66.7%	33.3%	16.7%	50.0%	16.7%	0.0%	83.3%
	8. 卸売業・小売業 (n=27)	7.4%	18.5%	74.1%	3.7%	33.3%	63.0%	25.9%	29.6%	44.4%	7.4%	29.6%	63.0%	18.5%	25.9%	55.6%	3.7%	33.3%	63.0%
	9. 金融業・保険業 (n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	10. 不動産業、物品賃貸業 (n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	11. 宿泊業・飲食サービス業 (n=12)	16.7%	33.3%	50.0%	0.0%	16.7%	83.3%	50.0%	50.0%	0.0%	25.0%	8.3%	66.7%	16.7%	25.0%	58.3%	8.3%	41.7%	50.0%
	12. その他サービス業 (n=29)	10.7%	46.4%	42.9%	3.6%	28.6%	67.9%	21.4%	46.4%	32.1%	3.6%	60.7%	35.7%	20.7%	48.3%	31.0%	14.3%	28.6%	57.1%
	13. 教育、学習支援業 (n=10)	10.0%	20.0%	70.0%	0.0%	30.0%	70.0%	10.0%	50.0%	40.0%	10.0%	50.0%	40.0%	10.0%	40.0%	50.0%	0.0%	30.0%	70.0%
	14. 医療・福祉 (n=26)	7.7%	30.8%	61.5%	11.5%	11.5%	76.9%	11.5%	19.2%	69.2%	3.8%	11.5%	84.6%	19.2%	38.5%	42.3%	11.5%	46.2%	42.3%
	15. その他 () (n=12)	12.5%	25.0%	62.5%	0.0%	50.0%	50.0%	50.0%	12.5%	37.5%	0.0%	25.0%	75.0%	12.5%	37.5%	50.0%	25.0%	25.0%	50.0%

凡例 満足している：「1.非常に満足」または「2.やや満足」

不満足である：「3.どちらともいえない」、「4.やや不満足」または「5.非常に不満足」*「6.わからない」「無回答」を除く

3.3.1 指標・経年比較

以下に経年比較・指標の算定結果を示す。

指標値「環境に関連する取組を行っている事業者の割合」は令和6年度において平成28年度、令和2年度から大きく向上した。要因として、後述の経年比較分析のとおり「1.積極的に取り組んでいる」の割合が大きく向上しているためである。全事業者の状況を把握するための回答数（約380件）を得られておらず（213件）、取組意識の高い事業者の割合が高いことが影響していると考えられる。

（事業者の指標一覧）

項目	内容	H28年度	R2年度	R6年度	比較
環境に関連する取組を行っている事業者の割合	環境取組項目のうち、過半数で「1.積極的に取り組んでいる」又は「2.少し取り組んでいる」と回答した事業者の割合	35.5%	30.6%	※51.2%	↗

※過年度実施時アンケートと同じ項目（1～4、11、4～19、21～24）のみでの算定結果。全項目では67.1%となる。

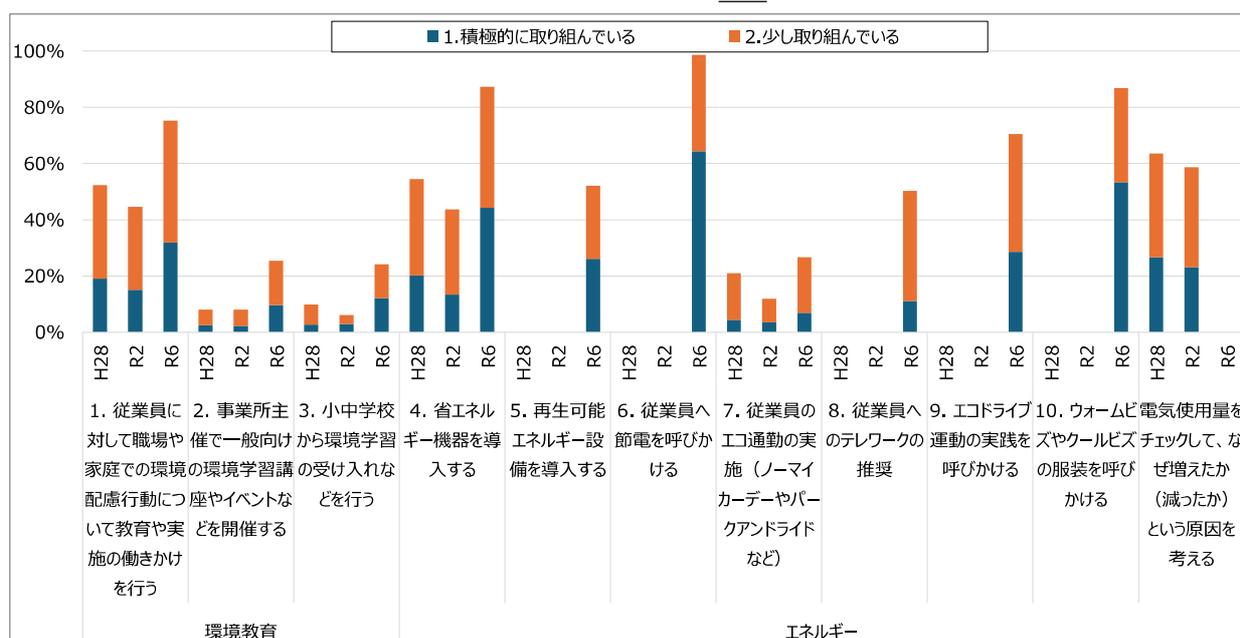
（経年比較）

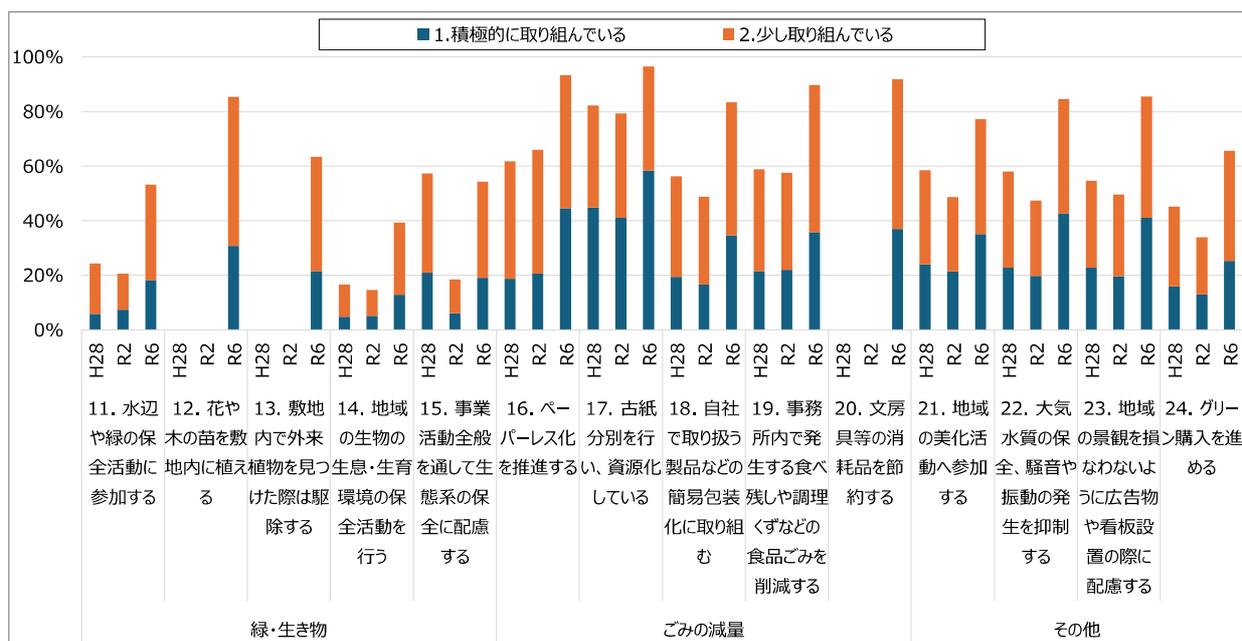
過年度に実施されたアンケート調査との経年比較については設問項目の変更等による影響が含まれる可能性があることに留意が必要である。

環境全般について

貴事業所における環境に関連する取組状況について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。また、「3取り組んでいないがこれから取り組むつもりである」または「4今のところ取り組むつもりはない」を回答された場合は、その理由を下表の【理由の選択肢】のア～エのうち最も当てはまるものを1つ選んで、記入してください。

【問1】





結果概要

【環境教育】

- ・ いずれの項目も令和6年度において「1.積極的に取り組んでいる」の割合が最も高い結果となった。

【エネルギー】

- ・ 比較可能な『4.省エネルギー機器を導入する』、『7.従業員のエコ通勤の実施（ノーマイカーデーやパークアンドライドなど）』ともに令和6年度において「1.積極的に取り組んでいる」の割合が最も高い結果となった。

【緑・生き物】

- ・ 『11.水辺や緑の保全活動に参加する』、『14.地域の生物の生息・生育環境の保全活動を行う』については令和6年度において「1.積極的に取り組んでいる」の割合が最も高い結果となった。『15.事業活動全般を通して生態系の保全に配慮する』については平成28年度において「1.積極的に取り組んでいる」の割合が最も高い結果となった。

【ごみの減量】

- ・ いずれの項目も令和6年度において「1.積極的に取り組んでいる」の割合が最も高い結果となった。

【その他】

- ・ いずれの項目も令和6年度において「1.積極的に取り組んでいる」の割合が最も高い結果となった。

【全般】

- ・ 『15.事業活動全般を通して生態系の保全に配慮する』以外の比較可能なすべての項目について、令和6年度において「1.積極的に取り組んでいる」の割合が最も高い結果となっており、事業者の取組が進んでいることが示唆される。

4. 小中高生向けアンケート集計結果

アンケート調査の結果

4.1 結果の概要

小中高生向けアンケート結果の概要を表 3 に示す。

表 3 小中高生向けアンケート結果概要

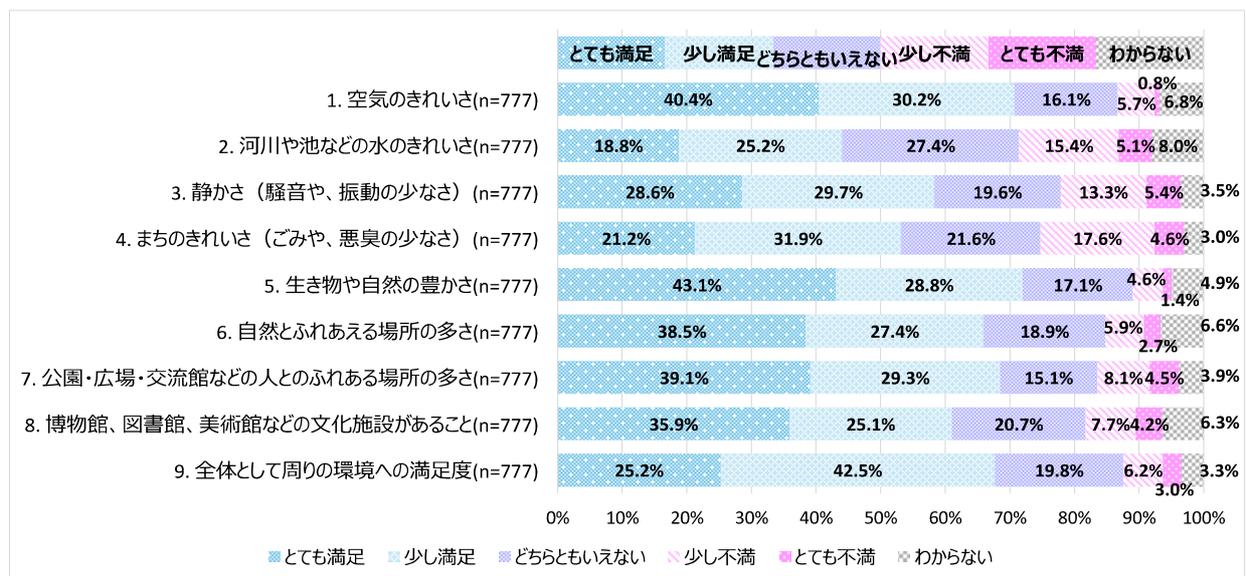
結果概要
<p>【周辺環境の満足度について】</p> <p>➤ 『5.生き物や自然の豊かさ』の満足度は「1.とても満足」が43.1%と最も高い結果となった。一方、『3.静かさ（騒音や、振動の少なさ）』は「5.とても不満」が5.4%と最も不満度が高い結果となった。【問1】</p>
<p>【環境に関する取組状況について】</p> <p>➤ 「1.取り組んでいる」回答率は『4.ごみのポイ捨てをしない』が91.0%と最も高く、『12.ごみ拾いなどの環境に関するボランティア活動に参加する』が11.3%と最も低い結果となった。【問2】</p> <p>・ 取り組まない理由については、ほとんどの項目において「イ.そのような取組は行うのがめんどろである」回答率が高かった。</p>
<p>【環境に関する問題の認知度について】</p> <p>➤ 「1.言葉の意味も含めて知っている」と回答した割合が最も高い項目は『5.食品ロス』（90.7%）となった。</p> <p>➤ 一方、「4.聞いたことがない」と回答した割合が最も高い項目は『4.生物多様性が失われる』（16.0%）となった。【問3】</p>
<p>【市に優先して取り組んでほしい取組について】</p> <p>➤ 回答した割合が高い項目は『1.まちや川、海が汚れることを防ぐ』（19.6%）、『4.地球温暖化防止に取り組む』（17.3%）となった。</p> <p>➤ 一方、回答数が少ない項目は『3.工場の騒音、建設作業の騒音、車や電車などの交通騒音を防ぐ』（8.3%）、『6.公園や水辺など自然とふれあえる場所や、身近な自然を作る』（11.6%）となった。【問4】</p>

4.2 単純集計結果

以下に問1～問5の結果を示す。

【問1】 家の周りの環境について、どのくらい満足していますか。1～9についてそれぞれの満足度として最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

上段:度数 下段: %	合計	とても満足	少し満足	どちらともいえない	少し不満	とても不満	わからない
1. 空気のきれいさ	777	314	235	125	44	6	53
	100.0%	40.4%	30.2%	16.1%	5.7%	0.8%	6.8%
2. 河川や池などの水のきれいさ	777	146	196	213	120	40	62
	100.0%	18.8%	25.2%	27.4%	15.4%	5.1%	8.0%
3. 静かさ（騒音や、振動の少なさ）	777	222	231	152	103	42	27
	100.0%	28.6%	29.7%	19.6%	13.3%	5.4%	3.5%
4. まちのきれいさ（ごみや、悪臭の少なさ）	777	165	248	168	137	36	23
	100.0%	21.2%	31.9%	21.6%	17.6%	4.6%	3.0%
5. 生き物や自然の豊かさ	777	335	224	133	36	11	38
	100.0%	43.1%	28.8%	17.1%	4.6%	1.4%	4.9%
6. 自然とふれあえる場所の多さ	777	299	213	147	46	21	51
	100.0%	38.5%	27.4%	18.9%	5.9%	2.7%	6.6%
7. 公園・広場・交流館などの人とのふれあがある場所の多さ	777	304	228	117	63	35	30
	100.0%	39.1%	29.3%	15.1%	8.1%	4.5%	3.9%
8. 博物館、図書館、美術館などの文化施設があること	777	279	195	161	60	33	49
	100.0%	35.9%	25.1%	20.7%	7.7%	4.2%	6.3%
9. 全体として周りの環境への満足度	777	196	330	154	48	23	26
	100.0%	25.2%	42.5%	19.8%	6.2%	3.0%	3.3%



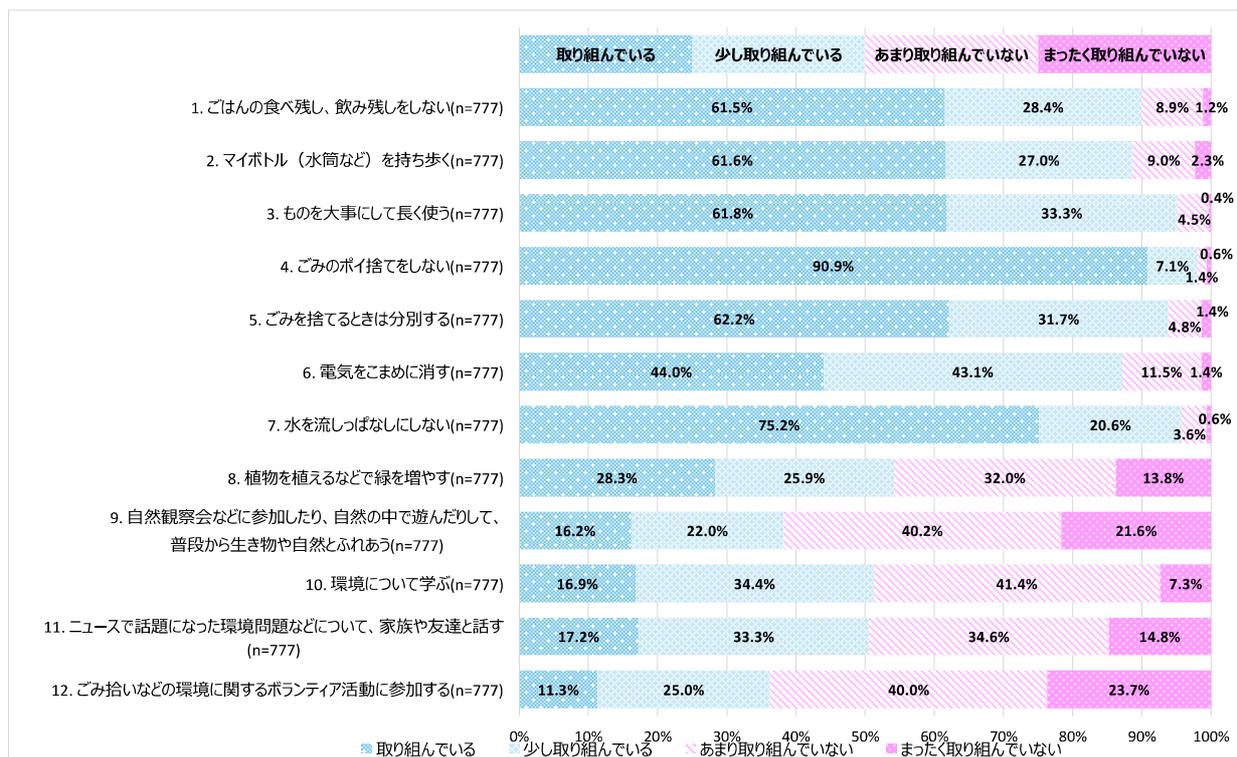
問1の結果概要

- 『5.生き物や自然の豊かさ』の満足度は「1.とても満足」が43.1%と最も高い結果となった。一方、『3.静かさ（騒音や、振動の少なさ）』は「5.とても不満」が5.4%と最も不満度が高い結果となった。

- 「1.とても満足」と「2.少し満足」の合計値は『5.生き物や自然の豊かさ』が72.0%と最も高く、「5.とても不満」と「4.少し不満」の合計値は『4.まちのきれいさ（ごみや、悪臭の少なさ）』が22.2%と最も高いことが示された。
- 『9.全体として周辺環境への満足度』は「1.とても満足」と「2.少し満足」の合計値が67.8%と小中高生以外の市民における満足度（54.6%）より高い結果となった。

【問2】 あなたの家庭ではよりよい環境づくりについて、普段どのようなことを行っていますか。最も当てはまるものを1つ選んでください。

上段:度数 下段: %	合計	取り組んでいる	少し取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない
1. ごはんの食べ残し、飲み残しをしない	777	478	221	69	9
	100.0%	61.5%	28.4%	8.9%	1.2%
2. マイボトル（水筒など）を持ち歩く	777	479	210	70	18
	100.0%	61.6%	27.0%	9.0%	2.3%
3. ものを大事にして長く使う	777	480	259	35	3
	100.0%	61.8%	33.3%	4.5%	0.4%
4. ごみのポイ捨てをしない	777	706	55	11	5
	100.0%	90.9%	7.1%	1.4%	0.6%
5. ごみを捨てる時は分別する	777	483	246	37	11
	100.0%	62.2%	31.7%	4.8%	1.4%
6. 電気をこまめに消す	777	342	335	89	11
	100.0%	44.0%	43.1%	11.5%	1.4%
7. 水を流しっぱなしにしない	777	584	160	28	5
	100.0%	75.2%	20.6%	3.6%	0.6%
8. 植物を植えるなどで緑を増やす	777	220	201	249	107
	100.0%	28.3%	25.9%	32.0%	13.8%
9. 自然観察会などに参加したり、自然の中で遊んだりして、普段から生き物や自然とふれあう	777	126	171	312	168
	100.0%	16.2%	22.0%	40.2%	21.6%
10. 環境について学ぶ	777	131	267	322	57
	100.0%	16.9%	34.4%	41.4%	7.3%
11. ニュースで話題になった環境問題などについて、家族や友達と話す	777	134	259	269	115
	100.0%	17.2%	33.3%	34.6%	14.8%
12. ごみ拾いなどの環境に関するボランティア活動に参加する	777	88	194	311	184
	100.0%	11.3%	25.0%	40.0%	23.7%

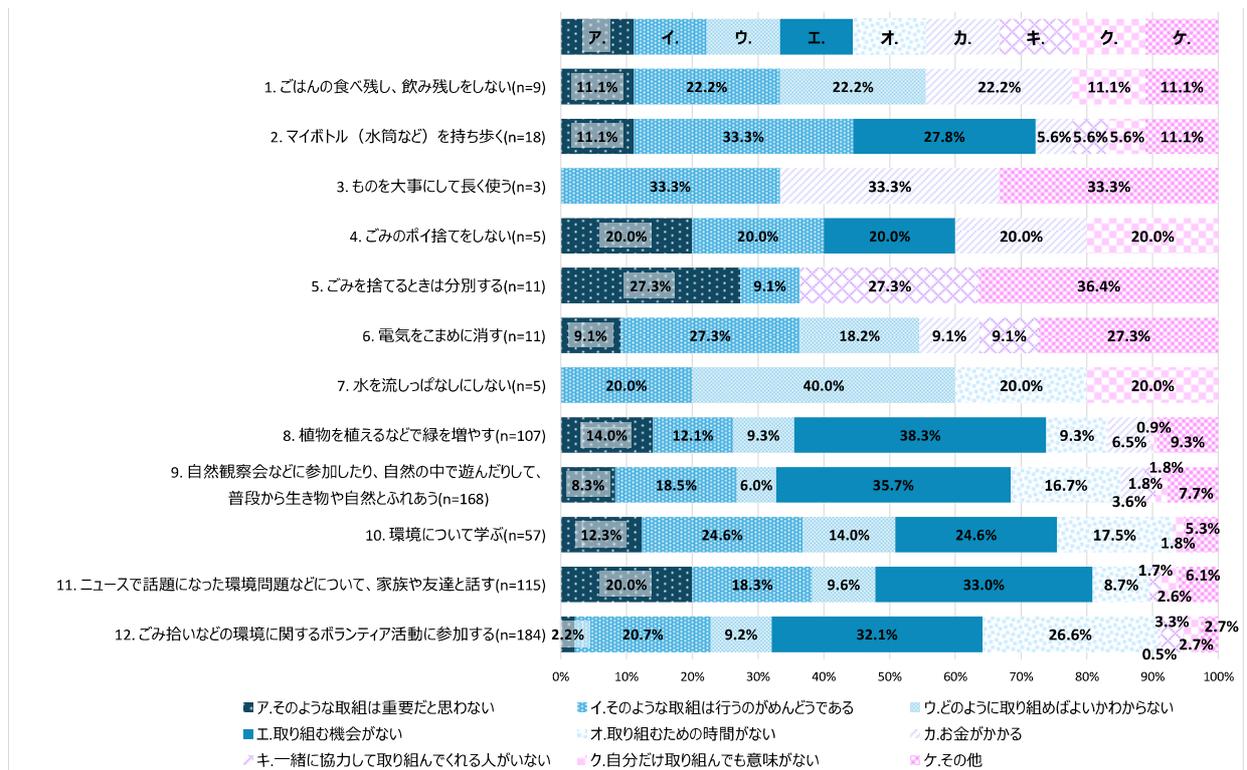


問 2 の結果概要

- 「1.取り組んでいる」回答率は『4.ごみのポイ捨てをしない』が 91.0%と最も高く、『12.ごみ拾いなどの環境に関するボランティア活動に参加する』が 11.3%と最も低い結果となった。
- 「1.取り組んでいる」、「2.少し取り組んでいる」の合計値についても『4.ごみのポイ捨てをしない』が 98.1%と最も高く、『12.ごみ拾いなどの環境に関するボランティア活動に参加する』が 36.3%と最も低い結果となった。
- 一方、「4.まったく取り組んでいない」回答率は『9.自然観察会などに参加したり、自然の中で遊んだりして、普段から生き物や自然とふれあう』が 21.5%と最も高い結果となった。

「まったく取り組んでいない」を回答した場合の理由

上段:度数 下段: %	合計	そのような取組は重要だと思わない	そのような取組は行うのがめんどろである	どのように取り組めばよいかわからない	取り組む機会がない	取り組むための時間がない	お金がかかる	一緒に協力して取り組んでくれる人がいない	自分だけ取り組んでも意味がない	その他
1. ごはんの食べ残し、飲み残しをしない	9	1	2	2	0	0	2	0	1	1
	100.0%	11.1%	22.2%	22.2%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	11.1%	11.1%
2. マイボトル（水筒など）を持ち歩く	18	2	6	0	5	0	1	1	1	2
	100.0%	11.1%	33.3%	0.0%	27.8%	0.0%	5.6%	5.6%	5.6%	11.1%
3. ものを大事にして長く使う	3	0	1	0	0	0	1	0	0	1
	100.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%
4. ごみのポイ捨てをしない	5	1	1	0	1	0	1	0	1	0
	100.0%	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%
5. ごみを捨てるときは分別する	11	3	1	0	0	0	0	3	0	4
	100.0%	27.3%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	27.3%	0.0%	36.4%
6. 電気をこまめに消す	11	1	3	2	0	0	1	1	0	3
	100.0%	9.1%	27.3%	18.2%	0.0%	0.0%	9.1%	9.1%	0.0%	27.3%
7. 水を流しっぱなしにしない	5	0	1	2	0	1	0	0	1	0
	100.0%	0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%
8. 植物を植えるなどで緑を増やす	107	15	13	10	41	10	7	0	1	10
	100.0%	14.0%	12.1%	9.3%	38.3%	9.3%	6.5%	0.0%	0.9%	9.3%
9. 自然観察会などに参加したり、自然の中で遊んだりして、普段から生き物や自然とふれあう	168	14	31	10	60	28	6	3	3	13
	100.0%	8.3%	18.5%	6.0%	35.7%	16.7%	3.6%	1.8%	1.8%	7.7%
10. 環境について学ぶ	57	7	14	8	14	10	0	0	1	3
	100.0%	12.3%	24.6%	14.0%	24.6%	17.5%	0.0%	0.0%	1.8%	5.3%
11. ニュースで話題になった環境問題などについて、家族や友達と話す	115	23	21	11	38	10	0	2	3	7
	100.0%	20.0%	18.3%	9.6%	33.0%	8.7%	0.0%	1.7%	2.6%	6.1%
12. ごみ拾いなどの環境に関するボランティア活動に参加する	184	4	38	17	59	49	1	6	5	5
	100.0%	2.2%	20.7%	9.2%	32.1%	26.6%	0.5%	3.3%	2.7%	2.7%

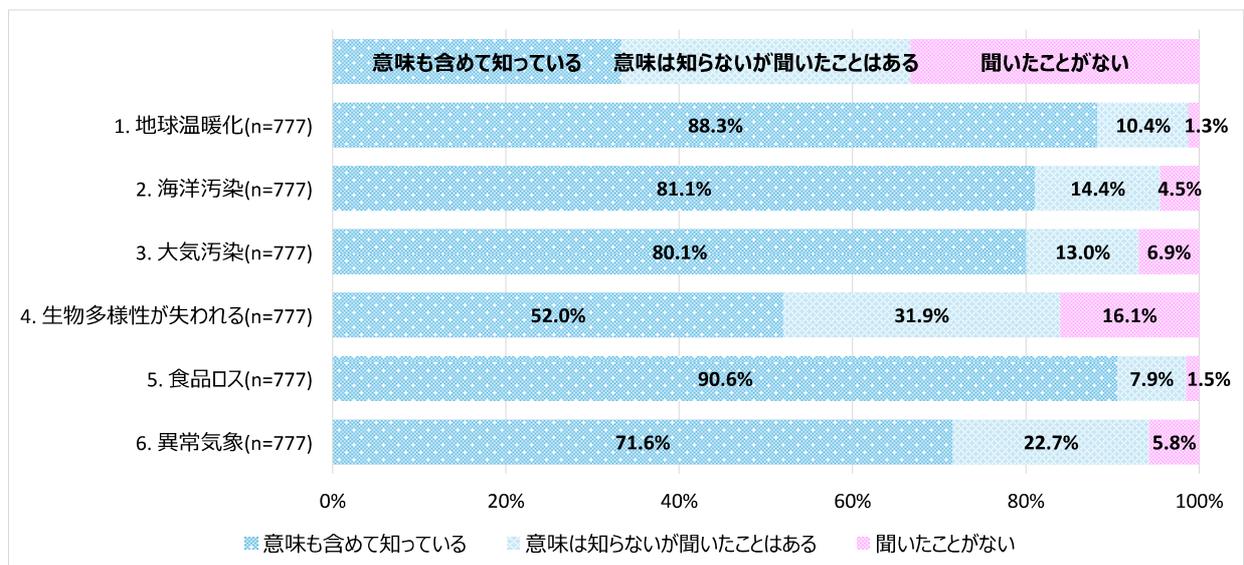


問2の結果概要

- ほとんどの項目において「I.そのような取組は行うのがめんどろである」回答率が高かった。
- 特に取組の進んでいない『9.自然観察会などに参加したり、自然の中で遊んだりして、普段から生き物や自然とふれあう』、『11.ニュースで話題になった環境問題などについて、家族や友達と話す』はいずれも「I.そのような取組は行うのがめんどろである」が30%以上となった。

【問3】 環境に関する問題について、あなたはどのくらい知っていますか。1～6についてそれぞれ最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

上段:度数 下段: %	合計	意味も含めて知っている	意味は知らないが聞いたことはある	聞いたことがない
1. 地球温暖化	777	686	81	10
	100.0%	88.3%	10.4%	1.3%
2. 海洋汚染	777	630	112	35
	100.0%	81.1%	14.4%	4.5%
3. 大気汚染	777	622	101	54
	100.0%	80.1%	13.0%	6.9%
4. 生物多様性が失われる	777	404	248	125
	100.0%	52.0%	31.9%	16.1%
5. 食品ロス	777	704	61	12
	100.0%	90.6%	7.9%	1.5%
6. 異常気象	777	556	176	45
	100.0%	71.6%	22.7%	5.8%

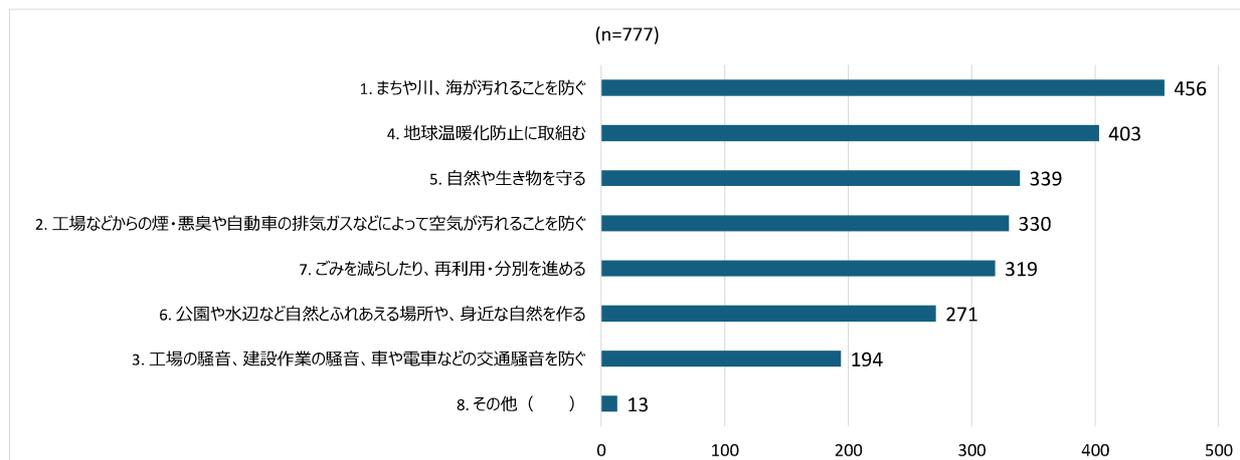


問3の結果概要

- 環境に関する問題について「1.言葉の意味も含めて知っている」と回答した割合が最も高い項目は『5.食品ロス』(90.7%)となった。
- 一方、「4.聞いたことがない」と回答した割合が最も高い項目は『4.生物多様性が失われる』(16.0%)となった。

【問 4】 よりよい環境をつくり守るために、豊田市にはどのようなことに優先して取り組んでほしいと思いますか。次の中から、当てはまるものを3つ選んでください。

	回答数	割合
1. まちや川、海が汚れることを防ぐ	456	19.6%
4. 地球温暖化防止に取り組む	403	17.3%
5. 自然や生き物を守る	339	14.6%
2. 工場などからの煙・悪臭や自動車の排気ガスなどによって空気が汚れることを防ぐ	330	14.2%
7. ごみを減らしたり、再利用・分別を進める	319	13.7%
6. 公園や水辺など自然とふれあえる場所や、身近な自然を作る	271	11.7%
3. 工場の騒音、建設作業の騒音、車や電車などの交通騒音を防ぐ	194	8.3%
8. その他（ ）	13	0.6%
合計	2325	
有効回答数	777	



問 4 の結果概要

- ・ 回答した割合が高い項目は『1.まちや川、海が汚れることを防ぐ』（19.6%）、『4.地球温暖化防止に取り組む』（17.3%）となった。
- ・ 一方、回答数が少ない項目は『3.工場の騒音、建設作業の騒音、車や電車などの交通騒音を防ぐ』（8.3%）、『6.公園や水辺など自然とふれあえる場所や、身近な自然を作る』（11.6%）となった。

【問5】 豊田市の環境について、率直に思っていることやご意見を書いてください。

結果（原文まま、抜粋）

- ・ 豊田市は森や川などの自然が豊かだけでもっと増やしてほしい
- ・ これからもポイ捨てしてる子がいたら優しく教えてあげるようにしたいから自分もポイ捨てをしないようにしたいです。
- ・ 工場が多いから空気が心配
- ・ 自然がいっぱいあってうれしい。
- ・ 工事とか車の音とかが少しうるさい
- ・ 僕は、豊田市運動公園「猿投公園」でゴミを拾っている人を見かけたことがあるのでこれからもその人たちには、続けてほしいし、僕もゴミを拾うなどかんきょうに優しいことをしたいなと思います。
- ・ 今知っておけば将来役に立つと思う。
- ・ 大人は移動する時に近くでも車を使っている。
- ・ 近かったら歩いたり自転車で行って欲しい。
- ・ 電灯がなくて、通る時にくらい道がある。ボランティア活動が多い。
- ・ バイクなど車の音がうるさい。
- ・ 交流館のように、勉強スペースを増やしてほしい。"
- ・ 改善の機会があるとしたら、未来想像力をもっと高めてほしい
- ・ 環境問題を知らない人が多いと思うので、みんなが知れる機会を設けてほしい。
- ・ 学ぶ機会がほしい
- ・ 公園の数が多く、人と触れ合いやすい。
- ・ 学校で自然や環境を勉強する機会があまりなかったの、もっと学ぶ機会を増やして欲しいです。

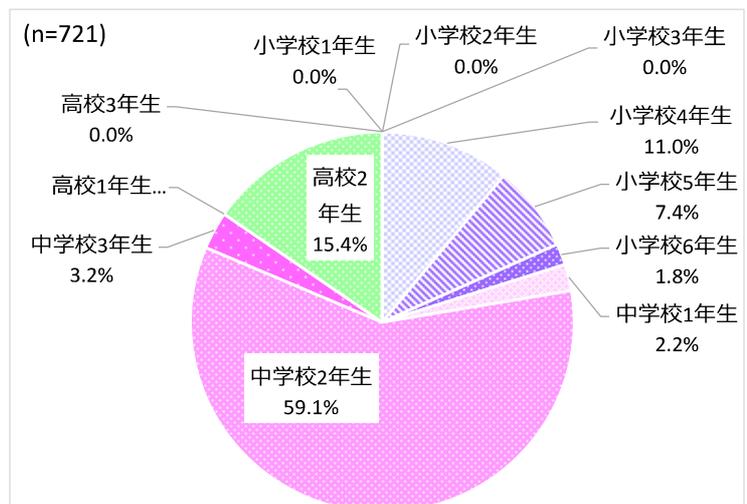
問5の結果概要

- ・ ごみのポイ捨てや環境美化活動、周辺環境に関する問題意識や関心を示す意見が多い結果となった。
- ・ 環境学習を希望する意見についても多い結果となった。

【問】 学年を入力してください。

例(れい)：1年

	回答数	割合
小学校1年	0	0.0%
小学校2年	1	0.1%
小学校3年	0	0.0%
小学校4年	79	11.0%
小学校5年	53	7.4%
小学校6年	13	1.8%
中学校1年	16	2.2%
中学校2年	426	59.1%
中学校3年	23	3.2%
高校1年生	0	0.0%
高校2年生	110	15.3%
高校3年生	0	0.0%
合計	721	



4.3 詳細集計結果

(1) 居住地域と周辺環境の満足度の関係 (問1のクロス集計)

結果概要

- 『7.公園・広場・交流館などの人とのふれあふ場所の多さ』、『8.博物館、図書館、美術館などの文化施設があること』以外のすべての項目において山村の方が満足度が高い結果となった。

		問1 周辺環境の満足度							
	全体	1. 空気のきれいさ		2. 河川や池などの水のきれいさ		3. 静かさ (騒音や、振動の少なさ)		4. まちのきれいさ (ごみや、悪臭の少なさ)	
		満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である
都市	(n=640)	73.4%	26.6%	40.8%	59.2%	57.0%	43.0%	50.6%	49.4%
山村	(n=136)	86.8%	13.2%	80.2%	19.8%	77.1%	22.9%	75.4%	24.6%

		問1 周辺環境の満足度									
	全体	5. 生き物や自然の豊かさ		6. 自然とふれあふ場所の多さ		7. 公園・広場・交流館などの人とのふれあふ場所の多さ		8. 博物館、図書館、美術館などの文化施設があること		9. 全体として周りの環境への満足度	
		満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である
都市	(n=640)	72.6%	27.4%	67.9%	32.1%	74.6%	25.4%	67.4%	32.6%	69.8%	30.2%
山村	(n=136)	90.7%	9.3%	82.7%	17.3%	54.4%	45.6%	53.7%	46.3%	71.3%	28.7%

(2) 小中高と市に優先して取り組んでほしいことの関係 (問1のクロス集計)

結果概要

- いずれの項目も小学生が最も満足度が高い結果となった。
- 『1.空気のきれいさ』、『5.生き物や自然の豊かさ』、『7.公園・広場・交流館などの人とのふれあふ場所の多さ』、『8.博物館、図書館、美術館などの文化施設があること』、『9.全体として周りの環境への満足度』は小学生ほど満足度が高い結果となった。

		問1 周辺環境の満足度							
	全体	1. 空気のきれいさ		2. 河川や池などの水のきれいさ		3. 静かさ (騒音や、振動の少なさ)		4. まちのきれいさ (ごみや、悪臭の少なさ)	
		満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である
小学校	(n=159)	82.4%	17.6%	57.7%	42.3%	64.4%	35.6%	66.2%	33.8%
中学校	(n=495)	75.1%	24.9%	43.9%	56.1%	59.0%	41.0%	49.9%	50.1%
高校	(n=122)	70.1%	29.9%	50.0%	50.0%	61.7%	38.3%	60.5%	39.5%

		問1 周辺環境の満足度									
	全体	5. 生き物や自然の豊かさ		6. 自然とふれあふ場所の多さ		7. 公園・広場・交流館などの人とのふれあふ場所の多さ		8. 博物館、図書館、美術館などの文化施設があること		9. 全体として周りの環境への満足度	
		満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である
小学校	(n=159)	84.1%	15.9%	81.6%	18.4%	80.9%	19.1%	72.2%	27.8%	77.6%	22.4%
中学校	(n=495)	74.5%	25.5%	66.8%	33.2%	71.7%	28.3%	65.4%	34.6%	68.6%	31.4%
高校	(n=122)	70.1%	29.9%	70.7%	29.3%	56.1%	43.9%	54.8%	45.2%	66.1%	33.9%

ワークショップ実施結果報告書(概要版)

差替え

資料1-2

1.開催概要

- 2024年の8月、9月に計4回開催しました。(9/1開催予定は台風10号の接近に伴い中止)
- 5人程度の班に分かれ、設定されたテーマについて話し合い、発表・投票を行いました。
- 豊田市に居住する外国人を対象としたワークショップも別途開催しました。

開催日程と参加人数

実施日	参加人数
2024年8月28日(水)	AM10名、PM12名
2024年9月3日(火)	AM10名、PM16名
2024年9月14日(土)	13名

2.テーマと進め方

2つのテーマについて、ウェルビーイングの視点から考えました。

テーマ1 豊田市が目指す望ましい将来像

テーマ2 将来像を実現するための環境施策



3.総括

- ✓ 誰もがアクセス、利用できる多様な選択肢を増やす意見やアイデアが多く出た。環境基本計画策定のポイントになる。
- ✓ 長期的で不確実な問題(AI、メタバース、気候変動等)との向き合い方を計画の潜在的テーマとして検討すべき。
- ✓ “ウェルビーイング”の視点から市の既存施策を再評価していくことも必要。



名古屋大学 大学院
環境学研究科
三上 直之 教授



外国人WS意見まとめ

- ✓ 自然の楽しみ方やごみの出し方など、言語の壁が高いため、情報の発信・受信の双方の方法を改善する必要。
- ✓ 各国のコミュニティにおけるSNSなどを積極的に活用して、環境に関する情報を発信できるとよい。

4. ワークショップまとめ

目指すべき将来像

ワークショップ各班の将来像

第1回(8/28AM)		第2回(8/28PM)				第3回(9/3AM)		第4回(9/3PM)																				
1班	2班	1班	2班			1班	2班	1班	2班	3班																		
人と自然が優しいまち	暑さと共存するまち 人と車にやさしいまち	自然が豊かで整備された街(道路、公共交通)	緑豊かでみんなが楽しめるまち	過ごしやすい安全な街	みんなが住みやすい、人が集まりやすいまち	交通の便が良いまち	市民と行政が身近なまち	車に頼らない街	人との関係性のある街	経済的に豊かな街	自然が豊かな街	暑さに対応できる街	子ども(みらいの子ども)の未来を大切に するまち	自由に移動できるまち	子どもが参加する場所 施設 機会があるまち	自然豊かなまち	人にやさしいまち	住み続けたいまち	移動しやすいまち	豊かな自然を守りつつまちなかの緑もたい せつにするまち	誰にとっても移動しやすいまち	地域の繋がりが活動が活発なまち	誰もが移動しやすいまち	誰もが働きやすいまち	心豊かに安心して暮らせるまち	車生活環境の充実 移動手段の多様化	新しい豊田市の魅力	人の生活に身近な施設が充実している

<p>1. 豊かな自然と共生するまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然環境を保全、再生する ● 自然と人の関わりをつくる ● 気候変動や災害に対応する 	<p>2. 快適に生活し、移動できるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 移動を脱炭素化する ● 人と車が安全に共存する ● 快適な生活環境を整備する 	<p>3. 地域のつながりの中で持続可能な暮らしが定着したまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 資源を大切にする ● コミュニティを元気にする ● 誰一人取り残さない 	<p>4. 地域資源を活かして経済発展していくまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地場産業を持続可能にする ● 市内で経済を循環させる ● 市の新しい魅力をつくる
---	---	---	--

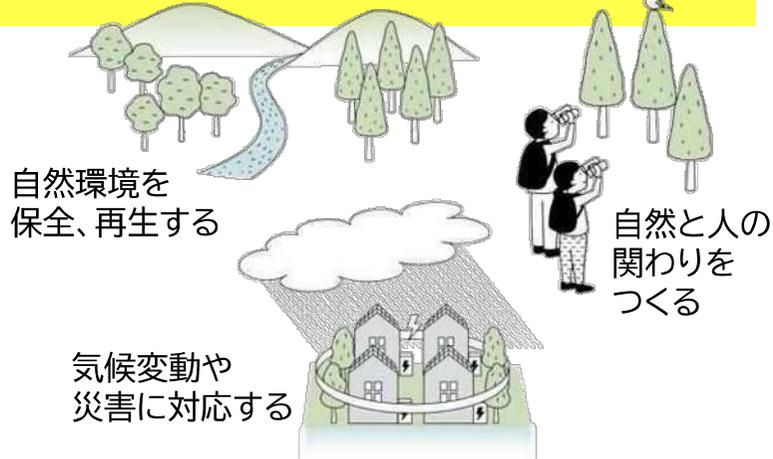
意見集約結果から設定した将来像



5.イメージ図

「目指すべき将来像」と「実現するための環境施策」イメージ

1.豊かな自然と共生するまち



2.快適に生活し、移動できるまち



3.地域のつながりの中で、 持続可能な暮らしが定着したまち



4.地域資源を活かして 経済発展していくまち



次期豊田市環境基本計画(素案骨子) について

- 次期豊田市環境基本計画は、以下ポイントに基づき見直しを行います。

見直しの背景

昨今の情勢の変化

- ✓ 気候変動の影響が顕在化し、生態系の不可逆な変化がせまっている
- ✓ 生物多様性の新たな国際目標、「ネイチャーポジティブ」(自然再興)
- ✓ 循環経済への転換に向けたバリューチェーンやビジネスモデルの再設計の動きが活発化
- ✓ 国の第六次環境基本計画で「ウェルビーイング」を最上位の目的としている。



見直しのポイント

- ◆ カーボンニュートラルへの取組の深化
- ◆ サーキュラーエコノミー、ネイチャーポジティブの視点を追加
- ◆ ウェルビーイングの視点を追加

第9次豊田市総合計画

- ✓ 「個の充足」から「つながり」重視へ
- ✓ 「ないものを補う」から「あるものを生かす」発想
- ✓ 足し算(積み重ね)だけでなく、掛け算(組合せ)の思考
- ✓ 多様な主体が作りあげるまちづくりへ
- ✓ 「こども起点」「誰もがつながり合う」「ミライ人を支える基盤」



- ◆ ミライにつなぐことを重要視
- ◆ 人とのつながりと安心して暮らせる都市基盤を重要視

市民、事業者の意見

- ✓ 市民を対象としたワークショップでは、誰もが生活の質の向上など恩恵を享受できる意見やキーワードが多く出た。
- ✓ 事業者アンケート調査の結果、約5割は「多様な主体と連携する仕組みづくり」を“重要”ととらえている。



- ◆ 人や地域とのつながり合う機会の充実化
- ◆ 誰もが尊重され、自分らしく暮らせる社会づくり

- 次期豊田市環境基本計画の目次構成は以下のとおりです。

第1章 環境基本計画とは
第1節 計画策定の背景
第2節 計画の基本的事項

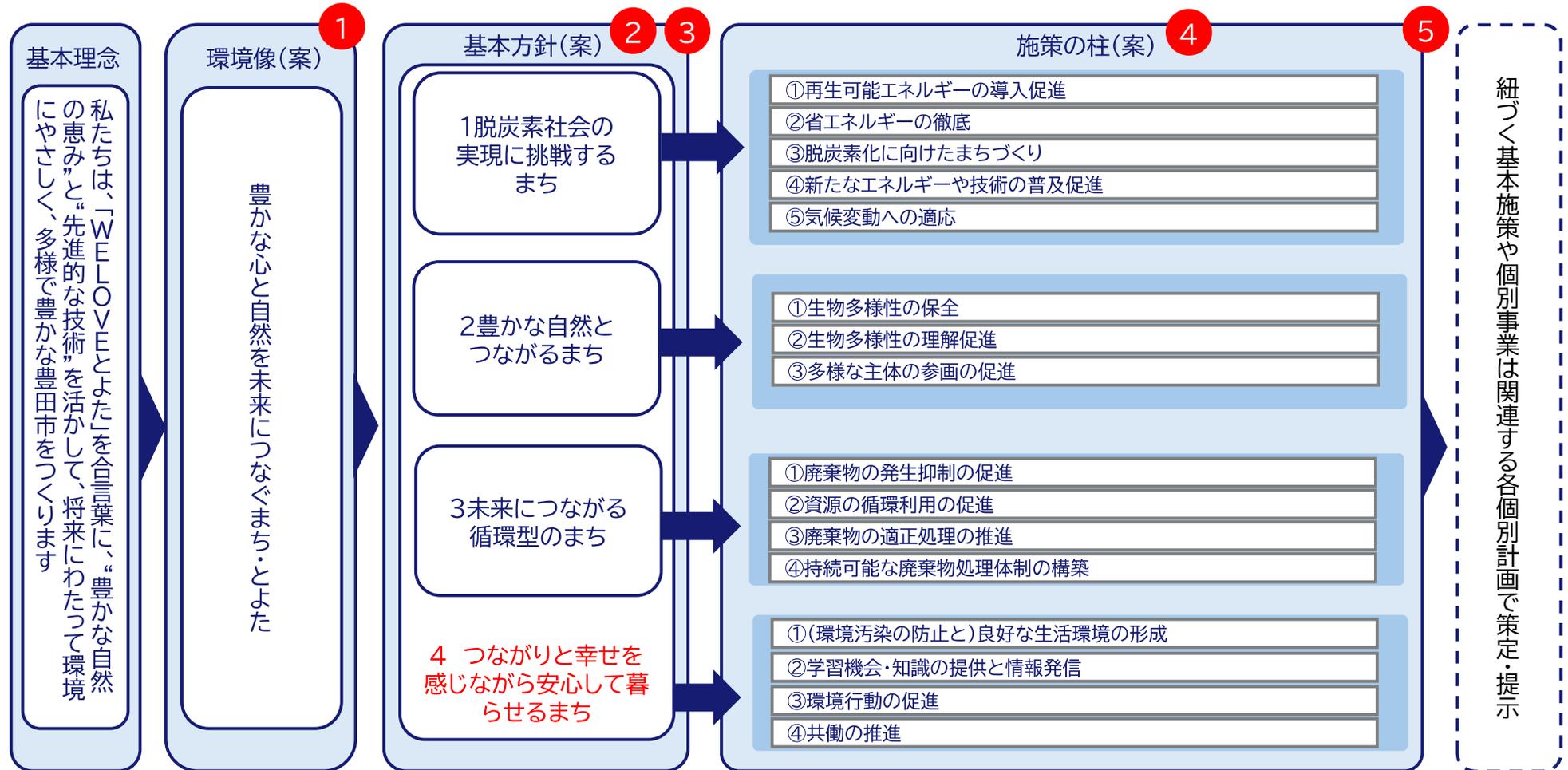
第2章 計画の理念・目標
第1節 計画の基本理念
第2節 めざす環境像 **審議事項**
第3節 基本方針 **審議事項**

第3章 目標達成のための施策の展開
第1節 施策の体系 **審議事項**
第2節 施策の内容 **審議事項**

第4章 計画の推進と進行管理
第1節 計画の推進体制
第2節 計画の進行管理

資料編

- 次期豊田市環境基本計画の体系は以下のとおりです。※第1回環境審議資料より引用



審議事項

- ①～④ めざす環境像、基本方針の内容、施策の柱の示し方について、現段階でご意見あればいただきたい(今後の施策整理等も含め、3月の第3回審議会でも議論予定)
- ③ 基本方針では、既存の5分野のうち、安心安全と行動・共働の分野を統合し、ウェルビーイングの向上に向けた統合的な取組としてリニューアルしたいと考えているが、どうか。
- ⑤ 施策検討にあたり事務局で整理した課題について、「追加すべき観点」「対応する施策の可能性」などのご意見をいただきたい

第1節 計画策定の背景

環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、「豊田市環境基本条例」に基づいて策定

【改定の視点：環境政策を取り巻く状況に関して様々な変化への対応】

- 国際社会の情勢
 - ・IPCC第6次評価報告書：人間活動が地球温暖化を引き起こし、短期のうちに1.5℃に達し、不可逆な変化
 - ・生物多様性条約第15回締約国会議：「30by30目標」を主要目標の一つとして設定
- 国の動向
 - ・地球温暖化対策計画等：2050年カーボンニュートラルの実現を目指す
 - ・生物多様性国家戦略2023-2030：「ネイチャーポジティブ」「30by30目標」に対応
 - ・第六次環境基本計画：現在および将来の国民一人一人の「ウェルビーイング／高い生活の質」最上位の目的に設定
- 第9次豊田市総合計画
 - ・人口減少社会への対応：「つながり」重視、「あるものを生かす」発想、足し算と掛け算の思考、多様な主体がつくるまち
 - ・「こども起点」の思考、「誰もがつながり合う」ことを重要視、「ミライ人を支える基盤」づくり

第2節 計画の基本的事項

1 環境基本計画の目的

- ・ 本計画は、「豊田市環境基本条例」が目指す「持続的な発展が可能な社会」の実現に向けて、環境の保全及び創造に関する目標や施策の基本的方向を示し、これらを総合的かつ計画的に推進すること

2 環境基本計画の役割

- ・ 「豊田市総合計画」における環境分野のマスタープラン
- ・ 環境分野に関連する各種計画及び施策を立案する上で基本となる計画
- ・ 第9次豊田市総合計画の方向性を踏まえ、本市の環境政策の大綱を示す

3 計画期間

- ・ 2026年度から2035年度までの10年間
- ・ 前期5年の経過時点で中間見直しを行い、社会経済情勢の変化にも機動的かつ柔軟に対応

第1節 計画の基本理念

- 豊田市は、市域の約7割に広大な森林を有し、世界的にも貴重な湿地が保全されているなど、豊かな自然に恵まれています。その一方、自動車産業を核としたものづくり産業の中核都市として、先進的な技術を集積しています。この技術の集積を環境分野で最大限に活かすことにより、将来にわたって環境先進都市としての発展が期待されています。
- このような自然と都市が共存した環境は、日本の縮図とも捉えることができ、これらの強みを活かした新しいライフスタイルを生み出すポテンシャルを備えています。
- 私たちは、「WE LOVE とよた」を合言葉に、“豊かな自然の恵み”と“先進的な技術”を活かして、将来にわたって環境にやさしく、多様で豊かな豊田市をつくります。

第2節 めざす環境像

審議事項①

「めざす環境像」の示し方及び方向性に関してご意見をいただきたい。

豊かな心と自然を未来につなぐまち・とよた

★第9次豊田市総合計画「つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた」

- 豊かな自然や歴史・文化・芸術、ものづくり産業・技術など多様な資源。
- こうした資源に愛着や誇りを持って、守り、更に大きく育て、次代を担うこどもたちへつないでいくことで、安心と輝きに包まれた豊かな豊田市のミライをつくりだしていくことが大切。
- 「つながり」と「チェンジ(変化)・チャレンジ(挑戦)」によって、一人ひとりが主役となってミライをひらく「つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた」を目指す。

●豊田市環境基本条例

市、事業者及び市民のすべてが協働して、環境への負荷の低減に努めるとともに、人と自然とが共生することのできる健全で恵み豊かな環境を保全し、創造していくことにより持続的な発展が可能な社会を実現していく。

▲アンケート調査結果

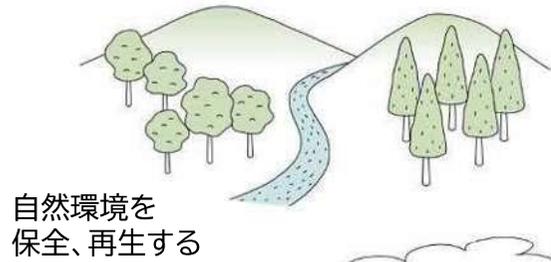
◆ワークショップ結果

要素

- ★次代を担うこどもたちへつないでいく
- ★多様な資源への愛着や誇り
- ★豊かな豊田市のミライ
- ★一人ひとりが主役
- 市、事業者及び市民の共働
- 健全で恵み豊かな環境
- 持続的な発展が可能な社会
- ▲再生可能エネルギーの導入促進
- ▲気候変動影響への対策
- ▲廃棄物の適正処理や不法投棄の防止
- ◆豊かな自然と共生するまち
- ◆快適に生活し、移動できるまち
- ◆地域のつながりの中で持続可能な暮らしが定着したまち
- ◆地域資源を活かして経済発展していくまち

第2節 めざす環境像 『豊かな心と自然を未来につなぐまち・とよた』のイメージ

(ワークショップ実施報告書より引用)



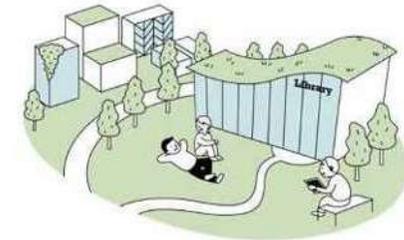
自然環境を
保全、再生する



自然と人の関
わりを
つくる



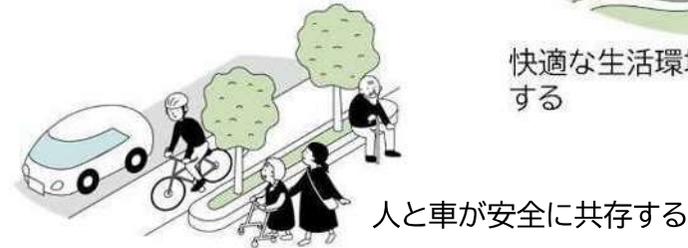
移動を
脱炭素化する



快適な生活環境を整備
する



気候変動や
災害に対応する



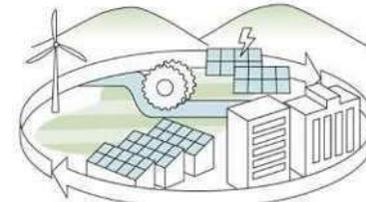
人と車が安全に共存する



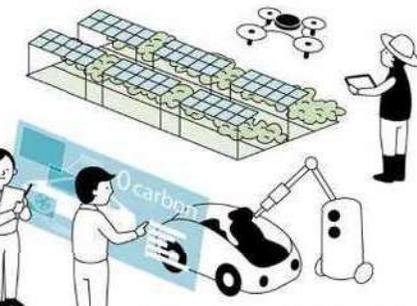
資源を
大切にする



コミュニティを
元気にする



市内で経済を循環させる



地場産業を持続可能
にする



誰一人取り残さない



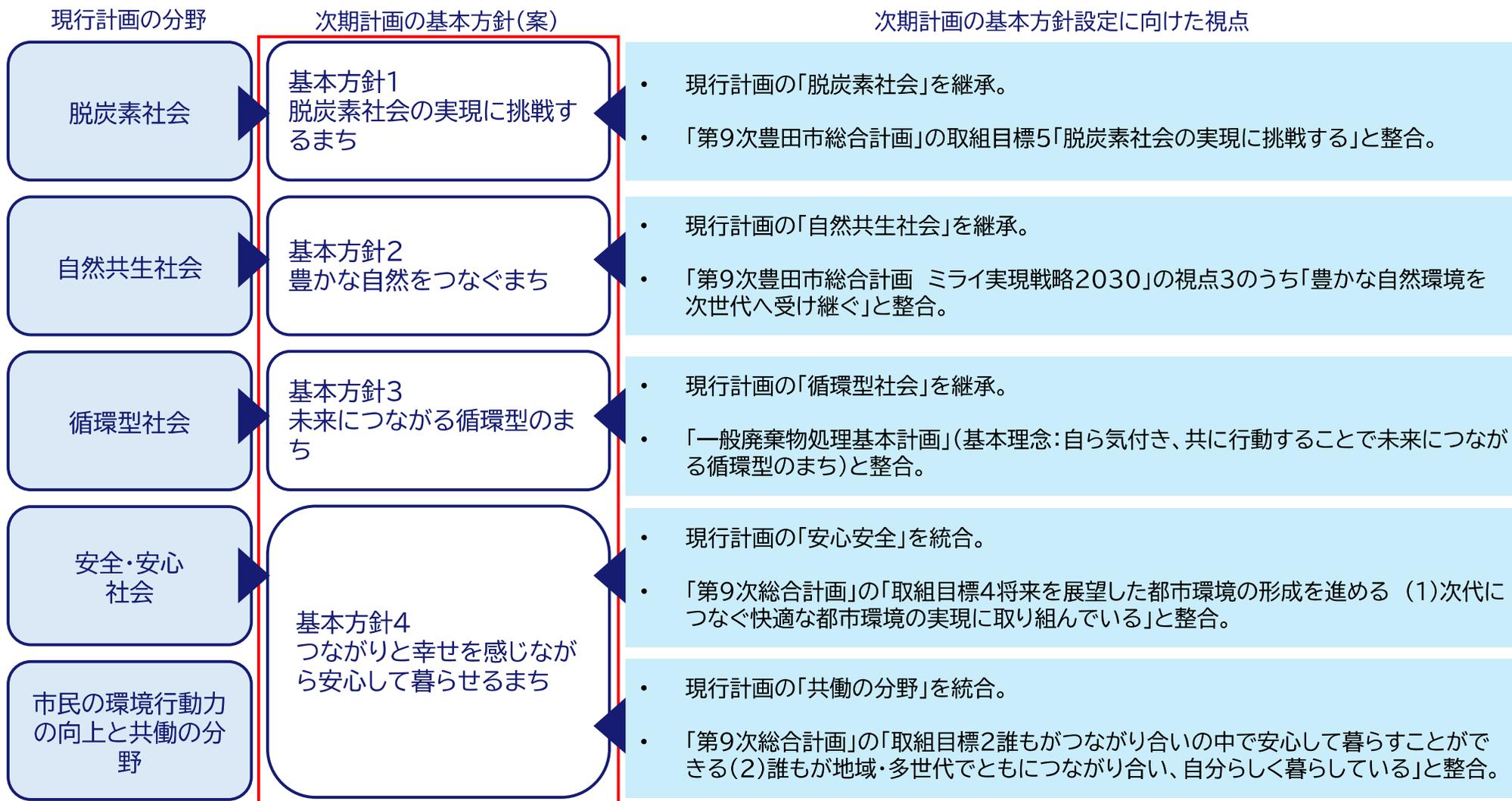
市の新しい魅力をつくる

第3節 基本方針

審議事項②

基本方針では、既存の5分野のうち、安心安全と行動・共働の分野を統合し、ウェルビーイングの向上に向けた統合的な取組としてリニューアルしたい。

→ 基本方針の設定にあたっての視点 及び 基本方針の方向性 に関してご意見をいただきたい。



第3節 基本方針

審議事項②

基本方針では、既存の5分野のうち、安心安全と行動・共働の分野を統合し、ウェルビーイングの向上に向けた統合的な取組としてリニューアルしたい。

→ 基本方針の視点 及び 基本方針の方向性 に関してご意見をいただきたい。

次期計画の基本方針(案)

次期計画の基本方針の方向性(案)

基本方針1
脱炭素社会の実現に
挑戦するまち

暮らしや企業活動の中で脱炭素に貢献する行動や経営が浸透し、まちの特性や強みを活かして、新たなエネルギーや技術の利活用を進めることで、脱炭素社会が実現し、気候変動に適応したまちを目指します。

基本方針2
豊かな自然をつなぐ
まち

市の豊かな自然と関わり共生するライフスタイルやワークスタイルが定着し、自然から受ける恵みを最大限享受しており、それらを守り・育み・活用する活動・行動が積極的に行われていることで、より良好な状態で将来世代に繋ぐまちを目指します。

基本方針3
未来につながる循環
型のまち

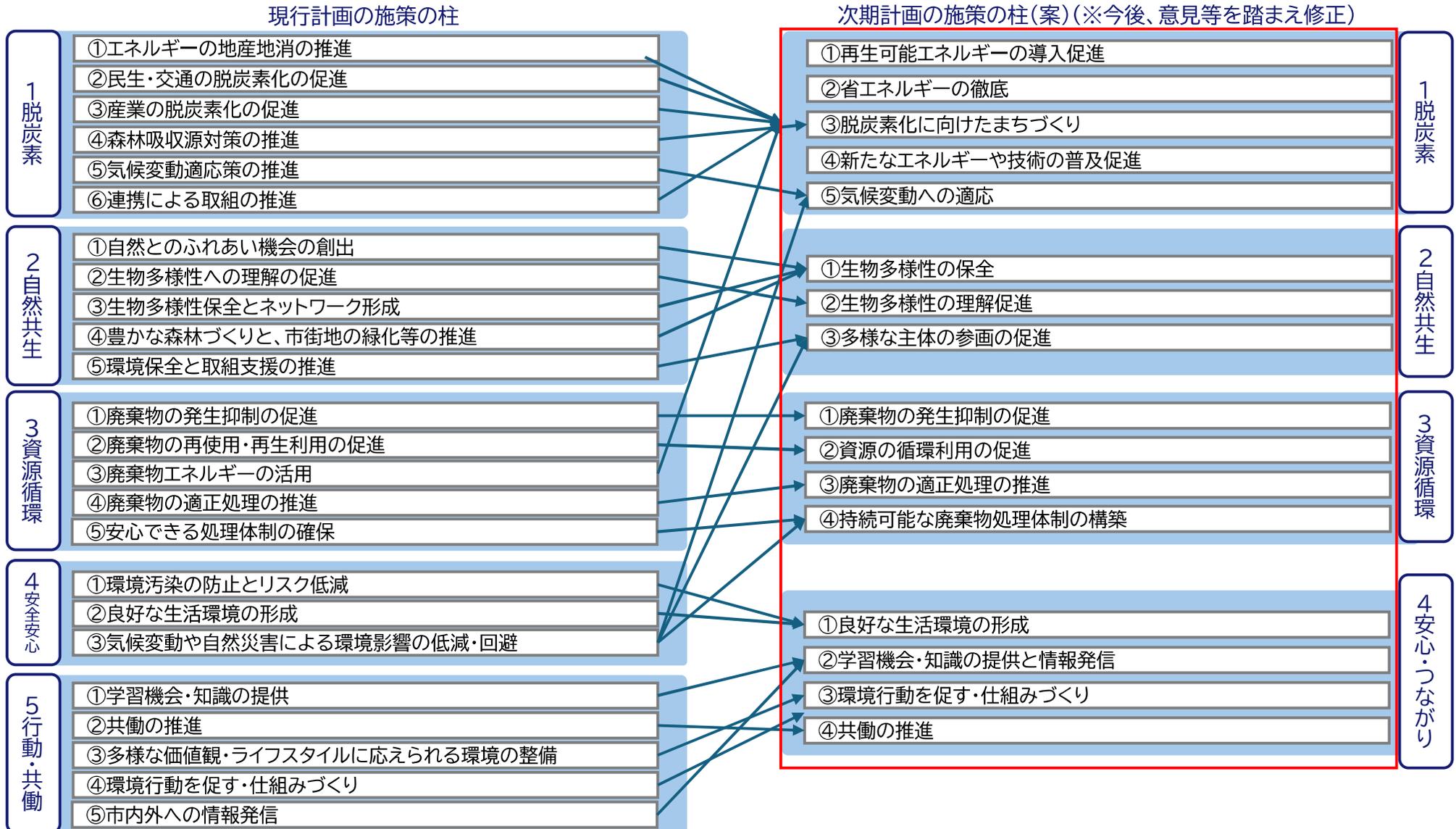
限りある資源を大切に思う価値観やライフスタイルが浸透しており、資源を余すことなく循環利用が可能となる高度な資源循環システムの確立されていることで、持続可能な循環型社会が実現したまちを目指します。

基本方針4
つながりと幸せを感じながら安心して暮
らせるまち

環境リスクへの対策により身近な生活環境が快適に維持されるとともに、あらゆる世代が地域の自然や人とつながり、まちへの愛着をもって、環境問題を自分事として行動することを通じて、安全・安心で心地よく快適に暮らせるまちを目指します。

第1節 施策の体系 審議事項④

現行計画より市民に伝わりやすい施策体系とするため、施策の柱は各方針で4本程度としたい(現行計画は3~6つ)。
 → 本日の部会では、施策の柱の示し方に関してご意見をいただけますと幸いです。



第2節 施策の内容

審議事項⑤

本日の作業部会では、施策検討にあたり事務局で整理した課題について、「追加すべき観点」「対応する施策の可能性」などについてご意見をいただけますと幸いです。

「施策の内容」整理表の見方

【目指すべき将来像】

以下①～③で2050年の将来像を整理。
(P21～詳述)

- ①総合計画で示されている目指す姿
- ②国等の計画・報告書から読取れる未来
- ③アンケートやワークショップの結果による市民が望む将来像

【課題】

- ・左記「目指すべき将来像」と、現状とのギャップを、課題として整理(P21～詳述)。
- ・現行計画策定以降から継続している課題は「継続課題(●)」
- ・特に乖離が大きく将来像の実現に向けて検討を深めるべき課題は「新規課題(★)」

【施策(例)】

- ・施策の柱にぶら下がる施策を整理
- ・課題の整理結果を踏まえて見直した「強化すべき取組」(P21～詳述)と整合する箇所は“下線”で提示

施策の柱 (案)	目指すべき将来像 (案)	課題 (●:継続、★:新規)	施策(例) 下線:強化施策	取組(例) (★:新規、◆:強化) 下線:現行計画の変更箇所
①再生可能エネルギーの導入促進	ほとんどの建築物に太陽光発電設備が設置されている。太陽光発電の余剰電力を有効活用できる蓄電設備が浸透し、地域全体のレジリエンス強化につながっている。	<ul style="list-style-type: none"> ●地域にあるエネルギーのポテンシャルを最大限に活用しつつ、利活用を積極的に進めることが必要 ●初期コストを抑える導入手法の周知啓発を継続的に行うことが必要 ★自家消費型・地域共生型太陽光発電の普及啓発の強化が必要 	<p><u>エネルギーの地産地消の仕組みづくり</u></p> <p>再生可能エネルギーの普及促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●グリーン電力証書等を活用したエネルギーの地産地消の促進(市内製造業、農業分野、水素S T等でオフセット) ●下水熱等の未利用エネルギーの有効活用 ★<u>自家消費型太陽光発電の導入促進</u> ★<u>ゼロカーボン・ドライブの促進</u> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ●再エネ導入に対する各種支援(補助金、減税、利子補給) ●再エネPPAや共同購入など民間モデルの活用 ★<u>地域共生型再生可能エネルギーの普及推進</u>

【施策の柱】P9の『施策の柱(案)』

【取組(例)】●:既存の取組 ★:新規取組 ◆:強化取組

第2節 施策の内容

審議事項⑤

本日の作業部会では、施策検討にあたり事務局で整理した課題について、「追加すべき観点」「対応する施策の可能性」などについてご意見をいただけますと幸いです。

基本方針1 脱炭素社会の実現に挑戦するまち

施策の柱 (案)	目指すべき将来像 (案)	課題 (●：継続、★：新規)	施策(例) 下線：強化施策	取組(例) (★：新規、◆：強化) 下線：現行計画の変更箇所
①再生可能エネルギーの導入促進	ほとんどの建築物に太陽光発電設備が設置されている。 太陽光発電の余剰電力を有効活用できる蓄電設備が浸透し、地域全体のレジリエンス強化につながっている。	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域にあるエネルギーのポテンシャルを最大限に活用しつつ、利活用を積極的に進めることで、エネルギーの地産地消を推進していくことが必要 ● 初期コストを抑える導入手法の周知啓発を継続的に行うことが必要 ★ <u>自家消費型・地域共生型太陽光発電の普及啓発の強化が必要</u> 	<u>エネルギーの地産地消の仕組みづくり</u>	<ul style="list-style-type: none"> ● グリーン電力証書等を活用したエネルギーの地産地消の促進（市内製造業、農業分野、水素S T等でオフセット） ● 下水熱等の未利用エネルギーの有効活用 ★ <u>自家消費型太陽光発電の導入促進</u> ★ <u>ゼロカーボン・ドライブの促進</u>
			<u>再生可能エネルギーの普及促進</u>	<ul style="list-style-type: none"> ● 再エネ導入に対する各種支援（補助金、減税、利子補給） ● 再エネPPAや共同購入など民間モデルの活用 ★ <u>地域共生型再生可能エネルギーの普及推進</u>
②省エネルギーの徹底	主体的な意識変革や行動変容によって脱炭素型のライフスタイルが定着し、企業は脱炭素経営に向けて省エネを徹底している。	<ul style="list-style-type: none"> ● 一定程度いる無関心層に対して環境配慮行動の周知啓発を継続的に行うことが必要 ● 脱炭素に関する相談窓口やセミナーによる啓発を継続的にい人材育成をしていくことが必要 ● 企業の脱炭素経営に向けた伴走型支援を引き続き行い、市内中小企業への脱炭素化の取組を押し進めることが必要 	<u>環境配慮行動の促進</u>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「とよた・ゼロカーボンアクション」における各種キャンペーンの強化 ◆ 豊田市省エネ家電設置費補助金の拡大
			企業の自主的取組の着実な実施	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境の保全を推進する協定協議会の活動の推進
			<u>中小企業等への支援</u>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>省エネ設備導入支援補助金の拡大</u> ◆ <u>脱炭素経営に向けた伴走的支援の更なる充実</u>

第2節 施策の内容

審議事項⑤

本日の作業部会では、施策検討にあたり事務局で整理した課題について、「追加すべき観点」「対応する施策の可能性」などについてご意見をいただけますと幸いです。

基本方針1 脱炭素社会の実現に挑戦するまち

施策の柱 (案)	目指すべき将来像 (案)	課題 (●：継続、★：新規)	施策(例) 下線：強化施策	取組(例) (★：新規、◆：強化) 下線：現行計画の変更箇所
③脱炭素化に向けたまちづくり	多様な脱炭素モビリティや次世代エネルギーを活用することで、DX・スマートシティを推進し、環境と調和した脱炭素型のまちが構築されている。	<ul style="list-style-type: none"> ●次世代自動車（EV、PHV、FCV）の補助を継続的に行うことが必要 ●低炭素・脱炭素な移動手段を選択する自発的な行動変容を促す動機付けが必要 	次世代型脱炭素交通システムの導入	<ul style="list-style-type: none"> ◆次世代自動車（EV、PHV、FCV）の補助制度の拡大 ●自動車販売店と連携して次世代自動車と外部給電機能をPRするSAKURAプロジェクトの啓発 ●公用車への次世代自動車の導入
			環境にやさしい交通への転換	<ul style="list-style-type: none"> ●次世代自動車の路線定期運行や展示等の啓発 ◆環境にやさしい交通への転換に向けた利用促進策の強化 ●TDM（交通需要マネジメント）の推進
			先進的な交通インフラの導入	<ul style="list-style-type: none"> ●充電インフラの運用 ◆水素ステーションの普及拡大
			街区・住宅等のスマート	<ul style="list-style-type: none"> ●スマートハウス普及促進 ●ZEH・ZEB啓発事業
④新たなエネルギーや技術の普及促進	水素をはじめとした新たなエネルギーや新技術を活用してCO2排出量を削減するサプライチェーンが構築されている。	★水素エネルギーに関する社会受容性を向上することが必要	水素社会の実現に向けた取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●燃料電池自動車の路線定期運行や展示等の啓発（再掲） ★水素利活用の促進を目的とした実証、検討ワーキング等の実施
			公民連携による先進技術の開発・活用の促進	◆環境先進技術実証支援事業の支援の充実化
⑤気候変動への適応	地球温暖化に伴う災害や顕著な高温のリスクが高まる中、住民の命と健康を守るための体制が整備されている。	●先行的に実施されている設備や情報基盤を活用して周知啓発を継続的に行うことが必要	気候変動適応対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●クーリングシェルターの設置 ●熱中症対策アンバサダー講座などの適応策の普及イベントの実施 ●豊田市気候変動適応情報プラットフォームを活用した市民意識調査や啓発の実施

第2節 施策の内容

審議事項⑤

本日の作業部会では、施策検討にあたり事務局で整理した課題について、「追加すべき観点」「対応する施策の可能性」などについてご意見をいただけますと幸いです。

基本方針4 つながりと幸せを感じながら安心して暮らせるまち

施策の柱 (案)	目指すべき将来像 (案)	課題 (●：継続、★：新規)	施策(例) 下線：強化施策	取組(例) (★：新規、◆：強化) 下線：現行計画の変更箇所
①良好な生活環境の形成	効果的なモニタリングによって市の環境情報の信頼性や正確性を確保しつつ、明確に分りやすく共有することで、住民の安心や満足度が向上している	●環境調査の効率化を図るため定期的に測定計画を見直すことが必要	事業者との協定 環境汚染の防止	●環境の保全を推進する協定協議会の活動の推進 ●大気汚染の防止 ●水質汚濁の防止 ●土壌・地下水汚染の防止 ●騒音・振動、悪臭の防止 ●有害化学物質による環境リスクの低減 ●環境情報の収集・発信
	地域での自主的な環境への取り組みが活性化し、地域のマナーや美化意識の向上に伴い、市民の安心感が更に向上している。	●不良な生活環境の解消に向けて庁内関係課や関係機関と連携し、支援や指導等を継続して行うことが必要 ★無関心層に対して清掃活動の参加を促すアプローチが必要	良好な生活環境の形成	●不良な生活環境等の解消に向け、審議会や庁内対策会議、個別ケース診断会議等を開催 ●タバコのポイ捨てごみを拾う清掃活動 ●路上喫煙禁止区域内の巡回パトロールの実施や区域内の路面シートの更新 ★参加者同士で交流しながら、楽しく美化活動を体験できるシステム・ツールの活用の検討
②学習機会・知識の提供と情報発信	体験活動を通じた学びに加え、多様な主体同士の対話や協働を通じた学びの充実化が図られている。	●継続的な見直しにより学習内容の質を維持していくことが必要	環境学習機会の提供	●環境学習施設エコットを拠点とした暮らしの環境学習 ●環境学習施設への送迎支援
			環境学習の質の向上	●環境学習施設エコットを拠点とした暮らしの環境学習

第2節 施策の内容

審議事項⑤

本日の作業部会では、施策検討にあたり事務局で整理した課題について、「追加すべき観点」「対応する施策の可能性」などについてご意見をいただけますと幸いです。

基本方針4 つながりと幸せを感じながら安心して暮らせるまち

施策の柱 (案)	目指すべき将来像 (案)	課題 (●：継続、★：新規)	施策(例) 下線：強化施策	取組(例) (★：新規、◆：強化) 下線：現行計画の変更箇所
②学習機会・知識の提供と情報発信	市の取組に対する理解と実践意識が市民に浸透している。	★市の情報を認知させ、さらに関心を引かせるための広報手段を検討し、 <u>市民の情報接触度を向上させることが必要</u>	市内外への情報発信	◆市の環境情報の公開 (SNSに適した啓発素材の整備に向けた検討) ◆環境情報の発信と周知 (動画コンテンツを活用した情報発信に向けた検討) ●国内外への情報発信
③環境行動の促進	ライフスタイルや価値観の変化を踏まえつつ、様々な問題意識を有するあらゆる世代が実際の行動に結びつくような情報発信が行われている。	●環境行動を促す支援・仕組みづくりを引き続き拡大していくことが必要	環境行動を促す支援	●環境学習施設エコットを拠点とした暮らしの環境学習
			環境行動を促す仕組みづくり	●とよたSDGsポイント事業 ●環境の保全を推進する協定協議会の活動の推進
			新たな価値観や暮らしに対する情報・体験機会の提供	●中間支援組織連携事業 ●定住促進プロモーション
④共働の推進	市民・事業者・行政による地域活動によって、様々な主体とのつながりが創出され、まちへの愛着・誇りが向上している。	●継続して連携事業に関心のある新たな企業や団体の増加を目指すことが必要 ★人と地域などのつながりの拡大や関係性の強化に向けた様々な主体との <u>連携事業を創出していくことが必要</u>	市民・事業者との共働	●とよたSDGsパートナーとの連携事業の実施 ★ <u>ステークホルダーズ・ミーティングの開催・検討 (ステークホルダー対話会合、対話型シンポジウム等)</u>
			地域との共働	●わくわく事業等の市民が主体的に行っている、環境課題の解決に向けた支援の実施

第1節 計画の推進体制

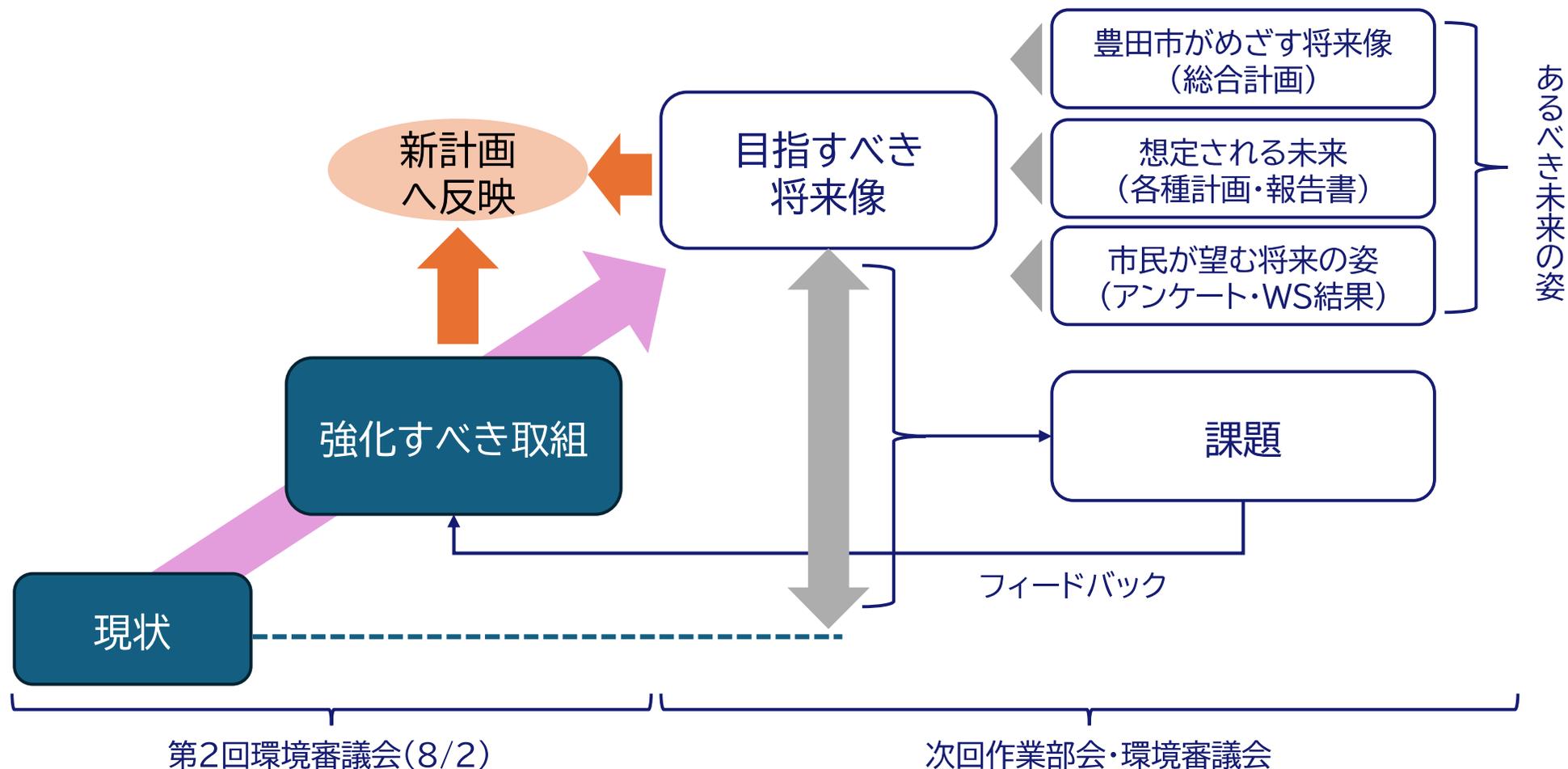
- 市は、持続可能な豊田市づくりの担い手である市民・事業者と共に、学識経験者や関連団体にも意見を聴きながら、本計画を確実に推進していきます。
- 本計画を推進する主体は、次のとおりです。
 - ①市民・事業者・地域
 - 主体的・自発的に環境行動を実践し、本計画に示す事業に参画して共働で取り組みます。また、取組の成果や意見・課題などを市の求めに応じてフィードバックし、事業の効率的な推進に協力します。
 - ②豊田市
 - 市民や事業者の環境行動を支援するとともに、本計画に示す事業を所管する関係各課と調整を図りながら、横断的・総合的な施策・事業の推進を実施します。
 - さらに、国や県等と連携・協力し、国等が実施する環境政策を本市においても着実に推進します。
 - ③豊田市環境審議会
 - 豊田市環境基本条例第22条に基づき設置するもので、学識経験者、市民公募委員、関係団体の代表者などで構成します。
 - 市長の諮問に応じ、本計画に関すること、廃棄物の処理及び清掃に関すること、その他環境の保全及び創造に関する基本的事項について、それぞれの立場から調査・審議し、意見を市長に提出します。

第2節 計画の進行管理

- 進行管理の要点は、「取組状況の把握」「課題の認識」と「課題に対する適切な是正」にあります。本計画に掲げる施策・事業を計画的かつ実効性のあるものとして推進するために、施策・事業の進捗状況を定期的に確認し、取組の成果を評価し、改善点を次の事業へ反映させる進行管理が必要です。
- 進行管理の方法は、“PDCAサイクル”（Plan・Do・Check・Action）に基づいて進めます。
- とりまとめた取組実績を広報や市のホームページ、テレビや新聞といったマスメディアなどの様々な媒体を活用して公表します。

将来像案と課題整理

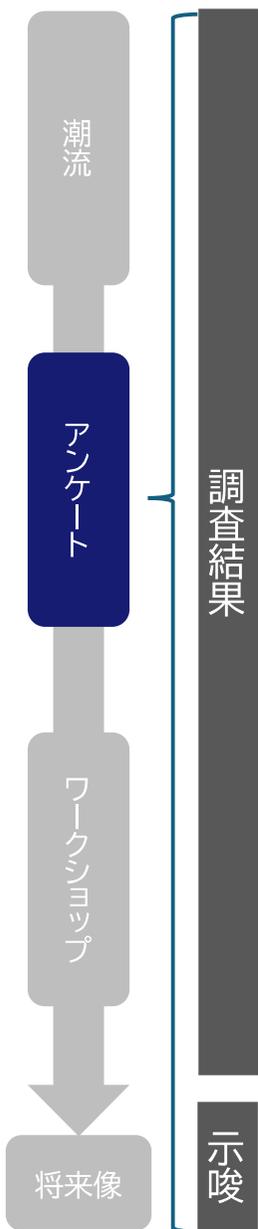
- 市を取り巻く現状及び強化すべき取組を整理し、次期計画の方向性を整理した。
- ここでは、次期計画において目指すべき将来像と目指すべき将来像の実現に向けた課題(現状との乖離)を整理した。
- 目指すべき将来像は、上位計画(総合計画)で示されている目指す姿や各種計画・報告書が読み取れる未来、アンケートやワークショップの結果による市民が望む将来像と整合を図ることで整理した。
- 課題は、市の総合計画の方向性との整合性に配慮する観点から、第9次豊田市総合計画に掲げている“注力する視点”を踏まえ、主なものを抜粋した。



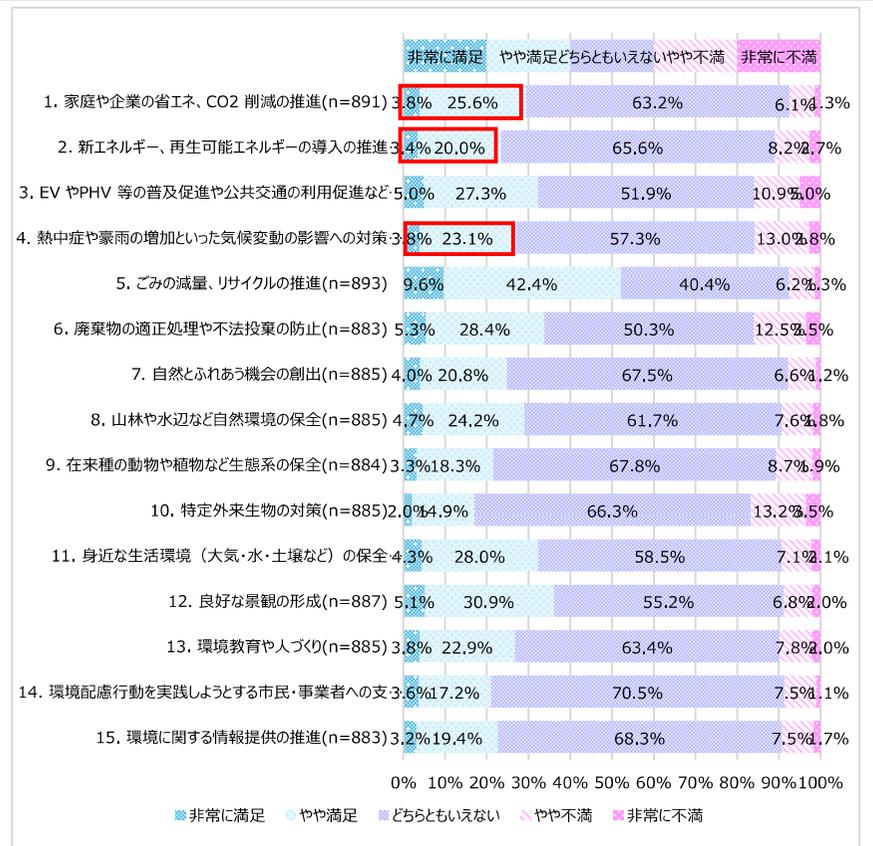
(1)脱炭素分野における将来像の整理

潮流	柱	あるべき未来の姿	情報源
アンケート ワークショップ	①エネルギーの地産地消の推進	a. 地域と共生した形での事業実施を大前提に、足下での導入量の再拡大を図りつつ、既存のシリコン太陽電池では設置困難な場所でも設置可能な次世代型太陽電池が設置している。※1 b. 電動車を蓄電池として活用することにより、平時にはスマートシティを高度化し、災害時にはレジリエンスを向上している。※1	1.グリーン成長戦略
	②民生・交通の脱炭素化の促進	c. 事故・移動弱者・交通渋滞ゼロに向けて、安全運転支援・自動走行技術の普及・高度化や高度なデジタル・通信技術を活用している。また、それら技術を通じ、公共交通の利便性向上を図るとともに、LRT・BRTや電気自動車等のCO2排出の少ない輸送システムの導入を推進している。※1 d. ドローン、自動運転車、サービスロボット等が一定の速度以上で自律運行するためのソフト・ハード・ルールの基盤について、2050年度頃には日本全国の可住地域まで拡大する。※2 e. 住まい・移動のトータルマネジメント、ナッジやシェアリングを通じた行動変容、デジタル技術を用いた技術開発等で2050年までに、カーボンニュートラルで、かつレジリエントで快適な暮らしが実現している。※1 f. 多様な主体の行動変容の促進と具体的な取組の支援により削減目標を達成している。※3	1.グリーン成長戦略 2.経済産業政策新機軸部会第2次中間整理 3.第9次総合計画
	③産業の脱炭素化の促進	g. 新たな産業構造への転換をもたらし、特に化石燃料に関連する産業の雇用を減少させる一方、再生可能エネルギー等で新たな雇用を創出することが予測される。※1 h. 地球温暖化対策のための税制全体のグリーン化が着実に実現・実行し、徹底した省エネルギーの推進、脱炭素電源への転換等によって温室効果ガスの排出削減を加速している。※1 i. 2050年に水素発電コストをガス火力以下にする等、化石燃料に十分な競争力を有する水準となっており発電、輸送、産業等の様々な分野で活用されている。※1	1.グリーン成長戦略
	④森林吸収源対策の推進	j. 利用期を迎えた森林資源を「伐って、使って、植える」循環システムを確立しており、2050年カーボンニュートラルに大きく貢献している。※1	1.森林由来 J-クレジットの創出拡大
	⑤気候変動適応策の推進	k. 農林水産業における作業では、暑熱期に屋外で行われる農作業等の自動化技術の開発を推進し、また、ロボット技術やICTの積極的な導入により、作業の軽労化を図られている。※1 l. 安全に暮らせる災害に強いまちの実現に取り組んでいる。※2	1.農林水産省気候変動適応計画 2.第9次総合計画
	⑥連携による取組の推進	m. 水素社会の実現に向けた取組や公民連携による先進技術の開発・活用の促進といった新たなエネルギーや技術の利活用に取り組んでいる。※1	1.第9次総合計画
将来像	示唆	<ul style="list-style-type: none"> ・ 需給一体・地域共生型太陽光発電によって災害に対するレジリエンス強化が求められる。(a,b,l) ・ 多様な脱炭素モビリティの普及が求められる。(c,d) ・ 行動科学やAIに基づいて一人一人に合った脱炭素で快適なライフスタイルを構築することが求められる。(e,f) ・ 市場メカニズムの転換に伴い企業経営におけるネットゼロの主流化が求められる。(g,h,j) ・ 水素がモビリティや民生・業務部門等、多様な部門の脱炭素化に貢献していることが求められる。(i,m) ・ 地球温暖化に伴う顕著な高温のリスクへの体制整備が求められる。(k,l) 	

(1)脱炭素分野における将来像の整理



問	市の環境への取組について、どの程度満足していますか。また、今後の取組としてはどの程度重要だと思いますか。
傾向	<p>a. “新エネルギー、再生可能エネルギーの導入の推進”や“熱中症や豪雨の増加といった気候変動の影響への対策”は他の取組と相対的に比較して、重要度が高い取組となっているのにも関わらず、満足度が低い取組となっている。</p> <p>b. “家庭や企業の省エネ、CO2 削減の推進”は他の取組と相対的に比較して、重要度が高い取組となっており、満足度も高い取組となっている。</p>



- 再生可能エネルギーの導入促進や気候変動影響への対策は、重要度が高く市民のニーズがあるが、満足度が平均水準に達していないことから、重点的に改善が求められる。(a)
- 省エネ対策の推進は、重要度・満足度ともに高いことから、引き続き充実した対策を維持していくことが求められる。(b)

調査結果

示唆

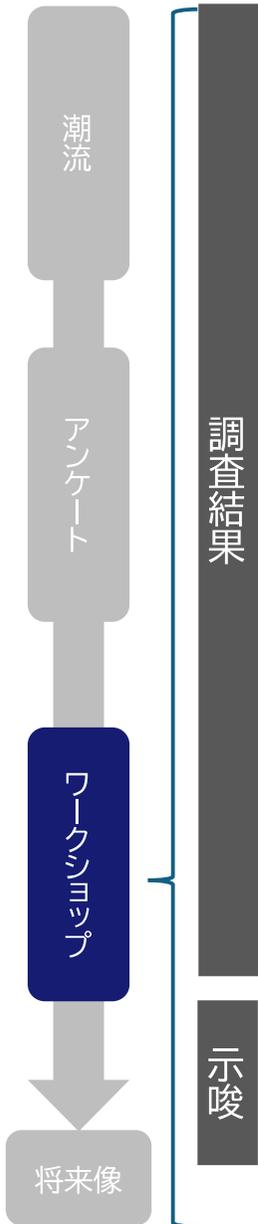
(1) 脱炭素分野における将来像の整理

- ワークショップでは、目指すべき将来像として、“地域交通の脱炭素化” (a) や“徒歩や自転車が安全・快適に移動できる” (a)、“気候変動や災害への対応” (b) に多くの共感を得ていた。

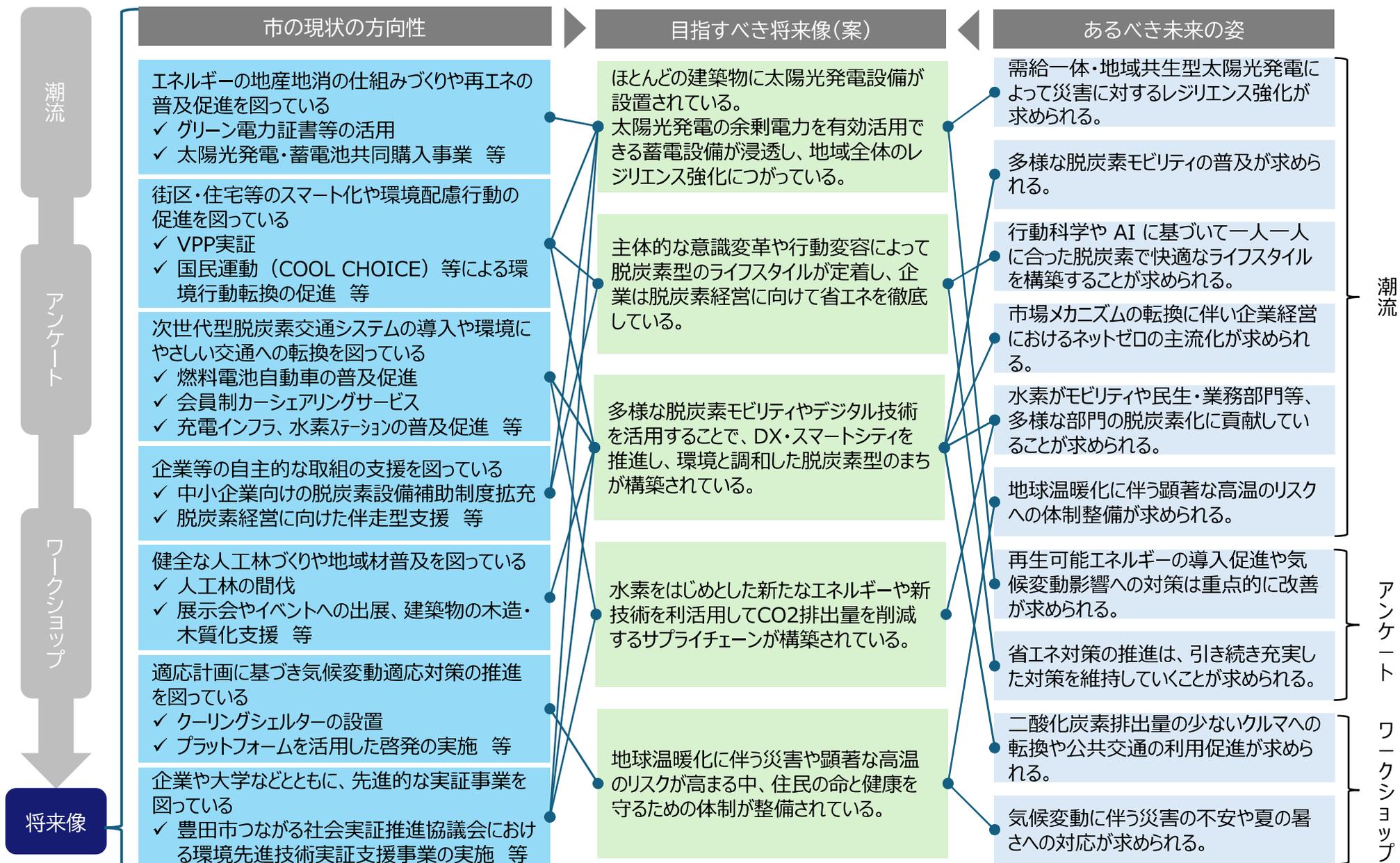
第1回(8/28AM)		第2回(8/28PM)		第3回(9/3AM)		第4回(9/3PM)		
1班	2班	1班	2班	1班	2班	1班	2班	3班
人と自然が優しいまち								
暑さと共存するまち								
人と車にやさしいまち								
人と車がすてきなまち								
自然が豊かで整備された街 <small>(道路・公共交通)</small>								
過ごしやすい安全な街								
緑豊かでみんなが楽しめるまち								
みんなが住みやすい、人が集まりやすいまち								
交通の便が良いまち								
市民と行政が身近なまち								
車に頼らない街								
人との関係性のある街								
経済的に豊かな街								
自然が豊かな街								
暑さに対応できる街								
子ども(みらいの子ども)の未来を大切にするまち								
自由に移動できるまち								
子どもが参加する場所・施設・機会があるまち								
自然豊かなまち								
人にやさしいまち								
住み続けたいまち								
移動しやすいまち								
豊かな自然を守りつつまちなかの緑もたいせつにするまち								
誰にとっても移動しやすいまち								
地域の繋がりが活動が活発なまち								
誰もが移動しやすいまち								
誰もが働きやすいまち								
心豊かに安心して暮らせるまち								
車生活環境の充実 移動手段の多様化								
新しい豊田市の魅力								
人の生活に身近な施設が充実している								

<p>1. 豊かな自然と共生するまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然環境を保全、再生する ● 自然と人の関わりをつくる ● 気候変動や災害に対応する 	<p>2. 快適に生活し、移動できるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 移動を脱炭素化する ● 人と車が安全に共存する ● 快適な生活環境を整備する 	<p>3. 地域のつながりの中で持続可能な暮らしが定着したまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 資源を大切にする ● コミュニティを元気にする ● 誰一人取り残さない 	<p>4. 地域資源を活かして経済発展していくまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地場産業を持続可能にする ● 市内で経済を循環させる ● 市の新しい魅力をつくる
---	---	---	--

- 二酸化炭素排出量の少ないクルマへの転換や公共交通の利用促進が求められる。(a)
- 気候変動に伴う災害の不安や夏の暑さへの対応が求められる。(b)



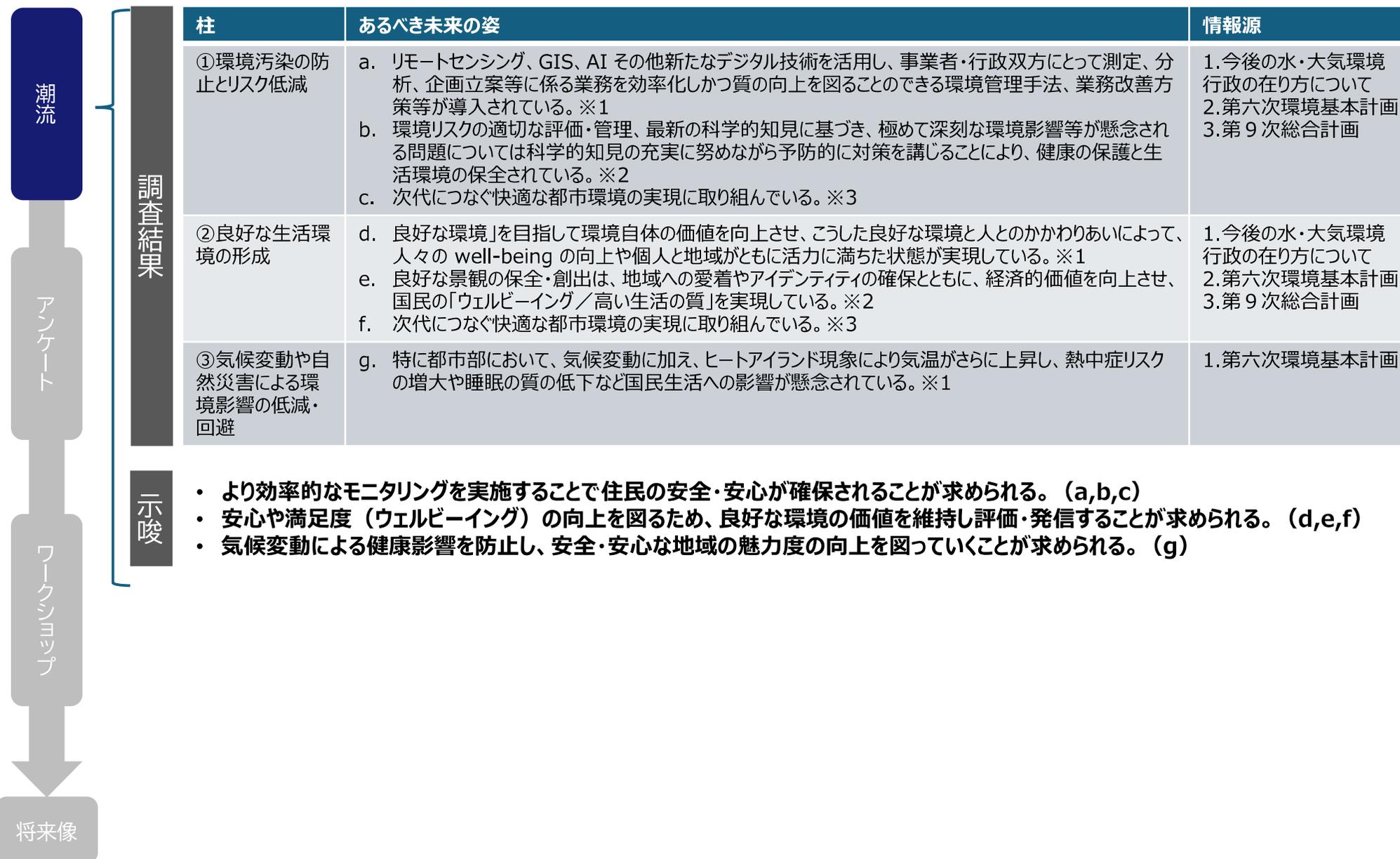
(1) 脱炭素分野における将来像の整理



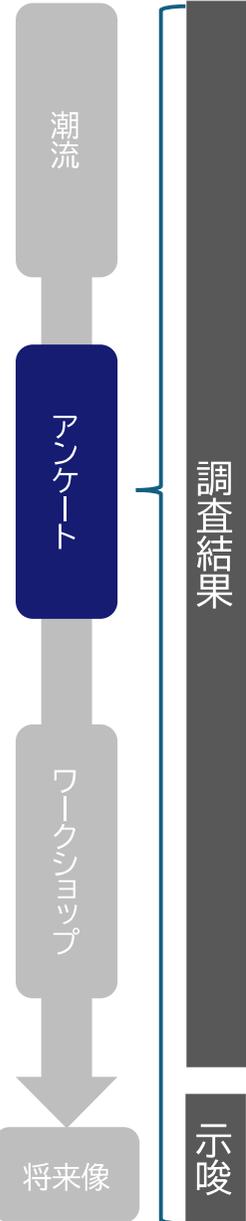
(2)脱炭素分野における将来像実現に向けた課題

目指すべき将来像(案) ※再掲	現状 ◆:市の現状の取組や状態、●:アンケート・ワークショップ、■:社会的潮流	ギャップ・課題(★:対策が実施されていない等、ギャップが大きい項目)
<p>ほとんどの建築物に太陽光発電設備が設置されている。 太陽光発電の余剰電力を有効活用できる蓄電設備が浸透し、地域全体のレジリエンス強化につながっている。</p>	<p>→ ←</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆エネルギーの地産地消の仕組みづくりや再エネの普及促進に向けた支援を実施している。 ●市民アンケート調査の結果、太陽光発電設備について“導入する予定がある”割合が5%未満となっており、潜在層が少ない。また、“導入の予定なし”割合が約7割となっており、理由としては“導入費用が高い”が約3割と最も多くなっていた。 ●事業者アンケート調査の結果、再エネ電力調達について“調達している”または“調達を予定している”と回答した事業者は約3割に留まった。 ■FIT (FIP) の見直しに伴い調達価格が減少傾向にあり、太陽光発電の新規導入量が大きく落ち込むことが懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域にあるエネルギーのポテンシャルを最大限に活用しつつ、利活用を積極的に進めることで、エネルギーの地産地消を推進していくことが必要 ●初期コストを抑える導入手法の周知啓発を継続的に行うことが必要 ★地域の再エネ導入拡大に向けた事業推進の担い手の確保が必要 ★自家消費型・地域共生型太陽光発電の普及啓発の強化が必要
<p>主体的な意識変革や行動変容によって脱炭素型のライフスタイルが定着し、企業は脱炭素経営に向けて省エネを徹底している。</p>	<p>→ ←</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆国民運動 (COOL CHOICE) 等による環境行動転換の促進を行っている。 ◆設備投資支援に加え、脱炭素経営に率先として取り組む企業への人的支援などハードとソフトの両面で支援を実施している。 ●市民アンケート調査の結果、日々の環境配慮行動について“節電”は約9割、“エコドライブ”は約7割と高い実施率となった。 ●事業者アンケート調査の結果、再エネ電力調達について“調達している”または“調達を予定している”と回答した事業者は約3割に留まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●一定程度いる無関心層に対して環境配慮行動の周知啓発を継続的に行うことが必要 ●脱炭素に関する相談窓口やセミナーによる啓発を継続的に行い人材育成をしていくことが必要 ●企業の脱炭素経営に向けた伴走型支援を引き続き行い、市内中小企業への脱炭素化の取組を推し進めることが必要
<p>多様な脱炭素モビリティやデジタル技術を活用することで、DX・スマートシティを推進し、環境と調和した脱炭素型のまちが構築されている。</p>	<p>→ ←</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆次世代自動車の導入促進や、CASEの社会実証・実装を促進するなど、次世代型の低炭素交通システムを導入促進している。 ●市民アンケート調査の結果、日々の環境配慮行動について“公共交通”は約3割、“シェアサイクル・カーシェア”は1割未満に留まった。 ●ワークショップでは、“公共交通の便の悪さ”や“車が多く渋滞が起きやすい”に多くの共感を得ていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●次世代自動車 (EV、PHV、FCV) の補助を継続的に行うことが必要 ●低炭素・脱炭素な移動手段を選択する自発的な行動変容を促す動機付けが必要
<p>水素をはじめとした新たなエネルギーや新技術を活用してCO2排出量を削減するサプライチェーンが構築されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆燃料電池モビリティや水素ステーションの普及促進。 ◆水素・アンモニア社会実装推進会議」への参画。 ●市民アンケート調査の結果、家庭用燃料電池やFCVについて“導入を予定していない”割合が約9割となっており、無関心層が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ★水素エネルギーに関する社会受容性を向上することが必要
<p>地球温暖化に伴う顕著な高温のリスクが高まる中住民の命と健康を守るための体制が整備されている。</p>	<p>→ ←</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆法律の施行に先駆けて、民間も含む市内63施設にクーリングシェルターを常設設置。 ◆豊田市気候変動適応情報プラットフォームを活用した啓発 ●ワークショップでは、“夏の暑さ”に多くの共感を得ていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●先行的に実施されている設備や情報基盤を活用して周知啓発を継続的に行うことが必要

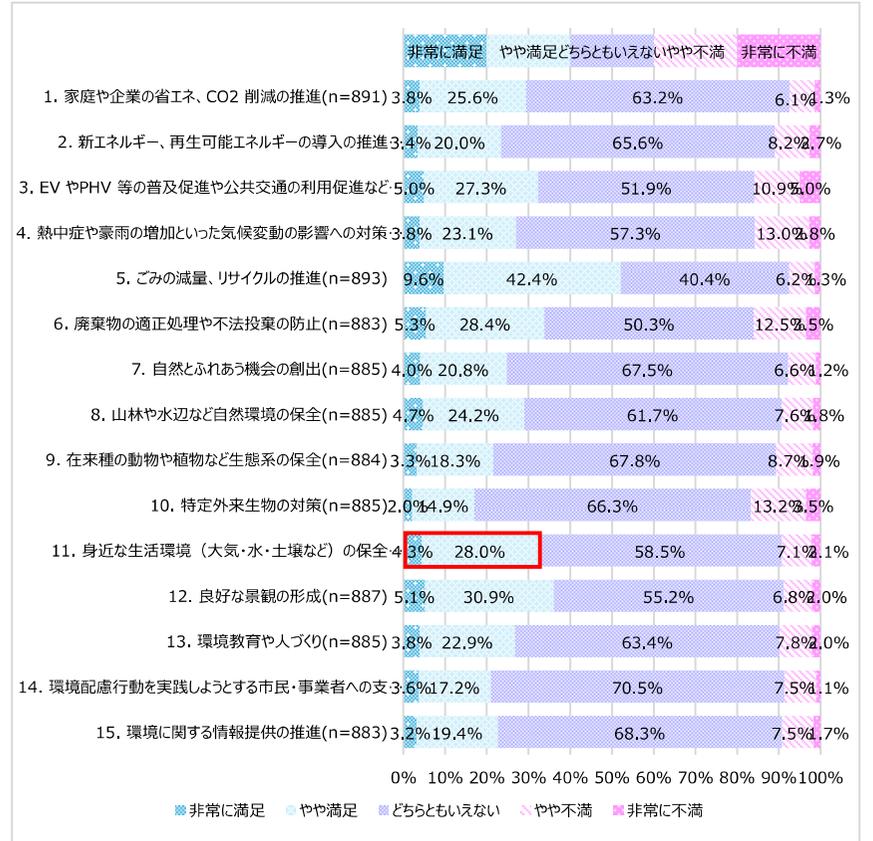
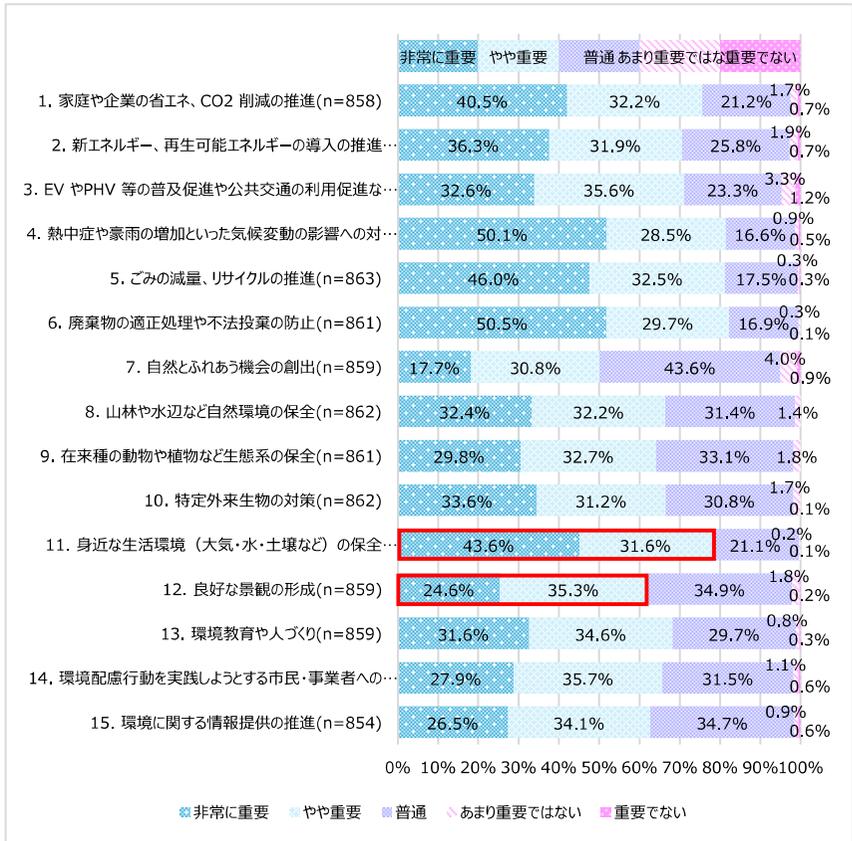
(1)安全・安心分野における将来像の整理



(1)安全・安心分野における将来像の整理



問	市の環境への取組について、どの程度満足していますか。また、今後の取組としてはどの程度重要だと思いますか。
傾向	a. “身近な生活環境（大気・水・土壌など）の保全”は他の取組と相対的に比較して、重要度が高い取組となっており、満足度も高い取組となっている。 b. “良好な景観の形成”は他の取組と相対的に比較して、重要度が低い取組となっている。



- 身近な生活環境の保全は、重要度・満足度ともに高いことから、引き続き充実した対策を維持していくことが求められる。(a)
- 良好な景観の形成は、重要度が最も低いことから、重要度の高さを共有することが求められる。(b)

調査結果

示唆

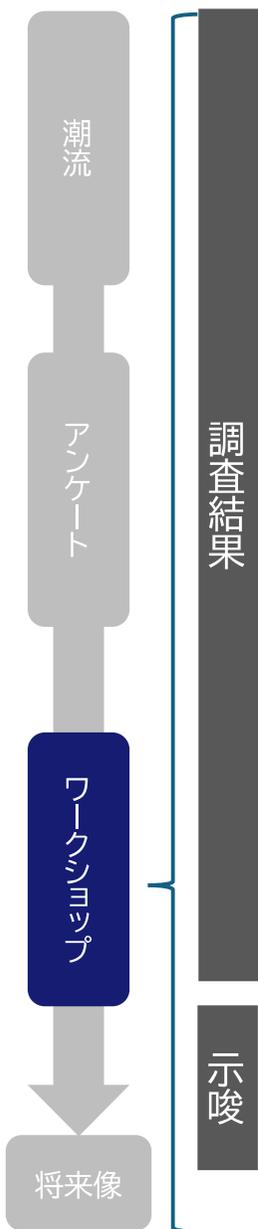
(1)安全・安心分野における将来像の整理

- ワークショップでは、あるべき未来の姿として、“夏の暑さや災害等の気候変動への対応” (a) や“快適な生活環境の維持”に多くの共感を得ていた。

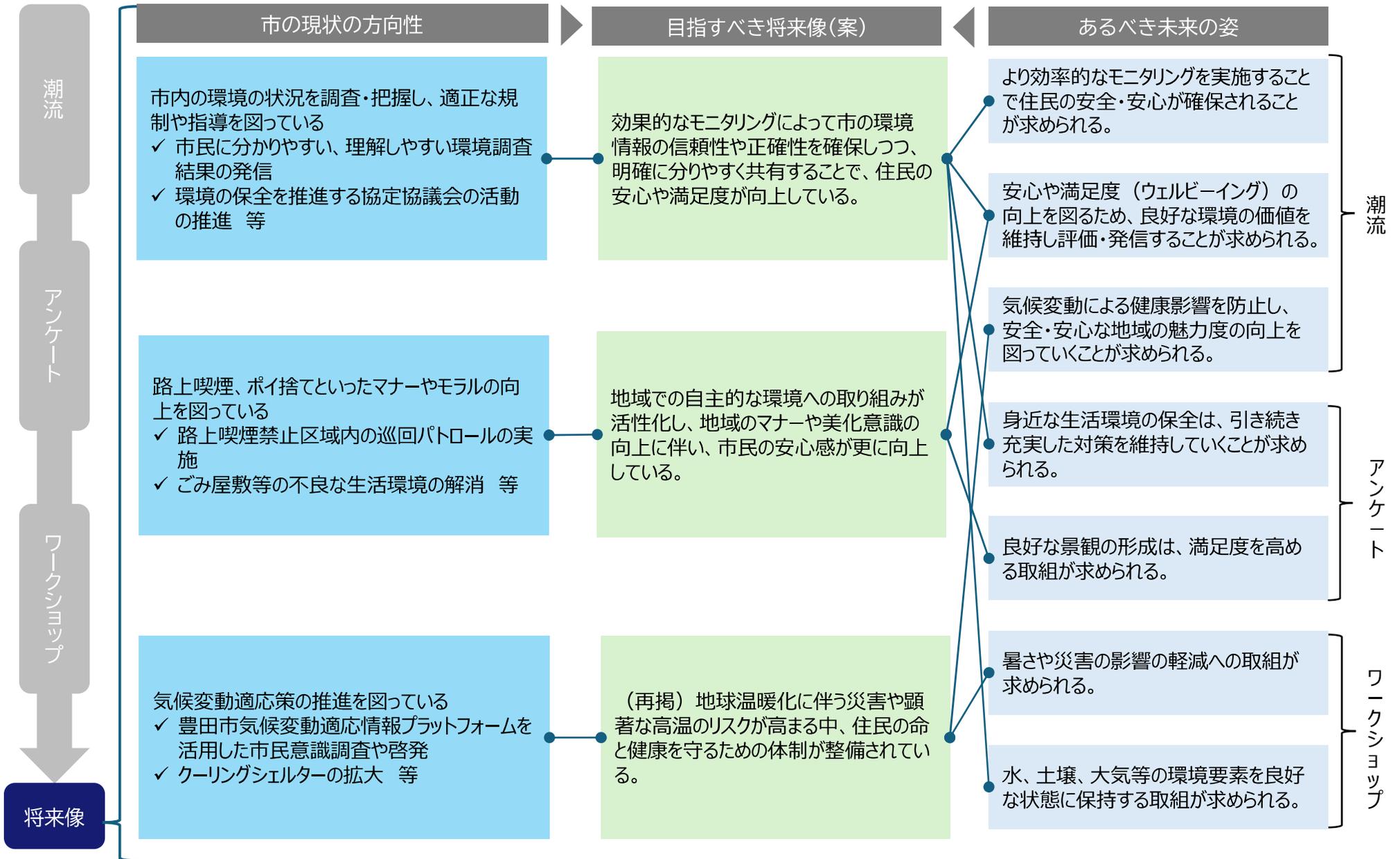
第1回(8/28AM)		第2回(8/28PM)		第3回(9/3AM)		第4回(9/3PM)		
1班	2班	1班	2班	1班	2班	1班	2班	3班
人と自然が優しいまち	暑ごと共存するまち	人と車にやさしいまち	人と街がすてきなまち	自然が豊かで整備された街 <small>(道路・公共交通)</small>	自然が豊かで安全な街	自然が豊かな街	自然が豊かな街	自然が豊かな街
緑豊かでみんなが楽しめるまち	みんなが住みやすい、人が集まりやすいまち	交通の便が良いまち	市民と行政が身近なまち	車に頼らない街	経済的に豊かな街	人との関係性のある街	自由に移動できるまち	子ども(みらいの子ども)の未来を大切にするまち
							子どもが参加する場所・施設・機会があるまち	自然豊かなまち
							人にやさしいまち	住み続けたいまち
							移動しやすいまち	豊かな自然を守りつづまちなかの緑もたいせつにするまち
							誰にとっても移動しやすいまち	地域の繋がりが活動が活発なまち
							誰もが働きやすいまち	誰もが移動しやすいまち
							心豊かに安心して暮らせるまち	車生活環境の充実 移動手段の多様化
								新しい豊田市の魅力
								人の生活に身近な施設が充実している

<p>1.豊かな自然と共生するまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然環境を保全、再生する ● 自然と人の関わりをつくる ● 気候変動や災害に対応する 	<p>2.快適に生活し、移動できるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 移動を脱炭素化する ● 人と車が安全に共存する ● 快適な生活環境を整備する 	<p>3.地域のつながりの中で持続可能な暮らしが定着したまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 資源を大切にする ● コミュニティを元気にする ● 誰一人取り残さない 	<p>4.地域資源を活かして経済発展していくまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地場産業を持続可能にする ● 市内で経済を循環させる ● 市の新しい魅力をつくる
--	--	--	---

- 示唆
- 暑さや災害の影響の軽減が求められる。(a)
- 水、土壌、大気等の環境要素を良好な状態に保持する取組が求められる。(b)



(1)安全・安心分野における将来像の整理



将来像

(2)安全・安心分野における将来像実現に向けた課題

目指すべき将来像(案) ※再掲	現状 ◆:市の現状の取組や状態、●:アンケート・ワークショップ、■:社会的潮流	ギャップ・課題(★:対策が実施されていない等、ギャップが大きい項目)
効果的なモニタリングによって市の環境情報の信頼性や正確性を確保しつつ、明確に分りやすく共有することで、住民の安心や満足度が向上している。	→ ◆法に基づく常時監視や各種モニタリング調査を実施している。 ← ●市民アンケート調査の結果、“周辺環境の満足度”について、生活環境分野の満足度に関しては「空気のきれいさ」（約6割）、「静かさ」（約5割）、「河川等の水のきれいさ」（約4割）の順となっている。	▶ ●環境調査の効率化を図るため定期的に測定計画を見直すことが必要
地域での自主的な環境への取り組みが活性化し、地域のマナーや美化意識の向上に伴い、住民の安心感が更に向上している。	→ ◆タバコのポイ捨てごみを拾う清掃活動や啓発等を行っている。 ← ●市民アンケート調査の結果、「地域の環境美化活動に参加する」について“取り組んでいる”と回答したのは約7割となっている。	▶ ●不良な生活環境の解消に向けて庁内関係課や関係機関と連携し、支援や指導等を継続して行うことが必要 ★無関心層に対して清掃活動の参加を促すアプローチが必要
（再掲）地球温暖化に伴う災害や顕著な高温のリスクが高まる中、住民の命と健康を守るための体制が整備されている。	→ ◆法律の施行に先駆けて、民間も含む市内63施設にクーリングシェルターを常設設置。 ← ◆豊田市気候変動適応情報プラットフォームを活用した啓発 ●ワークショップでは、“夏の暑さ”に多くの共感を得ていた。	▶ ●先行的に実施されている設備や情報基盤を活用して周知啓発を継続的に行うことが必要

(3)安全・安心分野における強化すべき取組

ギャップ・課題(★:対策が実施されていない等、ギャップが大きい項目)

● 環境調査の効率化を図るため定期的に測定計画を見直すことが必要

● 不良な生活環境の解消に向けて庁内関係課や関係機関と連携し、支援や指導等を継続して行うことが必要

★ 無関心層に対して清掃活動の参加を促すアプローチが必要

強化すべき取組

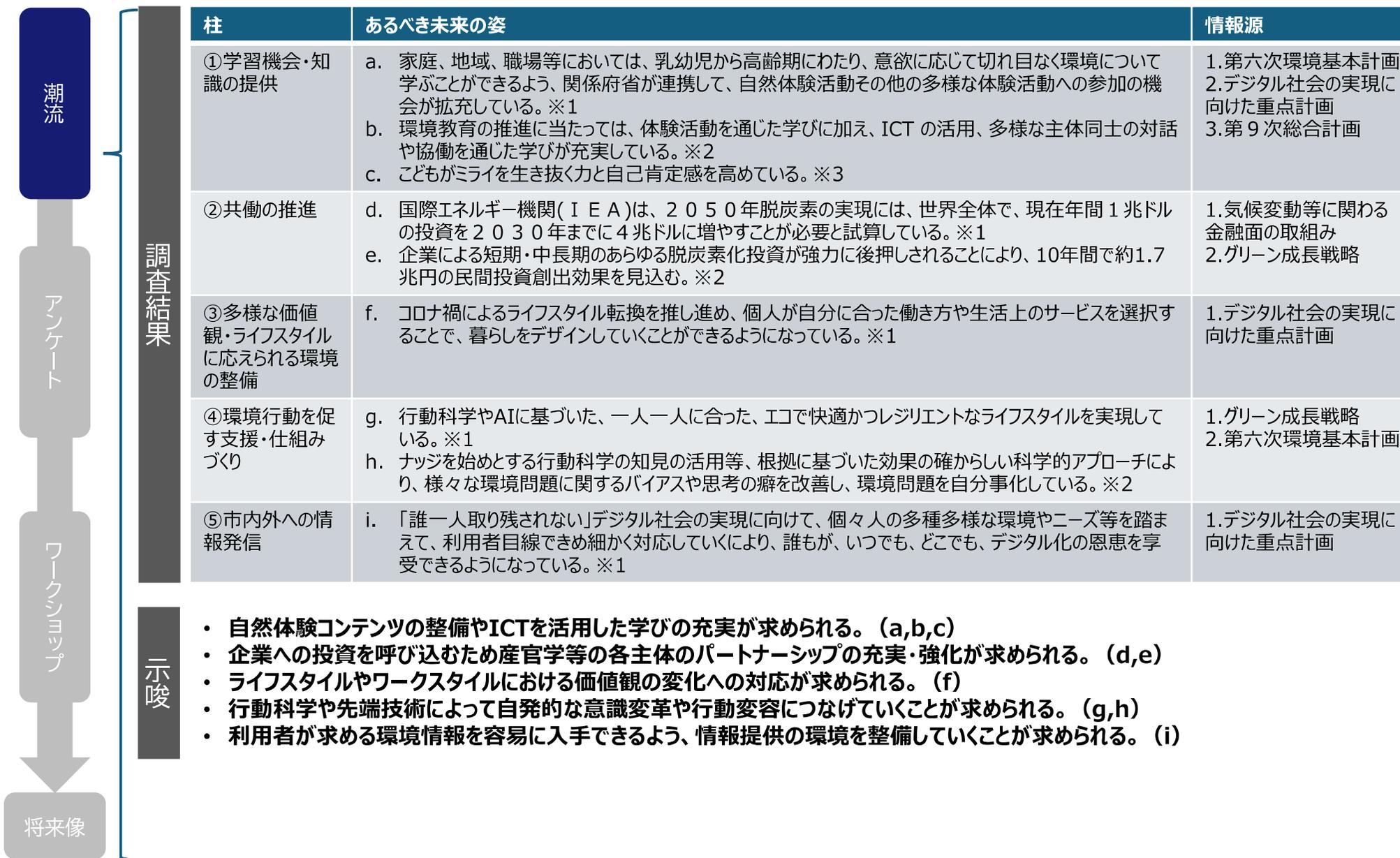
安全安心社会に関する監視・調査の継続徹底

地域住民の安心を生み出すために、事業の監視及び処理業者とのリスクコミュニケーションの推進が引き続き必要

地域の魅力向上に向けた環境活動の拡大

安全・安心な地域の魅力度の向上に向けて、不良な生活環境等の解消に向けた活動を多様な世代・主体に拡大していくことが必要

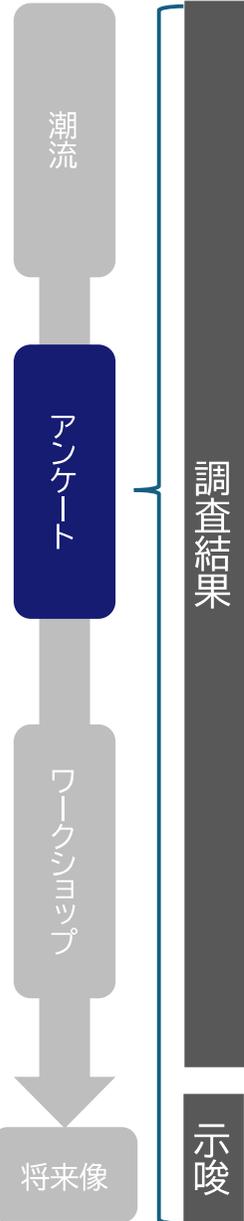
(1)共働・行動分野における将来像の整理



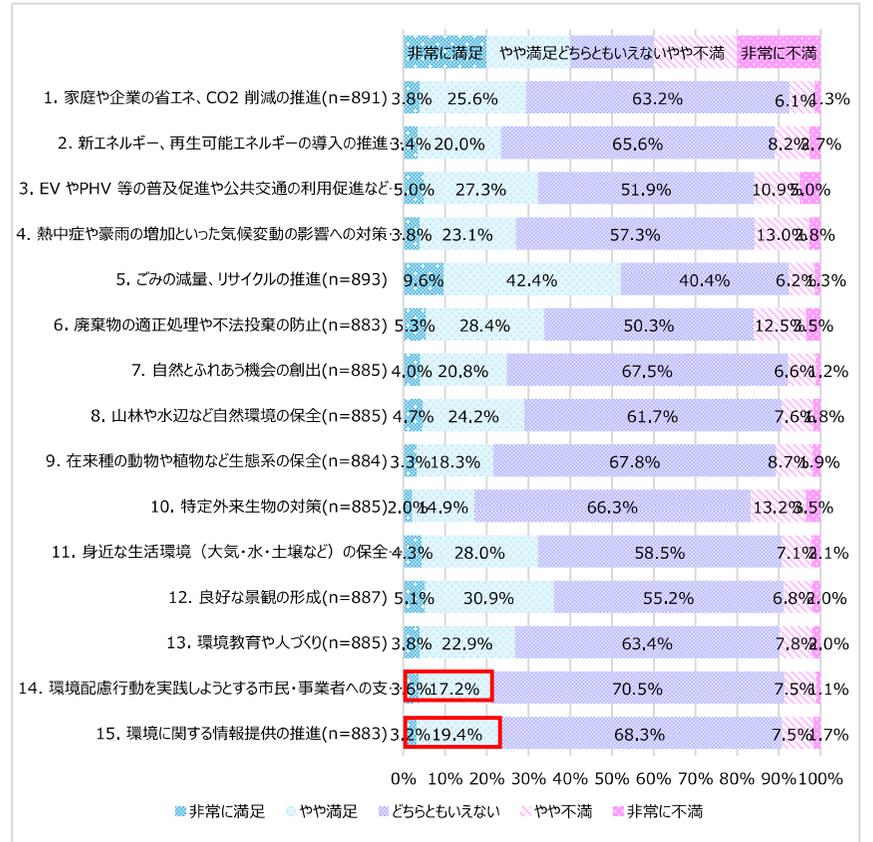
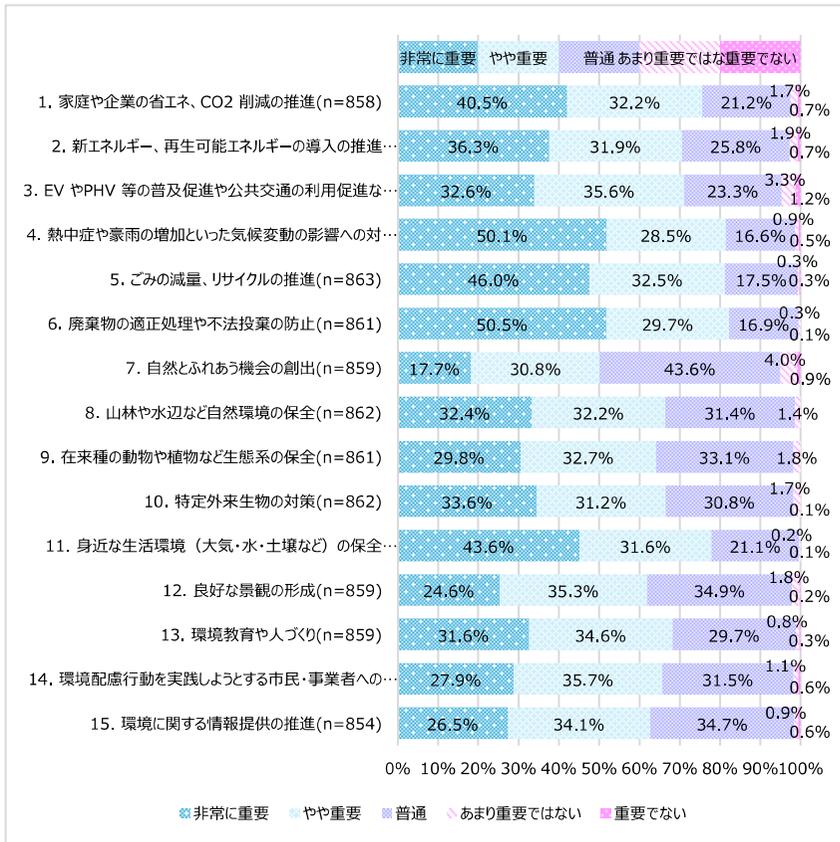
柱	あるべき未来の姿	情報源
①学習機会・知識の提供	a. 家庭、地域、職場等においては、乳幼児から高齢期にわたり、意欲に応じて切れ目なく環境について学ぶことができるよう、関係府省が連携して、自然体験活動その他の多様な体験活動への参加の機会が拡充している。※1 b. 環境教育の推進に当たっては、体験活動を通じた学びに加え、ICT の活用、多様な主体同士の対話や協働を通じた学びが充実している。※2 c. こどもがミライを生き抜く力と自己肯定感を高めている。※3	1.第六次環境基本計画 2.デジタル社会の実現に向けた重点計画 3.第9次総合計画
②共働の推進	d. 国際エネルギー機関(IEA)は、2050年脱炭素の実現には、世界全体で、現在年間1兆ドルの投資を2030年までに4兆ドルに増やすことが必要と試算している。※1 e. 企業による短期・中長期のあらゆる脱炭素化投資が強力に後押しされることにより、10年間で約1.7兆円の民間投資創出効果を見込む。※2	1.気候変動等に関わる金融面の取組み 2.グリーン成長戦略
③多様な価値観・ライフスタイルに応えられる環境の整備	f. コロナ禍によるライフスタイル転換を推し進め、個人が自分に合った働き方や生活上のサービスを選択することで、暮らしをデザインしていくことができるようになってきている。※1	1.デジタル社会の実現に向けた重点計画
④環境行動を促す支援・仕組みづくり	g. 行動科学やAIに基づいた、一人一人に合った、エコで快適かつレジリエントなライフスタイルを実現している。※1 h. ナッジを始めとする行動科学の知見の活用等、根拠に基づいた効果の確からしい科学的アプローチにより、様々な環境問題に関するバイアスや思考の癖を改善し、環境問題を自分事化している。※2	1.グリーン成長戦略 2.第六次環境基本計画
⑤市内外への情報発信	i. 「誰一人取り残されない」デジタル社会の実現に向けて、個々人の多種多様な環境やニーズ等を踏まえて、利用者目線できめ細かく対応していくにより、誰もが、いつでも、どこでも、デジタル化の恩恵を享受できるようになっている。※1	1.デジタル社会の実現に向けた重点計画

- 示唆**
- ・ 自然体験コンテンツの整備やICTを活用した学びの充実が求められる。(a,b,c)
 - ・ 企業への投資を呼び込むため産官学等の各主体のパートナーシップの充実・強化が求められる。(d,e)
 - ・ ライフスタイルやワークスタイルにおける価値観の変化への対応が求められる。(f)
 - ・ 行動科学や先端技術によって自発的な意識変革や行動変容につなげていくことが求められる。(g,h)
 - ・ 利用者が求める環境情報を容易に入手できるよう、情報提供の環境を整備していくことが求められる。(i)

(1) 共働・行動分野における将来像の整理



問	市の環境への取組について、どの程度満足していますか。また、今後の取組としてはどの程度重要だと思いますか。
傾向	a. “環境配慮行動を実践しようとする市民・事業者への支援” は他の取組と相対的に比較して、満足度が低い取組となっている。 b. “環境に関する情報提供の推進” は他の取組と相対的に比較して、満足度が低い取組となっている。



- 環境配慮行動を実践しようとする市民・事業者への支援は、満足度が平均水準に達していないことから、満足度を高める取組が求められる。(a)
- 環境に関する情報提供は、満足度が平均水準に達していないことから、満足度を高める取組が求められる。(b)

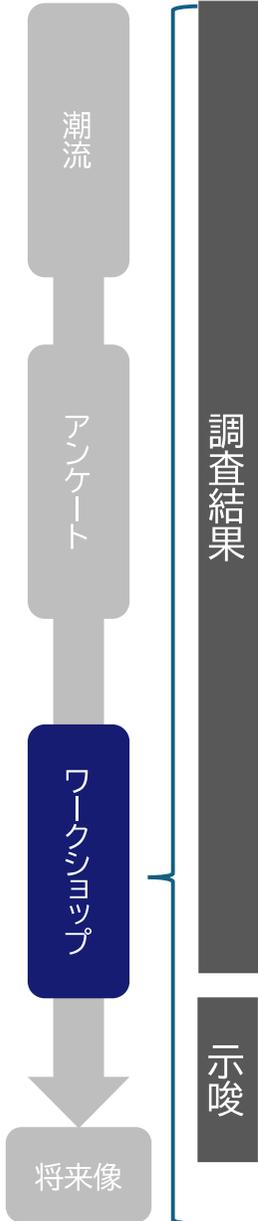
(1)共働・行動分野における将来像の整理

・ ワークショップでは、あるべき未来の姿として、“地域交流や市民活動の促進” (a) や“あらゆる世代への配慮” (b) に多くの共感を得ていた。

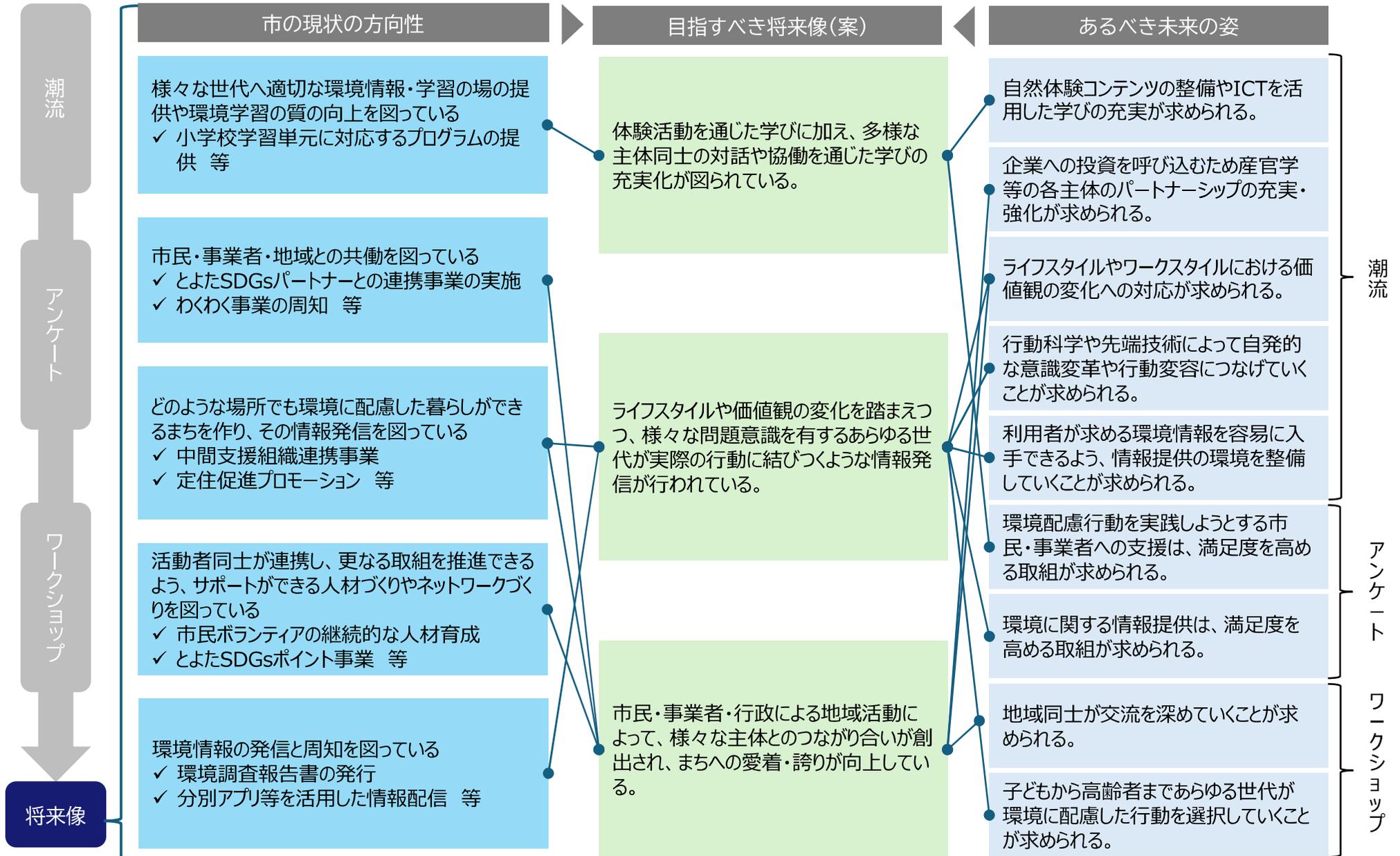
第1回(8/28AM)		第2回(8/28PM)		第3回(9/3AM)		第4回(9/3PM)		
1班	2班	1班	2班	1班	2班	1班	2班	3班
人と自然が優しいまち	人と車にやさしいまち	人と車がすてきなまち	自然が豊かで整備された街 <small>(道路・公共交通)</small>	自然が豊かなまち	子ども(みらい)の子ども(みらい)を大切にすなまち	誰にとっても移動しやすいまち	地域の繋がりが活動が活発なまち	新しい豊田市の魅力
暑ごと共存するまち	人と車にやさしいまち	緑豊かでみんなが楽しめるまち	自然が豊かな街	自由に移動できるまち	子どもが参加する場所・施設・機会があるまち	豊かな自然を守りつづまちなかの緑もたいせつにするまち	誰もが働きやすいまち	人の生活に身近な施設が充実している
人と自然が優しいまち	人と車にやさしいまち	すこしやすい安全な街	経済的に豊かな街	自然豊かなまち	人にやさしいまち	移動しやすいまち	誰もが移動しやすいまち	心豊かに安心して暮らせるまち
人と自然が優しいまち	人と車にやさしいまち	市民と行政が身近なまち	人との関係性のある街	自由に移動できるまち	住み続けたいまち	移動しやすいまち	誰もが移動しやすいまち	車生活環境の充実 移動手段の多様化
人と自然が優しいまち	人と車にやさしいまち	車に頼らない街	自然が豊かな街	子ども(みらい)の子ども(みらい)を大切にすなまち	移動しやすいまち	移動しやすいまち	誰もが移動しやすいまち	新しい豊田市の魅力
人と自然が優しいまち	人と車にやさしいまち	市民と行政が身近なまち	経済的に豊かな街	自由に移動できるまち	子どもが参加する場所・施設・機会があるまち	移動しやすいまち	誰もが移動しやすいまち	新しい豊田市の魅力
人と自然が優しいまち	人と車にやさしいまち	市民と行政が身近なまち	人との関係性のある街	自由に移動できるまち	子どもが参加する場所・施設・機会があるまち	移動しやすいまち	誰もが移動しやすいまち	新しい豊田市の魅力
人と自然が優しいまち	人と車にやさしいまち	市民と行政が身近なまち	自然が豊かな街	自由に移動できるまち	子どもが参加する場所・施設・機会があるまち	移動しやすいまち	誰もが移動しやすいまち	新しい豊田市の魅力
人と自然が優しいまち	人と車にやさしいまち	市民と行政が身近なまち	自然が豊かな街	自由に移動できるまち	子どもが参加する場所・施設・機会があるまち	移動しやすいまち	誰もが移動しやすいまち	新しい豊田市の魅力

<p>1.豊かな自然と共生するまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然環境を保全、再生する ● 自然と人の関わりをつくる ● 気候変動や災害に対応する 	<p>2.快適に生活し、移動できるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 移動を脱炭素化する ● 人と車が安全に共存する ● 快適な生活環境を整備する 	<p>3.地域のつながりの中で持続可能な暮らしが定着したまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 資源を大切にする ● コミュニティを元気にする ● 誰一人取り残さない 	<p>4.地域資源を活かして経済発展していくまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地場産業を持続可能にする ● 市内で経済を循環させる ● 市の新しい魅力をつくる
--	--	--	---

- 示唆
- ・ 地域同士が交流を深めていくことが求められる。(a)
 - ・ 子どもから高齢者まであらゆる世代が環境に配慮した行動を選択していくことが求められる。(b)



(1) 共働・行動分野における将来像の整理



(2)共働・行動分野における将来像実現に向けた課題

<p>目指すべき将来像(案) ※再掲</p>	<p>現状 ◆:市の現状の取組や状態、●:アンケート・ワークショップ、■社会的潮流</p>	<p>ギャップ・課題(★:対策が実施されていない等、ギャップが大きい項目)</p>
<p>体験活動を通じた学びに加え、多様な主体同士の対話や協働を通じた学びの充実化が図られている。</p>	<p>→ ←</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆環境学習施設eco-T（エコット）にて身近な環境問題について学ぶことができる環境講座やイベントを開催している。 ●市民アンケート調査の結果、環境に関連する取組状況について“環境学習講座や自然観察会に参加する”の実施率は1割未満。 ●小中高アンケート調査の結果、「普段取り組んでいる環境行動」では、“自然観察会などに参加したり、自然の中で遊んだりして、普段から生き物や自然とふれあう”の実施率が約4割と低くなっている。また、取り組んでいない理由としては、“取り組む機会がない”が最も多く占めた。 	<p>▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ●継続的な見直しにより学習内容の質を維持していくことが必要
<p>ライフスタイルや価値観の変化を踏まえつつ、様々な問題意識を有するあらゆる世代が実際の行動に結びつくような情報発信が行われている。</p>	<p>→ ←</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆環境報告書、環境調査報告書、清掃事業概要を発行している。 ◆環境学習施設エコットを拠点とした暮らしの環境学習によって環境配慮行動を実践するための継続的な人材育成を行っている。 ◆モバイルアプリケーションを活用し、ポイント取扱加盟店が、市民と直接ポイントのやり取りができるシステム「とよたSDGsポイント」を運用している。 ●ワークショップでは、将来像の実現に向けた取組として“環境行動のインセンティブの創出”に多くの共感を得ており、自発的な行動変容を促す仕組みの充実化に対してのニーズが把握できた。 ●市民アンケート調査の結果、「市の環境への取組に対する満足度」について、全体的に“どちらともいえない”が多く占めており、満足度を評価するための市の取組に対する認知度が低いと考えられる。 	<p>▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ●環境行動を促す支援・仕組みづくりを引き続き拡大していくことが必要 ★市の情報を認知させ、さらに関心を引かせるための広報手段を検討し、市民の情報接触度を向上させることが必要
<p>市民・事業者・行政による地域活動によって、様々な主体とのつながり合いが創出され、まちへの愛着・誇りが向上している。</p>	<p>→ ←</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆とよたSDGsパートナーとの連携事業を実施している。 ◆環境の保全を推進する協定協議会で環境規制を学習する教材を企業向け委に作成・公開している。 ◆中間支援組織連携事業、定住促進プロモーションを実施している。 ●市民アンケート調査の結果、周辺の環境の満足度について、“人とのふれあい”に「非常に満足」と回答したのは1割未満となっており、現行計画策定時（H28）と比較すると唯一減少している（H28：7.2%→R6：6.0%）ことから、市民の人間関係が希薄化していることが把握できる。 ●事業者アンケート調査の結果、環境に関連する経営方針や管理手法等について“とよたSDGsパートナーへの参画”の実施率は約1割、“とよた・ゼロカーボンネットワークへの参画”は1割未満となっている。 ●ワークショップでは、将来像の実現に向けた取組として“企業と市民団体による協力・連携による環境活動”に多くの共感を得ており、企業と市民団体との包括的な連携による地域活動の創出のニーズが把握できた。 	<p>▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ●継続して連携事業に関心のある新たな企業や団体の増加を目指すことが必要 ★人と地域などのつながりの拡大や関係性の強化に向けた様々な主体との連携事業を創出していくことが必要

(3)共働・行動分野における強化すべき取組

ギャップ・課題(★:対策が実施されていない等、ギャップが大きい項目)

●継続的な見直しにより学習内容の質を維持していくことが必要

●環境行動を促す支援・仕組みづくりを引き続き拡大していくことが必要

★市の情報を認知させ、さらに関心を引かせるための広報手段を検討し、市民の情報接触度を向上させることが必要

●継続して連携事業に関心のある新たな企業や団体の増加を目指すことが必要

★人と地域などのつながりの拡大や関係性の強化に向けた様々な主体との連携事業を創出していくことが必要

強化すべき取組

環境活動に触れる
きっかけづくり

豊富な環境フィールドを活用しつつ、環境に係る活動等への参加に対するハードルを下げるため、活動への参加しやすさの向上をはかることが必要

市の取組への理解
浸透を図るため、
普及啓発の工夫

様々な機会や啓発ツールを活用して市による取組を普及・啓発し、市民一人ひとりに浸透させることで、市民参画や行動変容につなげていくことが必要

様々な主体との
連携

世代を超えたつながりを創出する活動の担い手となる団体や企業との新たな連携する機会を創出し、一人ひとりの幸せの実現や満足度の向上を図ることが必要

本日、ご議論いただきたいこと

1 脱炭素シナリオ

- ① AIM試算の使用に係るご意見、留意すべき点など
- ② 豊田市の地域特性を踏まえた将来見通しとして、加味しておくべき点

2 再エネ導入目標

- ① REPOSの使用に係るご意見、留意しておくべき点など
- ② 2030年、2050年それぞれの目標の設定方法、設定値に関するご意見

3 温室効果ガス削減目標

- ① 温室効果ガスの推計方法について
- ② 2030年の目標の設定方法、設定値に関するご意見

4 その他

- ① 市の特性を踏まえて対応すべき事項
- ② このシナリオや導入目標の達成に向けて、施策や事業などに盛り込んでおくべき取組

1 シナリオ設定の考え方

- (1) ベースはAIM試算：2050年脱炭素社会実現の姿に関する一試算
(国立環境研究所、2020年12月)
- (2) 社会変容や技術普及を基に、豊田市の社会状況を加味（マルチパスウェイ、水素等）

2 AIM試算において想定される社会状況

- ・建築物の断熱性向上 ・循環経済が進展 ・森林に加え、DAC、CCUS等による吸収
- ・電気は脱炭素電源（再エネ大量導入、エネマネリソース普及／CCS火力、原発含む）
- ・燃料は生物由来のバイオ燃料や再エネ由来の合成燃料に転換 ・車はすべて電化

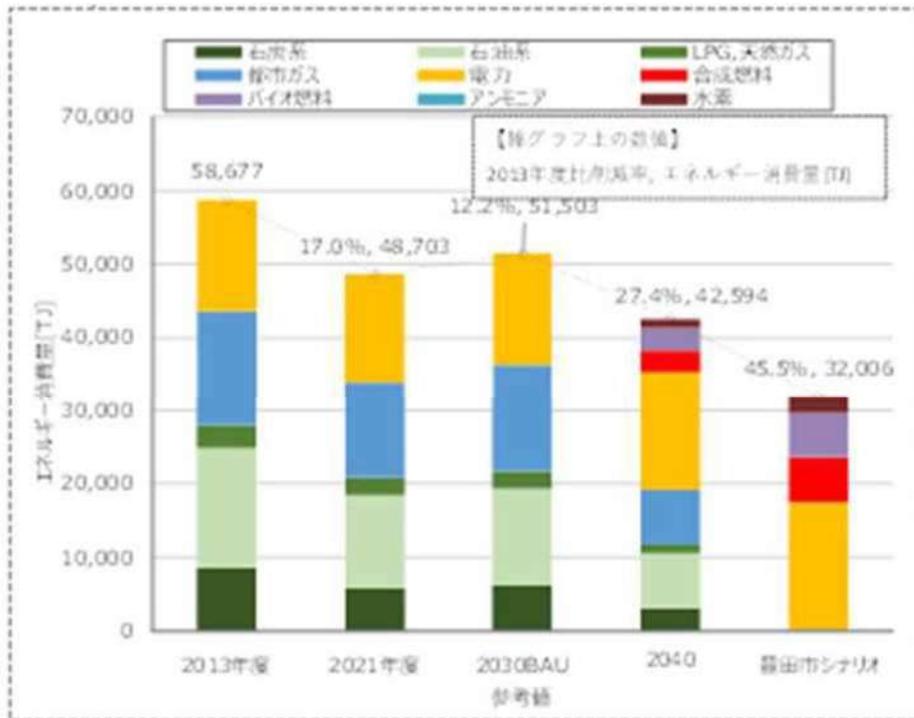


図 1-1 部門・業種別エネルギー消費量の推移

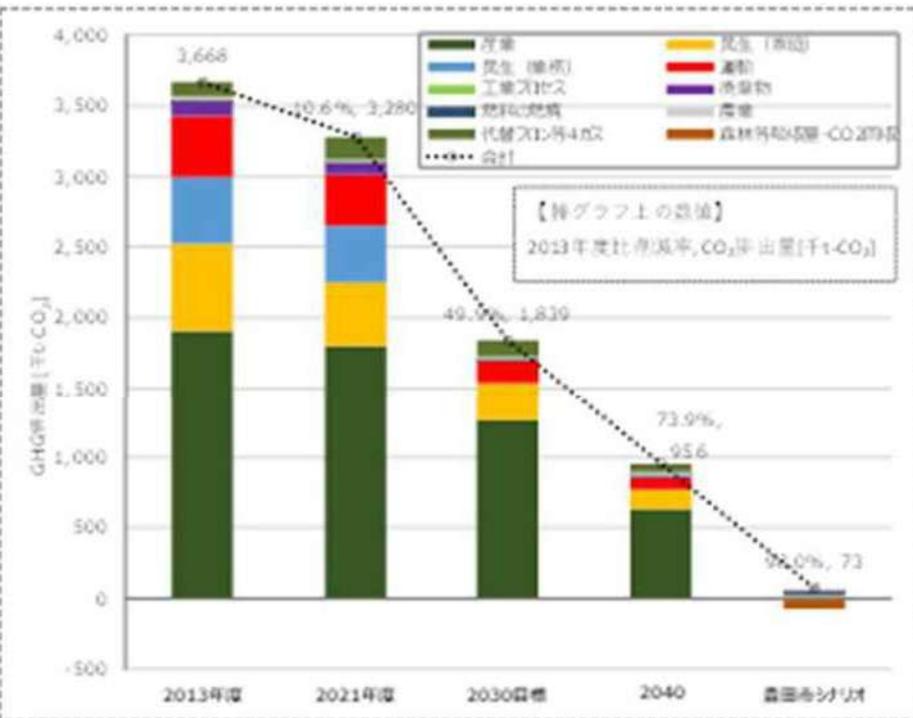


図 1-2 部門・業種別温室効果ガス排出量の推移

1 再エネポテンシャル

再エネ種	設置場所	ポテンシャル MW	ポテンシャル GWh/年
太陽光 (PV)	公共	64	89
	住宅	567	800
	事業所	1,014	1,411
	土地 (最終処分場、農地※、 荒廃農地※、ため池)	1,064	1,479
次世代型PV	壁面等	384	257
風力	陸上	429	4,035
中小水力		30	1,010
バイオマス		-	56
合計		3,551	5,295

※農地 : 営農型で試算

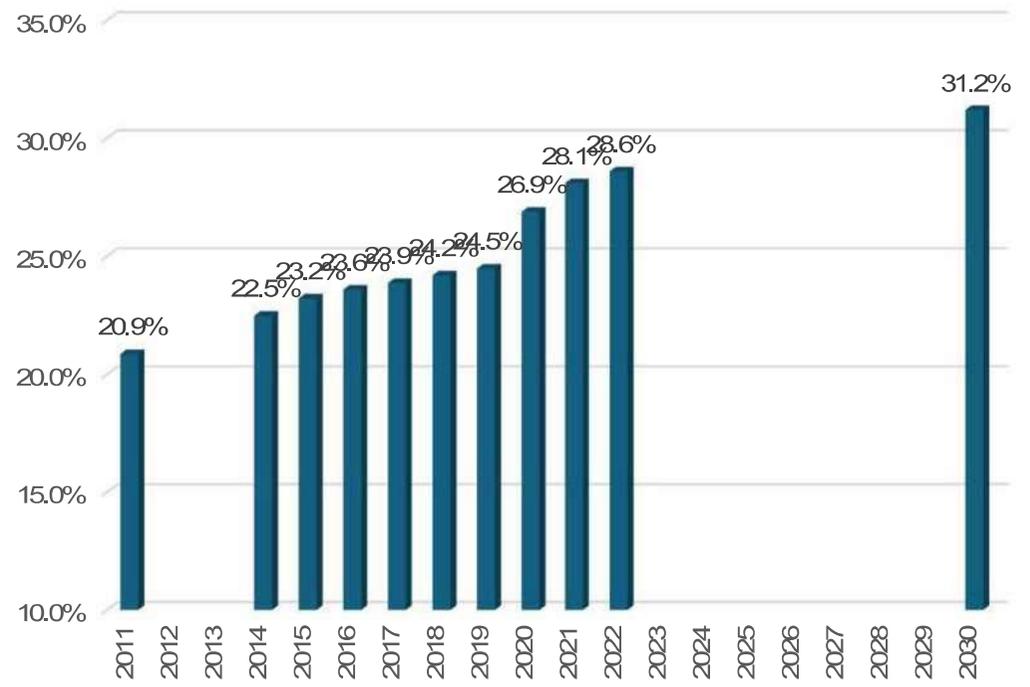
荒廃農地 : 再生可能なものは一部営農型で試算

2 2030年導入目標の考え方 : 普及段階にある「太陽光」のみで設定

PV設置場所	考え方	導入目標
公共	建替えや電気使用量等を加味し、市試算	+6MW
事業所	第6次エネルギー基本計画の導入見込み (※)を新築着工数で按分	+48MW
新築住宅		+14MW
合計	(既設FIT: 268MW)	336MW

発電量429GWh
↓
市域再エネ率:30.6%程度※

※市域内の電気使用量は約4,100GWhとして試算
豊田市再生可能エネルギー導入率



【2030年までの目標】

2022年度実績から比較し、
追加的に70MWの太陽光発電設備を導入

(※) 第6次エネルギー基本計画での国全体の
取組項目と導入見込み

取組項目	導入見込み
民間企業による自家消費促進	10.0 (GW)
新築住宅への施策強化	3.5 (GW)

1 現状趨勢 (BAU) の試算

- (1) 産業、民生、運輸、廃棄物のそれぞれで、活動量をトレンド推計 (※)
- (2) 活動量予測に対して各係数により算定すると、2013～2021は減少してきたが、今後は横ばい～上昇傾向となることが試算された

(※) 活動量推計の例

- ・ 製造業 : 製造品出荷額はこれまでの傾向を維持 (増加)
- ・ その他産業 : 現状値を維持
- ・ 市内総人口 : 国勢調査等により推計
- ・ 事業所床面積 : これまでの傾向を維持 (増加)
- ・ 自動車保有台数 : これまでの傾向を維持 (増加)

(千t-CO2)



2 削減対策の考え方

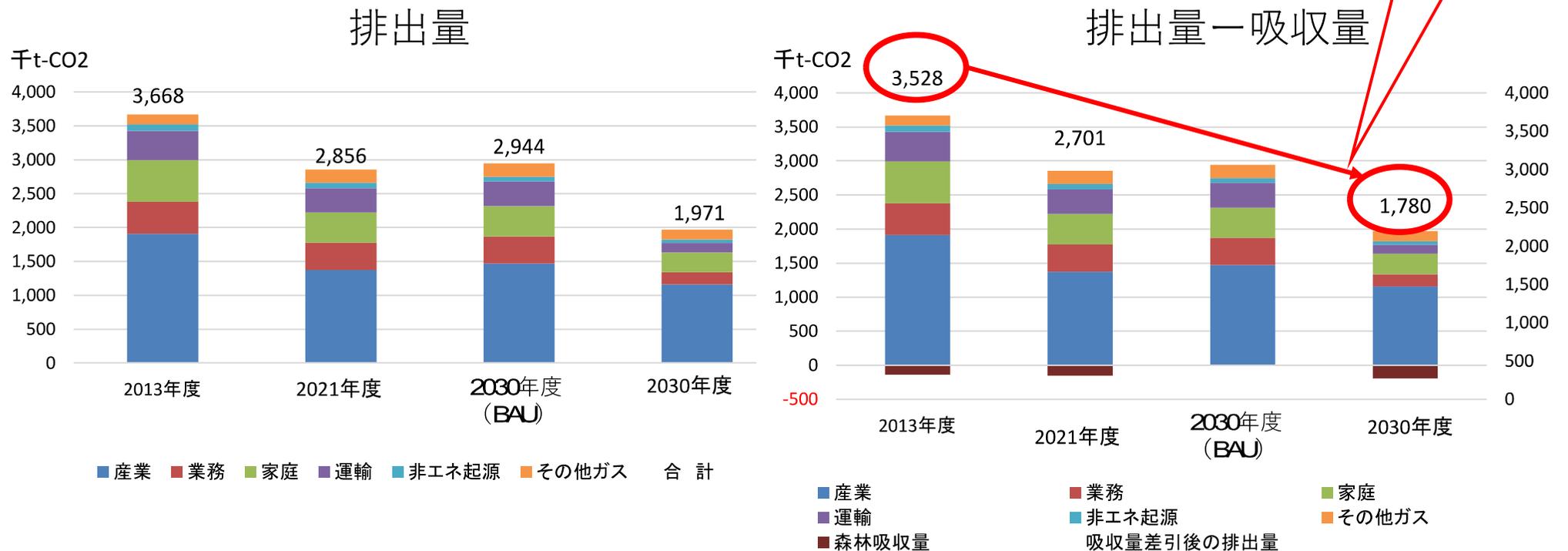
- (1) 国と連携した対策（地球温暖化対策計画の削減効果を市内で按分し推計）
- (2) 電力排出係数は中部電力G経営ビジョンから試算
- (3) 森林吸収源は第4次豊田市森づくり基本計画から試算

3 試算結果

▲49.6%の削減が可能と考えられる。

→ 豊田市独自の取組により0.4%の上乗せを検討し、2030年▲50%を目指す。

→ 国のNDCの検討状況を踏まえ、2040年等に上乗せを検討



【参考資料】国と連携した対策（地球温暖化対策計画の削減効果）の例

部門	対策項目	主な取組	削減見込量	小計	
産業	省エネ技術・設備の導入	高効率空調、高性能ボイラーの導入、産業ヒートポンプの導入、施設園芸における省エネ設備の導入、省エネ農機の導入等	▲87千t	▲99千t	
	エネルギー管理の徹底	FEEMSの導入等	▲5千t		
	その他対策・施策	業種間連携による省エネの取組推進等	▲7千t		
業務	省エネ機器の導入	BEEMS 高効率照明、高効率ボイラーの導入等	▲98千t	▲214千t	
	建築物の省エネ化	新築建築物のZEB基準適合の推進、既存建築物の省エネ改修、高断熱性能建材の導入等	▲74千t		
	省エネ行動の推進	情報提供等によりクールビズ、ウォームビズの実施率をほぼ100%に引き上げる等	▲1千t		
	その他対策・施策	エネルギーの面的利用拡大、ヒートアイランド対策等	▲41千t		
家庭	省エネ機器の購入	HEEMS 高効率照明、トップランナー機器の導入等	▲80千t	▲107千t	
	住宅の省エネ化	新築住宅ZEH基準適合推進、既存住宅省エネ改修、断熱性能の高い建材の導入推進等	▲25千t		
	省エネ行動の推進	クールビズ、ウォームビズの実施率をほぼ100%へ引き上げ、家庭エコ診断の実施等	▲1千t		
運輸	燃費の優れた自動車の普及	次世代自動車の普及、燃費改善等	▲128千t	▲224千t	
	その他対策	公共交通機関の利用促進、エコドライブの推進、道路交通流対策等の推進、共同輸送の推進、トラック輸送の効率化、自転車の利用促進等	▲95千t		
非エネ起	廃棄物	バイオマスプラスチック類の普及、廃プラスチックのリサイクルの促進等	▲0.6千t	▲0.6千t	
その他ガス対策	農業	施肥に伴う一酸化二窒素削減、水田メタン排出削減等	▲3千t	▲55千t	▲707千t
	廃棄物	廃棄物最終処分量の削減、下水汚泥焼却施設における燃焼の高度化、一般廃棄物最終処分場における準好気性埋立構造の採用等	▲7千t		
	フロン等	業務用冷凍空調機器の使用及び廃棄時におけるフロン類の漏えい防止、廃家庭用エアコンのフロン類の回収・適正処理等	▲45千t		
現況すう勢 (BaU)			▲724千t		
再生可能エネルギーの導入促進等による電力の二酸化炭素排出係数の低減			▲265千t		
森林吸収量による二酸化炭素の削減			▲192千t		
合計			▲1,888千t		